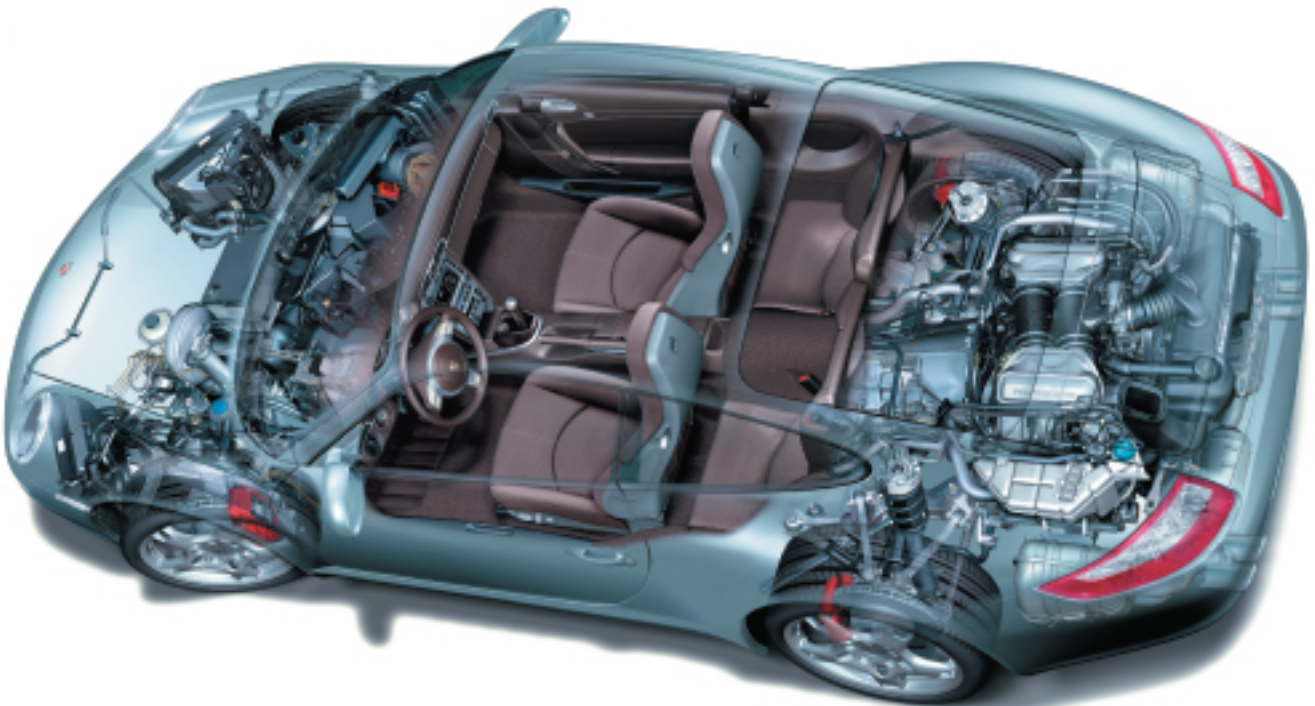
PORSCHE

911 Carrera

取扱説明書



お客様各位

この度はお車をご購入いただき誠にありがとうございます。

911は変わりました。

より力強く、豊かに、魅惑的に・・・

そのテクノロジーは、かつてないほど精緻を極めました。

そうです。過去のどの911より、911そのものです。

生み出すパワーも、

走りのクオリティも、

環境に対する配慮も、

安全性も。

911はまさしく、日常の運転で最高の信頼性と安定性を実感できる世界一のスポーツカーです。そしてまた、豊かな感性を持つ車です。

飾らない感情の具現化。

そのサウンドに、

そのスポーツ性能に、

そして、911、そのナンバーにさえもスリリングな興奮を感じてしまうのです。

ポルシェ911 カレラについて、知っておくべきこと、また心に留めておくべきことは、全て取扱説明書に記載されています。

別冊の整備手帳には、お客様がお車をポルシェ正規販売店で整備を行っていただく上で、有益な情報が盛込まれています。

お客様のポルシェは、世界中でアフターサービスを受けることができます。

保証期間が終了した後も、推奨された間隔で整備を受けることをお薦め致します。ポルシェ正規販売店でサービスを受けると、品質が保たれるだけではなく、再販価格や下取り価格がいっそう有利なものになります。

911カレラで快適なポルシェ・ライフをエンジョイしてください。

ポルシェ ジャパン株式会社
Dr.Ing.h.c.F.Porsche AG

「ポルシェ」、ポルシェ・クレスト、「911」、「カレラ」、「PCCB」、「テクイップメント」は、ポルシェ社の登録商標です。

Printed in Japan

本書の一部または全部の複製は、ポルシェ社の許可がない限り禁止致します。

© Dr.Ing.h.c.F.Porsche AG
ポルシェ ジャパン株式会社

車載マニュアル

取扱説明書など、車内に装備されている印刷物は常に備えておき、お車を売却される場合には、次の購入者にお渡しください。

装備について

当社の製品については絶えず開発作業をつづけているため、装備品および仕様が本マニュアル掲載または記載の内容と異なることがありますのでご了承ください。
オプション装備品や、国や法的基準によって本マニュアルの記載内容と異なっている装備には項目にアスタリスク＊が付いています。

本マニュアルに記載した一部の装備品はオプションです。オプション装備品の後付けについては、ポルシェ正規販売店にご相談ください。お車の装備品で本マニュアルに記載のないものについては、ポルシェ正規販売店にご相談いただければ、操作とメインテナンスについてご説明致します。

国によって法的基準が異なりますので、お車の装備品が本マニュアルの記載内容とわずかながら異なっている場合があります。

ご質問・ご提案

車両、マニュアルに関するご質問、ご提案等ございましたら、下記までご連絡ください。

東京都目黒区下目黒1-8-1
ポルシェジャパン株式会社
アフターセールス部サービスグループ

目次

各章の目次には、項目とページ番号が記載されています。

さく引

巻末にさく引（あいうえお順）を用意しましたので、お読みになりたい項目を直接探すときにご利用ください。

ガソリンの品質

エンジン性能と燃費を最大限に高めるため、ガソリンは**無鉛プレミアムでオクタン価が98RON／88MON以上**のものを使用してください。

オクタン価が95RON／85MON以下の無鉛プレミアム・ガソリンを使用した場合は、エンジン・ノック調整システムが自動的に作動し、イグニッション・タイミングを調整します。

タイヤとホイール・サイズ

指定のタイヤとホイールのサイズは広範囲のテストを元に認可されているものです。最新の認定タイヤについてはお気軽に最寄のポルシェ正規販売店までお問い合わせください。指定外のタイヤおよびホイールを装着した場合、安定した走行に影響が出る恐れがあります。

▷ 必ず「タイヤとホイール」（199ページ）に記述されている指示に従ってください。
▷ 「冷間時のタイヤ空気圧」（249ページ）を参照してください。

環境保護について

環境保護の手引き

ポルシェ社は、環境に優しく安全性に優れた技術と、人を引きつける強い魅力を合わせ持つ、他に類のない車両を開発、製造しています。

ポルシェ社の環境保護の方針は、次の信念に基づいています。

- 環境保護と安全性の技術を可能な限り使用します。
- エネルギーと資源を節約します。
- 関連業者にもポルシェ社の環境保護の取組みに参加してもらいます。
- すべての社会団体と対談を行います。

製品

製造や修理において、ポルシェ社は常に環境に優しい技術を採用しています。水性ペイントなどがその例です。水性ペイントと新しい塗装方法によって、溶剤の放出が70%減少されます。また、塗装で使用される水は、循環されています。排水は、適切な処理が施された後で、工場から排出されます。

廃棄物管理計画を導入し、廃棄物の量を減少させるとともに、再生利用の割合を増加させています。

環境に優しい車

最新の環境保護技術により、世界中すべての排出ガス規制に適合しています。

触媒コンバータの特徴

- 触媒コンバータが素早く作動状態になるため、短距離の走行でも排気ガスが低減されます。
- 長期にわたり、信頼性のある作動と排気ガスの制御が保たれます。

環境に優しい運転

運転を楽しみながら、環境に配慮することも可能です。
以下の点に注意していただくと、騒音や燃料消費量を抑えることができます。

▷ 常に燃料消費量を確認してください。

▷ 必要な時以外はエンジン暖機のためのアイドリングは避けてください。

▷ アクセルを一杯に踏込まないでください。状況にあわせて高いギヤにシフトしてください。

▷ 信号待ちや渋滞などで比較的長い間停車する場合は、エンジンを停止してください。

▷ 必要でないアクセサリは電源を切ってください。

▷ 定期的にタイヤ空気圧を確認してください。

▷ エアコンは必要時のみお使いください。

▷ ルーフ・ラックを使用しないときは、車両から取外してください。

▷「整備手帳」に定められた期間に従って点検を受けてください。

運転の際には、エンジン回転数が低いほど燃料消費量および騒音が減少することを念頭においてください。

リサイクル

現在までに製造された全ポルシェ車の3分の2以上がまだ現役です。

ただ、万一リサイクルが必要になった場合に備えて、次の対策がとられています。

— 再利用しやすい設計にしてあります。

— すべての素材を識別できるようにしてあります。

— リサイクル可能な素材を使用しています。

— 再使用可能な部品は容易に取外せるように設計しています。

排ガス制御を採用しています

高いエンジン性能と環境保護を両立させたエンジン技術を導入しています。

エンジン診断システムは、排気ガスに関係する部品とシステムを電子的にモニターしています。

この継続的なモニターと不具合の記録によって、迅速で信頼性のある診断と不具合の検知を可能にしています。

不具合は、エミッション・コントロール警告灯とオンボードコンピュータによって示されます。

⚠ セーフティ・ノート

▷ 部品交換やアクセサリー取り付けには、ポルシェ純正部品、またはポルシェ社が承認した規格、性能を有した同等品をご使用ください。これらアイテムはポルシェ正規販売店にご注文ください。とくに安全に関わる部品はポルシェ・テクイップメント製品、またはポルシェ社によってテスト、認可された部品以外は使用しないでください。詳しくはポルシェ正規販売店にお問い合わせください。
ポルシェ純正部品、またはポルシェ社が承認した以外の部品やアクセサリーの使用は、お車に悪影響を及ぼす恐れがあります。この結果として生じた損害、損傷に対してポルシェ社は責任を負いかねます。
アフター・マーケット製品は膨大な数にのぼるため、ポルシェ社がそれらすべてをテスト、承認することはできません。したがって有名メーカー製の部品やアクセサリーであっても、お車になんらかの影響を与えないとは言い切れません。

▷ ポルシェ純正部品またはポルシェ社が承認した部品やアクセサリー以外の使用は、お車の保証に対しても好ましくない影響を招く恐れがありますのでご注意ください。

▷ スポイラーやボディ・アンダーパネルなどのエアロ・パーツの損傷や欠落は、走行安定性に悪影響をおよぼします。定期的に点検し、損傷、欠落を発見した場合は速やかに修理を受けてください。

改良作業

ポルシェによって承認された場合にのみ、改良が行われます。
これにより、お客様のポルシェ車は運転の信頼性と安全を確保し、損傷を防ぐことになります。
ポルシェ正規販売店がご相談をお受け致します。

フィルムおよびカバー

▷ ヘッドランプやエア・インテーク部分をフィルムまたはストーン・ガードなどで覆わないでください。温度が高くなり過ぎて損傷する恐れがあります。

ヘッドランプは温度や湿度によって曇る場合があります。

▷ 最適な換気を行うために、ヘッドランプと車体の隙間にカバーをしないでください。

運転時の装備の設定および操作

⚠ 警 告

事故を起こす恐れがあるので、運転中にオンボード・コンピュータ、ラジオ、ナビゲーション・システム、電話等の操作や設定を行わないでください。
運転以外に気をとられ、車両のコントロールを失う恐れがあります。

▷ 運転中に装備を操作する場合は、安全に操作できる交通状況のときのみ行ってください。

▷ 複雑な操作や設定は車両を静止した状態で行ってください。

サーキット走行

レース用タイヤ

サーキット走行時などにレース用タイヤ（スリックタイヤなど）を装着しないでください。レース用タイヤを装着することにより、高いコーナリング・フォースが発生するため、オイルがエンジン内部に完全に行き渡らず、エンジンを損傷する恐れがあります。また、このような場合ポルシェ社はいかなる保証の付与また、責任を負うことを致しません。

ポルシェ・セラミック・コンポジット・ブレーキ（PCCB）

この高性能ブレーキ・システムは、すべての速度域および温度下で、最適の制動効果が得られるように設計されています。

特定のスピード、ブレーキ力や車輌を取り巻く環境（気温、湿度等）によりブレーキ鳴きが発生する恐れがあります。

ブレーキ・パッドやブレーキ・ディスクなどのブレーキ・システムおよび関連部品の摩耗は、個人の運転スタイルや使用状態に大きく左右されます。したがって、摩耗の程度を実際の走行距離数で表すことはできません。

ポルシェが使用している数値は、交通状況に合わせた通常の操作に基づいています。サーキット走行や過激な運転スタイルは、摩耗を相当程度に促進させます。

▷ 車両をサーキット走行などに使用される場合は、ポルシェ正規販売店に現在のガイドラインについてお問い合わせください。

グランド・クリアランス（地上高）

⚠ 警 告

一般の乗用車に比べて地上高が低くなっていますので、車体下部を損傷しないように注意してください。

▷ 勾配が大きな路面（駐車場の出入口、歩道の縁石、不整路、リフトの進入スロープなど）を乗り越えるときは、ゆっくりと走行してください。

▷ 車体下部を擦る可能性があるような急斜路には乗り入れないでください。

▷ 地上高が低くなっていますので、けん引時または他の車にけん引されているときは、十分に注意してください。

安全にお使いいただくために 11 - 139
シフト・ギヤ 141 - 148
モビル・ルーフ 149 - 174
車のお手入れ 175 - 196
万一のときのために 197 - 240
テクニカル・データ 241 - 262
さく引 264 - 268

安全にお使いいただくために

お出かけの前に…… 12
慣らし運転…… 12
キー…… 14
リモート・コントロール付きキー ……15
セントラル・ロッキング…… 16
ドア…… 19
ドア・ポケット ……19
盗難を防止するために…… 19
警報システム、室内モニタリング・
システム…… 20
パワー・ウィンドウ…… 22
ルーム・ミラー…… 24
ドア・ミラー ……24
自動防眩ミラー（ルーム・ミラー、
ドア・ミラー） ……26
リア・ウィンドウ・ヒータ／
ドア・ミラー・ヒータ…… 27
シート調節…… 28
シート・メモリー ……30
シート・ヒータ ……32
リア・シート・バックレスト ……33
ステアリング調節 ……33
マルチ・ファンクション・
ステアリング ……34
サンバイザ ……35
シートベルト…… 36
チャイルド・シート…… 39
エアバッグ・システム…… 44
ロールオーバー・プロテクション・
システム ……46
パーキング・ブレーキ…… 47
フット・ブレーキ…… 48
ABS…… 50
スポーツ・モード ……51
ポルシェ・スタビリティ・マネージメント
（PSM）……52
ポルシェ・アクティブ・サスペンション・
マネージメント（PASM） ……55
格納式スポイラ ……56
パーキング・エイド ……58
4輪駆動（911カレラ4、911カレラ4S）…60
ルーム・ランプ…… 61
インストルメント・パネル…… 62
イグニッション・ロック／
ステアリング・ロック…… 64
エンジンの始動と停止…… 66
インストルメント・クラスタ…… 68
油温計 ……70
クルーズ・コントロール・インジケータ・
ランプ ……70
計器照明 ……70
トリップ・メータ ……71
スピードメータ ……72
表示の切替え（km/mls） ……72
タコメータ ……73
方向指示灯インジケータ・ランプ ……73
ハイビーム・インジケータ・ランプ ……73
クーリング・システム…… 74
ティプトロニックS …… 75
燃料計…… 76
時計…… 77
外気温 ……77
エンジン・オイル（油圧）計…… 78
エミッション・コントロール…… 79
オンボードコンピュータ（BC）…… 80
ランプ・スイッチ ……112
ホーム・モード ……112
自動高さ調整 …… 113
方向指示灯／ハイビーム／パーキング・
ランプ／パッシング・レバー …… 113
フロント・ワイパー／ウォッシャ・レバー
…… 114
クルーズ・コントロール
（自動車速制御装置）…… 117
ハザード・ランプ・スイッチ ……119
オートマチック・エアコン …… 120
中央および両サイドの吹き出し口 …… 123
リア・ウィンドウ・ヒータ／
ドア・ミラー・ヒータ …… 124
カップ・ホルダ ……125
灰皿 ……127
シガー・ライタ ……127
小物入れ …… 128
フロント・トランク・リッドとエンジン・
ルーム・リッド …… 130
トランク・ルーム
（911カレラ、911カレラS） …… 132
トランク・ルーム
（911カレラ4、911カレラ4S） ……133
自動車電話、無線装置 …… 134
ポルシェ・コミュケーション・マネージ
メント（PCM）……135
消火器 …… 136
ホーム・リンク ……137

お出かけの前に

安全のため、お出かけの前に次の点検を行ってください。

- ▷ タイヤの空気圧および状態は正常ですか？
- ▷ ヘッドランプ、テールランプ、方向指示灯のレンズ、およびウィンドウは汚れていませんか？
- ▷ ヘッドランプ、ブレーキ・ランプおよび方向指示器は、イグニッション・スイッチONの状態で正常に作動しますか？
- ▷ エンジンを停止した状態で、イグニッション・スイッチをONにした場合に、各種警告灯が正常に作動しますか？
- ▷ ガソリンは十分ありますか？
- ▷ ルーム・ミラーおよびドア・ミラーは、後方がきちんと確認できる位置にありますか？
- ▷ 運転者、同乗者共にシートベルトを締めていますか？
- ▷ 各種オイル・レベルは、指定された点検時期以外でも、定期的に点検するようにしてください。

慣らし運転

エンジンの性能を最高の状態に高めるために、慣らし運転をお薦め致します。
最新鋭の精密な製造技術をもってしても、作動部分が馴染むために摩滅するのを完全に防ぐことはできません。この摩滅は主に最初の3000kmまで起こります。

従って、走行距離が3000kmに達するまでは、次の事に注意してください。

- ▷ なるべく長距離運転を行ってください。
- ▷ 冷間始動および短距離運転の繰り返しは避けてください。
- ▷ 自動車レースやスポーツ・ドライビング・スクール等に参加しないでください。
- ▷ エンジン回転数を高回転域まで上げないでください。エンジン冷間時には特に気を付けてください。

オイルおよび燃料消費量

このため慣らし運転中は、オイルおよび燃料の消費量が通常の場合よりも若干多くなります。

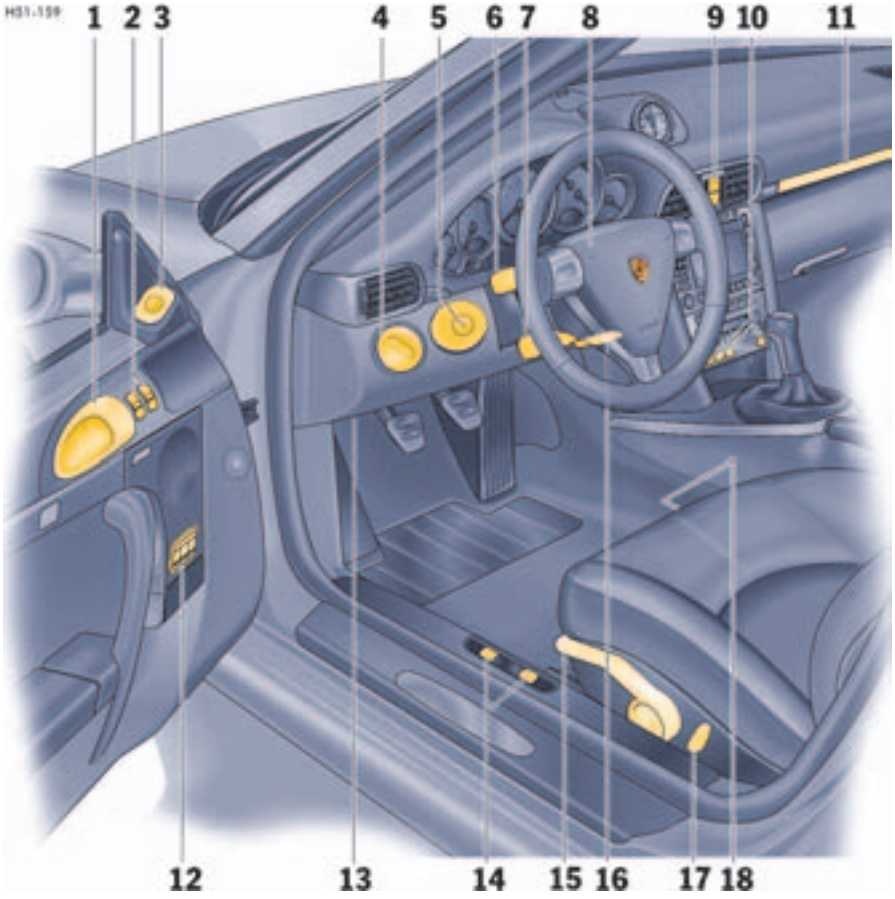
▷「テクニカル・データ」（244ページ）を参照してください。

新しいブレーキ・パッドおよびブレーキ・ディスクの慣らし方

新しいブレーキ・パッドおよびブレーキ・ディスクもエンジンと同様に慣らしをお薦め致します。最初の数百kmはブレーキ性能がフルに発揮されません。このときは、わずかながらブレーキの効きが減少するので、通常よりも少し強めにペダルを踏む必要があります。ブレーキ・ディスクを新しいものと交換した場合も同様に慣らしが必要です。

新しいタイヤの慣らし方

- ▷ 新しいタイヤは、最初はそのグリップ性能を十分に発揮できませんので、ご注意ください。従って、始めの100kmから200kmの間は、ゆっくりしたスピードで慣らしてください。



1 インナー・ドア・ハンドル
2 パワー・ウィンドウ・スイッチ
3 ドア・ミラー調節
4 ランプ・スイッチ
5 イグニッション・ロック／ステアリング・ロック
6 方向指示器／ロービーム／パッシング・レバー
7 オンボードコンピュータ操作レバー
8 ホーン
9 ハザード・ランプ・スイッチ／セントラル・ロッキング・ボタン
10 各スイッチ：格納式スポイラ／ポルシェ・アクティブ・サスペンション・マネージメント（PASM）／スポーツ・モード／ポルシェ・スタビリティ・マネージメント（PSM）
11 カップホルダ
12 シート・メモリー・ボタン
13 故障診断用ソケット
14 リッド・リリース
15 シート高さ調節
16 ステアリング調節
17 バックレスト調節
18 シート前後調節

キー

お車には2本のメイン・キーと1本のスペア・キーがあります。これらのキーを使用して、全てのロックを操作することができます。

▷ キーの取扱いには十分注意してください：キーは放置しないでください。

▷ キーの紛失や盗難にあった場合やスペア・キーを作ったりキーを交換した場合は、ご契約された保険会社にお知らせください。

▷ たとえ短い時間でも、お車を離れるときはキーを抜いてステアリング・ロックを確実にかけてください。

緊急操作

▷ 「緊急操作ーイグニッション・キーの抜取り」（65ページ）を参照してください。

新しいキーの入手

新しいキーはポルシェ正規販売店でお求めいただくことができます。
新しいキーを入手するには大変時間がかかるので、スペア・キーを常に携帯されることをお薦め致します。スペア・キーは安全な場所（財布の中など）に携帯し、決して車内に置かないでください。

新しいキーのコードはポルシェ正規販売店でかならず車両コントロール・ユニットに登録してください。

キー・コードの無効

キーを紛失した場合は、ポルシェ正規販売店に連絡してください。キー・コードを無効にすることができます。コードを無効にするには、残りの全てのキーが必要になります。
紛失したキーのコードを無効にすると、新しく設定したキーでのみエンジンを始動することができます。

知識：

▷ 無効にしたキーでも、キー・シリンダーでドアのロックを解除できるので、注意が必要です。

イモビライザー（キー内蔵型盗難防止装置）

キーのグリップ部に、コードを記憶した発信器（トランスポンダー）が内蔵されています。イグニッションをONにすると、イグニッション・ロックがコードを照合します。あらかじめ設定されているキーによってのみ、イモビライザーをセット解除してエンジンを始動することができます。

イモビライザー解除

▷ イグニッション・ロックにキーを差込むと自動的に解除されます。

イグニッションをONにしたまま2分以上経過すると、イモビライザーが再びセットされます。

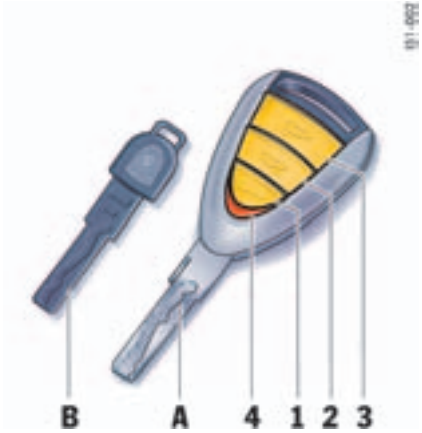
▷ 再びセットされた場合、エンジンを始動するときにはイグニッション・キーを**3**の位置（イグニッションOFF）にいったん戻す必要があります。

イモビライザー作動

▷ イグニッション・キーを抜くと、イモビライザーは自動的にセットされます。

セキュリティ・ホイール・ボルト

▷ 整備工場でホイールを取外さなければならないときは、車のキーとともにセキュリティ・ホイール・ボルトのソケットを渡すのを忘れないでください。



A - *メイン・キー*
1 - *セントラル・ロッキング・ボタン*
2 - *フロント・トランク・リッドボタン*
3 - *コンバーチブル・トップ操作ボタン（カブリオレ）*
4 - *発光ダイオード*
B - *スペア・キー*

リモート・コントロール付きキー

ドアのロック解除

▷ ボタン**1**を短く押します。

ドアをロックする

▷ ボタン**1**を短く押します。

不意に作動した場合の警報システムのセット解除

▷ ドア・ロックをリモート・コントロールで解除します。

フロント・トランク・リッドのロック解除

▷ ボタン**2**を約2秒間押します。

車両ドアがロックされている場合でも、フロント・トランクのロック解除すると同時にドアもロック解除されます。シート・メモリ装着車の場合は、記憶されたシート位置およびドアミラー位置が自動的に調節されます。
フロント・トランクを閉じた後、いずれのドアも開かれなかった場合、約15秒後に車両ドアが再ロックされます。
再ロックの後には、インナー・ドア・ハンドルでドアを開くことができます（盗難防止装置は解除されます）。

知識：
ポルシェ正規販売店にてセントラル・ロッキング・システムのコントロール・ユニットをプログラムすることで、フロント・トランクのロック解除のタイプをより細かく設定することができます。

▷ ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店で実施される事を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

タイプ1

ドア再ロックの時間を10秒から100秒の間で任意に設定することができます。

タイプ2

フロント・トランクのロックが解除されてもドア・ロックを継続します。

コンバーチブル・トップの操作

▷ 「コンバーチブル・トップ」（154ページ）を参照してください。

7日後のリモート・コントロール・スタンバイ機能OFF

7日間始動しないとリモート・コントロール・スタンバイ機能がOFFになります（バッテリ放電防止のため）。

1. この場合、運転席ドアのロック解除はドア・ロックにキーを差込んで行ってください。アラーム・システムを起動させないようにドアは閉めたままにします。
2. リモート・コントロールのボタン**1**を押すと、リモート・コントロール機能は再び作動します。

セントラル・ロッキング

▷ 「シート・メモリー」(30ページ) を参照してください。
▷ 「2時間後または7日間後の作動停止」(215ページ) を参照してください。

リモート・コントロールを使用することによって、セントラル・ロッキング・システムが、両方のドアとフィラー・カバーのロック／ロック解除を行います。

運転席ドアが完全に閉まっていないと、車両をロックすることはできません。

下記の装備が閉じていない状態でロックしようとすると、**アラームホーン**の短い警告音によりその状態を知らせます。

— ドア
— フロント・トランク・リッド
— エンジン・ルーム・リッド
— グローブ・ボックス

知識：

スポーツ・クロノ・パッケージ・プラス装着車では、ロック解除が追加できるタイプがあります。PCM取扱説明書の「個別メモリー」を参照してください。＊

＊日本仕様に設定はありません。

自動再ロック

リモート・コントロールでドアのロック解除を行った後、60秒以内にいずれのドアも開かれなかった場合、自動的に再ロックされます。ただしインナー・ドア・ハンドルで開くことによって解除することができます。

ポルシェ正規販売店にて自動再ロックの時間を10秒から100秒の間で任意に設定することができます。

▷ ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店での実施される事を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

知識：

自動再ロックの後、インナー・ドア・ハンドルを2回引くとドアを開くことができます（警報システムのみ作動します）。

再度ロック解除またはロックを行うと、正常なロック条件を設定することができます。

ロックの作動

⚠ 警 告

ロックを**1回**行うと、車外、車内のどちらからもドアを開くことができなくなります。緊急の場合でも、車内から開くことができませんので、十分注意してください。

▷ リモート・コントロール・キーのボタン**1**をすばやく**2回**押すと、車内からインナー・ドア・ハンドルを引いてドアを開くことができます。

▷ ロックを**1回**行うと、車外、車内のどちらからもドアを開くことができなくなります。警報システムと室内モニタリング・システムがONになります。

▷ リモート・コントロール・キーのボタン**1**をすばやく**2回**押すと、ドアはロックされ警報システムのみONになり、室内モニタリング・システムは作動しません。車内からインナー・ドア・ハンドルを引いてドアを開くことができます。

1. インナー・ドア・ハンドルを1回引くとドア・ロックが解除されます。
2. インナー・ドア・ハンドルをもう1回引くとドアが開きます。

知識：

このときドアを開くと、警報が鳴ります。車内に残す人にこのことを告げてください。

リモート・コントロールの作動不良

使用地域の電波の状況により、リモート・コントロールが正常に作動しないことがあります。この場合は、ドアがロックされません。

ドアが正常にロックされたかどうかは、ドア・ロックの作動音と、ハザード・ランプの点滅で確認できます。

緊急時の操作ードアを開く

▷ ドア・ロックにキーを差込んで運転席ドアをロック解除します。
次に20秒以内にドアを開き、警報システムが作動しないように10秒以内にイグニッションにキーを差込んでください。

知識：

約20秒以内にドアを開かなかった場合、自動的にロックが作動します。次回ドアをロック解除したときに、警報システムが作動します。

▷ 警報システムを解除するには、イグニッション・ロックにキーを差込みます。

緊急時の操作ードアを閉じる

▷ キーで運転席ドアをロックします。
セントラル・ロッキング・システムに不具合がある場合、緊急作動によってセントラル・ロッキング・システムの全ての機能をロックします。警報システムがONになり、室内モニタリング・システムがOFFになります。

▷ 不具合はポルシェ正規販売店で直ちに修理してください。ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店での実施される事を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

ハザード・ライトによる合図

リモート・コントロールによってドアのロックまたはロック解除を行うと、ハザード・ライトが点灯します。

— ロック解除ー1回点滅
— ロックー2回点滅
— ロック2回ー約2秒間点灯

不具合表示

ロックを行っているときにホーンが2回鳴った場合は、セントラル・ロッキング・システムか警報システムに不具合があることを示しています。

▷ ポルシェ正規販売店で修理をしてください。ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店で実施される事を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

セントラル･ロッキング･ボタン

ダッシュ・ボードにあるセントラル・ロッキング・ボタンを押すと、自動的に両方のドアがロックされます。
ドアがキーやリモート・コントロールで外側よりロックされている場合には、セントラル・ロッキング・ボタンでロック解除することができません。

ロック

▷ セントラル・ロッキング・ボタンを押してください。シンボルの付いたインジケータ・ランプが点灯します。
ドアを開く場合は、インナー・ドア・ハンドルを2回引くことでロックが解除されます。

ロック解除

▷ セントラル・ロッキング・ボタンを押してください。シンボルの付いたインジケータ・ランプが消灯します。

オートマチック・ドア・ロック・システム

ポルシェ正規販売店にて下記のオートマチック・ドア・ロック・システムの設定を行うことができます：

スピードが5ー10km/hを超えるとロックする。

▷ ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店で実施される事を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

スポーツ・クロノ・パッケージ装着車では、PCMを使用してオートマチック・ドア・ロック・システムを作動させることができます。

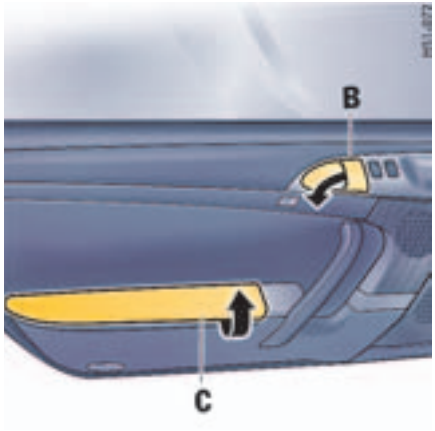
PCM取扱説明書の「個別メモリー」を参照してください。

知識：

オートマチック・ドア・ロック・システムによってロックされたドアは、セントラル・ロック・ボタンによって解除するか、内側からハンドルを2回引くことによって解除されます。

オーバーロード・プロテクション

セントラル・ロッキング・システムを1分以内に10回以上作動させると、30秒間操作できなくなります。



ドア

ドアを開くと、閉じていたドア・ウィンドウが自動的に数ミリ開き、ドアを閉じると、再び閉じます。この動きにより、ドアの開閉をしやすくし、またシールも保護しています。
したがって、ドア･ハンドルを引くときはゆっくりと引いてください。するとドアが開く前にドア・ウィンドウが開きます。

車外からドアを開く

▷ リモート・コントロールでドアをロック解除します。

▷ ドア・ハンドル**A**をゆっくり引きます。

車内からロック解除したドアを開く

▷ ドア・ハンドル**B**を引きます。

車内からロックされたドアを開く

▷ ドア・ハンドル**B**を2回引きます。

▷ 「ロック作動」（16ページ）を参照してください。

ドア・ポケット

ドア・ポケットを開く

▷ ドア・ポケットのカバーを開きます。

ドア・ポケット**C**はかならず閉じておき、事故の場合サイド・エアバッグの妨げとならないようにしてください。

盗難を防止するために

お車を離れるときは、かならず次のことを守ってください。

▷ 窓を閉めてください。

▷ スライディング／チルティング・ルーフを閉めてください。

▷ コンバーチブル・トップを閉めてください。

コンバーチブル・トップが開いていると室内モニタリング・システムは作動しません。（この機能は、仕向け地の仕様により異なります。）

▷ イグニッション・キーを抜いてください。

▷ グローブ・ボックスをロックしてください。

▷ 貴重品、車両書類、電話、家のキーなどを車内に残さないでください。

▷ ドアをロックしてください。

A - *警報システムの発光ダイオード*

警報システム、室内モニタリング・システム

ドアがキーやリモート・コントロールでロックされると、警報システムと室内モニタリング・システムがONになります。

▷ 「セントラル・ロッキング」(16ページ)を参照してください。

室内モニタリング・システムの作動を妨げないために：

▷ シート・バックレストを前方に倒さないでください。

不意に作動した場合の警報システムのセット解除

▷ ドア・ロックをリモート・コントロールで解除します。

ドアロックを解除すると警報システムと室内モニタリング・システムが自動的にOFFになります。

カブリオレ：

コンバーチブル・トップが開いていると室内モニタリング・システムは作動しません。

機能表示

警報システムがONになると、ダッシュボードの発光ダイオード**A**が点滅します。

ロック後に、発光ダイオードが点滅しなかったり、10秒経過した後でもダブル・フラッシュのままの場合は、システムが完全にセットされていないことを示しています。また、短い警告音も発せられ、ルーム・ランプが2秒間点灯します。

ドアがロックされていないとき、発光ダイオードは消灯します。

以下のコンポーネントがモニタされます。

- ドア
- フロント・トランク・リッドおよびエンジン・ルーム・リッド
- コンバーチブル・トップ・ロック（カブリオレのみ）
- グローブ・ボックス
- 室内

上記の警報接点のうち、1つでも中断された場合は、警告音が約30秒間鳴ります。同時に、室内灯とハザード・ランプが約5分間点滅します。警報システムが起動すると、発光ダイオードがダブル・フラッシュを開始します。

一時的な室内モニタリング・システムのセット解除

人やペットを車内に残してロックする場合は、室内モニタリング・システムをOFFにしてください。

▷ リモート・コントロール・キーのボタン**1**をすばやく**2回**押します。
ドアはインナー・ドア・ハンドルを操作して**車内から開く**ことができます。

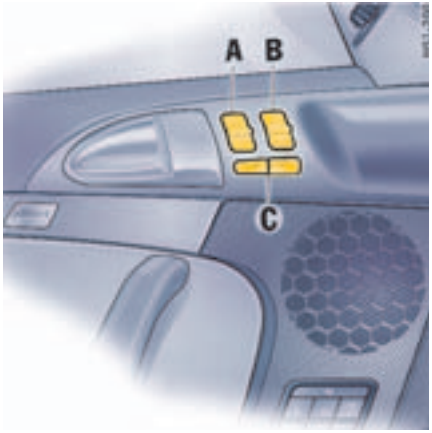
1. インナー・ドア・ハンドルを1回引くと、ドアがロック解除されます。
2. インナー・ドア・ハンドルをもう1回引くと、ドアが開きます。

▷ このときドアを開くと、警報が鳴りますので、車内に人を残す場合は、このことを告げてください。

不具合表示

ロックを行っているときに**ホーンが2回鳴った**場合は、セントラル・ロッキング・システムか警報システムに不具合があることを示しています。

▷ 不具合はポルシェ正規販売店で直ちに修理してください。ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店で実施される事を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。



A *パワー・ウィンドウ・スイッチ（運転席側）*
B *パワー・ウィンドウ・スイッチ（助手席側）*
C *フロント／リア・パワー・ウィンドウ・セレクト・スイッチ（カブリオレ）*

パワー・ウィンドウ

⚠ 警 告

パワー・ウィンドウを閉じる場合は、十分注意してください。特にワンタッチ作動で閉じる時は十分に注意してください。怪我をする恐れがあります。

▷ パワー・ウィンドウを操作する場合は、同乗者が怪我をしないように十分注意してください。

▷ お車を離れるときは、必ずキーを抜いてください。
お子様などがパワー・ウィンドウを操作して怪我をする恐れがあります。

▷ お子様を残して、お車から離れないでください。

パワー・ウィンドウの作動条件

— イグニッション・キーが“イグニッションON”のポジションのとき。（エンジンはONまたOFF）**または**

— 室内でドアが閉じているときに、イグニッション・キーを取外し、最初にドアを開くまでの間。

ドア・ウィンドウのワンタッチ閉作動は、イグニッション・スイッチがONの時にのみ可能です。

知識（カブリオレ）：
コンバーチブル・トップを開いているときは、ドア・ウィンドウを閉じているときだけ、リア・サイド・ウィンドウを閉じることができます。

ウィンドウの開閉

カブリオレの場合は、ロッカー・スイッチ**C**でフロントまたはリア・パワー・ウィンドウを選択します。
選択したスイッチの発光ダイオードが点灯します。
運転席ドアのロッカー・スイッチ**A**および**B**と、助手席ドアのロッカー・スイッチは、2段階で作動する構造になっています。

ロッカー・スイッチによるウィンドウ開作動

▷ ロッカー・スイッチを1段目まで押し下げて、ウィンドウをお好みの位置まで開けます。

ロッカー・スイッチによるウィンドウ閉作動

▷ ロッカー・スイッチを1段目まで押し上げて、ウィンドウをお好みの位置まで閉めます。

ワンタッチ作動

▷ ロッカー・スイッチを2段目まで押し下げるまたは押し上げると、ウィンドウは全開または全閉位置まで作動します。

お好みの位置でウィンドウを止める場合には、もう一度ロッカー・スイッチを押します。

知識（クーペ）：

助手席側ウィンドウのワンタッチ閉作動はウィンドウがほぼ半分まで閉まっていた場合に可能です。

知識（カブリオレ）：

ワンタッチ作動でリア・サイド・ウィンドウを開けることが可能です。

リモート・コントロールを使用したロック解除時の便利機能（クーペ）

リモート・コントロールのボタン**1**を2秒以上押すと、ウィンドウをお好みの位置まで開くことができます。

リモート・コントロールを使用したロック／ロック解除時の便利機能（コンバーチブル・トップを閉じた状態、またはハードトップを装着した状態）（カブリオレ）

リモート・コントロールのボタン**1**を2秒以上押すと、ウィンドウをお好みの位置まで開くことができます。

ドア・ウィンドウは、リア・サイド・ウィンドウが閉じた後に閉じます。

知識：

ドア・ウィンドウが閉じるときに強い抵抗を感じるとウィンドウが数cm下がり挟み込みを防止します。

ウィンドウが抵抗を感じて10秒以内にロッカー・スイッチを再度押した場合は、この機能は**作動せず**、ウィンドウは最大の力で閉じます。

⚠ 警 告

ロッカー・スイッチを、ウィンドウが抵抗を感じて10秒以内に再度押すと、ウィンドウは最大の力で閉じようとしますので注意してください。怪我をする恐れがあります。

▷ 安全のため、挟まれることのないように十分注意をしながら操作してください。

その作動の後、10秒間はワンタッチ作動によるウィンドウの操作が行えません。

ウィンドウの自動開閉機能

▷ 「ドア」（19ページ）を参照してください。

▷ 「コンバーチブル・トップ」（154ページ）を参照してください。

ドア・ウィンドウ停止位置の記憶

バッテリ切り離し後、ドア・ウィンドウの停止位置は消去されます。したがって、ウィンドウのワンタッチ作動は解除されます。すべてのドアに対して、以下の操作を行なってください。

1. ロッカー・スイッチを**1度**押して、ウィンドウを全閉位置にします。
2. 再度ロッカー・スイッチの前側を押すと、ウィンドウの位置が記憶されます。

ルーム・ミラー

ルーム・ミラーは平面鏡です。
ミラーを調整するとき、防眩機能のレバー**A**を前方に向けてください。

基本位置ーレバーは前方
防眩位置ーレバーは後方

ドア・ミラー

ドア・ミラーは、視野が広くなるよう助手席側は凸面、運転席側は非球面になっています。

⚠ 警 告

ドア・ミラーは映る車や物が実際の大きさより小さく、距離が離れているように見えますので十分注意してください。思わぬ事故を起こす恐れがあります。

▷ 後続車との距離を判断する場合や、駐車時に後退する場合は十分注意してください。

▷ 距離を判断する場合は、ルーム・ミラーも併用してください。

ドア・ミラーの調節

1. イグニッション・スイッチをONにします。
2. コントロール・スイッチ**A**を回すことによって、運転席側または助手席側を選択します。
3. コントロール・スイッチを使用してドア・ミラーを適切な角度に調節することができます。

故障した場合

▷ 鏡面を手で押して調節してください。

助手席側ドア・ミラーの自動調節

▷「パーキング・エイド」(58ページ) を参照してください。

▷「シート・メモリー」(30ページ) を参照してください。

ドア・ミラーの格納

⚠ 警 告

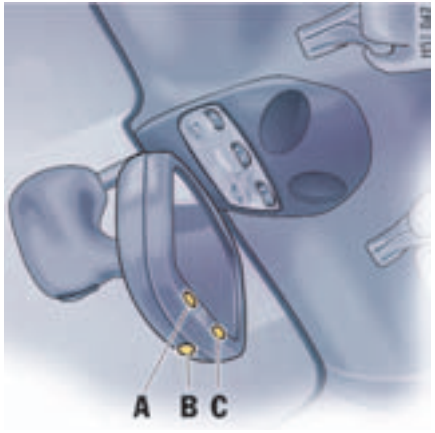
ドア・ミラー格納時に不意にミラーが跳ね返り、指を負傷する恐れがあります。

▷ 手でミラーを格納する場合は十分に注意してください。ロック・レバーでロックするか、またはミラーが完全に開いてからミラーを放してください。

1. ミラーをドア・ウィンドウ方向に押さえてください。
2. ロック・レバーをストッパーに当たるまで上に回し、ゆっくりミラーを放します。

ドア・ミラーの展開

1. ミラーをドア・ウィンドウ方向に押さえてください。ロック・レバーが自動的に外れます。
2. 手でミラーを展開位置に戻します。完全に戻るまで手を放さないでください。



A - *センサ*
B - *自動防眩操作スイッチ*
C - *発光ダイオード*

自動防眩ミラー (ルーム・ミラー、運転席側ドア・ミラー)

ルーム・ミラーの前後に取付けられたセンサが、ミラーに投射する光を測定します。光の度合に応じてミラーは自動的に暗くなったり、明るくなったりします。

リバース・ギヤが選択されているときは、自動防眩機能は作動しません。

知識：
センサの感知を妨げるステッカーなどをフロント・ウィンドウに貼らないでください。

自動防眩OFF：

▷ 自動防眩操作スイッチ**B**を押します。
発光ダイオード**C**が消灯します。

自動防眩ON：

▷ 自動防眩操作スイッチ**B**を押します。
発光ダイオード**C**が点灯します。

⚠ 警 告

自動防眩ミラーのガラスが破損すると防眩機能の液体が流れ出すことがあります。この液体はものを腐食させる性質がありますので、皮膚や目に直接触れないように十分に注意してください。

▷ 液体が目や皮膚に触れた場合は、速やかにきれいな水で洗い流し医師の診断を受けてください。

車の塗装面、レザー部分やプラスチック部に液体が垂れると、損傷する恐れがあります。液体が乾かないうちに、速やかに洗浄してください。

▷ 水で洗浄してください。

リア・ウィンドウ・ヒータ／ドア・ミラー・ヒータ

リア・ウィンドウ・ヒータおよびドア・ミラー・ヒータは、イグニッションがONになっているときに作動させることができます。

スイッチON

▷ スイッチを押します。
スイッチのインジケータ・ランプが点灯します。

ヒータのスイッチは約15分後に自動的にOFFになります。
スイッチを再び押すとヒータはONに戻ります。

スイッチOFF

▷ スイッチを押します。
スイッチのインジケータ・ランプが消えます。

シート調節

⚠ 警 告

シートが予期せず大きく移動し、運転を誤り事故を起こす恐れがあります。

▷ 安全のため、走行中に運転席シートの調節は絶対に行わないでください。

カブリオレの場合、シートを調節したり、バックレストを後方に倒したときにウィンドストップに当たってウィンドストップが損傷する恐れがあります。

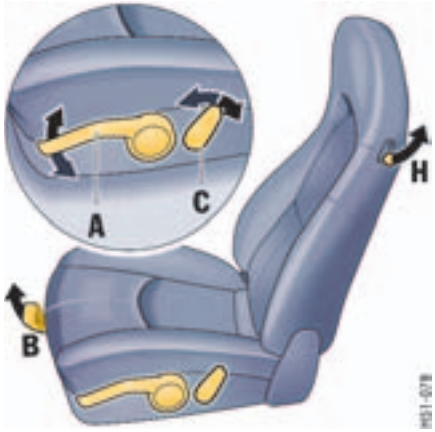
▷ シートの調節やバックレストを倒すときは、ウィンドストップに当たらないように注意してください。

シート位置

安全で疲れにくい運転をするには、シートを正しい位置に調節することが必要不可欠です。シートはお客様の希望の位置に調節することができます。次の要領で調節してください。

1. マニュアル・トランスミッション装着車：
   足を自然に伸ばしながらクラッチ・ペダルが十分に踏込める位置に調整します。

   ティプトロニックS装着車：
   左足をフットレストに置いて、足を自然に伸ばせる位置に調整します。



2. ステアリングの上の部分を握りながら、ステアリング操作が楽にでき、肩が背もたれから離れないように背もたれの角度とステアリングの位置を調節してください。
3. 頭上のスペースと視野が十分に確保できる位置にシートの高さを調整します。
4. 電動調節シート：
   太ももがシートクッションに軽くもたれるようにシート角度を調整します。

シートの手動調節

(コンフォート・シート／スポーツ・シート)

A-座面の高さ調節

▷ レバー**A**を上下させます。
レバーを上げる - 座面が上昇します。
レバーを下げる - 座面が下降します。

B-シートの前後調節

▷ ロック・レバー**B**を持ち上げます。
シートを好みの位置に移動させてから、レバーを放します。
シートがしっかり固定されていることを確認してください。

C-バックレスト調節

▷ スイッチ**C**を操作して、バックレストを好みの角度に調整します。

電動調節シート

(コンフォート・シート／スポーツ・シート)

▷ お好みの調節になるまで矢印の方向にスイッチを押してください。

A-座面の高さ調節
B-シートの前後調節
C-シートの角度調節
D-バックレスト調節

E-ランバー・サポート

バックレストの調節、硬さをお好みに合わせ水平方向と垂直方向に無段階に調節することができます。

▷ お好みの調節になるまで矢印の方向にスイッチを押してください。

F-バックレスト・サイド・ボルスターの調整（電動スポーツ・シートのみ）

▷ スイッチ**F**を前方に押す、または後方に引いて、サイド・ボルスターを体型に合わせて調整します。

G-シート・クッション・サイド・ボルスターの調整（電動スポーツ・シートのみ）

▷ スイッチ**G**を前方に押す、または後方に引いて、サイド・ボルスターを体型に合わせて調整します。

シート・バックレスト

前方へ倒す

▷ ロックを解除するには、バックレストの側面にあるレバー**H**を引き上げてください。

後方へ倒す

▷ バックレストを後方へ押すと、ロックされます。

バックレストは、急ブレーキを踏んだ場合に前に倒れないよう、走行中はロックされていなければなりません。

M - *メモリー・ボタン*
1 - *キー・ボタン*
2、**3** - *パーソナル・ボタン*

シート・メモリー

運転席側のシート位置、ミラー位置をお好みの位置に記憶することができます。
スポーツ・クロノ・パッケージ・プラス装着車では、個人設定オプションを追加することができます。＊
PCM取扱説明書＊の「個別メモリー」を参照してください。

⚠ 警 告

メモリーを制御不能な呼出し方で操作した場合、メモリー機能が損傷する恐れがあります。

▷ 自動調節をキャンセルしたい場合は、その他のシート調節スイッチを押してください。

▷ 誤って作動させ、怪我をする恐れがありますのでお子様を車内に残さないでください。

パーソナル・ボタン2、3による操作

メモリーの設定

1. イグニッション・スイッチをONにします。リバース・ギヤには入れないでください。
2. お好みのシート位置、ドア・ミラー位置を設定してください。
3. メモリー・ボタン**M**を押しながらボタン**2**、**3**のいずれかのボタンを押してください。お好みの設定が記憶されます。

メモリーの呼出し

1. イグニッション・スイッチをONにします。**または**、運転席側ドアを開きます。
2. シートの位置がお好みの位置にくるまでパーソナル・ボタンを押してください。
   ドア・ミラーおよびランバー・サポートは、ボタンを押しつづけなくても記憶させた位置まで移動します。

知識：
自動シート調節は、ボタンを離すと直ちに中断されます。

＊日本仕様に設定はありません。

リモート・コントロール・キーによる操作

お好みのシート位置、ドア・ミラー位置をそれぞれのリモート・コントロールに（最大6個）設定することができます。
リモート・コントロールで車両ロックを解除すると、記憶させたシート位置、ドア・ミラー位置を自動的に記憶します。

シート位置の記憶

1. イグニッション・スイッチをONにします。リバース・ギヤには入れないでください。
2. お好みのシート位置、ドア・ミラー位置を設定してください。
3. メモリー・ボタン**M**を押しながらキー・ボタン**1**を押してください。
   お好みの設定がリモート・コントロールおよびキー・ボタンに記憶されます。

助手席側ドア・ミラー下向き位置の設定（パーキング・エイド）

運転席側の設定が記憶されると、バック走行時の助手席側ドア・ミラー下向き位置がお好みに合わせて記憶できます。

1. パーキング・ブレーキをかけます。
2. イグニッション・スイッチをONにします。
3. リバース・ギヤに入れてください。
4. ミラー・スイッチで助手席側を選択すると、助手席側ミラーが下向きになります。
5. 助手席側ドア・ミラーをお好みの角度に設定してください。
6. メモリー・ボタン**M**を押しながらキー・ボタン**1**を押してください。
   お好みの設定がリモート・コントロールおよびキー・ボタンに記憶されます。

メモリーの呼出し

▷ リモート・コントロールで車両ロックまたはトランク・ルームのロックを解除すると、記憶させたシート位置、ドア・ミラー位置に自動的に移動します。

リモート・コントロールに記憶されているシート位置は、対応するキーを使用してドアのロックを解除するか、イグニッション・スイッチをONにすることでキー・ボタン**1**でも呼び出すことができます。

リモート・コントロールにシート位置が記憶されていない場合、キー・ボタンは作動しません。

知識：
以下の場合、自動シート調節を直ちに停止させることができます。
— イグニッション・スイッチをONにする
— セントラル・ロッキング・ボタンを押す
— メモリー・ボタンまたはシート調節ボタンのいずれかを押す

メモリーの消去

1. お好みの車両キーでイグニッション・スイッチをONにします。
2. メモリー・ボタンを2回、キー・ボタン**1**を1回続けて押します。

A - *左側シート・ヒータ・スイッチ*
B - *右側シート・ヒータ・スイッチ*

シート・ヒータ

イグニッションをONにすると、2段階にシート・ヒータを調整できます。

スイッチON

ヒータ強

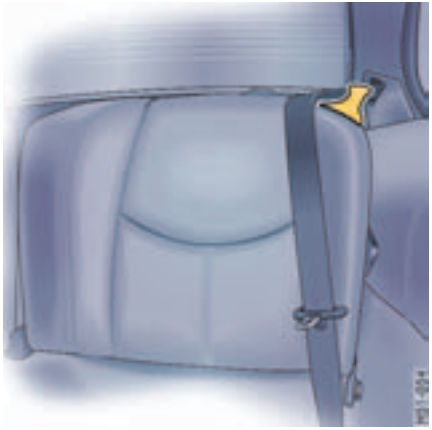
▷ シート・ヒータ・スイッチを押してください。インジケータ・ランプが両方とも点灯します。

ヒータ弱

▷ スイッチをもう1回押してください。インジケータ・ランプが片方だけ点灯します。

スイッチOFF

▷ スイッチを押すと、インジケータ・ランプが消えます。



リア・シート・バックレスト

リア・シート・バックレストを前方に倒すと、収納スペースを確保できます。

前方に倒す

▷ レバーを引き、バックレストを前方に倒します。

後方に倒す

▷ ロックするには、所定の位置でカチッという音が聞こえるまでバックレストを後方へ戻します。その際には、シートベルトの位置（**図を参照**）に注意してください。

カブリオレ：

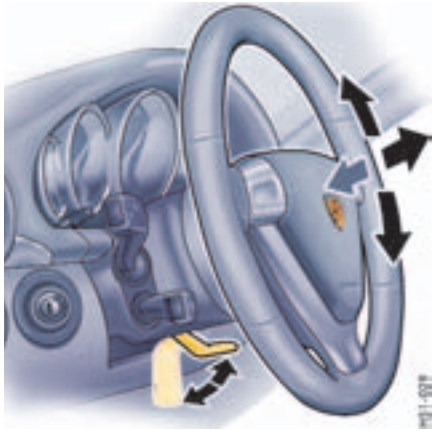
▷ ウィンドストップが装着されているときは、リア・シート・バックレストを起こさないでください。ウィンドストップを損傷する恐れがあります。

ステアリング調節

⚠ 警 告

ステアリングが予期せず大きく移動し、運転を誤り事故を起こす恐れがあります。

▷ 安全のため、走行中にステアリングの調整は絶対に行わないでください。



ステアリングの上下および前後方向の調節

1. ロック・レバーを押し下げます。
2. バックレストの角度とシートの位置に合わせて、ステアリングを上下方向および前後方向に動かして調節します。
3. 固定されるまで、ロック・レバーを矢印の方向へ動かします。必要に応じて、ステアリングをわずかに前後方向へ動かします。

マルチ・ファンクション・ステアリング

⚠ 警 告

事故を起こす恐れがあるので、運転中にオンボードコンピュータ、ラジオ、ナビゲーション・システム、電話などの操作や設定を行なわないでください。

運転以外に気をとられ、車両のコントロールを失う恐れがあります。

▷ 運転中に装備を操作する場合は、安全に操作できる交通状況のときのみ行ってください。

▷ 複雑な操作や設定は車両を静止した状態で行ってください。

マルチ・ファンクション・ステアリングにはファンクション・キーが備えられ、ドライバーが交通から気を逸らさずにさまざまな操作を簡単に行うことができます。ファンクション・キーにより車両の装備に応じて以下のポルシェ・コミュニケーション・システム＊が操作できます。

— PCM＊
— 電話＊
— CDチェンジャ

マルチファンクション・ステアリングの作動準備

マルチファンクション・ステアリングはイグニッション・スイッチ**および**PCM／CDR24をONにすると、スタンバイ状態になります。

ファンクション・キーの操作

▷ ファンクション・キーを操作する前に、ポルシェ・コミュニケーション・マネージメントの取扱説明書をお読みください。＊

ステアリング上部の左右にあるロータリー・ノブを押して操作することもできます。

ボリューム・スイッチを回す
上方 - 音量が上がります。
下方 - 音量が下がります。
ボリューム・スイッチを押す
音量とミュートが切り替わります。

ロータリー・ノブを回す
ロータリー・ノブを上方または下方に回して、PCMの機能をメニューから選択またはマーキングします。
ロータリー・ノブを押す
選択した機能が作動します。

スクリーン・ボタンを押す
記憶させたPCM機能を呼び出します。ボタンをお好みのPCM機能に記憶することができます。

バック・ボタンを押す
PCMメニューに戻ります。

ハンドセット・ピックアップ・ボタンを押す
電話を受けます。

ハンドセット・ハングアップ・ボタンを押す
着信を保留するか、または切ります。

＊日本仕様に設定はありません。

サンバイザ

▷ 直射日光を防ぐには、サンバイザを下げてください。

▷ 側面からの太陽光が眩しいときには、サンバイザを内側のブラケットから外して回転させ、ドア側のウィンドウを覆うこともできます。

バニティー・ミラー

バニティー・ミラーはサンバイザの裏側にあり、カバーが付いています。

⚠ 警 告

怪我をする恐れがあります。

▷ 運転中やコンバーチブル・トップが閉じているときはカバーを閉めたままにしてください。

損傷する恐れがあります。

▷ カバーの全開位置より開かないでください。

カバーを開く（**矢印**）と自動的に照明が点灯します。

シートベルト

身長が150cm以下の人が乗車される場合は、シートベルトを使用せずポルシェ社指定のチャイルド・シートを必ず使用してください。

⚠ セーフティ・ノート

- ▷ 車に乗車したら、安全のため乗員は必ずシートベルトを着用するように義務付けられています。同乗者の方にもこのページの内容をよく理解してもらってください。
- ▷ 同時に2人で**1本**のシートベルトを使うことは、絶対に避けてください。
- ▷ だぶついた衣服は、シートベルトが正しくフィットしない上に、動作の自由を奪うことになるので、乗車時には必ず脱ぐようにしてください。
- ▷ 硬い物や壊れやすい物（眼鏡、ボールペン、パイプなど）の上に、ベルトがかからないようにしてください。衝突の際に怪我をする可能性が高くなります。
- ▷ シートベルトはねじれや弛みがないように装着してください。
- ▷ シートベルトを定期的に点検し、ベルトの帯が損傷していないか、またバックルと取付け部が正常な状態にあるかどうか確認してください。
- ▷ 安全性を維持するため、事故などでベルトに強く負荷がかかった場合は、ポルシェ正規販売店でベルトを交換してください。同時に作動したシートベルト・テンショナ・システムも交換してください。またアンカー部分も点検してください。

  整備についてはポルシェ正規販売店にご相談ください。ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店で実施される事を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。
- ▷ ベルトを使用しないときは汚れや損傷を防ぐため完全にリトラクターに巻き取らせてください。

警告灯および警告メッセージ

シートベルトの装着を促すために、以下の警告がベルトのプレートがバックルに挿入されるまで持続します。

- — イグニッション・スイッチをONにすると、インストルメント・クラスタのシートベルト警告灯が点灯します。
- — オンボードコンピュータに警告が表示されます。
- — シートベルト未装着のままで走行し、24km/hを超えたときに約90秒間警告音が鳴ります。

ベルトのプレートがバックルに挿入されると、警告は解除されます。

シートベルト・テンショナ

事故時に発生する衝撃力の大きさにより作動して、シートベルトを押さえつけ乗員を保護します。

シートベルト・テンションは以下の場合に作動します。

- — 前後方向および横方向から強い衝撃を受けたとき。
- — 転倒したとき（カブリオレ）

知識：

シートベルト・テンショナは、一度しか作動しません。作動後は、システムを交換する必要があります。シートベルト・テンショナ・システムに不具合が生じた場合、エアバッグ警告灯が点灯します。シートベルト・テンショナ・システムの交換は、必ずポルシェ正規販売店で行ってください。

ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店で実施される事を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

シートベルト・テンショナは作動したときに、若干の煙を発生することがありますが、火災などの心配はありません。

シートベルトの装着

▷ シートを最適の位置に調節してください。
「シート位置」（28ページ）を参照してください。

▷ ショルダー・ベルトが常に身体の上および肩の中央にくるように、バックレストを調整してください。

▷ ベルトのプレートを持って、ゆっくりと一定の速度でリトラクターから引き出し、胸と腰にかかるようにします。
カーブを曲がったり急な坂道を登るときなど、急加速や急減速を行っている場合には、ベルトを引き出すことができません。

知識：
車両が坂道にある場合またはベルトが急に引かれた場合には、ベルトが引き出せなくなることがあります。

▷ プレートをシート側部にあるバックルの中に、カチッと音がするまで差込みます。

▷ ベルトがひっかかったり、ねじれたり、鋭い物にこすれたりしないように注意してください。

▷ ラップ・ベルトは必ず腰の低い位置（骨盤）にぴったりとかかるようにしてください。
プレートをバックルに差込んで、ショルダー・ベルトを上に引っ張ってください。
妊娠中の人は、ベルトを骨盤のできるだけ低い位置にかけ、腹部を圧迫しないように注意してください。

▷ 走行中にもショルダー・ベルトを上に引っ張る調整を繰り返し、ラップ・ベルトがゆるまないようにしてください。

ベルトの外し方

▷ ベルトのプレートを持ちます。

▷ バックルにある赤いボタン（**矢印**）を押します。

▷ リトラクターに近付け、ベルトを巻き取らせてください。

シートベルトの高さ調整（クーペ）

シートベルトの高さは調整することができます。
シートベルトの高さを調整し、首ではなく、肩の中央部にかかるようにします。

調整方法

▷ 上方向に移動：ベルト・デフレクタ本体を上へ押上げます。

▷ 下方向に移動：ボタン（**矢印**）を押し、ベルト・デフレクタを下方向へ押し下げます。

シートベルトのお手入れ

▷ 「シートベルトのお手入れ」（196ページ）を参照してください。

チャイルド・シート

⚠ 警 告

チャイルド・シートを使用する場合、助手席エアバッグを作動解除していないと、重傷または致命傷を負う恐れがあります。

▷ 体重が27kgまでのお子様を助手席に取付けたチャイルド・シートに乗せて走行する場合、助手席エアバッグは必ず作動解除してください。

体重が27kgを超えるお子様の場合は、助手席エアバッグを作動させてください。

▷ ポルシェのチャイルド・シートの取付けに関する詳細はポルシェ正規販売店にご相談ください。

知識：

助手席エアバッグを作動解除するキー・スイッチおよびISOFIX取付け用ブラケットは納車時に装着されていません。ポルシェ正規販売店でオプションとして装着してください。

▷ ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店で実施される事を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

⚠ セーフティ・ノート

▷ 付属のチャイルド・シート取付説明書に必ず従ってください。

▷ チャイルド・シートは、必ず国の法規に適合するものを使用してください。

▷ 必ずポルシェ社指定のチャイルド・シートのみを使用してください。ポルシェ社指定のチャイルド・シートは、ポルシェ車の内装状態とあらゆる年齢のお子様にマッチするよう繰り返しテストを受け調整されています。

指定外の製品はテストにより安全性が実証されていないため、怪我をする可能性が高くなります。

▷ 9ヶ月～12歳のお子様の場合、チャイルド・シートは可能な限りリア・シートに取付けてください。

9ヶ月未満のお子様用の場合、チャイルド・シートは例外的に助手席に取付けます。

▷「助手席エアバッグの作動／作動解除」（42ページ）を参照してください。

9ヶ月未満のお子様

9ヶ月未満のお子様の場合、チャイルド・シートを進行方向に対して**後ろ向き**に取付けます。

▷ このとき、助手席エアバッグとサイド・エアバッグの作動を必ず解除します。

9ヶ月～3歳未満のお子様

9ヶ月～3歳未満のお子様の場合、チャイルド・シートを**前向き**に取付けます。
また、可能な限りリア・シートに取付けてください。

▷ 助手席に取付けるようなことがある場合は、助手席エアバッグとサイド・エアバッグの作動を解除しなければなりません。

3歳～6歳のお子様

3歳～6歳のお子様の場合、チャイルド・シートを**前向き**に取付けます。
また、可能な限りリア・シートに取付けてください。

▷ 助手席に取付ける場合は、助手席エアバッグを作動解除しなければなりません。

6歳～12歳のお子様

6歳～12歳のお子様の場合、チャイルド・シートを**前向き**に取付けます。
また、可能な限りリア・シートに取付けてください。

▷ 助手席に取付ける場合は、助手席エアバッグを作動解除しなければなりません。
体重が27kgを超えるお子様の場合は、助手席エアバッグを作動させなければなりません。

推奨チャイルド・シート

年齢	体重	シート・タイプ	認可番号	助手席での使用	リア・シート上での使用
9ヶ月未満	13 kg未満	ポルシェ・ベビー・シート 0+Isofixユニバーサル ポルシェ・ベビー・シート 0+Isofixスペシャル ポルシェ部品番号：955.044.800.42	E13 030011 E13 030012	可能	不可
9ヶ月～3歳	9～18 kg	ジュニア・シート ISOFIX グループI ユニバーサル ジュニア・シート ISOFIX グループI スペシャル ポルシェ部品番号：955.044.800.44	E13 030013 E13 030014	可能	可能
3歳～6歳	16～25 kg	ジュニア・シート ISOFIX グループII ユニバーサル ポルシェ部品番号：955.044.800.44	E13 030015	可能	可能
6歳～12歳	15～36 kg	ポルシェ・キッズ・プラス ポルシェ部品番号 955.044.801.02	E1 03301169	可能	可能

知識：

体重が27kgまでのお子様を助手席に取付けたチャイルド・シートに乗せて走行する場合、助手席エアバッグは必ず作動解除してください。
体重が27kgを超えるお子様の場合は、助手席エアバッグを作動させてください。

助手席エアバッグの作動／作動解除

▷ 車両キーをキー・スイッチに差込んで助手席エアバッグを解除します。

A – スイッチON位置 – エアバッグ作動可能

B – スイッチOFF位置 – エアバッグ作動解除

⚠ 警 告

チャイルド・シートを取外した後に助手席エアバッグを作動解除したままにしておくと、乗員が重傷または致命傷を負う恐れがあります。

▷ チャイルド・シートを取外した後は、必ず助手席エアバッグを再作動させてください。

助手席エアバッグOFF警告灯

助手席エアバッグが作動解除されている場合は、イグニッション・スイッチをONにすると、助手席エアバッグOFF警告灯が常時点灯します。

▷ 「インストルメント・クラスタおよびオンボードコンピュータ上の警告」（104ページ）を参照してください。

⚠ 警 告

エアバッグOFFスイッチをOFFにし、イグニッション・スイッチをONにした時に、助手席エアバッグOFF警告灯が点灯しなかった場合、助手席エアバッグにより重傷または致命傷を負う恐れがあります。

▷ 助手席にチャイルド・シートを取付けないでください。

▷ 直ちに故障を修理してください。ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店で実施される事を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

知識：

キー・スイッチおよび助手席エアバッグOFF警告灯は納車時には装着されていません。ポルシェ正規販売店でオプションとして装着してください。

ISOFIXシステム

（助手席装着用チャイルド・シート・ブラケット）

必ずポルシェ社指定のISOFIXシステム付きチャイルド・シートのみを使用してください。ポルシェ社指定のチャイルド・シートは、ポルシェ車の内装状態とあらゆる年齢のお子様にマッチするよう繰り返しテストを受け調整されています。
指定外の製品はテストにより安全性が実証されていないため、怪我をする可能性が高くなります。

ISOFIXに適合するチャイルド・シートはポルシェ正規販売店にてお求めいただけます。

▷ 必ずチャイルド・シートに付属の取付説明書に従ってください。

知識：

ISOFIX取付け用ブラケットは納車時には装着されていません。ポルシェ正規販売店でオプションとして装着してください。

⚠ 警 告

チャイルド・シートを使用する場合、助手席エアバッグを作動解除していないと、重傷または致命傷を負う恐れがあります。

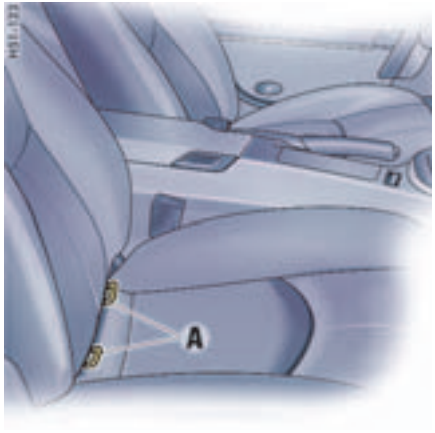
▷ 体重が27kgまでのお子様を助手席に取付けたチャイルド・シートに乗せて走行する場合、助手席エアバッグは必ず作動解除してください。

体重が27kgを超えるお子様の場合は、助手席エアバッグを作動させてください。

▷ 「チャイルド・シート」（39ページ）を参照してください。

ISOFIXチャイルド・シート・システムの取付け

1. キー・スイッチで助手席エアバッグを作動停止します。助手席エアバッグOFF警告灯が点灯していることを確認してください。
「助手席エアバッグの作動／作動解除」（42ページ）を参照してください。



2. チャイルド・シートの取扱説明書に従って、リテーニング・ラグ**A**にチャイルド・シートを固定します。
3. チャイルド・シートを引いて左右の固定箇所が正しく装着されているか点検します。

知識：

チャイルド・シートを取外した後は、必ず助手席エアバッグを再作動させてください。

エアバッグ・システム

⚠ セーフティ・ノート

- ▷ エアバッグ装着車でも**シートベルトを必ず締めてください**。軽度な衝撃や角度によっては、エアバッグが作動しない場合もあるので非常に危険です。
- ▷ 運転席と助手席の間あるいは乗員とエアバッグの間に幼児を座らせたり、ペット、その他の品物を置かないようにしてください。事故の時、致命的な怪我をする恐れがあります。
- ▷ ステアリングは必ず外側のリムを持つようにしてください。
- ▷ 効果的にエアバッグが作動するには、一定の空間が必要です。運転席と助手席に座わる人は、座わる位置に気をつけてください。サイド・エアバッグやヘッド・エアバッグの装備されている車はドアに寄り掛からないでください。
- ▷ 運転中、足はつねに足下の空間に置いてください。足をダッシュボードやシートに置かないでください。
- ▷ ドアの小物入れの扉は常に閉じ、中身がはみ出ないようにしてください。
- ▷ 安全のため、重たい荷物を助手席や助手席の前側に置かないでください。
- ▷ 同乗者の方にもこのページの内容をよく理解してもらってください。
- ▷ エアバッグ・システムに故障が生じた場合、必ずポルシェ正規販売店にご相談してください。
- ▷ エアバッグは再使用不可のためエアバッグが作動した後は、直ちにポルシェ正規販売店で点検または交換を受けてください。
- ▷ エアバッグ配線や構成部品は変更を加えないでください。
- ▷ ステアリングや助手席側のエアバッグ、側部エアバッグ、ヘッド・エアバッグ付近には、ステッカーなどを貼付けたり、内装を変更しないでください。
- ▷ エアバッグ・ワイヤ・ハーネス付近に追加アクセサリのケーブルを通さないでください。
- ▷ エアバッグ構成部品（ステアリング・ホイール、フロント・シート、ドアの内張りなど）は、取外さないでください。
- ▷ お車を売却される場合は、この車がエアバッグ装着車であることを次の購入者に知らせた上で、取扱説明書の「エアバッグ・システム」のページを読むことを薦めてください。
- ▷ 機能点検は、規定された間隔でポルシェ正規販売店で行ってください。
- ▷ チャイルド・シートを取り付ける場合は、「チャイルド・シート」（39ページ）を参照してください。

機能

エアバッグは、シートベルトと併用することで、衝突時の乗員の負傷を最小限に抑えるように設計されています。

前方または横方向に衝撃を受けた場合、衝撃角度によってエアバッグが作動し、乗員の受ける衝撃を吸収し、頭部や上半身を守ります。

運転席側の**フロント・エアバッグ**はステアリングのパッドの中にあり、助手席側はダッシュボードの中にあります。
フロント・シートの**側部エアバッグ**はシート・バック・レストの横にあります。
ヘッド・エアバッグは左右のドア・ライニング内にあります。

それぞれのエアバッグは衝突の角度および衝撃力に応じて作動します。

フロント・エアバッグは膨張後、わずかに視界が妨げられますが、すぐに収縮します。また、エアバッグ膨張時の作動音は事故の雑音によってかき消されます。

警告灯および警告メッセージ

少しでも異常がある場合は、タコメータの警告灯およびマルチ・ファンクション・ディスプレイに警告メッセージが表示されます。

▷ 「インストルメント・クラスタおよびオンボードコンピュータ上の警告」（104ページ）を参照してください。

▷ 次のような場合は、ポルシェ正規販売店で直ちに不具合を修理してください。

— イグニッション・キーをイグニッション・ロックに差込んでも警告灯が点灯しない場合**または、**

— エンジン始動後に警告灯が消灯しない場合**または、**

— エアバッグ警告灯が走行中に点灯した場合

助手席エアバッグOFF警告灯

▷ 「助手席エアバッグの作動／作動解除」（42ページ）を参照してください。

⚠ 警 告

エアバッグOFFスイッチをOFFにし、イグニッション・スイッチをONにした時に、助手席エアバッグOFF警告灯が点灯しなかった場合、助手席エアバッグにより重傷または致命傷を負う恐れがあります。

▷ 助手席エアバッグOFF警告灯が点灯しなかった場合は、助手席にチャイルド・シートを取付けないでください。

▷ 直ちに故障を修理してください。

チャイルド・シートを取外した後に助手席エアバッグを作動解除したままにしておくと、乗員が重傷または致命傷を負う恐れがあります。

▷ チャイルド・シートを取外した後は、必ず助手席エアバッグを再作動させてください。

処分について

未点火のガス発生器や車両、あるいはエアバッグ・ユニットなどは、通常のスクラップやごみと同じように処分することはできないため、エアバッグ関連部品の処理は全てポルシェ正規販売店にお任せください。

処分に関する詳しい情報については、ポルシェ正規販売店にお問い合わせください。

ロールオーバー・プロテクション・システム

カブリオレには、車が横転したときや厳しい条件下で運転されたときのためにロールオーバー・プロテクション・システムがリア・シート後方に装備されています。
必要に応じて、シートベルト・テンショナも作動します。

▷ 「シートベルト・テンショナ」（36ページ）を参照してください。

厳しい条件下での運転とは

— 車体が上下または左右に大きく傾く運転（車体が横転または前転の危険がある場合）

— 車体が上下に大きく揺れる運転（凸凹道など）

ロールオーバー・プロテクション・システムは 2 つのロールオーバー・バーが作動し、ロールオーバー・バーとフロント・ウィンドウのフレームにより、乗員の頭部を保護できるスペースを確保するシステムです。

⚠ 警 告

コンバーチブル・トップとロールオーバー・バーを損傷する恐れがあります。

▷ ロールオーバー・バーが出ているときに、コンバーチブル・トップの開閉をしないでください。

⚠ セーフティ・ノート

▷ ロールオーバー・バー周辺部には、作動の支障となる物を置かないでください。

▷ ロールオーバー・プロテクション・システムの配線や部品を改造しないでください。

▷ ロールオーバー・プロテクション・システムの修理はポルシェ正規販売店で行ってください。

ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店で実施される事を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

▷ 決められた期間ごとに、システムの点検をポルシェ正規販売店で行ってください。

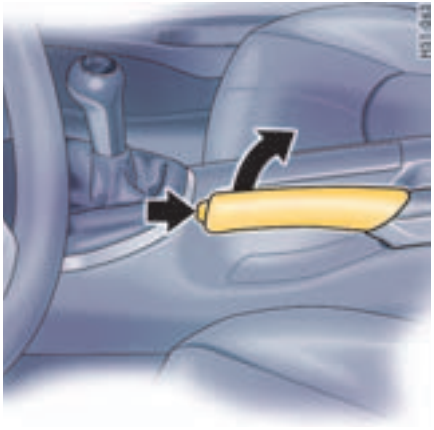
警告メッセージ

オンボードコンピュータの警告メッセージが表示された場合は、システムが故障していて、ロールオーバー・バーが作動しない恐れがあります。

▷ ポルシェ正規販売店で直ちに修理を行ってください。

ロールオーバー・バーの格納

ロールオーバー・バーの格納作業はポルシェ正規販売店で行ってください。
ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店で実施される事を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。



パーキング・ブレーキ

パーキング・ブレーキは後輪を固定して、駐車時に車が移動しないようにします。

パーキング・ブレーキをかける

▷ パーキング・ブレーキのレバーを引き上げてください。

パーキング・ブレーキを解除する

▷ レバーを少し引き上げ、ロック・ボタンを押しながら元の位置に下ろしてください。

警告灯

インストルメント・パネル上およびオンボードコンピュータのパーキング・ブレーキ警告灯は、パーキング・ブレーキをかけると点灯し、パーキング・ブレーキが完全に解除されると消灯します。

▷ 「インストルメント・クラスタおよびオンボードコンピュータ上の警告」（104ページ）を参照してください。

フット・ブレーキ

⚠ セーフティ・ノート

▷ ブレーキ・ペダルをマットなどで妨げないようにしてください。

ブレーキ・ブースタは、エンジンがかかっているときにのみ作動します。エンジンがかかっていなかったり、ブレーキ・ブースタの圧力が下がっている場合は、ペダルを踏むときにかなり強い力が必要になります。

▷ 「けん引およびけん引による始動」（239ページ）を参照してください。

雨天時や水浸しになった道路を走行しているとき、または洗車後は、ブレーキの効きが通常よりも悪くなり、さらに強くペダルを踏まなければならない場合があります。

▷ 従って、車間距離をいつもより長めにとってください。ブレーキを乾燥させるために、定期的にブレーキをかけてください。このとき、後続車の邪魔にならないように気を付けてください。

凍結防止の塩がまかれた道路や砂粒の多い道路を長距離にわたって走行すると、ブレーキ・ディスクやパッドが塩や砂で覆われて摩擦係数が減少し、ブレーキの効きが大変悪くなる場合があります。

▷ ブレーキ・ディスクとブレーキ・パッドを強力なジェット水流で2週間おきに洗浄してください。自動洗車機での洗車では十分に洗浄することができません。ブレーキ・ディスクが錆びないように、ブレーキを乾燥させてから駐車してください。（ポルシェ・セラミック・コンポジット・ブレーキ非装着車の場合）

▷ ブレーキ・ディスクはねずみ鋳鉄合金製ですが、長期間にわたり車両を駐車したまま放置した場合、腐食は避けられません。その結果、ブレーキが引きずった状態になります。
腐食の性質、範囲、影響は駐車していた時間、凍結防止の塩が撒かれていたか、洗車時に油脂剤が使用されたかなどにより変わります。（ポルシェ・セラミック・コンポジット・ブレーキ非装着車の場合）
ブレーキ時に気になるほどの不快感がある場合は、ポルシェ正規販売店にてブレーキ・システムの点検をしてください。ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店で実施される事を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

▷ 下り坂を走行するときはタイミング良くギヤを落し、エンジン・ブレーキを利用することによって、ブレーキの摩耗が少なくなります。長い下り坂でエンジン・ブレーキの効果が十分に得られない場合は、間隔をおいてブレーキ・ペダルを踏んでください。ブレーキ・ペダルを連続して踏みつづけると、ブレーキが過熱して効きが悪くなります。

▷ 「ブレーキ液レベル」（180ページ）を参照してください。

ブレーキ・パッドおよびブレーキ・ディスク

ブレーキ・パッドおよびブレーキ・ディスクの摩耗は、主に走行状態と使用状態に応じて異なるため、実際の走行距離には依存されません。
ブレーキ・システムは、全ての速度に最適なブレーキ力を与えるように構成されています。したがって、速度やブレーキング力、周囲の条件（温度、湿度）によって、ブレーキから音が出るかもしれません。

警告灯

ブレーキ・パッドが摩耗限度に達すると、インストルメント・クラスタ内のブレーキ・パッド摩耗警告灯が点灯し、オンボードコンピュータの警告が表示します。

▷ 「インストルメント・クラスタおよびオンボードコンピュータ上の警告」（104ページ）を参照してください。

▷ 警告灯が点灯したら、直ちにポルシェ正規販売店でブレーキ・パッドを交換してください。ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店で実施される事を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

ブレーキ・テスト

ブレーキ・テストは、プレート・タイプのテスト・ベンチまたは、ローラー・ブレーキ・テスタだけを使用してください。
ローラー・ブレーキ・テスタを使用する場合は、次の条件を守ってください。：

— 測定速度　8km/h以下

— 測定時間　20秒以内

ローラー・ブレーキ・テスタで、**パーキング・ブレーキの点検、測定**をするときは、イグニッション・スイッチをOFFにして行ってください。

ABS

(アンチロック・ブレーキ・システム)

⚠ セーフティ・ノート

ABSが装備されていても、路面状況、天候、周囲の交通の状況に応じた責任のある運転を心掛けてください。
ABSにより安全性は向上しますが、けっして無謀な運転から事故を防ぐためのものではありません。ABSが作動しても、物理的限界を超えて車両をコントロールすることはできません。
ABSは危険なスピードによる事故のリスクを減らすことはできません。

ABSの特徴として

安定したステアリング・コントロール

— あらゆる路面状況下で安定したステアリング・コントロールが得られます。

すぐれた走行安定性

— ホイール・ロックによる横滑りがなくなりすぐれた走行安定性が得られます。

最短の制動距離

— 多くの場合、制動開始から停止までの距離が短くなります。

ホイール・ロックなし

— そのため、フラット・スポットが生じません。

機能

ABSが最もその効果を発揮するのは、コーナリング時に危険回避のためどうしても急ブレーキが必要な状況のときです。このような状況下でもABSは、車両の方向性を保ち、安定した操舵性を確保します。

ABSが装着されていても、道路、天候条件、交通状況に応じた責任ある運転をこころがけてください。

ホイールのロック点付近でブレーキをかけたとき（急ブレーキ時）にABSは作動し始めます。
このときドライバーは、ABSのコントロール状況（大変小刻みなポンピング・ブレーキをかけるような状態）をブレーキ・ペダルの脈動とノイズから感じ取ることができます。この脈動やノイズは、ドライバーが道路状況に対してスピードを調整する警告の役目をします。

(ABS) 警告灯

エンジン作動中もABS警告灯が点灯し、オンボードコンピュータに警告が表示された場合、何らかの不具合によりABSの作動が停止していることを示します。
このような場合には、ABSが装備されていない車両と同じように運転してください。

▷ 予期せぬ悪影響をおよぼす不具合が発生するのを防止するため、直ちにポルシェ正規販売店でABSシステムの点検を受けてください。

▷ ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店で実施される事を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

ABSコントロール・ユニットは、認可された正規のタイヤ径に合わせてプログラム調整されています。認可されていないタイヤを使用すると、プログラム値と異なったホイール回転スピードを検出させることになり、ABSの作動が停止します。

スポーツ・モード

スポーツ・モードをONにすると、よりスポーティーな走行が可能となります。ポルシェ・コントロール・システムと連動し、小回りの効く、運転性能の高い走りを可能とします。

- PASM（ポルシェ・アクティブ・サスペンション・マネージメント）は自動的にスポーツ・モードに変わり、サスペンションはハードな設定となります。
- ティプトロニックSはスポーティーなシフト特性に切替わり、ギヤ・シフト時間が短くなります。ギヤ変更は素早く実施されます。
- PSM（ポルシェ・スタビリティ・マネージメント）コントロールは走行がスポーティーになります。PSMの作動はノーマル・モードより遅めになります。ドライバーは緊急時のPSMの介入を無効にすることなく、性能限界値ぎりぎりで車をより機敏に操ることができます。
- 電子アクセル・ペダルのレスポンスが向上し、エンジンはスロットル操作に対して細かく反応できます。この機能は、スポーツ・モードをONにして、アクセル・ペダルを踏み込んで放すだけで作動させることができます。
- 回転数リミッターの特性は「ハード」になります。すなわち、エンジンが性能限界値に到達するとすぐにスロットルが反応します。（ティプトロニックS装着車ではマニュアル・モードのみ）

▷ 本書の該当する章を参照してください。

スポーツ・モードのON／OFF

▷ センター・コンソールのSPORTボタンを押します。

スポーツ・モードをONにすると、SPORTボタンのインジケータ・ランプが点灯します。

スポーツ・モードをONにすると、デジタル・スピードメーターの横にSPORTのロゴが表示されます。

スポーツ・モードのON／OFF切替えに応じて、PASMのスポーツ・モードも作動／停止します。

PASMスイッチを押して、PASMスポーツ・モードにした場合は、PASMが作動したままになります。

イグニッション・スイッチをOFFにすると、スポーツ・モードは自動的にノーマル・モードにリセットされます。

ポルシェ・スタビリティ・マネージメント（PSM）

PSMは車が限界の条件下で運転されたときの補助装置です。

⚠ セーフティ・ノート

PSMが装備されていても、路面状況、天候、周囲の交通の状況に応じた責任のある運転を心掛けてください。
PSMにより安全性は向上しますが、けっして無謀な運転から事故を防ぐためのものではありません。PSMが作動しても、物理的限界を超えて車両をコントロールすることはできません。
PSMは危険なスピードによる事故のリスクを減らすことはできません。

PSMの特徴として

- 変化に富んだ路面状況、運転状況においても最適な車両安定性を確保します。
- コーナリング中のドライバーがアクセル・ペダルやブレーキ・ペダルなどを放したときに起こるトラクションの損失を補います。
- PSMは車線変更や、急なステアリング操作、連続したカーブなどの運転状況におけるアンダーステアまたはオーバーステアから車両安定性を確保します。
- コーナリング時や、変化に富んだ路面状況下でのブレーキ時の車両安定性を確保します。
- 急ブレーキ時の制動力を高め、制動距離を短くします（カレラ4、カレラ4S）。

作動準備

PSMはエンジンを始動する度に作動可能な状態になります。

機能

タイヤ、ブレーキ、ステアリング・システムおよびエンジンに取付けられたセンサが下記の点をモニタしています。

- 走行速度
- 車両進行方向（ステアリング角度）
- 横方向の加速度
- ヨー・モーメント

PSMは各センサの値から運転者の望む車両進行方向を割り出します。その後PSMは運転者の望む方向と実際の車両進行方向をステアリング・ギヤから割り出し、必要に応じて、個々のタイヤを制動します。必要と判断された場合、PSMはエンジンの出力も変化させます。

以下の状態のときにPSMが作動すると点灯し、運転者に路面状況に応じた運転をこころがけるよう警告しています。

- インストルメント・クラスタの警告灯が点灯します。
- 油圧作動音が聞こえます。
- PSMのブレーキ制御にともない、ハンドルの抵抗が変化し、車が減速します。
- エンジン出力が低下します。
- PSMが作動しているときに、ブレーキをかけるとブレーキ・ペダルから脈動を感じることができ、ブレーキ・ペダルの位置が変化します。このとき、ブレーキ・ペダルをさらに踏み込むことでより強い制動力を確保することができます。

PSM作動の例

- コーナリング時、フロントのタイヤが滑りはじめるのをセンサが感知すると、カーブ内側のリア・タイヤにブレーキをかけ、さらに必要に応じてエンジン出力を抑制して、軌道を修正します。
- コーナリング時、リアのタイヤが滑りはじめるのをセンサが感知すると、カーブ外側のフロント・タイヤにブレーキをかけ、軌道を修正します。

4輪駆動車のブレーキ追加機能（カレラ4、カレラ4S）

- ブレーキの予圧：

  アクセル・ペダルから素早く足を放すと、急ブレーキに備えてブレーキ・システムの圧力を少し高め、ブレーキ・パッドがブレーキ・ディスクに軽く押付けられます。
- ブレーキ・アシスト：

  急ブレーキ時、ブレーキ・ペダルの踏力が不足していると、自動的にブレーキ圧を高めて4輪すべてに最大の制動力をかけます。

通常走行する場合はPSMを作動させてください。

次の場合にはPSMをOFFにすることをお薦め致します。

- 軟らかい路面や深い雪道を走行するとき
- ぬかるみなどからの脱出時
- スノー・チェーンを使用するとき

PSMの解除

▷ PSM OFFボタンを押します。

しばらくするとPSMが解除され、PSM OFFボタンのインジケータ・ランプが点灯します。

PSMを解除すると、インストルメント・パネルのマルチファンクションPSMライトが点灯し、オンボードコンピュータにメッセージが表示され、警告音も鳴ります。

4輪駆動車

PSMを解除すると、ブレーキ追加機能も解除されて、急ブレーキ時の予圧やブレーキ・アシストが作動しません。

以下の機能により、緊急時にPSMを解除していても車両が安定します。

- PSMを解除すると、前輪のどちらかがABSのコントロール範囲に入ると同時に車両は安定します。
- PSMを解除し、スポーツ・モードをONにすると、両方の前輪がABSのコントロール範囲に入ると同時に車両は安定します。

PSMが解除されているときでも、**片方の駆動輪がスピンする**のを防止します。

PSMを再びONにするには

▷ PSM OFFボタンを押します。

しばらくするとPSMが作動し、PSM OFFボタンのインジケータ・ランプおよびマルチファンクションPSMライトが消灯します。

オンボードコンピュータにメッセージが表示されます。

スポーツ・モード

スポーツ・モードをONにすると、よりスポーティーな走行を可能とします。PSMの介入はノーマル・モードより遅めになります。ドライバーは性能限界値で車をより機敏に操ることができ、緊急時にPSMの補助を無効にする必要がありません。これにより、特にレース場や乾いた路面での最適なラップ・タイムが実現します。

マルチファンクションPSMランプ

- イグニッション・スイッチをONにすると、ランプの断線チェックのためにランプが点灯します。
- PSMが作動していることを示します。PSMが解除されているときでも、片方の駆動輪がスピンした場合にブレーキ制御した場合は点灯します。
- スイッチのインジケータ・ランプと同時に、PSMがOFFになっていることを示し、警告音が鳴ります。
- PSMに不具合が発生した場合は、警告灯が点灯し、オンボードコンピュータの警告が表示されます。

  PSMが故障したときは直ちにポルシェ正規販売店にて点検を受けてください。

▷ ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店で実施される事を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

▷ 「車の保管」（220ページ）を参照してください。

PSM車をけん引する場合

▷ 「けん引およびけん引による始動」（239ページ）を参照してください。

ブレーキ・テスタで計測するとき

ブレーキ・テストは、プレート・タイプのテスト・ベンチまたは、ローラー・ブレーキ・テスタだけを使用してください。
ローラー・ブレーキ・テスタを使用する場合は、次の条件を守ってください。：

- 測定速度　8km/h以下
- 測定時間　20秒以内

ローラー・ブレーキ・テスタで、**パーキング・ブレーキの点検、測定**をするときは、イグニッション・スイッチをOFFにして行ってください。

ポルシェ・アクティブ・サスペンション・マネージメント（PASM）

PASMにより、「ノーマル」と「スポーツ」の2種類のランニング・ギヤ設定ができます。

ランニング・ギヤ設定の選択はセンター・コンソールのボタンで行います。

ノーマル・モードでは、ランニング・ギヤはスポーティーで快適な設定となります。

スポーツ・モードでは、ショック・アブソーバーの調整が非常にスポーティーなものになります。（例：レース場での走行など）

可変サスペンション・システムにより、状況および走行状態に応じて、各タイヤの適切なダンピング・レベルが選択されます。

例：
ノーマル・モードで非常にスポーティーな走行をすると、この場合も同様に、PASMは自動的にショック・アブソーバーの挙動を走行状況に合わせて調整します。

PASMスポーツ・モードの作動

▷ センター・コンソールのPASMボタンを押します。
PASMスポーツ・モードをONにすると、PASMボタンのインジケータ・ランプが点灯し、オンボードコンピュータにメッセージが表示されます。

PASMスポーツ・モードの解除

▷ センター・コンソールのPASMボタンを押します。
PASMボタンのインジケータ・ランプが消灯し、オンボードコンピュータにメッセージが表示されます。

イグニッション・スイッチをOFFにすると、PASMが自動的にノーマル・モードに戻ります。

格納式スポイラ

スポイラは空気抵抗を低減し、特に高速走行時にリア・アクスルのリフトを防止します。

⚠ 警 告

リア・スポイラが上昇しない場合は、リア・アクスルが浮き気味になるために走行安定性が妨げられて事故を起こす恐れがあります。

▷ この状態を配慮し、控えめの速度で運転してください。

▷ 故障した場合はポルシェ正規販売店で修理を行ってください。ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店で実施される事を推奨いたします。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

車を停車させてスポイラを上昇させたり、格納する場合は、スポイラに身体の一部や物が挟まれて怪我をする恐れがあります。

▷ リア・スポイラが稼動する範囲に人や物がないことを十分に確認してください。

スポイラを押し込むと車両が破損する恐れがあります。

▷ スポイラを無理に押し込まないようにしてください。

自動モード

スポイラの自動上昇／格納はさまざまな周囲条件（走行速度、エンジン・ルーム内の温度など）によって変わります。

エンジン・ルーム内の温度が55℃以下の場合
スポイラが120km/hで上昇し、60km/hで格納します。

エンジン・ルーム内の温度が60℃以上の場合
スポイラが80km/hで上昇し、30km/hで格納します。

自動制御が故障した場合には、オンボードコンピュータに警告メッセージが表示されます。

手動コントロール

スポイラは、イグニッション・スイッチをONにしてセンター・コンソールにあるスイッチを使用すると、手動で上昇および格納することができます。

上昇：

▷ スイッチを短く押してください。スポイラは完全に上昇します。

ボタンのインジケータ・ランプが点灯します。

手動で上昇させたスポイラの格納

▷ **車速0～30km/h**
スポイラが格納位置にくるまでスイッチを押し続けます。
スイッチのインジケータ・ランプが消灯し、スポイラは自動モードに変わります。

▷ **車速30～100km/h**
スイッチを軽く押します。
スポイラは格納され、インジケータ・ボタンのランプは消灯します。
スポイラは自動モードに変わります。

▷ **車速100km/hを超える**
スイッチを軽く押します。
スポイラは上昇したままで、スイッチのインジケータ・ランプは消灯します。
スポイラは自動モードに変わります。

パーキング・エイド

パーキング・アシスタント

お車にはギヤをリバースに入れると超音波により障害物との距離を警告音でお知らせするパーキング・アシスタントが装備されています。

⚠ 注 意

パーキング・アシスタントはあくまでも補助的な物のため後退時には細心の注意を払ってください。

▷ 駐車範囲に人、動物、障害物がないか十分に確認してください。

パーキング・アシスタントはイグニッション・スイッチがONのときトランス・ミッションのギヤをリバースに入れると自動的に働きます。

知識：

坂道などでギヤをリバースに入れずに後退したときは作動しません。

超音波センサ

センサ

リア・バンパーには超音波センサが4つ付いており、バンパーに一番近い障害物に対し反応します。

センサ反応距離

― 内側のセンサ	150cm以内
― 外側のセンサ	60cm以内

センサは地表近くの障害物などは死角となるため、反応することが出来ません。

▷ センサに汚れがあると感度が鈍くなるため雪、氷または泥などの汚れは取除いてください。

▷ 擦ったり、引っかいてセンサを傷つけないように注意してください。

▷ センサ故障の原因となる恐れがあるため、スチーム・洗浄機などを使用するときは一定の距離をあけて使用してください。

警告音および機能

ギヤをリバースに入れると**警告音が短く鳴り**パーキング・アシスタントが作動開始したことを知らせます。

障害物との距離が近付くと**警告音が断続的に鳴り**距離が近付いていることを運転者に知らせます。

障害物との距離が約30cm以下になると**警告音が連続的に鳴ります**が、最接近すると警告音は鳴りやみます。

▷ また、警告音が聞こえるよう、ラジオのボリュームは下げてください。

超音波センサの限界

▷ 粉雪など超音波をしゃ断する物があるとき。

▷ ウィンドウや塗装面など超音波を反射する物があるとき。

▷ 細い物があるとき。

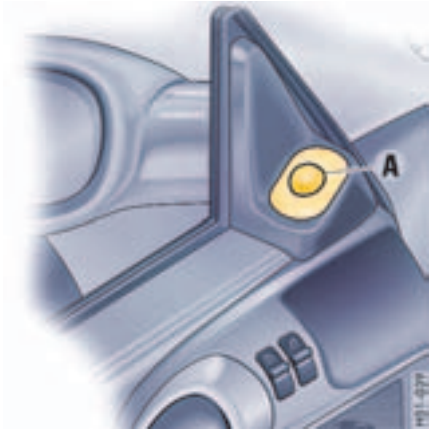
近くでトラックなどがエア・ブレーキを使用すると超音波が乱され警告音が鳴ることがあります。

センサが正常に働かないとき

— ギヤをリバースに入れた後、警告音が鳴り、その後同じピッチで警告音が鳴りつづいたときはセンサが汚れているか、氷または雪が付着しています。

— ギヤをリバースに入れた後、警告音が鳴り、その後に遅いピッチで警告音が鳴りつづいたときはシステムに不具合があります。

▷ ポルシェ正規販売店で点検を受けてください。ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店で実施される事を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。



A - ドア・ミラー調整*コントロール・スイッチ*

駐車時のドア・ミラーの自動調整（パーキング・エイド）

▷ 「シート・メモリー」（30ページ）を参照してください。

後退時にリバース・ギヤを選択すると、**助手席側**ドア・ミラーが自動的に下向きになり、助手席側の後方下部の縁石などが確認しやすくなります。

作動条件

— 車両にはシート・メモリーが装着されている。

— コントロール・スイッチ**A**が「助手席側ミラー設定」になっている。

— ギヤがリバースに入っている。

ミラーを元の位置に戻す

▷ 車速6km/h以上で前進させます。

または

▷ コントロール・スイッチ**A**を「運転席側ミラー設定」にします。

4輪駆動

4輪駆動車は、タイヤのグリップ力や走行状態に応じて、エンジンの動力をフロント・アクスルとリア・アクスルに分散します。
フロント・アクスルとリア・アクスルの駆動力配分には、マルチ・ディスクのビスカス・カップリング・クラッチを使用します。

フロント・アクスルとリア・アクスルに伝達する駆動力の大きさは、それぞれのアクスル回転数によって決定されます。またビスカス・カップリング・クラッチは、フロント・アクスルに常時駆動力を配分（約5%～40%）しており、路面のコンディションが悪いときでも直進安定性を確保します。

4輪駆動システムは、ポルシェ・スタビリティ・マネージメント (PSM) との組み合わせにより、卓越したハンドリング性能と走行安定性を実現します。

⚠ セーフティ・ノート

4輪駆動システムが装備されていても、路面状況、天候、周囲の交通状況に応じた責任のある運転を心掛けてください。

4輪駆動システムにより安全性は向上しますが、けっして無謀な運転から事故を防ぐためのものではありません。4輪駆動システムを装備していても、物理的限界を超えて車両をコントロールすることはできません。

4輪駆動システムは、危険なスピードによる事故のリスクを減らすことはできません。

テスト・ベンチでの点検

パワー測定

ポルシェ社は、テスト・ベンチでのパワー測定を承認していません。

ブレーキ・テスト

ブレーキ・テストは、プレート・タイプのテスト・ベンチまたは、ローラー・ブレーキ・テスタだけを使用してください。

ローラー・ブレーキ・テスタを使用する場合は、次の条件を守ってください。：
- 測定速度　8 km/h以下
- 測定時間　20秒以内

パーキング・ブレーキ点検

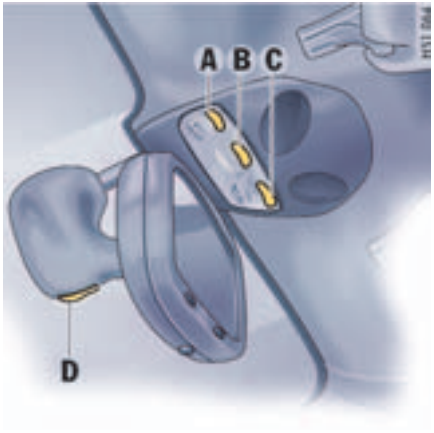
ローラー・ブレーキ・テスタでパーキング・ブレーキの作動点検を行うときは、必ずイグニッション・スイッチをOFFにしてください。

ホイールの車上でのバランス取り

ホイールを装着したままバランス取りを行うときは、4輪すべてのタイヤが地面から離れるまで、車両を持ち上げてください。

けん引

⇒「けん引およびけん引による始動」（239ページ）を参照してください。



A, C - *運転席/助手席の読書灯用スイッチ*
B - *オリエンテーション・ランプおよびフットウェル・ランプ・スイッチ*
D - *オリエンテーション・ランプ*

ルーム・ランプ

▷ 「2時間後または7日後の作動停止」（215ページ）を参照してください。

自動防眩ミラー装着車の場合

▷ ルーム・ランプを点灯させる場合は、自動防眩ミラーをOFFにしてください。ミラーが光を感知して、暗くなる恐れがあります。

ルーム・ランプ、読書灯

常時OFF

▷ スイッチの左半分を押してください。

常時ON

▷ スイッチの右半分を押してください。

ドア開閉時の自動ON/OFF

▷ スイッチを中央位置にしてください。

ドアをロック解除したとき、開いたとき、イグニッション・キーを抜いたときにルーム・ランプとフットウェル・ランプが**点灯**します。

ドアを閉じた後、約2分でルーム・ランプは消灯します。イグニッションをONにするか、キーを使ってロックした場合は、すぐに**消灯**します。

オリエンテーション・ランプ

ドアとルーム・ランプにはオリエンテーション･ランプがついており、車内が暗いときに装備類の位置をわかりやすくします。

知識：

スポーツ・クロノ・パッケージ・プラス装着車の場合は、PCMでオリエンテーション・ランプの明るさを調節できます。＊

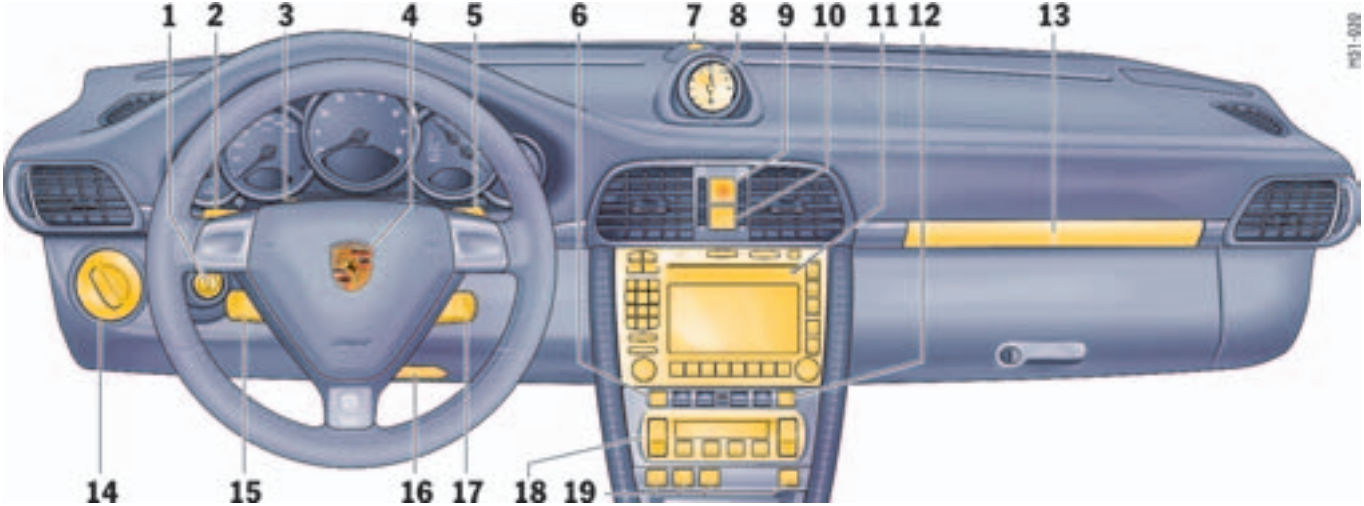
▷ PCM取扱説明書の「個別メモリー」を参照してください。＊

＊日本仕様に設定はありません。

インストルメント・パネル

1 *イグニッション・ロック／ステアリング・ロック*
2 *方向指示器／ハイビーム／パッシング・レバー*
3 *ハンドフリー・マイクロフォン*
4 *ホーン*
5 *フロント・ワイパー／ウォッシャ・レバー、リア・ワイパー*
6 *シート・ヒーター・スイッチ（左側）*
7 *室温センサ／GPSアンテナ＊*
8 *ストップウォッチ*
9 *ハザード・ランプ・スイッチ*
10 *セントラル・ロッキング・ボタン、警報システム用ディスプレイ*
11 *ポルシェ・コミュニケーション・マネージメント（PCM）＊*
12 *シート・ヒーター・ボタン（右側）*
13 *カップ・ホルダ*
14 *ランプ・スイッチ*
15 *オンボードコンピュータ用操作レバー*
16 *ステアリング調節用レバー*
17 *クルーズ・コントロール用操作レバー*
18 *エアコン用操作パネル*
19 *各スイッチ：スポイラ、ポルシェ・アクティブ・サスペンション・マネージメント（PASM）、スポーツ・モード、ポルシェ・スタビリティ・マネージメント（PSM）*

＊日本仕様に設定はありません。


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19

0 - *初期位置*
1 - *イグニッションON*
2 - *エンジン始動*
3 -*イグニッションOFF*

イグニッション・ロック／ステアリング・ロック

イグニッション・ロックには全部で4個のイグニッション・ロック位置があります。車両キーは各イグニッション・ロック位置から初期位置に戻ります。

イグニッション・ロック位置0

初期位置

イグニッションON位置にする、またはエンジン始動すると、イグニッション・キーは抜取れなくなります。

イグニッション・キーを抜取るには：

▷ 車両を停止します。

▷ **ティプトロニックS装着車：**

セレクタ・レバーを**P**位置にシフトします。

▷ イグニッションをOFFにします。

▷ イグニッション・キーを抜取ります。

イグニッション・ロック位置1

イグニッションON

▷ イグニッション・キーを**1**位置に回すと、イグニッションがONになります。

知識：

すべてのアクセサリを作動可能になります。

▷ 「インストルメント・クラスタおよびオンボードコンピュータ上の警告」（104ページ）を参照してください。

イグニッション・ロック位置2

エンジン始動

▷ イグニッション・キーをイグニッション・ロック位置**2**に回します。

▷ 「エンジンの始動と停止」（66ページ）を参照してください。

イグニッション・ロック位置3

イグニッションOFF

▷ イグニッション・キーをイグニッション・ロック位置**3**に回します。

ステアリング・コラム・ロック

オートマチック・ロック

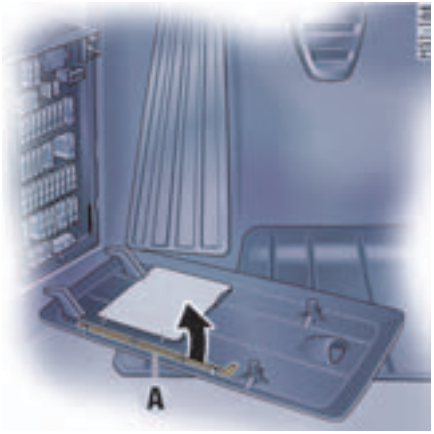
イグニッション・キーをイグニッション・ロックから抜取ると、ステアリングは自動的にロックされます。

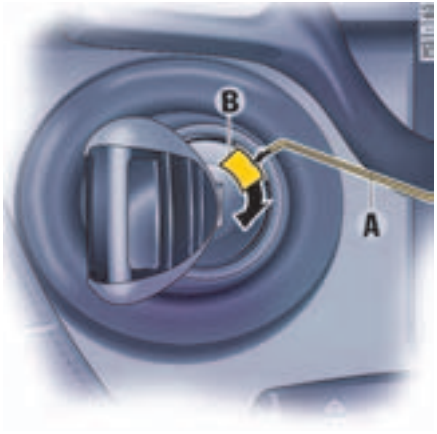
▷ **イグニッション・キーは車両が停止している場合にのみ抜取ってください。走行中に抜取ると、ステアリング・ロックがかかり車両がコントロールできなくなります。**

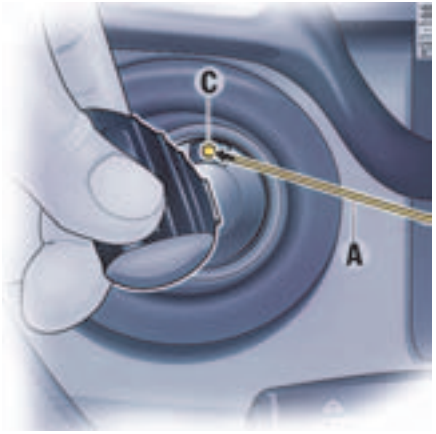
▷ お車から離れる場合は必ず**イグニッション・キーを抜取ってください。**

オートマチック・ロック解除

イグニッション・キーをイグニッション・ロックに差込むと、ステアリングは自動的にロック解除されます。







緊急操作ーイグニッション・キーの抜取り

車両のバッテリが上がった場合等、緊急操作を実行すると、イグニッション・ロックからキーを抜取ることができます。

1. ヒューズ・ボックス・カバーを取外します。
2. ヒューズ・ボックス・カバーの内側にあるメタル・フック**A**を取外します。
3. メタル・フック**A**を使用して、イグニッション・ロックからプラスチック・カバー**B**を取外します。

   取外したプラスチック・カバー**B**は紛失しないように十分注意してください。
4. イグニッション・キーを反時計方向に回します。
5. イジェクト・ホール**C**にメタル・フック**A**を解除音が聞こえるまで押込みます。
6. イグニッション・キーをロック位置**0**に回し、キーを抜取ります。
7. プラスチック・カバー**B**を取付けます。

エンジンの始動と停止

▷ 「イモビライザー」(14ページ) を参照してください。

▷ 「エミッション・コントロール・システム」(182ページ) を参照してください。

⚠ 警 告

排気ガスは少量ですが有毒な無色無臭の一酸化炭素を含んでいます。

▷ 換気の悪い場所では、エンジンを始動し長時間のアイドリングをしないでください。

排気システムは高温になり、引火する恐れがあります。

▷ 可燃物（乾燥した草や枯れ葉など）がある場所には、絶対に駐車しないでください。引火する恐れがあります。

エンジンの始動

▷ フット・ブレーキを踏んでください。

▷ クラッチ・ペダルを一杯に踏込んでください。

▷ シフト・レバーをニュートラルまたはセレクタ・レバーを**"P"**または**"N"**の位置にします。

▷ 電子制御部品が、ガソリンと空気の混合状態を最適に調整しているので、エンジン始動時はアクセル・ペダルを踏まないようにしてください。

▷ スターターを10秒以上は回さないでください。エンジンがかからない場合は、10秒程度、間をおいてから再始動させてください。スターターを再度回す場合は、キーをいったん**3**の位置まで戻してください。

スターターの作動はエンジンがかかると自動的に終了します。
エンジンが始動せず、再始動した場合は、スターターの作動は自動的に停止しません。

▷ 停車時に暖機運転を行わないでください。
エンジンが通常の作動温度になるまでスロットル操作を控えにし、エンジン回転数を上げないように注意してください。

バッテリが上がった場合は、ブースター・ケーブルを使用してジャンプ・スタートしてください。マニュアル・トランスミッションの場合は押しがけでエンジンをかけることもできます。

▷ 「ジャンパー・ケーブルによる始動」(223ページ) を参照してください。

▷ イグニッション・スイッチをONにしているときや、エンジン回転数が低いとき（渋滞時など）は、バッテリ上がりを防止し、エンジンの始動性を確保するためにも、不要なアクセサリの電源を切ってください。

エンジンの停止

▷ イグニッションをOFFにするときは、必ず車両を停止してください。イグニッションをOFFにすると、ステアリング・アシストおよびブレーキ・ブーストが効かなくなります。

▷ イグニッション・キーを抜くときは、必ず車両が静止させてください。イグニッション・キーを抜取るとステアリング・ロックがかかり、ステアリング操作ができなくなります。

▷ 車両から離れる場合は、**必ず**イグニッション・キーを抜取り、パーキング・ブレーキをかけてください。

知識：

バッテリ上がり防止のためにも、長期間エンジンを停止する場合はキーを抜いてください。

▷ 「2時間後または7日後の作動停止」（215ページ）を参照してください。

エンジン・ルーム・ブロワ、ラジエータ・ファン

ラジエータとラジエータ・ファンは、車両前方に取付けられています。
エンジン・ルーム・ブロワは、エンジン・ルーム・リッドに取付けられています。

⚠ 警 告

エンジンをOFFにしてからも、コントロール・ユニットが約30分間、エンジン・ルームとクーラントの温度をモニターします。この間は、温度に応じてファンが作動しつづけたり、作動し始めますので怪我に注意してください。

▷ ラジエータ・ファンの近くで作業を行うときはエンジンおよびイグニッションをOFFにして、手や髪を挟まれないようにしてください。致命的な怪我をする恐れがあります。

車両前方のラジエータ・ファンはエンジン作動中は作動しているか、不意に作動し始めますので怪我に注意してください。

▷ ラジエータ・ファンまたはエンジン・ルーム・ブロワの近くで作業を行うときはエンジンおよびイグニッションをOFFにして、手や髪を挟まれないようにしてください。致命的な怪我をする恐れがあります。

インストルメント・クラスタ

各インジケータ・ランプについての情報は、取扱説明書の関連の章を参照してください。

1 *油温計ディスプレイ*
2 *アナログ・スピードメータ*
3 *タイヤ空気圧警告灯*
4 *左方向指示灯インジケータ・ランプ*
5 *タコメータ*
6 *ハイビーム・インジケータ・ランプ*
7 *右方向指示灯インジケータ・ランプ*
8 *ABS警告灯*
9 *クーリング・システム*
水温計、警告灯
10 *燃料計、警告灯*
11 *油圧計*
12 *計器照明およびトリップ・コンピュータ用調整ボタン*
13 *走行距離計およびトリップ・カウンタ・ディスプレイ*
14 *クルーズ・コントロール作動表示灯*
15 *計器照明用ライト・センサ*
16 *エアバッグ警告灯*
17 *エミッション・コントロール警告灯*
(チェック・エンジン)
18 *全般的な警告灯*
19 *オンボードコンピュータ・ディスプレイ*
20 *ポルシェ・スタビリティ・マネージメント*
マルチファンクションPSMライト
21 *パーキング・ブレーキ警告灯*
22 *シートベルト警告灯*
23 *ティプトロニック・インジケータ*
24 *時計および外気温ディスプレイ*
25 *時計調整ボタン*

イグニッションがONのとき、ランプの機能チェックのために警告灯が点灯します。

知識：
警告灯が点灯した原因はコントロール・ユニットのメモリー内に記憶されます。
その情報は、後にポルシェ正規販売店で読み取ることができます。
また、この情報により効率の良い修理作業が可能になります。

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25

油温計

油温計は左側メータに表示されます。

A - *計器照明およびトリップ・メータ調節ボタン*

クルーズ・コントロール・インジケータ・ランプ

このインジケータ・ランプが点灯すると、クルーズ・コントロールがセットされていることを示します。

計器照明

照明は、タコメータ内のランプ・センサが周囲の明るさを感知して自動的に調節されます。

さらに、車のランプをONにすると、計器とスイッチの明るさは手動で調節できます。

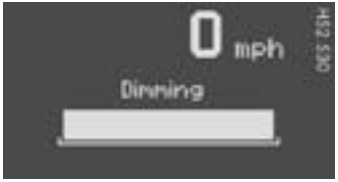
⚠ 警 告

運転中に明るさを調整すると車両のコントロールを失い、事故を起こす恐れがあります。

▷ 運転中にステアリングのスポークの間からボタンを操作しないでください。

知識：

車のランプをONにすると、周囲の明るさを感知して、調節ボタンの照明が自動的に点灯／消灯します。



計器照明の調節

▷ 調節ボタン**A**を好みの明るさになるまで回します。
インジケータがオンボードコンピュータに表示されます。

トリップ・メータ

⚠ 警 告

運転中にトリップ・メータを操作すると、車両のコントロールを失い、事故を起こす恐れがあります。

▷ 運転中にステアリングのスポークの間からボタンを押さないでください。

リセット方法

▷ 調節ボタン**A**を約1秒間押します。
または

▷ オンボードコンピュータの“SET”メニューで距離をリセットすることができます。

▷ 「オンボードコンピュータ（BC）」（80ページ）を参照してください。

9999kmを超えると0に戻ります。

スピードメータ

デジタル・スピードメータはオンボードコンピュータ・ディスプレイ内にあります。表示切替えボタンを回すとkm表示かmls表示に切替えることができます。

表示の切替え（km/mls）

走行距離および速度表示の単位もオンボードコンピュータの“SET”メニューで変更することができます。

▷ 「オンボードコンピュータの基本設定」（102ページ）を参照してください。

タコメータ

タコメータの表示が目盛りのレッド・ゾーンにあるとき、エンジン回転数が許容範囲を超えていることを示しています。
加速中にレッド・ゾーンに達すると、エンジンを保護するために燃料がカットされます。シフトダウン時は、エンジン回転限界を超えないように注意してください。

方向指示灯インジケータ・ランプ

インジケータ・ランプは方向指示灯と同じ一定の速度で点滅します。

左向きの矢印―左方向指示灯のインジケータ・ランプ
右向きの矢印―右方向指示灯のインジケータ・ランプ

インジケータ・ランプの点滅速度が普段より速い場合は、方向指示灯に異常がないか点検してください。

ハイビーム・インジケータ・ランプ

ハイビームに切替えたり、パッシングすると、ハイビーム・インジケータ・ランプが点灯します。

クーリング・システム

▷ クーリング・システムに不具合が発生した場合は、直ちに最寄りのポルシェ正規販売店で修理を行ってください。ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店で実施される事を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

水温計（イグニッションON）

左を指しているときは、エンジンは暖まっていません。

▷ このときはエンジン回転数を控え目にして、負荷をかけないでください。

中央を指しているときは、エンジンは通常作動温度です。
気温が高いときにエンジンに強い負荷をかけるとレッド・ゾーンを示すことがあります。

警告灯 A

クーラントの温度が高くなり過ぎると、**警告灯が点灯します**。
また、オンボードコンピュータにも警告が表示されます。

▷ イグニッションをOFFにして、エンジンを冷やしてください。

▷ ラジエータと車前方の通気口に異物がないか点検してください。

▷ クーラント・レベルを点検してください。必要に応じて、クーラントを補充してください。

▷ ポルシェ正規販売店で修理を行ってください。

▷ 「クーラント・レベル」（177ページ）を参照してください。

知識：
過熱を防ぐために、通気口をフィルムやストーン・ガードなどで塞がないでください。
クーラント・レベルが低くなると、**警告灯が点滅します**。また、オンボードコンピュータにも警告が表示されます。

▷ イグニッションをOFFにして、エンジンを冷やしてください。

▷ クーラントを補充してください。

▷ ポルシェ正規販売店で修理を行ってください。

▷ 「クーラント・レベル」（177ページ）を参照してください。

⚠ 注 意

エンジンを損傷する恐れがあります。

▷ 走行中に警告灯が点滅したら、安全な場所に停車してください。

▷ 最寄りのポルシェ正規販売店で修理を行ってください。

エンジン・ルーム・ブロワ

エンジン・ルーム・ブロワが故障した場合も同じ**警告灯が点滅します**。また、オンボードコンピュータにも警告が表示されます。

▷ 故障は、ポルシェ正規販売店で修理してください。

ティプトロニックS
セレクタ・レバー・ポジション・インジケータおよびギヤ・ポジション・インジケータ

イグニション・スイッチをONにすると、現在のセレクタ・レバーまたはギヤの位置が点灯表示されます。

セレクタ・レバーが2つのギヤの間にある場合：

— インストルメント・クラスタのセレクタ・レバー・ポジションが消灯します。

かつ

— オンボードコンピュータに“Selector lever not engaged”と警告が表示されます。

▷ セレクタ・レバーを正しい位置に動かします。

トランスミッションに故障が発生した場合：

— インストルメント・クラスタの**4速ギヤ**が点滅します。

— オンボードコンピュータに“Tiptronic emergency run”と警告が表示されます。

▷ 「走行制限プログラム」（148ページ）を参照してください。

▷ ポルシェ正規販売店で直ちに故障の修理を受けてください。

ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店で実施される事を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

▷ 「ティプトロニックS」（143ページ）もご覧ください。

燃料計

イグニッション・スイッチをONにすると、燃料の残量が表示されます。

▷ 「容量」(250ページ) を参照してください。

上り坂や下り坂などで車が傾くと、表示がわずかに変化することがあります。

知識：

タンクがほとんど空でほんの少しだけ燃料を補給した場合、この量はレベル・ゲージで表示されず、燃料残量の算出範囲に入りません。

警告灯 A

燃料タンクの残りが10リットルより少ない場合や、燃料残量による走行可能距離が約50kmより少ない場合は、**エンジンを始動すると警告灯が点灯します**。またオンボードコンピュータの警告灯も点灯します。

▷ 警告灯が点灯したら、最も近い給油所で給油してください。

⚠ 注 意

燃料が少ないまま走行すると、エミッション・コントロール・システムを損傷する恐れがあります。

▷ 燃料が完全になくなるまで走行をつづけないでください。

▷ 警告灯が点灯した場合は、カーブを曲がるときにスピードを出さないでください。

▷ 「エミッション・コントロール・システム」(182ページ) を参照してください。

警告灯が点滅を始めた場合や、オンボードコンピュータに警告が表示された場合は、システムに不具合が発生しており、残量を表示することができません。

▷ ポルシェ正規販売店で修理を受けてください。

ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店で実施される事を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

A - *時刻合わせ用ボタン*
B - *時計*
C - *外気温ディスプレイ*

時計

イグニッションをOFFにしてから約4分後、または車両をロックすると、時刻表示が消えます。

時刻合わせ

⚠ 警 告

走行時に時間設定を行うと、車両のコントロールを失い、事故を起こす恐れがあります。

▷ 運転中は絶対にステアリングのスポークの間から時刻セットを行わないでください。

時間セット

▷ 時刻合わせ用ボタン**A**を約1秒間押すと、時間表示が点滅を始めます。

▷ ボタンを回して時間を合わせます。
右に回すと、時間が進みます。
左に回すと、時間が戻ります。
ボタンを短く回すと、表示が1つずつ変化します。

回したまま保持すると、表示が連続して変化し、すばやく時間が合わせられます。

分セット

▷ 時刻合わせ用ボタン**A**をもう一度押すと、分表示が点滅を始めます。

▷ 時間のときと同じようにボタンを回して分を合わせます。

時刻合わせの終了

時刻合わせモードは1分後に自動的に終了します。**または**

▷ 時刻合わせ用ボタンをもう一度押しても終了できます。

このときボタンを押したまま保持しておいて、0秒のときにボタンを放すと、時刻が秒単位まで正確になります。

知識：
時間モードは、オンボードコンピュータで12hと24hに変えられることができます。

外気温

外気温表示**C**は凍結警告表示ではありません。
外気温が0℃以上を表示している場合でも、特に橋の上や道路の日陰部分は凍結している場合があります。

エンジン・オイル（油圧）計

エンジンが暖まり、5000rpmで回転するときには、エンジン・オイルの圧力は約3.5bar以上になります。

エンジン作動中または運転中に突然、オイルの圧力が低下し、オンボードコンピュータに警告が表示された場合には、

- ▷ 直ちに適切な場所に車を止めてください。
- ▷ エンジンを切ってください。
- ▷ オイルの量を点検してください。「オンボードコンピュータ（BC）」（80ページ）を参照してください。「エンジン・オイル・レベル」（179ページ）を参照してください。
- ▷ 必要に応じてオイルを補充してください。

⚠ 注 意

エンジンを損傷する恐れがあります。

- ▷ オイルの量が適正にもかかわらず警告灯が点灯する場合は、運転をつづけないでください。
- ▷ 最寄りのポルシェ正規販売店で故障の修理を受けてください。ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店で実施される事を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

バッテリ／オルタネータ

バッテリーの電圧が落ちた場合、オンボードコンピュータに警告メッセージが表示されます。

エンジンがかかった後も点灯したままだったり、走行中に点灯した場合

- ▷ 直ちに安全な場所に停車して、エンジンを停止してください。

考えられる原因

- — 充電システムの故障
- — ドライブ・ベルトの不具合

⚠ 警 告

ドライブ・ベルトに不具合があると、パワー・ステアリングが作動せずステアリングが重たくなったり、エンジン冷却が行われず、事故の可能性やエンジンが故障する恐れがあります。

- ▷ 走行をつづけないでください。
- ▷ 故障は最寄りのポルシェ正規販売店で修理してください。
- ▷ ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店で実施される事を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

全般的な警告灯

“INFO”メニューに警告メッセージが表示されると、インストルメント・パネルに警告灯が点灯します。
メッセージはオンボードコンピュータの“INFO”メニューに呼び出すことができます。
▷ 「“INFO”警告メッセージ」（84ページ）を参照してください。

ブレーキ警告灯

以下の場合に、インストルメント・パネルの警告灯が点灯します。
- パーキング・ブレーキをかけたとき
- ブレーキ・オイル・レベルが低いとき
- ブレーキ・パッドが摩耗限界に到達したとき
- ブレーキ回路に不具合が起きたとき

さらに、オンボードコンピュータに警告が表示されます。
▷ 「インストルメント・クラスタおよびオンボードコンピュータ上の警告」（104ページ）を参照してください。

エミッション・コントロール

警告灯

エミッション・コントロール・システムは排気に関連する構成部品の故障、例えば、排気中の有害物質の増加や重大な損傷を引き起こすような状態をできるだけ早期に発見します。

故障は警告灯の点灯または点滅やオンボードコンピュータによって表示され、コントロール・ユニットの故障メモリー内に記憶されます。

警告灯は、イグニッションをONにするとバルブ切れチェックのために点灯し、エンジンがかかると約4秒後に消灯します。

走行中に警告灯が点滅した場合やオンボードコンピュータに警告が表示された場合は、エミッション・コントロール・システムの部品に損傷をあたえる作動状態（失火など）にあることを示しています。

▷ この場合、直ちにアクセル・ペダルから足を放し、エンジンにかかる負荷を下げてください。

危険域の範囲を外れると、警告灯は点灯しつづけます。

エンジンまたはエミッション・コントロール・システム（触媒コンバータなど）の重大な損傷を避けるために：

▷ スピードを落とし、直ちに最寄りのポルシェ正規販売店で故障診断または修理を受けてください。
ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店で実施される事を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

⚠ 注 意

エンジンにかかる負荷を下げても警告灯が点滅をつづける場合は、エミッション・コントロール・システムがオーバー・ヒートしてる可能性があり、損傷する恐れがあります。

▷ 車両を直ちに安全な場所に停車してください。

乾燥した草や落葉などの引火性の高い物がある場所には、駐車したりエンジンを始動させないでください。高温の排気系に接触して発火する恐れがあります。

▷ エンジンを停止させてください。

▷ 最寄りのポルシェ正規販売店で修理してください。

オンボードコンピュータ

ディスプレイ

オンボードコンピュータはタコメータの下にあります。

操作前の準備

— イグニッション・スイッチをONにします。
— エンジンを始動させます。

操作手順

取扱説明書にはオンボードコンピュータの詳細をすべて記載することはできません。しかし、例を挙げて説明してありますので、主な機能についてはご理解いただけると思います。また、メニューも作業しやすいように工夫されています。

“SET”メニューを使用すると、お好きなときに初期設定値に戻すことができます。

作動レバー

オンボードコンピュータの作動レバーはステアリング・コラムの左下にあります。

オンボードコンピュータの選択機能

▷ レバーを上**3**または下**4**に倒します。

選択の確認（Enter）

▷ レバーを前方**1**に倒します。

前の選択への復帰

▷ レバーを手前**2**にご希望の選択に戻るまで倒します。

または

▷ オンボードコンピュータ・ディスプレイ上でこの矢印 ↰ を選択し、作動レバーを前方**1**に倒します。

知識：
作動レバーを繰り返し倒すことにより、いつでも基本メニューに戻ることができます。

機能およびディスプレイ

A - *デジタル・スピードメータ*
B - *中央ディスプレイ*
C - *下部ディスプレイ*

知識：
オンボードコンピュータの項目およびディスプレイは車両の装備仕様により異なります。そのため、ここで示されている項目やディスプレイの中にはお客様のオンボードコンピュータにはないものが含まれている可能性があります。

基本設定

— 中央ディスプレイ：.....ラジオ局

オンボードコンピュータの中央ディスプレイ**B**は**“SET”**メニューで選択できます。

ディスプレイC上でのオンボードコンピュータ機能の表示

▷ 作動レバーを上または下に押します。（選択領域**D**はOFFのこと。）

— 外気温（℃）
— 平均車速（ϕ mph）
— 平均燃料消費量（ϕ mpg）
— 走行可能距離（mls）
— タイヤ空気圧＊
— ナビゲーション情報＊（“SET”メニューで作動する場合）

上記は連続して呼び出すことができます。

知識：
「平均車速」、「平均燃料消費量」、「トリップ走行距離」の値は“SET”メニューでリセットできます。

選択領域DのON/OFF

▷ 作動レバーを前方または手前に倒します。

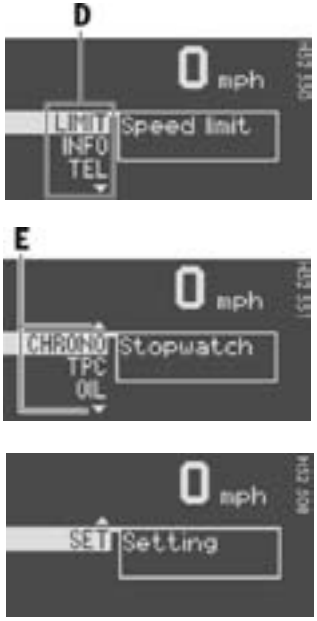
続きを表示する矢印E

下向き矢印：

▷ 作動レバーを下げると、追加メニューの続きが表示されます。

上向き矢印：

▷ 作動レバーを上げると、追加メニューの続きが表示されます。



D - *選択領域*
E - *続きを表示する矢印*

＊日本仕様に設定はありません。

“LIMIT”
速度超過に対する警告音

警告音は10km/h（6mph）を超える設定速度に対して作動します。
設定速度を超過すると警告音が鳴ります。
その後、設定速度から5km/h（3mph）以上減速した場合にのみ、再度警告音が有効になります。

選択領域D、ON

▷ 作動レバーを前方に倒します。

車速の設定

▷ 作動レバーを使用して“LIMIT”を選択します。

▷ 作動レバーを前方に倒します。

オプション1：
現在車速の受入れ

▷ 作動レバーを前方に倒します。

現在車速に対し警告音が作動します。
表示：■

オプション2：
車速の事前設定

▷ 作動レバーを使用して、“LIMIT active”を選択します。

☐ 非作動

■ 作動

▷ 表示が“not active”を示した場合、作動レバーを前方に倒します。

▷ 作動レバーを使用して、“xx mph”を選択します。

▷ 作動レバーを前方に倒してください。

▷ ご希望の車速になるまで、繰り返し作動レバーを軽く上下に動かします。
上：速度を上げる
下：速度を下げる

知識：
作動レバーを上または下にしばらく押したままにすると、速度が10km/h（6mph）刻みに調整されます。

▷ 作動レバーを前方に倒します。

警告音OFF

▷ 作動レバーを使用して、“LIMIT active”を選択します。

▷ 作動レバーを前方に倒します。

表示：☐

“INFO”
警告メッセージ

選択領域D、ON

▷ 作動レバーを前方に倒します。

警告メッセージの呼び出し

▷ 作動レバーを使用して、“INFO”を選択します。

▷ 作動レバーを前方に倒します。

警告メッセージがある場合は、作動レバーを使用して呼び出すことができます。
走行中に表示された警告メッセージを呼び出すこともできます（このメッセージは次にイグニッション・スイッチをONにしたときに消去されます）。

▷ 作動レバーを前方に倒します。

▷ 作動レバーを前方または手前に倒します。
“INFO”のメニュー画面に戻ります。

“TEL” *

テレフォン・インフォメーション

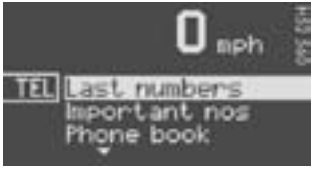
選択領域D、ON

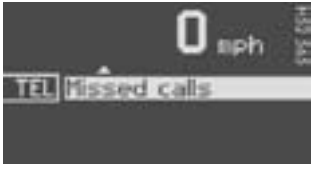
▷ 作動レバーを前方に押します。

テレフォン・インフォメーションの表示

▷ 作動レバーを使用して、“TEL”を選択します。

▷ 作動レバーを前方に押します。





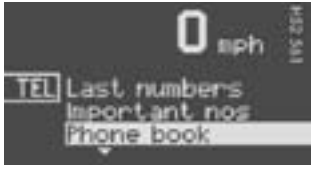
知識：

“Missed calls”メニューで着信履歴を呼び出すことができます。

例：

アドレス帳から選択して電話をかける

▷ 作動レバーを使用して、“Phone book”を選択します。



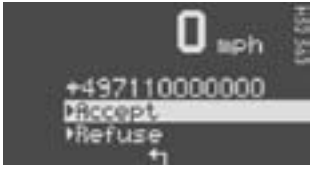
▷ 作動レバーを前方に押します。

▷ 電話をかける相手を選択し、作動レバーを前方に押します。

電話の呼び出しが始まります。

▷ 作動レバーを前方に押して電話を切ります。

着信



▷ “Accept”または“Refuse”を選択し、作動レバーを前方に押します。

知識：

拒否した電話は“Missed calls”メニューで呼び出すことができます。

＊日本仕様に設定はありません。

CHRONO

ストップウォッチ

ストップウォッチはレース場や業務上の走行時等の時間計測にご使用いただけます。ポルシェ・コミュニケーション・マネージメント（PCM）＊装着車では測定したラップ時間を保存したり、必要に応じて評価することができます。

▷ PCM取扱説明書の「スポーツ・ディスプレイ」を参照してください。

インストルメント・パネル上のストップウォッチ

ストップウォッチにはアナログ・ディスプレイとデジタル・ディスプレイがあります。
アナログ・ディスプレイの長針は秒を計測します。短針2本は時間と分を計測します。ディスプレイは12時間表示となっています。
秒および百分の一秒の単位はデジタル・ディスプレイで読み取ることができます。
デジタル・ディスプレイおよびオンボードコンピュータのディスプレイは99時間、59分まで表示できます。

ストップウォッチは左右両方に向きを調節することができます。

ストップウォッチ・ディスプレイ：

— インストルメント・パネル上のストップウォッチ
— オンボードコンピュータの“CHRONO”メニュー
— PCMのパフォーマンス・ディスプレイ

ストップウォッチの開始／停止

すべてのストップウォッチ・ディスプレイはオンボードコンピュータの“CHRONO”メニューから開始／停止できます。

知識：

ストップウォッチ作動中に“CHRONO”メニューから抜けても、計測は続きます。

ストップウォッチはイグニッションをOFFにすると停止します。4分以内にイグニッションを再度ONにすると、ストップウォッチは作動を再開します。

ストップウォッチをゼロにリセットするには、“CHRONO”メニューの“Reset”を選択します。

＊日本仕様に設定はありません。

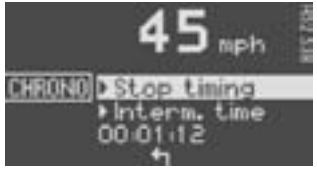
計時開始

▷ 作動レバーを前方に倒します。
選択領域が表示されます。

▷ 作動レバーを使用して、“CHRONO”を選択します。

▷ 作動レバーを前方に倒します。

▷ 作動レバーを前方に倒します。
すべてのストップウォッチ・ディスプレイに計測時間が表示されます。オンボードコンピュータ・ディスプレイは“Stop timing/Intermediate time”選択領域に変わります。



PCM情報＊

ポルシェ・コミュニケーション・マネージメント（PCM）のデータを分析するには、“Trip/Sport display/Begin trip”メニューのパフォーマンス・ディスプレイを選択する必要があります。

計時の停止

計時を開始すると、オンボードコンピュータ・ディスプレイは“Stop timing/Intermediate time”選択領域に変わります。

▷ 作動レバーを使用して、“Stop timing”を選択します。

▷ 作動レバーを前方に倒します。
すべてのストップウォッチ・ディスプレイの計測時間が停止します。オンボードコンピュータ・ディスプレイは“Continue/Reset”選択領域に変わります。

計時を続行するか、ゼロにリセットするか選択できます。

PCM情報＊

計時が終了すると、PCMディスプレイで計時結果を保存するか尋ねてきます。

＊日本仕様に設定はありません。

計時の継続

計時が停止すると、オンボードコンピュータ・ディスプレイは“Continue/Reset”選択領域に変わります。

▷ 作動レバーを前方に倒します。

ストップウォッチ・ディスプレイの計測表示が再開します。

オンボードコンピュータ・ディスプレイは“Stop timing/Intermediate time”選択領域に変わります。ストップウォッチを止めることも、途中経過を測定することもできます。

時間のリセット

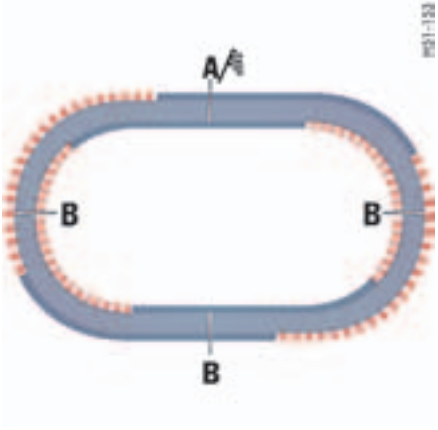
計時が停止すると、オンボードコンピュータ・ディスプレイは“Continue/Reset”選択領域に変わります。

▷ 作動レバーを使用して、“Reset”を選択します。

▷ 作動レバーを前方に倒します。

ディスプレイは“Start timing”選択領域に戻ります。

インストルメント・パネルのストップウォッチ・ディスプレイとオンボードコンピュータのディスプレイがゼロにリセットされます。

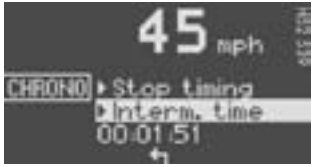


A - ラップ
B - *途中経過*

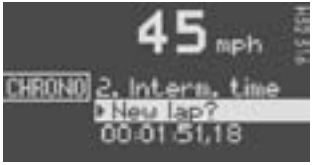
途中経過の表示

レース場でのルートごと、ラップごとの途中経過をいくつか表示することができます。途中経過**B**は参考情報です。
ポルシェ・コミュニケーション・マネージメント（PCM）＊装着車では測定したラップ時間**A**を保存したり、必要に応じて評価することができます。

途中経過を表示させる：
計時を開始すると、オンボードコンピュータ・ディスプレイは“Stop timing/Intermediate time”選択領域に変わります。



▷ 作動レバーを使用して、“Intermediate time”を選択し、作動レバーを前方に倒します。

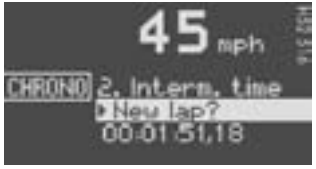


途中経過が約5秒間表示されます。
その後、オンボードコンピュータ・ディスプレイは“Stop timing/Intermediate time”選択領域に戻ります。

▷ ストップウォッチを止めることも、もう一度途中経過を測定することもできます。

＊日本仕様に設定はありません。

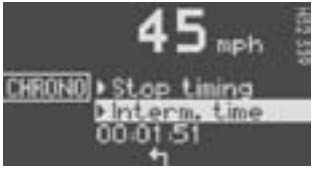
新しいラップの計時を開始するには：
“Intermediate time”を選択すると、“New lap?”選択領域が5秒間表示されます。



▷ 作動レバーを使用して、“New lap?”を選択し、作動レバーを前方に倒します。

新しいラップがオンボードコンピュータおよびPCM＊に表示されます。オンボードコンピュータおよびPCM＊の計測時間はゼロに戻ります。インストルメント・パネルのストップウォッチは合計時間表示を継続します。

▷ しばらくして、オンボードコンピュータ・ディスプレイは“Stop timing/Intermediate time”選択領域に戻ります。



▷ ストップウォッチを止めることも、もう一度途中経過または新しいラップを測定することもできます。

PCM情報＊
ポルシェ・コミュニケーション・マネージメント（PCM）＊にラップ時間を保存したい場合は、PCM＊の“Trip/Sport display/Begin trip”メニューのパフォーマンス・ディスプレイを選択する必要があります。

＊日本仕様に設定はありません。

“TPC”

タイヤ空気圧モニタリング･システム＊

タイヤ空気圧モニタリング・システムは継続的に4輪のタイヤの空気圧およびタイヤ温度を監視し、空気圧が低下した場合にドライバに警告を発します。

タイヤ空気圧の表示、タイヤ空気圧モニタリング・システムの設定はオンボードコンピュータで行います。

タイヤ空気圧モニタリング・システムは監視を行うのみで、空気圧を調整することはできません。タイヤ空気圧の調整は別途行ってください。

▷ タイヤ空気圧モニタリング・システムはタイヤの空気圧を監視しますが、空気圧を正しく維持することができるのはドライバ自身であることを心掛けてください。

タイヤ空気圧モニタリング・システムには、以下の機能があります。

— 走行中のタイヤ空気圧を表示

— 補充が必要なタイヤ空気圧を表示

— 装着されているタイヤ・サイズおよびタイヤの種類を表示

— 2段階のタイヤ空気圧警告

⚠ セーフティ・ノート

タイヤ空気圧モニタリング・システムが装着されていても、タイヤ空気圧を正規に保つことや、必要に応じてシステムの設定を変更することはドライバの責任です。

タイヤ空気圧が正規でない場合、安全な走行に支障をきたしたり、タイヤやホイールを損傷する恐れがあります。

▷ パンクの警告が表示された場合には、速やかに適切な場所に停車させ、タイヤの損傷を点検してください。必要に応じて、タイヤ・シーラントで補修してください。

▷ 空気漏れが発生しているタイヤで走行を続けることは避けてください。

▷ タイヤ・シーラントは緊急時の場合のみ使用してください。最大許容速度は**80km/h**です。

▷ タイヤ空気圧調整後、短時間で再び空気圧が低下する場合は使用を中止し、ポルシェ正規販売店で点検を受けてください。

▷ 不具合の発生したタイヤは、ポルシェ正規販売店で交換してください。

どのような場合でも、タイヤを修理して使用することは承認されていません。

▷ タイヤ空気圧モニタリング・システムに不具合が発生した場合（ホイール・トランスミッタの故障など）、直ちにポルシェ正規販売店で修理を受けてください。このとき、タイヤ空気圧は監視されません。

▷ タイヤ空気圧を調整する場合、タイヤ・プレッシャ・メニューの“Info pressure（タイヤ空気圧情報）”の表示、または個々のタイヤ空気圧警告の数値のみを使用してください。

▷ パンク等の不具合が発生していなくとも、タイヤ空気圧は徐々に低下します。この場合も、タイヤ空気圧が低下するとオンボードコンピュータに警告が表示されます。早目にタイヤ空気圧を調整してください。

▷ タイヤ空気圧モニタリング・システムは空気圧の自然低下だけでなく、異物などにより空気圧が徐々に低下した場合も警告を発します。

ただし、突然のパンク等には警告を発することができません。

＊日本仕様に設定はありません。

オンボードコンピュータのタイヤ空気圧表示機能

オンボードコンピュータのタイヤ空気圧画面では、タイヤ温度によって変化する実際のタイヤ空気圧が表示されます。
走行によって、上昇したタイヤ温度に伴う空気圧の変化を確認することができます。
この画面は情報表示のみに使用します。

▷ いかなる場合も、この画面に表示される空気圧を変更することはできません。

オンボードコンピュータのタイヤ空気圧画面を表示させる

▷ タイヤ空気圧画面が表示されるまで、作動レバーを押し下げる、または押し上げます。

（選択領域**D**が**スイッチOFF**のこと）

タイヤ空気圧メニューの空気圧情報

物理原則に従い、空気圧は温度の変化に応じて変動します。
タイヤ空気圧は10℃の温度変化につき、約0.1bar増加、または減少します。
タイヤ空気圧モニタリング・システムはこのタイヤ空気圧と温度の関係を考慮して演算します。
この画面の表示により、空気圧の調整が必要なタイヤを判断することができます。

空気圧の低下が表示されたタイヤの空気圧を調整してください。
例：“－0.1bar”が表示された場合、空気圧0.1barを補充する必要があります。

知識：

タイヤ空気圧メニューは停車時のみに表示させることができます。

“Info pressure（空気圧情報）”を表示させる

▷ 選択領域**D**がONになるように、作動レバーを前方に押します。

▷ 作動レバーで“TPC（タイヤ空気圧モニタリング・システム）”を選択します。

▷ 作動レバーを前方に押します。

“Tyre pressure menu（タイヤ空気圧メニュー）”が表示されます。

▷ 作動レバーで“Info pressure（空気圧情報）”を選択します。

▷ 作動レバーを前方に押します。

知識：

イグニッション・スイッチをONにしてから、全てのタイヤの空気圧が表示されるまで約1分間かかる場合があります。その間はタイヤ空気圧の代わりにダッシュ記号（“-.-”）が表示されます。

タイヤ空気圧メニューのタイヤ情報

装着しているタイヤに関して、以下の情報を表示します：

- タイヤ・タイプ：
  サマー・タイヤ、ウィンター・タイヤ
- タイヤ・サイズ：
  18インチ、19インチ

“Info tyres（タイヤ情報）”により現在装着しているタイヤの設定が表示されます。

“Info tyres（タイヤ情報）”を表示させる

▷ 選択領域**D**がONになるように、作動レバーを前方に倒します。

▷ 作動レバーで“TPC（タイヤ空気圧モニタリング・システム）”を選択します。

▷ 作動レバーを前方に倒します。
“Tyre pressure menu（タイヤ空気メニュー）”が表示されます。

▷ 作動レバーで“Info tyres（タイヤ情報）”を選択します。

▷ 作動レバーを前方に倒します。

“SET（設定）”メニューによるタイヤ選択

▷ 選択領域**D**がONになるように、作動レバーを前方に倒します。

▷ 作動レバーで“TPC（タイヤ空気圧モニタリング・システム）”を選択します。

▷ 作動レバーを前方に倒します。
“Tyre pressure menu（タイヤ空気メニュー）”が表示されます。

▷ 作動レバーで“SET（設定）”を選択します。

▷ 作動レバーを前方に倒します。

▷ ご希望のタイヤ・タイプ（サマー・タイヤ／ウィンター・タイヤ）を選択します。

▷ 作動レバーを前方に倒します。
選択したタイヤ・タイプを確認する画面が表示されます。

▷▷▷

▷ “Continue（続き）”を選択し、作動レバーを前方に倒します。

▷ 適切なタイヤ・サイズ（18インチ／19インチ）を選択し、作動レバーを前方に倒します。
選択したタイヤ・サイズを確認する画面が表示されます。

知識：
このメニューは、複数のタイヤ・サイズが選択可能な場合に限り、表示されます。

▷ “Continue（続き）”を選択し、作動レバーを前方に倒します。

タイヤ特性の設定は、オンボードコンピュータに"Process complete（設定完了）"のメッセージが表示された場合にのみ正常終了しています。

▷ 矢印（黒色）を選択し、作動レバーを前方に倒します。“Tyre pressure menu（タイヤ空気メニュー）”に戻ります。
オンボードコンピュータには“System learning（システム登録）”のメッセージが表示されます。

知識：
設定プロセスが中断された場合には“Process aborted（プロセス中断）”のメッセージが表示されます。この時点までの入力情報は全て失われ、元の設定が有効になります。
設定終了時に、“Process complete（設定完了）”のメッセージが表示された場合にのみ、タイヤ空気圧モニタリング・システムはタイヤの再登録を行います。
▷ 「“System learning（システム登録）”」（97ページ）を参照してください。

オンボードコンピュータに登録されていないサイズのタイヤに交換する場合には、事前にオンボードコンピュータに不足情報を追加する必要があります。

▷ ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店で実施される事を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

▷ ポルシェ社が承認したタイヤのみをご使用ください。

タイヤ空気圧メニューの項目は車両の装備仕様により異なります。そのため、ここで示されている項目やディスプレイの中にはお客様のオンボードコンピュータにはないものが含まれている可能性があります。

積載重量

(装備仕様によって異なります)

▷ 選択領域**D**がONになるように、作動レバーを前方に倒します。

▷ 作動レバーで“TPC（タイヤ空気圧モニタリング・システム)”を選択します。

▷ 作動レバーを前方に倒します。“Tyre pressure menu（タイヤ空気メニュー)”が表示されます。

▷ 作動レバーで“Load（積載重量)”を選択します。

▷ “partial load（部分積載)”または“Full load（全積載)”を選択し、作動レバーを前方に倒します。

▷ 「冷間タイヤのタイヤ空気圧」(249ページ）を参照してください。

▷ タイヤ空気圧がオンボードコンピュータの設定に一致していることを確認してください。必要に応じて、空気圧を調整してください。

タイヤ空気圧の警告

タイヤ空気圧モニタリング・システムは、空気圧低下の程度に応じて、2段階に分けて警告します。

ステージ1ーAdd air（空気圧の補充）
（0.2～0.4barの空気圧が低下）

ステージ2ーFlat tyre（タイヤがパンクしている）
（タイヤ空気圧が0.4bar以上低下）

ステージ1ーAdd air（空気圧の補充）

タイヤ空気圧が0.2～0.4bar低下しました。タイヤ空気圧が正規でない場合、安全な走行に支障をきたしたり、タイヤやホイールを損傷する恐れがあります。

▷ タイヤ空気圧警告は空気圧の低下したタイヤを判別し、補充が必要な空気圧と共に表示します。

早目に空気圧を調整してください。

この警告は停車時に表示されるため、安全に確認することができます。
タイヤ空気圧が調整されると、インストルメント・クラスタの警告灯は消灯します。

ステージ2ーFlat tyre（タイヤがパンクしています）

0.4bar以上の重大な空気圧の低下が検知されました。安全な走行に支障をきたします。

▷ この警告がオンボードコンピュータに表示された場合には、速やかに適切な場所に停車させ、タイヤの損傷を点検してください。必要に応じて、リペア・キットで補修してください。

この警告は走行時に表示されます。
タイヤ空気圧が調整されると、インストルメント・クラスタの警告灯は消灯します。

システム登録

タイヤ空気圧モニタリング・システムは、タイヤ交換後、ホイール・トランスミッタの交換後、またはタイヤ設定の更新後にタイヤの“learn（登録）”を開始します。このプロセス中にタイヤ空気圧モニタリング・システムは個々のタイヤ・タイプおよび装着位置を識別します。オンボードコンピュータ・ディスプレイには“TPC inactive - system learning（TPC非作動ーシステム登録）”のメッセージが表示されます。

タイヤ空気圧モニタリング・システムがタイヤの登録をするには一定の時間が必要です。この間、オンボードコンピュータに現在のタイヤ空気圧は表示されません。

- オンボードコンピュータのタイヤ空気圧機能表示は数段に分かれています。
- 20℃時の冷間タイヤ規定空気圧はタイヤ空気圧メニューの“Info pressure（タイヤ空気圧情報）”画面に表示されます。
- タイヤ空気圧の警告は、車両のタイヤが識別され、タイヤ空気圧警告灯が消灯するとタイヤ空気圧および位置情報（図参照）を伴わずに表示されます。

タイヤ空気圧および位置情報は、タイヤ空気圧モニタリング・システムが車両に適していると識別したタイヤを正しいタイヤ位置に割り当てると直ちに表示されます。
車両を運転すると、タイヤ登録プロセスは単独で実行されます。

▷ 全てのタイヤの空気圧を手作業で点検し、空気圧を規定値に調整します。

ホイール交換およびタイヤの交換

▷ 新品のホイールには、タイヤ空気圧モニタリング・システム用に無線トランスミッタを取付ける必要があります。タイヤを交換する前に、ホイール・トランスミッタの電池充電状態を点検してください。
ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店で実施される事を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

▷ タイヤ交換時には必ずイグニッション・スイッチをOFFにしてください。

ホイール交換後は、オンボードコンピュータのタイヤ設定を必ず更新してください。

新品タイヤの特性がオンボードコンピュータの設定に適合しない場合、メッセージが表示されます。

▷ 次回車両が停止したときに、オンボードコンピュータの設定を更新してください。

警告灯

以下の場合、スピードメータ内の警告灯が点灯します。

— タイヤ空気圧の低下が検出された場合

— タイヤ空気圧モニタリング・システムに故障が発生している場合

— ホイール／ホイール・トランスミッタを新しく取付け、車両がホイール識別を行っている場合

故障が修理されると、インストルメント・クラスタ内のタイヤ空気圧警告灯は消灯します。

タイヤ空気圧の監視が行えない場合

故障が発生すると、タイヤ空気圧モニタリング・システムはタイヤ空気圧の監視を行うことができません。
インストルメント・クラスタの警告灯が点灯し、オンボードコンピュータにメッセージが表示されます。

以下の場合、タイヤ空気圧の監視を行うことができません。

— タイヤ空気圧モニタリング・システムに故障が発生している場合

— ホイールにタイヤ空気圧モニタリング・システム用のトランスミッタが紛失した場合

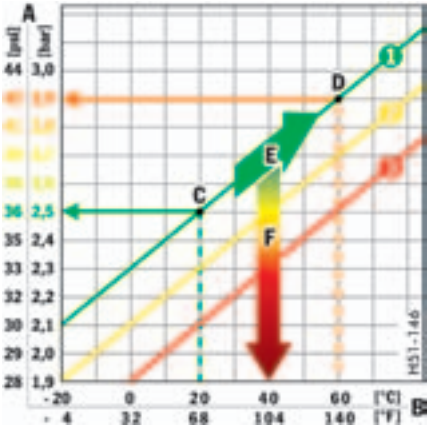
— ホイールを交換してしばらくの間

— 4個以上のホイール・トランスミッタが識別された場合

— コードレス・ヘッドフォンなどによる外部からの電波干渉を受けている場合

— タイヤの温度が高すぎる場合

▷ 「インストルメント・クラスタおよびオンボードコンピュータ上の警告」（104ページ）を参照してください。



温度上昇に伴う空気圧の増加

A タイヤ空気圧

B タイヤ温度

C 低温時のタイヤ空気圧

D 温間時のタイヤ空気圧

E 温度上昇に伴う空気圧増加

F 不具合／漏れタイヤの空気圧低下

1. 規定空気圧直線
2. 警告ステージ1（-0.2～-0.4 bar）
3. 警告ステージ2（-0.4 bar以上）

物理的原理に従い、空気圧は温度の変化に応じて変動します。
タイヤ空気圧は10℃の温度変化につき、約0.1bar増加、または減少します。
タイヤ空気圧モニタリング・システムはこのタイヤ空気圧と温度の関係を考慮して演算します。

タイヤ空気圧規定値

一般道走行時のタイヤ空気圧に関する情報は、本書の249ページまたは運転席ドア開口部のタイヤ空気圧プレートにも記載されています。
これらの値は冷間時（20℃）のタイヤ空気圧に適用されます。

▷ タイヤ空気圧を調整する場合、“Tyre pressure menu（タイヤ空気圧メニュー）”の“Info pressure（タイヤ空気圧情報）”の表示、または個々のタイヤ空気圧警告の数値のみを使用してください。

“OIL”

オイル・レベルの表示および測定

⚠ 注 意

エンジンが損傷する恐れがあります。

▷ 給油時には必ず定期的にオイル・レベルを点検してください。

▷ オイル・レベルが“MIN”マーク以下にならないよう注意してください。

オイル・レベル測定条件

1. 正確なオイル・レベル測定には車両が**水平状態**にあることが非常に重要です。
2. エンジン停止状態
3. イグニッション・スイッチON状態

オイルの戻り時間

オイル・レベルを測定する前に、エンジン・オイルはオイル・パンに戻っている必要があります。
オイルの戻り時間は、エンジンの温度およびエンジンの停止時間によって異なります。

この待ち時間は、イグニッションをONにするとオンボード・コンピュータ・ディスプレイでオイル・ディスプレイが一桁ずつ点滅し、カウント・ダウンされます。

▷ エンジン・オイル・レベルの測定は、長距離運転前またはエンジンが作動温度のときに実施するのが最適です。この時に測定すると、待ち時間が短くなります。

オイル・レベル測定の開始

▷ イグニッションをONにします。（エンジンはスタートしません）

エンジン・オイル・レベル測定表示がオンボードコンピュータに表示されます。

▷ オイル・レベル測定の待ち時間はディスプレイに表示されます。

▷ 測定が終了すると、セグメント表示によりエンジン・オイル・レベルがわかります。

— セグメントが最上部まで表示されている場合は、オイル・レベルが“MAX”マークに達しています。

▷ この状態でない場合は、エンジン・オイルを補充します。

— 最下部のセグメントが表示されている場合、オイル・レベルは“MIN”マークに達しています。

▷ 直ちにエンジン・オイルを補充してください。

— 最下部のセグメントが点滅している場合、オイル・レベルは“MIN”マークを下回っています。

▷ 直ちにエンジン・オイルを補充してください。

セグメント表示の“MIN”と“MAX”マーク間は約1.2リットルです。
表示セグメント1個は約0.4リットルの補充量に相当します。

▷ 必要に応じてエンジンオイルを補充します。

「エンジン・オイル・レベル」（179ページ）を参照してください。

オイルを補充する前に、イグニッション・スイッチをOFFにしてください。

▷ “MAX”マーク以下であっても、必要量以上のオイルを補充しないでください。

給油中のオイル・レベル測定

給油中、オイル・レベルは自動的に測定されます。

作業準備

1. イグニッション・スイッチをOFFにします。
2. エンジンが作動温度の場合、駐車してからエンジンを始動するまでの時間が5分以上経過していなければなりません。
3. 給油は15分以内で完了してください。

イグニッション・スイッチをONにすると、エンジン・オイル・レベルがセグメント表示されます。

以下の要件を満たしていない場合は、測定は中止されます。

▷ "OIL"メニューでオイル・レベル測定を開始

または

▷ イグニッション・スイッチをONにしてオイル・レベル測定を開始

故障

オイル・レベル表示の故障はオンボードコンピュータの警告メッセージで表示されます。

“OIL”メニューからのオイル・レベル測定

選択領域D、ON

▷ 作動レバーを前方に倒します。

オイル・レベル測定の開始

▷ 作動レバーを使用して、“OIL”を選択します。

▷ 作動レバーを前方に倒します。

測定が開始されます。

“SET”
オンボードコンピュータの基本設定

選択領域D、ON

▷ 作動レバーを前方に倒します。

オンボードコンピュータ基本設定の変更

▷ 作動レバーを使用して、“SET”を選択します。

▷ 作動レバーを前方に倒します。

▷ 作動レバーを使用して、変更したい設定を選択します：

リセット

— 全てリセット

トリップ・カウンタ、平均車速、平均燃料消費量のリセット

単位

— スピードメータ
km - km/h、miles - mph

— 燃費
l/100km、mls/gal（USA）、mpg（UK）、km/l

— 温度
°C、°F

— タイヤ空気圧
bar、psi

ディスプレイ（中央部）

— ディスプレイの変更

オーディオ情報（ラジオ選局設定）
残燃料での推定走行可能距離
燃費残量少

— 電話情報

電話情報機能が作動している場合、オンボードコンピュータに着信が表示されます。

ナビゲーション＊

— ナビゲーション

（オンボードコンピュータ・ディスプレイにナビゲーションの操作説明を表示させることができます。）

— 方向転換

（方向転換の前にのみナビゲーションによる指示が表示されます。）

基本設定

— オンボードコンピュータ基本設定への復帰

言語

— 言語バージョンの選択

12h／24hモード

— 時刻表示のモード：12 h 、24h（時間の左側のAM/PMが表示されます。）

オンボードコンピュータ機能に関する一般的情報

燃料残量による走行可能距離

長距離走行中は燃料残量による走行可能距離が、燃料タンクの残量、平均燃料消費量に基づいて継続的に計算されています。
タンクの残量が低下すればするほど、表示への影響が大きくなります。このため、走行可能距離が15 km以下になると表示されなくなります。

走行中に車両の傾きが変化したり給油したりすると、走行可能距離が一時的に不正確になる可能性があります。

知識：
ほぼ空のタンクにごく少量しか給油しない場合は、燃料残量による走行可能距離は計算されません。

平均燃料消費量および平均速度

表示された数値は、平均燃料消費量および平均速度表示が前回0にリセットされてからの走行に基づいています。

走行前および走行中に測定開始ポイントを設定できます。
イグニッションのスイッチをOFFにしても、測定はリセットされません。
したがって、長時間にわたって数値を収集することができます。
メモリは車両バッテリが切り離されると消去されます。

タイヤ空気圧＊

オンボードコンピュータの**タイヤ空気圧**表示機能には、タイヤ温度に応じたタイヤ空気圧が表示されます。走行中のタイヤ空気圧の上昇および低下を確認することができます。
この画面は情報表示のみに使用します。タイヤ空気圧を調整する場合、必ずタイヤ空気圧メニューの“Info pressure（タイヤ空気圧情報）”に表示された値を使用してください。

＊日本仕様に設定はありません。

インストルメント・クラスタおよびオンボードコンピュータ上の警告

警告記号が表示された場合は、必ず取扱説明書の関連の章を参照してください。
すべての測定条件に合致している場合のみ、警告メッセージが表示されます。
したがって、すべてのフルード・レベルを定期的に点検すること、特に給油時には常にオイル・レベル点検を心がけることが重要です。

インストルメント・クラスタ	オンボードコンピュータ	オンボードコンピュータのメッセージ	意味／対策
		Seat belt	乗員は全員シートベルトを着用すること。
		Handbrake	パーキング・ブレーキが解除されていません。
		Ignition key not removed	キーが抜かれていません。
		Replace battery in the ignition key	リモート・コントロールの電池を交換してください。
		Ignition lock faulty, please go to workshop	ポルシェ正規販売店にお問い合わせください。＊
		Ignition lock faulty, go to workshop immediately	ポルシェ正規販売店にお問い合わせください。＊
		Relieve steering	ステアリングを左右に動かして、ステアリング・ロックを解除してください。
		Steering locked	ステアリング・ロックが解除されていません。ポルシェ正規販売店で故障を修理してください。＊
		Dipped beam on	ロー・ビーム／車幅灯が点灯しています。
		Parking light on	パーキング・ランプが点灯しています。

インストルメント・クラスタ	オンボードコンピュータ	オンボードコンピュータのメッセージ	意味／対策
		Check left/right dipped beam 以下にも適用 フロント・サイド・ライト、方向指示灯、ハイビーム、フォグランプ、サイド・インジケータ・ランプ、ブレーキ・ランプ、テールランプ、リア・フォグランプ、後退灯、ハイマウント・ブレーキ・ランプ	表示されたランプが故障しています。バルブを点検してください。ポルシェ正規販売店にお問い合わせください。*
		Daytime driving lights off	エンジンを停止すると、デイタイム・ドライビング・ライトがOFFになります。必要に応じてスイッチをONにしてください。
		Headlight beam adjustment faulty	ポルシェ正規販売店にお問い合わせください。*
		Front lid not close	フロント・トランク・リッドをきちんと閉めてください。
		Rear lid not closed	エンジン・ルーム・リッドをきちんと閉めてください。
		Front lid release faulty	トランク・リッド・リリースが故障しています。ポルシェ正規販売店にお問い合わせください。*
		Rain sensor faulty	ポルシェ正規販売店にお問い合わせください。*
		Top up washer fluid	ウォッシャ液を補充してください。
		LIMIT Cannot be accepted with vehicle stopped	車両走行中の場合、現在の速度に対してのみ警告音が作動します。
		LIMIT 50	警告音が作動する選択速度限度値（50km/h）を超えました。必要であれば速度調整をしてください。
燃料警告灯		Please observe range on remaining fuel	燃料を補給してください。

インストルメント・クラスタ	オンボードコンピュータ	オンボードコンピュータのメッセージ	意味／対策
		Check the oil level	オンボードコンピュータで、オイル・レベルの測定を開始してください。 水平な場所に停車し、イグニッション・スイッチをONにしてください。
		Oil pressure too low	適切な場所で直ちに停車し、オンボードコンピュータでオイル・レベルを測定してください。必要であればオイルを補充してください。
エンジン温度警告灯点灯		Engine temperature too high	エンジンをOFFにしエンジン温度を下げてください。 クーラント・レベルを点検してください。必要であればクーラントを補充してください。
エンジン温度警告灯点滅		Check coolant level	エンジンをOFFにしエンジン温度を下げてください。 クーラント・レベルを点検してください。必要であればクーラントを補充してください。
		Engine diagnostics — workshop	ポルシェ正規販売店にお問い合わせください。＊
		Reduced engine performance	ポルシェ正規販売店にお問い合わせください。＊
エンジン・ルーム温度警告灯点灯		Failure of engine-compartment blower	ポルシェ正規販売店にお問い合わせください。＊
		Battery/generator warning	適切な場所で直ちに停車し、運転を中止してください。 ポルシェ正規販売店で故障を修理してください。＊
		Oil pressure gauge faulty	ポルシェ正規販売店にお問い合わせください。＊
		Oil level display faulty	ポルシェ正規販売店にお問い合わせください。＊
		Oil temperature gauge faulty	ポルシェ正規販売店にお問い合わせください。＊

インストルメント・クラスタ	オンボードコンピュータ	オンボードコンピュータのメッセージ	意味／対策
		Indicator faulty	クーラント・インジケータが故障しています。 ポルシェ正規販売店にお問い合わせください。＊
		Brake pad wear	ブレーキ・パッドを直ちに交換してください。 ポルシェ正規販売店にお問い合わせください。＊
		Warning — Brake fluid level	適切な場所で直ちに停車し、運転を中止してください。 ポルシェ正規販売店で故障を修理してください。＊
		Warning— Brake circuit division	適切な場所で直ちに停車し、運転を中止してください。 ポルシェ正規販売店で故障を修理してください。＊
		ABS failure	ポルシェ正規販売店にお問い合わせください。＊
		PSM off	ポルシェ・スタビリティ・マネージメントがOFFになっています。
		PSM on	ポルシェ・スタビリティ・マネージメントがONになっています。
		PSM failure	ポルシェ正規販売店にお問い合わせください。＊
		PASM Normal/Sport	ポルシェ・アクティブ・サスペンション・マネージメントの現在の設定
		PASM failure	ポルシェ正規販売店にお問い合わせください。＊
		PASM indicator faulty	ポルシェ正規販売店にお問い合わせください。＊
		Sport mode failure	ポルシェ正規販売店にお問い合わせください。＊
		System fault, airbag	エアバッグが故障しています。 ポルシェ正規販売店にお問い合わせください。＊

インストルメント・クラスタ	オンボードコンピュータ	オンボードコンピュータのメッセージ	意味／対策
		Passenger airbag off	助手席エアバッグがOFFになっています。チャイルド・シート取外し後は、必ず助手席エアバッグを作動させてください。
		Passenger airbag on	助手席エアバッグがONになっています。
		Spoiler control failure	走行安定性が損なわれます。運転スタイルを調整してください。 ポルシェ正規販売店にお問い合わせください。*
セレクタ・レバー位置表示点滅		Selector lever is not engaged	ティプトロニックS： セレクタ・レバーが中間位置にある可能性があります。 セレクタ・レバーを正しい位置にシフトしてください。
		Move selector lever to P	ティプトロニックS： セレクタ・レバーをPポジションに入れてから、キーをイグニッション・ロックから抜いてください。
		Apply the brake	ティプトロニックS： 始動時にはブレーキを踏んでください。
		Depress the clutch	マニュアル・トランスミッション： 始動時にはクラッチを踏み込んでください。
		Move selector lever to position P or N	ティプトロニックS： 始動時には、セレクタ・レバーを必ずPかN位置にしてください。
セレクタ・レバー位置表示点滅		Tiptronic emergency run	ティプトロニックが故障している可能性があります。ポルシェ正規販売店で故障を修理してください。*
		Flat tyre!	タイヤ空気圧モニタリング・システムが深刻な空気圧低下を検知しました。 適切な場所で停車し、タイヤの損傷を点検してください。必要であればタイヤ・シーラントを充填します。

インストルメント・クラスタ	オンボードコンピュータ	オンボードコンピュータのメッセージ	意味／対策
		Add air	タイヤ空気圧モニタリング・システムが緩やかな空気圧低下を検知しました。出来るだけ早くタイヤ空気圧を調整してください。
		TPC inactive System learning	タイヤ空気圧モニタリング・システムは車両のタイヤの登録をしています。タイヤ空気圧モニタリング・システムはタイヤおよび取付け位置を探しています。この時間中は現在の空気圧仕様がオンボードコンピュータに表示されません。
		TPC inactive	タイヤ空気圧モニタリング・システムが故障しています。 ポルシェ正規販売店にお問い合わせください。*
		TPC inactive Brief disturbance TPC inactive Too many wheel transmitters	電波干渉を受ける（車内の別のホイール・トランスミッタなど）またはホイール・センサが高温（約120℃）になると、システムが一時的に停止されます。干渉がなくなると、システムは自動的に再作動します。
		Wheel change? Reset TPC!	出来るだけ早くオンボードコンピュータの“TPC”メニューの設定を更新してください。このメニューで間違った入力を行うと、正しい空気圧情報が得られなくなり、安全性が損なわれます。
		TPC Indicator faulty	タイヤ空気圧モニタリング・システムのディスプレイが故障しています。 ポルシェ正規販売店にお問い合わせください。*
		System fault Go to workshop	複数のシステムが故障している可能性があります。走行スタイルを調整してください。 ポルシェ正規販売店にお問い合わせください。*
		Failure of fuel level indicator Workshop	ポルシェ正規販売店にお問い合わせください。*

インストルメント・クラスタ	オンボードコンピュータ	オンボードコンピュータのメッセージ	意味／対策
		Failure of outside temperature indicator	ポルシェ正規販売店にお問い合わせください。＊
		Service in km/days	サービス・インジケータ 表示された距離／時間を過ぎないように、サービス点検を受けてください。 ただし、整備手帳に記載のサービス・インターバルが優先です。
		Service now	サービス・インジケータ ポルシェ正規販売店でサービス点検を受けてください。＊
		Failure of Convertible-top control	コンバーチブル・トップが逆向きに作動しています。 故障の場合： ポルシェ正規販売店にお問い合わせください。＊
		Convertible top not in final position	コンバーチブル・トップを全開／全閉にしてください。
		Convertible top is being opened	全開位置にするとメッセージが消えます。
		Convertible top is being closed	全閉位置にするとメッセージが消えます。
		Close rear lid	リア・リッドが開いているため、コンバーチブル・トップが操作できません。
		Roll-over protection is faulty	ポルシェ正規販売店にお問い合わせください。＊

＊ ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店で実施される事をお願い致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

警告メッセージの確認

警告メッセージはオンボードコンピュータ・ディスプレイから消去することができます。

▷ オンボードコンピュータの作動レバーを前に倒します。

“INFO”メニューを使用すると、消去した警告メッセージを呼び出すことができます。

ランプ・スイッチ

- **ランプ・スイッチOFF**

HOME **ホーム・モード**

車幅灯、ライセンス・ランプ、計器照明

ロービーム、ハイビーム
（イグニッションがONのときのみ）

フォグランプ
（車幅灯またはロービームに追加されます）：
スイッチを1段階引くと、インジケータ・ランプが点灯します。

リア・フォグランプ
（フォグランプに追加されます）：
スイッチを2段階引くと、インジケータ・ランプが点灯します。

ランプが点灯しているとき（パーキング・ランプおよびホーム・モードを除く）、イグニッション・キーを抜いて運転席側のドアを開くと、警告音が**鳴って**バッテリ上がりを警告します。

国によっては、法律に応じてランプの仕様が異なります。

知識：
スポーツ・クロノ・パッケージ・プラス装着車では、個別ライト機能（デイタイム・ドライビング・ライトなど）を追加することができます。
PCM取扱説明書の「個別メモリー」を参照してください。＊

ホーム・モード

ホーム・モードの作動

▷ ランプ・スイッチをホーム位置に動かしてください。

周囲がよく見えるようにし、セキュリティを向上させるため、お車に乗り込む際および降りる際に、フォグランプおよびテールランプが一定時間点灯したままになります。

— **お車から降りる際は**、ドアを開いてから約30秒間ランプが点灯します。車両をロックすると、さらに30秒間延長されます。
スポーツ・クロノ・パッケージ装着車では、PCMを使用して点灯時間を設定することができます。この設定により車両ロック解除時の点灯時間も変更されます。
PCM取扱説明書の「個別メモリー」を参照してください。

— **車両をロック解除したときは**、約30秒間ランプが点灯します。イグニッション・スイッチをONにした場合、またはホーム・モードをOFFにすると、ランプは消灯します。

＊日本仕様に設定はありません。

ヘッドランプ自動高さ調整

バイ・キセノン・ヘッドランプ装着車にはヘッドランプ自動高さ調整機能が装備されています。

イグニッション・スイッチON時、車両積載重量により自動的にヘッドランプの高さが調整され加速時、減速時のヘッドランプの高さは固定されます。

作動の点検

1. ロービームを点灯させます。
2. イグニッション・スイッチをONにします。最初、ロービームは下面を照らしその後、車両の積載重量に合わせ高さが調整されます。

上記の作動がなされない場合は調整機構が故障しています。ポルシェ正規販売店にて点検を受けてください。

▷ ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店で実施される事を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

方向指示灯／ハイビーム／パーキング・ランプ／パッシング・レバー

方向指示灯、ロービーム、ハイビームはイグニッション・スイッチがONのときに作動します。

1— 左方向指示灯

2— 右方向指示灯

レバーを上下1段目まで押す - 方向指示灯が3回点滅します。

3— ハイビーム

4— パッシング・レバー

中央位置 — ロービーム

ハイビームとパッシングが選択されているとき、タコメータ内に青色のインジケータ・ランプが点灯します。

パーキング・ランプ

パーキング・ランプはイグニッション・スイッチをOFFにした場合のみ点灯させることができます。

▷ レバーを上下に動かすと、左または右のパーキング・ランプが点灯します。

フロント・ワイパー／ウォッシャ・レバー

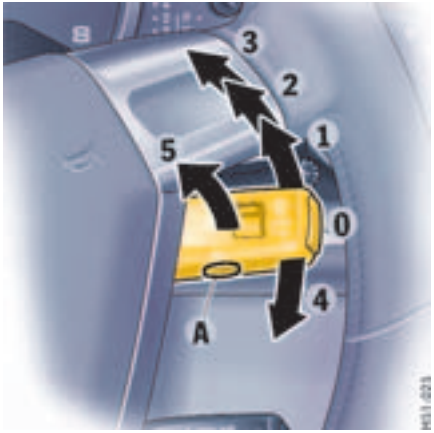
⚠ 注 意

フロント・ワイパーが不意に作動して（間欠モード、レイン・センサによる自動作動など）、怪我をする恐れがあります。

またフロント・ウィンドウ、ワイパーおよびヘッドランプ・ウォッシャを損傷する恐れがあります。

- ▷ ワイパーを作動させる前に、フロント・ウィンドウを十分に濡らしておいてください。

  フロント・ウィンドウが乾いていると表面をこすって傷が付く場合があります。
- ▷ 走行する前にワイパー・ブレードの凍結を解かしてください。
- ▷ 自動洗車機の使用時に間欠作動によってフロント・ワイパーが不意に作動しない事を確認してください。
- ▷ 洗車時は、何気なくワイパーを動かしてしまわないように、フロント・ワイパーが作動しない事を確認してください。
- ▷ 洗車時、ヘッドランプ・ウォッシャを作動させないでください。
- ▷ ヘッドランプが凍結しているときは、ヘッドランプ・ウォッシャを作動させないでください。



フロント・ワイパーおよびヘッドランプ・ウォッシャ・システム

0― フロント・ワイパーOFF

1― フロント・ワイパーの間欠／レイン・センサ作動
ワイパー・レバーを1段目まで上に動かします。

2― フロント・ワイパー低速
ワイパー・レバーを2段目まで上に動かします。

3― フロント・ワイパー高速
ワイパー・レバーを3段目まで上に動かします。

4― フロント・ワイパーのワンタッチ作動
ワイパー・レバーを下に動かします。フロント・ワイパーが1回作動します。

5― フロント・ワイパーおよびウォッシャ・システム
ワイパー・レバーをステアリング方向に引きます。
レバーをステアリング方向に引いている間、ウォッシャ・システムがウォッシャ液を噴射し、ワイパーが作動します。ワイパー・レバーを放すと、数回ワイパーが作動します。

A―ヘッドランプ・ウォッシャ

（バイ・キセノン・ヘッドランプ装着車）

ウォッシャはロービームまたはハイビームが作動している場合にのみウォッシャ液を噴射します。

- ▷ ボタン**A**を短く押して、ヘッドランプ・ウォッシャ・システムを作動させます。
- ▷ 汚れがひどい場合は、繰り返し作動させます。

ヘッドランプ・ウォッシャ・システムはフロント・ウォッシャ・システムが10回作動するごとに自動的に1回ウォッシャ液を噴射します。

知識：

凍結に備えて、イグニッション・スイッチをONにすると、**ウォッシャ・ノズル**は温められます。

リア・ワイパー

6ー リア・ワイパーの間欠作動
ワイパー・レバーを手前に動かします。リア・ワイパーが設定間隔で作動します。

車速が210km/hを超えると、リア・ワイパーは自動的に停止します。車速が190km/hを下回ると、再作動します。

スポーツ・クロノ・パッケージ装着車では、PCMを使用してリア・ワイパー追加機能を選択することができます。

PCM取扱説明書の「個別メモリー」を参照してください。

ワイパー間隔の調整

レイン・センサ非装着車では、ワイパー間隔を4段階で調整することができます。

ワイパー作動間隔を短くする

▷ スイッチ**A**を上に押します。
変更が完了すると、フロント・ワイパーが1回作動します。

ワイパー作動間隔を長くする

▷ スイッチ**A**を下に押します。

レイン・センサ

レイン・センサは、雨量を感知し、フロント・ウィンドウ・ワイパーの低速、高速、間欠の作動間隔を、自動的に選択します。

レイン・センサの作動

▷ フロント・ワイパー・レバーを1段目の位置まで上に動かします。

レイン・センサの解除

▷ フロント・ワイパー・レバーを**0**の位置にします。

イグニッション・スイッチをONにしたとき、フロント・ワイパー・レバーがすでに**1**の位置になっていた場合、レイン・センサは作動しません。

レイン・センサを作動させるには：

▷ フロント・ワイパー・レバーを**0**の位置にしてから、**1**の位置に戻します。

または

▷ フロント・ウィンドウ・ウォッシャ・システム**5**を作動させます。

または

▷ コントロール・スイッチ**A**でレイン・センサの感度を変更します。

レイン・センサが作動すると、ワイパーが1回作動します。

▷▷▷

スポーツ・クロノ・パッケージ・プラス装着車では、PCMを使用してレイン・センサ追加機能を選択することができます。
PCM取扱説明書の「個別メモリー」を参照してください。＊

レイン・センサの感度変更

コントロール・スイッチ**A**を使用してレイン・センサの感度を4段階に調整できます。

▷ コントロール・スイッチ**A**を上に押すと、感度が高くなります。

変更が完了すると、ワイパーが1回作動します。

▷ コントロール・スイッチ**A**を下に押すと、感度が低くなります。

知識：

ワイパー・ブレードがこすれたり、きしむ場合は以下の原因が考えられます。

— 自動洗車機で洗車した場合、フロント・ガラス洗剤などの残留物が付着する場合があります。このような残留物は特殊なリムーバを使用しなければ落とすことができません。
詳しい情報は担当のポルシェ正規販売店にお問い合わせください。

— ワイパー・ブレードが損傷しているか、摩耗している恐れがあります。

▷ ワイパー・ブレードを早急に交換してください。

▷ ひどい汚れ（昆虫の死がいなど）は定期的に取除いてください。

▷ 「車のお手入れ」（190ページ）を参照してください。

＊日本仕様に設定はありません。

A - *クルーズ・コントロールON／OFF*
1 - *セット／加速*
2 - *減速*
3 - *OFF（中断）*
4 - *再開*

クルーズ・コントロール（自動車速制御装置）

クルーズ・コントロールは、30～240km／hの範囲でアクセル・ペダルを踏まなくても希望する車速を保ったまま走行できます。クルーズ・コントロールはステアリング部にあるレバーで操作します。

ティプトロニック装着車

下り坂などでは、設定速度を維持するためにシフトダウンします。

⚠ 警 告

交通量が多いとき、カーブの多い道、路面状態が悪い場合（冬場の滑りやすい路面、濡れた路面、起伏の多い路面など）では、事故を起こす恐れがあります。

▷ クルーズ・コントロールを使用しないでください。

クルーズ・コントロールON

▷ クルーズ・コントロール・レバーのノブ**A**を押してください。

この緑色のインジケータ・ランプがスピードメータ内に点灯して、クルーズ・コントロールがONになっていることを示します。

スピードの設定

▷ 好みの速度まで車を加速させてください。

▷ レバーを短く前方**1**へ押してから放してください。

加速（例：追い越し）

オプション1

▷ 通常の走行時と同じようにアクセル・ペダルを踏むと加速されます。
アクセル・ペダルを放すと、元の設定速度に戻ります。

オプション2

▷ 操作レバーを前方（**1**の位置）に好みのスピードになるまで押してください。
操作レバーで加速した場合は、操作レバーを放したときの速度が設定速度になります。

オプション3

▷ 操作レバーを前方（**1**の位置）にすばやく押してください。
1回押す毎に約2km/hずつ速度が増します。（最大10回）

知識：

設定速度より約25km/h以上の速度で20秒間加速すると、クルーズ・コントロールは自動的に解除されます。

▷▷▷

減速

オプション1

▷ 操作レバーをステアリング・ホイール側（**2**の位置）に好みのスピードになるまで手前に引いてください。
操作レバーで減速した場合は、操作レバーを放したときの速度が設定速度になります。

オプション2

▷ 操作レバーをステアリング・ホイール側（**2**の位置）にすばやく手前に引いてください。
1回押す毎に約2km/hずつ速度が増します。（最大10回）

ティプトロニック装着車

下り坂などでは、減速させるためにシフトダウンします。

クルーズ・コントロールの中断

▷ レバーを下側（**3**の位置）に引いてすぐに放してください。**または**

▷ ブレーキ・ペダルまたはクラッチ・ペダルを踏んでください。**または**

▷ ティプトロニック・トランスミッションの場合は“N”を選択してください。

▷ 「ティプトロニックS」（143ページ）を参照してください。

解除される前の速度はメモリーに記録されています。

クルーズ・コントロールの自動中断

— 設定速度より25km/h以上の速度で20秒間加速したときに自動的に中断します。

— 上り坂などで、設定速度より10km/h以下の速度で5秒間減速したときも自動的に中断します。

— PSMが作動したときも自動的に中断します。

クルーズ・コントロールの再開

▷ レバーを上側（**4**の位置）に押してすぐに放してください。
設定速度まで加速／減速します。

交通状態や路面状況がクルーズ・コントロール走行に適した場合にクルーズ・コントロールを再開するように注意してください。

クルーズ・コントロールOFF

▷ クルーズ・コントロール・レバーのノブ**A**を押してください。
スピードメータ内にある緑色のインジケータ・ランプが消灯します。

車両を駐車してイグニッションをOFFにすると、メモリーは消去されます。

知識：

上り坂や下り坂では、設定速度が維持できない場合があります。

▷ 上り坂ではエンジンに負荷がかかりすぎないように、また下り坂では十分エンジン・ブレーキがかかるようにシフトダウンしてください。

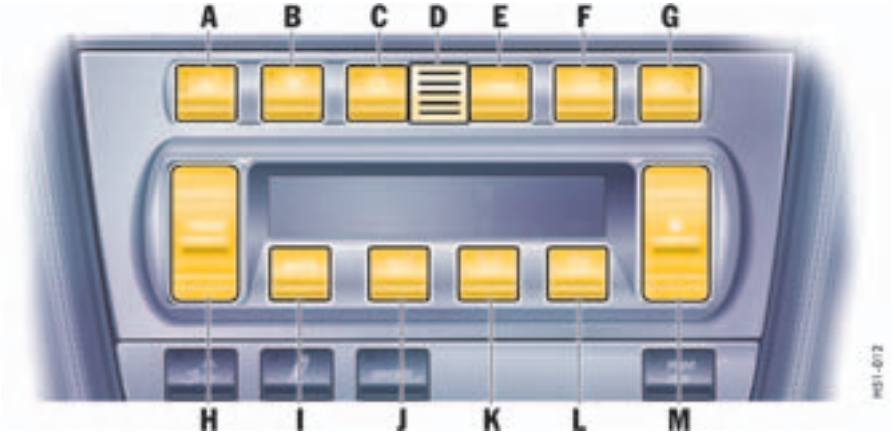
⚠ ハザード・ランプ・スイッチ

ハザード・ランプはイグニッション・スイッチの位置とは関係なく点灯できます。

スイッチON/OFF

▷ インストルメント・パネルにあるスイッチを押してください。

全ての方向指示灯とインストルメント・パネルにあるそれらのインジケータ・ランプが同時に点滅します。



A - *シート・ヒータ（左側）*
B - *フロント・デフロスタ*
C - *内気循環ボタン*
D - *車室内温度センサ*
E - *ECOボタン（エアコン・コンプレッサON/OFF）*
F - *リア・ウィンドウ・ヒータ*
G - *シート・ヒータ（右側）*
H - *温度設定ボタン*
I - *AUTOボタン（自動調節）*
J - *足元*
K - *中央および両サイド*
L - *フロント・ウィンドウ*
M - *風量ボタン*

オートマチック・エアコン

オートマチック・エアコンは、車室内の温度をあらかじめ設定していた温度へ自動的に調節します。
必要に応じて、手動で調節することもできます。

自動調節

▷ **“AUTO”**ボタン**I**を押すと、ディスプレイ・パネルに**“AUTO”**が表示され、風量、吹き出し口、温度が自動制御され、外気温が変動しても車内の温度は一定に保たれます。

設定されている機能は個々に変更できます。それぞれの設定は、その設定ボタンをもう一度押すか、**“AUTO”**ボタンを押すまで維持されます。

温度設定

▷ ボタン**H**の該当する側を押すと、好みに合わせて、車室内の温度は16～29.5℃の範囲で選択できます。**快適温度として22℃**をお薦め致します。

ディスプレイに“LO”（最低温度16℃）または“HI”（最高温度29.5℃）が表示された場合は、エアコンの作動は最大になっています。
自動調整は作動しません。

知識：
オートマチック・モードで設定温度を変えると自動的に風量が増し早く希望温度に達します。

センサ

エアコン・システムの性能を低下させないよう以下に注意してください。

▷ インストルメント・パネルの日射センサまたは車室内温度センサ**D**を覆わないようにしてください。

フロント・デフロスタ

▷ ボタン**B**（スイッチON／OFF）を押すと、フロント・ウィンドウの曇りを素早く取除くことができます。風はフロント・ウィンドウのみに向けられます。ボタンのインジケータ・ランプが点灯します。

ECO-エアコン・コンプレッサON／OFF

エアコン・コンプレッサは外気温が3℃より低くなると自動的にOFFになり、手動でもONにすることはできません。

オートマチック作動のとき、エアコンは外気温が3℃を超えると、エアコン・コンプレッサが作動します。燃料を節約するためにコンプレッサをOFFにすることもできますが、その場合は快適さが損なわれます。

▷ ボタン**E**を押すと、コンプレッサがOFFになり、ボタンのインジケータ・ランプが点灯します。

▷ 車室内の温度が高くなり過ぎたときは、コンプレッサをONに戻すか、**“AUTO”**ボタンを押してください。

湿度が高いときは、ウィンドウの曇りを防ぐために、エアコン・コンプレッサをONにしておいてください。

風量調整

▷ ボタン**M**を上げるか、または下げると、設定された風量が増加または減少します。

風量はバー・ディスプレイによって表示されます。

最小風量に設定されているとき、ボタン**M**のマイナス側を押すと、ディスプレイ・パネルに**“OFF”**が表示され風量と自動調整はOFFになります。

プラス側または**“AUTO”**ボタンを押すと、風量と自動調整はONに戻ります。

内気循環モード

⚠ 警 告

内気循環モードを行なうとウィンドウが曇り、視界を悪くする恐れがあります。

▷ 内気循環モードは短時間のみ使用してください。

▷ もしウィンドウが曇った場合は、内気循環モードを停止させ、フロント・デフロスタを作動させてください。

▷▷▷

内気循環モードのON／OFF

▷ ボタン**C**を押すと、外気の導入がしゃ断されて、車内の空気のみが循環します。

ボタン**C**のインジケータ・ランプが点灯します。

約3℃より高い場合

エアコン・コンプレッサが停止している場合は、自動的に作動します。内気循環モードの連続作動時間は無制限です。

約3℃より低い場合

エアコン・コンプレッサが停止し、内気循環モードは約3分後に自動的にOFFになります。

エア配分

各吹き出し口から希望のエア配分をすることができます。

夏期の推奨設定ー
中央および両サイド吹き出し口。

冬期の推奨設定ー
足元およびフロント・ウィンドウ吹き出し口。

足元

▷ ボタン**J**を押すと、風は足元へ流れます。設定がディスプレイに表示されます。

中央および両サイド

▷ ボタン**K**を押すと、風は中央および両サイドの吹き出し口から流れます。
吹き出し口を開けてください。
設定がディスプレイに表示されます。

フロント・ウィンドウ

▷ ボタン**L**を押すと、風はフロント・ウィンドウへ流れます。
設定がディスプレイに表示されます。

知識：

▷ スポーツ・クロノ・パッケージ・プラス装着車では、個々のエアコン設定が車両キーに保存できます。
PCM取扱説明書の「個別メモリ」を参照してください。＊

＊日本仕様に設定はありません。

エアコン・コンプレッサに関する一般的な知識

ー エンジンに大きな負荷がかかっているとき、エンジンの冷却が十分に行われるように、一時的にOFFにすることができます。

ー 気温が3℃より低くなると自動的にOFFになり、手動でもONにすることができません。

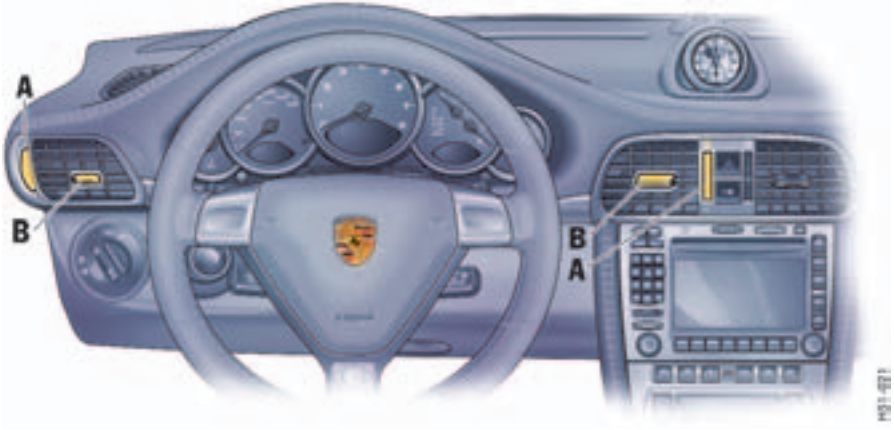
ー エアコンの効果を上げるために、エアコン使用中は窓を閉じてください。

日光の当たる場所に長時間駐車していたときは、窓を開いて室内の空気を入れ換えてから、エアコンを使用すると効率的です。

ー 外気温と湿度によっては、凝結した水分がエバポレーターから滴り落ちて、車の下に水たまりを作ることがあります。これは正常な状態で、液漏れ等の故障ではありません。

ー 最低温度に設定しているのに冷たい空気が出てこないときは、エアコン・スイッチをOFFにして、ポルシェ正規販売店で修理してください。

ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店で実施される事を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。



A - *開閉*
B - *ベント方向調節*

中央および両サイドの吹き出し口

O　吹き出し口を開く

▷ ダイヤルを上に回す。

●　吹き出し口を閉じる

▷ ダイヤルを下に回す。

送風方向の調節

▷ ルーバー角度を調節して好みの方向に風を送ることができます。

外気またはエアコンの風は、操作パネルの設定に応じて、どの吹き出し口からも出すことができます。

外気導入口

外気の導入を確保してください。

▷ トランク・リッドとフロント・ウィンドウの間の外気導入口を雪、氷、木の葉などで詰らせないようにしてください。

リア・ウィンドウ・ヒータ／ドア・ミラー・ヒータ

リア・ウィンドウ・ヒータとドア・ミラー・ヒータは、イグニッションがONになっているときに作動させることができます。

スイッチON：

▷ スイッチのシンボルを押します。
インジケータ・ランプが点灯します。

ヒータのスイッチは約15分後に自動的にOFFになります。
スイッチを再び押すとヒータはONに戻ります。

スイッチOFF：

▷ スイッチを押してください。
スイッチのインジケータ・ランプが消灯します。

カップ・ホルダ
(缶、カップ用ホルダ)

▷ 運転中はカップ・ホルダを収納しておいてください。

⚠ 警 告

飲料がこぼれると、火傷または物品が損傷する危険があります。

▷ カップ・ホルダに適切に収まる容器のみを使用してください。

▷ 一杯に満たされた容器を置かないでください。

▷ 熱い飲み物は置かないでください。

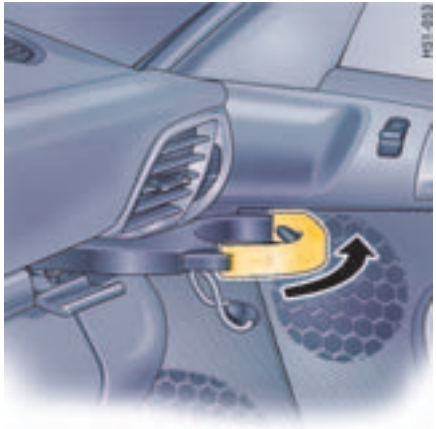
カップ・ホルダの使用

▷ パネルを押し、開きます。

▷ カップ・ホルダ・マークを押してください。

▷ 中央のパネルを閉じてください。

大きな容器を収納する場合は、カップ・ホルダを引き出してください。



カップ・ホルダの引き出し

▷ ホルダを引き出します（**矢印**）。

▷ 容器を差込みます。

▷ 慎重にホルダを内側にスライドさせ、容器の大きさに合わせます。

カップ・ホルダの収納

▷ 引き出したホルダを押し込みます。

▷ 中央のパネルを開きます。

▷ カップ・ホルダを閉じて固定します。

▷ パネルの中央を閉じます。

灰皿

開き方

▷ 灰皿の蓋を開きます。

掃除

▷ 掃除する場合は、灰皿を開いて、トレー部を慎重に引抜いてください。

▷ 掃除が完了したら、トレー部を差し込みます。

シガー・ライタ

シガー・ライタはイグニッション・スイッチの位置に関係なく使用できます。

⚠ 警 告

火災や火傷をする恐れがあります。

▷ 保護者なしでお子様だけを絶対に車内に残さないでください。

▷ 加熱したシガー・ライタを持つ場合は、ノブを持ってください。

ライタの加熱

▷ 灰皿の蓋を開きます。

▷ ライタを押込み、フィラメントが充分な温度になると、元の位置に飛び出します。

電源ソケット

シガー・ライタの差込み部分は電化製品のソケットとして使用しないでください。
（タイヤ充填コンプレッサは使用可能です）

▷ 「ソケット」（214ページ）を参照してください。

トランク、小物入れ

⚠ 警 告

急ブレーキ、急な車線変更や衝突の際に荷物によって怪我をする危険があります。

▷ 車内に積込む荷物は確実に固定してください。

▷ シート間の小物入れの中には重たい物を収納しないでください。

その他の収納場所

— ドア・ポケット

— 助手席側のドア・シル・ポケット

— センター・コンソール

— リア・シート・バックレストの後ろ側（カブリオレの場合は、コンバーチブル・トップが閉じているときに使用してください。コンバーチブル・トップが開いているときに使用すると破損する恐れがあります。）

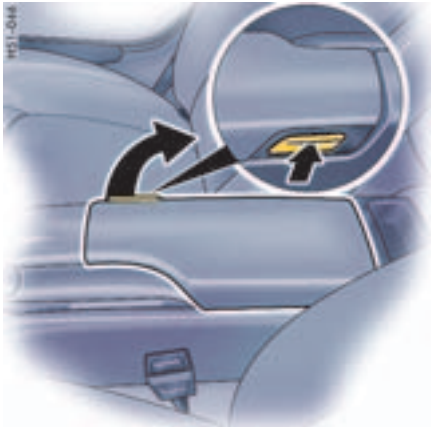
— シート間のコイン・ホルダ付きトレー

— CDおよびペン・ホルダ付きグローブ・ボックス

— ルーフ・フレームのフック

— フロント・バックレストの後ろ側のフックおよびポケット（車両仕様による）

— リア・シート・バックレストを前方に倒すと、収納スペースが拡大します。



シート間の小物入れ

開く

▷ 小物入れを開くには、ロッキング・ノブを押してください。
小物入れの前部分にはコイン・ホルダおよびソケットがあります。

▷ 「ソケット」（214ページ）を参照してください。

グローブ・ボックス

⚠ 警 告

グローブ・ボックスのリッドで怪我をする恐れがあります。

▷ 走行中はグローブ・ボックスを閉じてください。

リッドの開き方

▷ レバーを引き上げてリッドを手前に引いて開きます。

施錠

▷ 盗難防止のために使用しない場合は施錠してください。

CDホルダ

内部にＣＤが入っていると、インジケータが赤く表示します。

トレーの引き出し方

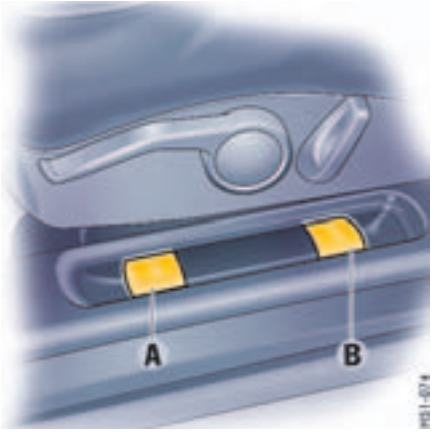
▷ 引き出したいトレーのボタンを押します。

トレーの戻し方

▷ CD用トレーの端を持ち上げ、カチッという音がするまで元に戻します。

ペン・ホルダ

CDホルダの右側のクリップにペンを1本固定することができます。



A - *フロント・トランク・リッド・ロック解除*
B - *エンジン・ルーム・リッド・ロック解除*

フロント・トランク・リッドとエンジン・ルーム・リッド

ロック解除

▷ 運転席のドアを開き、運転席シートの横にあるプル・ボタンを操作してください。
フロント・トランク・リッドまたはエンジン・ルーム・リッドを開くと、ルーム内のランプが点灯します。

▷ 「2時間後または7日後の作動停止」(215ページ) を参照してください。

フロント・トランク・リッドはリモコンのボタンで開くことができます。

▷ 「キー」(14ページ) を参照してください。

知識：

バッテリ上がりのときは、外部電源を使用してフロント・トランク・リッドを開けます。

▷ 「電気系統」(214ページ) を参照してください。
またはヒューズ・ボックス・リッド裏の説明をご覧ください。

警告灯

リッドが完全に閉じられていない場合は、インストルメント・クラスタ内の警告灯を表示します。

▷ 完全にリッドを閉じてください。

フロント・トランク・リッドの開き方

⚠ 注 意

フロント・トランク・リッドまたはフロント・ワイパーを損傷する恐れがあります。

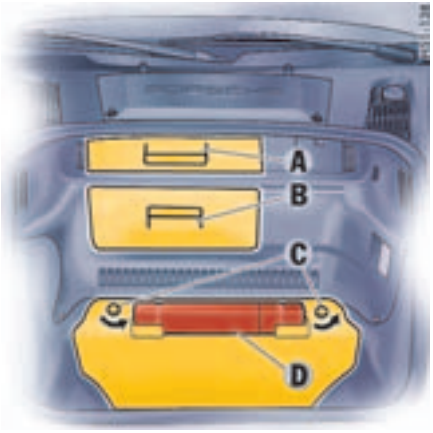
▷ フロント・トランク・リッドを開ける場合は、ワイパーを立てないでください。

▷ リッドを少し持ち上げ、レバー（**矢印**）を操作してセーフティ・キャッチを外してください。

フロント・トランク・リッドとエンジン・ルーム・リッドの閉じ方

▷ リッドを下げ、ロックがかかるまで押えてください。

▷ 必要に応じて、手のひらでリッドのロック部分を押えてください。
リッドがロックされたことを確認してください。



トランク・ルーム (911カレラ、911カレラS)

アクセス・カバー

(DVDナビゲーションまたはCDチェンジャ装着車)

開き方

▷ アクセス・カバー**A**または**B**のハンドルを握って開いてください。

DVDナビゲーションまたはCDチェンジャのドライブはアクセス・カバー**B**の内部にあります。
ここには応急セット＊が収納されています。

⚠ 注 意

損傷する恐れがあります。

▷ アクセス・カバーの内部には重い物、湿った物、耐熱性のない物は入れないでください。

停止表示板

停止表示板**D**はツール・キットの上部に固定することができます。＊

工具セット

開き方

▷ ターンロック**C**を解除します。
▷ 工具セットを開いて、トランク・ルーム・フロアに置いてください。

E - *セキュリティ・ホイール・ボルト・アダプタ*
F - *タイヤ充填コンプレッサ*
G - *けん引ラグ*
H - *工具セット*
I - *タイヤ・シーラント*

閉じ方

▷ ツール・ボックスをトランク・ルーム・フロアのガイド・ピンにはめます。
▷ 工具セットを閉じて、ターンロック**C**をロックします。

＊日本仕様に設定はありません。

トランク・ルーム（911カレラ4、911カレラ4S）

トランク・ルームに収納している装備品の種類と配置は、お車の仕様により異なります。したがって、本マニュアルの記載内容と異なることがありますのでご了承ください。

DVDナビゲーション＊

DVDナビゲーションのドライブは、アクセス・カバー**A**の内部にあります。

開き方

▷ アクセス・カバー**A**のハンドルを握って開いてください。

⚠注 意

損傷する恐れがあります。

▷ アクセス・カバーの内部には重い物、湿った物、耐熱性のない物は入れないでください。

停止表示板

停止表示板は、トランク・ルームの前部に固定することができます。

▷ 停止表示板を取外す前に、ラバー・リング・マウント（**矢印**）を外してください。

応急処置セット＊

応急処置セットを取付けるためのテープを、トランク・ルーム右後部に固定することができます。

タイヤ・シーラント

タイヤ・シーラントは、アクセス・カバー**B**の内部にあります。

▷ アクセス・カバー**B**のオープニングを手で持って開いてください。

工具セット

工具セットは、トランク・ルーム・フロア・プレートの内部にあります。

▷ フロア・プレートを手で持ち上げて、工具を取出してください。

B - *タイヤ・シーラント・アクセス・カバー*
C - *タイヤ充填コンプレッサ*
D - *工具セット*
E - *けん引ラグ*
F - *セキュリティ・ホイール・ボルト・アダプタ*

＊日本仕様に設定はありません。

自動車電話＊、無線装置＊

▷ 自動車電話を使用する前に、必ず自動車電話の取扱説明書をお読みください。

▷ 走行中の通話は、該当する国の法律に従ってください。

⚠ セーフティ・ノート

安全のため、下記の内容に注意してください。

▷ 安全のため、車両を停止した状態で行ってください。

▷ アンテナと受話器が一体になった電話機または無線装置を車内で使用すると健康を害することがあります。外部アンテナに接続して使用してください。

移動通信システム（自動車電話や無線装置など）は、ポルシェ社の取付仕様に従い専門の業者でのみ取付けられます。

通信装置は通信出力が10W以下のものを使用してください。

通信装置はその車両のタイプ・アプルーバル（部品認証）を得たもの（**eマーク付き**）を使用してください。

最大出力が10Wを超える装置の取付けは専門の業者にご相談ください。

これらの装置の取付けには技術知識が必要です。

外部アンテナを使用していない自動車電話や無線装置の使用、および装置またはアンテナが正しく取り付けられていないと、無線通信によりアクセサリが正しく作動しなくなる場合があります。電話機または携帯電話を使用する場合は、必ず外部アンテナに接続してください。

ハンド・フリー・マイク

ハンド・フリー・マイクは、ご使用している電話の機種に合ったものを取付けてください。詳しくはポルシェ正規販売店にお尋ねください。

受信状態

自動車電話、携帯電話の受信状態は、走行中に絶えず変化します。建物、地形、天候による受信障害は避けられません。ハンド・フリー装置をご使用の場合、エンジンや風切音など外部の音で会話が聞き取りにくくなる場合があります。

＊日本仕様には設定がありません。

ポルシェ・コミュニケーション・マネージメント（PCM）＊

▷ PCMを使用する前に、別冊の操作説明書を参照してください。

PCMの受信状態は走行中、常に変化します。建物、地形および天候による受信障害は避けられません。特にFMステレオは周囲の状況変化に敏感です。モノラルに切替えるか、他のFM局を選択すると、受信障害を抑えることができます。

アクセサリの取付けは必ず、ポルシェ正規販売店にて行ってください。また、アクセサリはポルシェ社が推奨したものを使用してください。推奨されていないアクセサリを使用すると、ラジオの受信状態に悪影響をおよぼす恐れがあります。

＊日本仕様には設定がありません。

ナビゲーション・システム

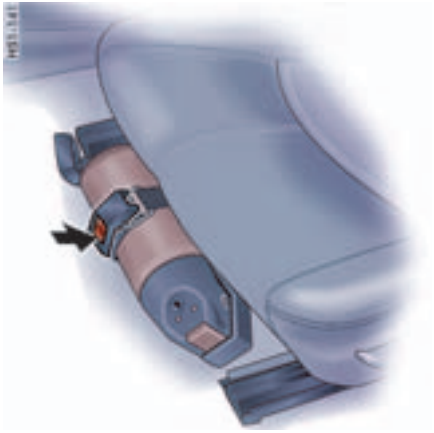
ナビゲーション・システムを初めて使用する場合は、正しく調整するため約50km走行させてください。タイヤを冬用/夏用などに交換した場合にも、同様に走行させてください。この走行中にはまだナビゲーション・システムは正確に作動していません。

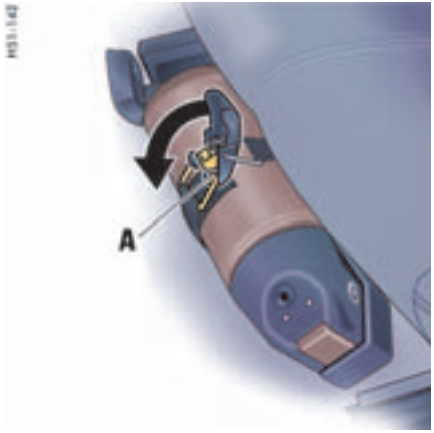
車両をフェリー、列車などで輸送した場合、スイッチを入れてから車両の現在地を確認するまで数分かかります。

雪道などで車がスピンした場合などは、ナビゲーション・システムが一時的に正確に作動しなくなる場合があります。

バッテリの接続を外した場合は、ナビゲーション・システムが再び作動するまで約15分かかります。

▷ 「2時間後および7日後の機能停止」（215ページ）を参照してください。





消火器＊

車両に消火器が装備されている場合は、運転席シートの前側に取付けられています。

消火器の取出し

1. 消火器を一方の手で持ち、もう一方の手で固定ストラップのPRESSボタン（**矢印**）を押してください。
2. 消火器を取付台から取外します。

消火器の収納

1. 消火器を取付台に戻します。
2. 固定ストラップの突起**A**をテンション・ジャッキにはめ込み、テンション・ジャッキを閉じます（**矢印**）。

知識：

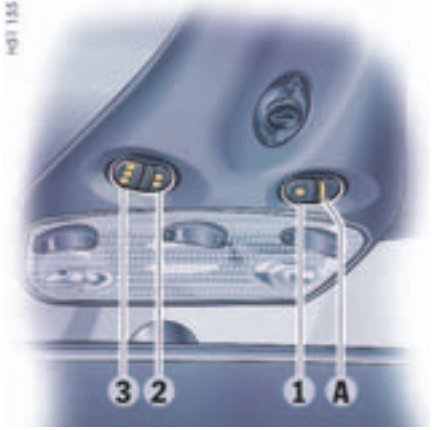
▷ 消火器の使用期限に注意してください。使用期限を過ぎた消火器を使用すると、正しく機能しない恐れがあります。

▷ 取り扱いについては、消火器の取扱説明書に従ってください。

▷ 消火器は1～2年ごとに専門の業者で点検し、機能することを確認してください。

▷ 使用後は消火器に消火剤を補充してください。

＊日本仕様に設定はありません。



1,2,3 - *プログラム・ボタン*
A - *ステータス・インジケータ・ランプ*

ホームリンク＊

シャッターやゲートの開閉用リモート・コントロール、または警報システムなどのリモート・コントロール信号をプログラム・ボタン**1～3**の各ボタンに登録すると、これらのボタンでシャッターなどを操作することができます。

⚠ 警 告

ホームリンクを操作するとき、操作する対象物の周囲に人や動物がいたり、物が置いてあると事故につながる恐れがあります。

▷ ホームリンクを操作する場合は、周囲を十分に確認してから操作してください。

▷ 各装置のリモート・コントロールに付属する注意事項を遵守してください。

ホームリンクの操作およびプログラムの作動条件

— イグニッション・スイッチをONにする

— フォグランプを消灯する

ホームリンクの操作方法

▷ プログラム・ボタン**1～3**の該当ボタンを押し、対象物に信号を送信します。信号送信中はランプ**A**が点灯します。

知識：

▷ ホームリンクを操作するときは、車両をまっすぐ対象物に向けてください。これを怠ると、反応範囲外になる場合があります。

▷ お車を売却される場合は、プログラム・ボタン**1～3**に登録してある信号を消去してください。

▷ リモート・コントロールに付属する取扱説明書をよく読み、リモート・コントロールに使用されているコードが固定または変更可能か確認してください。

＊日本仕様に設定はありません。

リモート・コントロール信号のキーへの登録

▷ リモート・コントロールに付属する取扱説明書に従ってください。

登録準備

以下の手順により工場で設定された標準コードが消去されます。他のボタンをプログラムする場合は、この手順を繰り返さないようにしてください。

▷ プログラム・ボタンの外側のボタン**1**、**3**を約20秒間押し、ランプ**A**が点滅し始め、ボタン**1**～**3**のすべてのプログラム信号が消去されます。

固定コード・システムのリモート・コントロールの場合：

1. ランプがゆっくり点滅するまで、該当するボタン**1**～**3**を押します。
   ステップ2～3は約5分間で実施してください。
2. 車両のマーク位置（図）の前方約0～30cmの位置にリモート・コントロールを持ってきます。
3. フォグランプが3回点滅するまで、リモート･コントロールの送信ボタンを押します（約45秒間）。
4. ステップ1～3を繰り返して、各リモート・コントロールの信号を他のボタンに登録します。

知識：

車両とリモート･コントロールの距離を変えて、数回の試行が必要になる場合があります。
5分間を過ぎると、フォグランプが点滅します。この場合、プログラム手順を最初からやり直してください。

変更可能なコード・システムのリモコンの場合：

1. 固定コード・システムと同様にプログラム・ボタンに各リモコンの信号を登録します（ステップ1～3）。
2. システムの同期化
   自動シャッターなどの受信機側のプログラム・ボタンを押します。約30秒待ってからステップ3に進みます。
3. プログラム・ボタンの登録するボタンを2回押します。装置によっては2回押した後、確定のため3回目を押さなければならない場合もあります。
4. ステップ1～4を繰り返して、各リモコンの信号を他のボタンに登録します。

知識：

▷ 本章の指示およびリモート・コントロールの取扱説明書に従って作業を実施したにもかかわらず、リモート・コントロールの信号をプログラム・ボタンに登録できない場合は、ポルシェ正規販売店にお問い合わせください。

プログラム・ボタンの個別ボタンの再プログラミング

1. ランプがゆっくり点滅するまで、該当するボタン**1**～**3**を押します(約20秒間)。ステップ2、3は約5分間で実施してください。
2. 車両のマーク位置（図）の前方約0～30cmの位置にリモート･コントロールを持ってきます。
3. フォグランプが3回点滅するまで、リモート･コントロールの送信ボタンを押します（約45秒間)。
4. ステップ1～3を繰り返して、各リモート・コントロールの信号を他のボタンに登録します。

知識：

車両とリモート･コントロールの距離を変えて、数回の試行が必要になる場合があります。

5分間を過ぎると、フォグランプが点滅します。この場合、プログラム手順を最初からやり直してください。

信号の消去

(車を売却する場合)

▷ プログラム・ボタンの外側のボタン**1**、**3**を同時に約20秒間押すと、ランプ**A**が点滅し始め、ボタン**1**～**3**の全てのプログラム信号が消去されます。

シフト・ギヤ

マニュアル・トランスミッション、
クラッチ …… 142
ティプトロニックS …… 143

マニュアル・トランスミッション、クラッチ

⚠ 警 告

予期せぬ事故を起こす恐れがあります。

▷ ペダルの下に、フロアマットなどが入らないように注意してください。

フロア・マットはポルシェ社が認可した物を使用してください。

シフト・ポジションの位置はギヤ・レバーに表示してあります。

▷ シフト・チェンジを行うときはクラッチをしっかり踏込み、ギヤ・レバーを確実に操作してください。

▷ ギヤをバックに入れるときは完全に車を停止させてください。

▷ 上り坂ではエンジンに負荷がかかりすぎないように、また下り坂では十分エンジン・ブレーキがかかるようにシフトダウンしてください。

イグニッション・スイッチをONにし、ギヤ・レバーをリバースに入れると、リバース・ランプが点灯します。

エンジンのレブ・リミット（回転限界）

▷ タコメータの針がレッドゾーンに入る前に1段高いギヤにシフトアップするか、あるいはアクセルを緩めるよう心掛けてください。

レッドゾーンに達すると、ガソリンの供給がしゃ断されます。

⚠ 注 意

低いギヤにシフト・ダウンした場合、エンジンを損傷する恐れがあります。

▷ 低いギヤにシフトダウンする前に、エンジンが規定の回転数に下がっているか確認してください。

ティプトロニックS

ポルシェ社のティプトロニックは、(「オートマチック」ポジションと「マニュアル」ポジションの）2つのスピード・セクション・モードがある5速トランスミッションです。

オートマチック・モードではセレクタ・レバーを**“D”**の位置に入れると、ギヤ・チェンジは自動に行われます。
ステアリングのロッカー・スイッチを操作することにより、一時的にオートマチック・モードからマニュアル・モードにすることが可能です。

セレクタ・レバーを**“M”**の位置に入れると、**マニュアル・モードになり**ステアリングにあるロッカー・スイッチを操作することによりマニュアル・モードのギヤ・チェンジができます。

オートマチック・モードとマニュアル・モードは、走行中、お好みにあわせて切替えることができます。

知識：
誤ってロッカー・スイッチを操作し、急なギヤ・チェンジをしないように注意してください。

セレクタ・レバーの操作

イグニッション・スイッチをOFFにすると、セレクタ・レバーが固定されます。

イグニッション・スイッチをONにすると、ブレーキ・ペダルを踏んで、ロック解除ボタンを押したときのみ、セレクタ・レバーを**“P”**および**“N”**から動かすことができます。

ロック解除ボタン
“P”や**“R”**の位置にレバーを動かす場合、セレクタ・レバーの上部にある誤操作防止用のロック解除ボタン（**矢印**）を押してください。

エンジンの始動

安全のためセレクタ・レバーが**“P”**か**“N”**の位置にあり、ブレーキ・ペダルを踏んだ状態でないとエンジンを始動することはできません。

発進

- ▷ エンジンがアイドリング状態であることを確認してブレーキ・ペダルを踏んでセレクタ・レバーを**“P”**レンジから他のレンジ（**“D”**、**“M”**または**“R”**）に動かしてください。
- ▷ 走行レンジにシフトすると車両がゆっくりと動きだすので（クリーピング現象）、発進の準備が整うまでブレーキ・ペダルから足を放さないでください。
- ▷ 走行レンジにシフト後はエンジン・パワーが確実にドライブ・トレーンに伝達されるまでアクセルを吹かさないでください。

セレクタ・レバー・ポジション・インジケータおよびギヤ・ポジション・インジケータ

エンジン作動時に、セレクタ・レバー位置および選択されたギヤが表示されます。

セレクタ・レバーが2つの位置の中間にある場合は、

- インストルメント・クラスタ内のインジケータが2秒間点滅します。**および**
- オンボードコンピュータには“Selector lever not engaged”と警告表示されます。

▷ 正確にギヤ・チェンジを行ってください。

- セレクタ・レバー位置は、正しいレバー位置が検出されると表示されます。
- 短い検出時間の後、現在のギヤ位置が表示されます。

トランスミッションが故障している場合は：

- インストルメント・クラスタ内の**4速ギヤ**表示が点滅します。
- オンボードコンピュータに“Tiptronic emergency run”と警告が表示されます。

「走行制限プログラム」（148ページ）も参照してください。

▷ 故障が発生した場合は、直ちに最寄りのポルシェ正規販売店で修理してください。ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店で実施される事を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

セレクタ・レバー・ポジション

Pレンジーパーキング・ロック

▷ 車が完全に停止してから、このレンジに入れてください。

▷ パーキング・ロックは必ずパーキング・ブレーキをかけてから入れてください。また、**“P”**から他のレンジにシフトした後にパーキング・ブレーキを解除してください。

イグニッション・キーは**“P”**の位置のみで抜くことができます。

Rレンジーリバース

▷ 車が完全に停止してブレーキを効かせてから、このレンジに入れてください。

Nレンジーニュートラル

けん引するときや自動洗車機を使用するときなどは、必ずこのレンジを使用してください。

▷ エンジンがアイドリング状態で、ブレーキ・ペダルを踏込んでいるときに、発進させるためのレバー位置（**D**、**M**または**R**）にシフトするようにしてください。

Dレンジ-オートマチック・セレクション・モード

“D”の位置は、通常走行時に使用します。車速とアクセルの踏込み方により、前進ギヤが自動的に切替ります。

ギヤ・チェンジの特性は、アクセル・ペダルの踏込み方や車速、エンジン回転数および通常の加速、コーナリング時の横方向の加速、地形に応じて変化します。
コーナー手前の急激なスロットルの戻しを感知して、コーナリング手前のシフトアップを防ぎます。
コーナリング中は、横方向の加速を感知してエンジン回転数がレブリミットに達するまで、現在のギヤが維持されます。限界を超えなければ、ギヤはシフトアップされません。
ブレーキを踏むと、減速の程度に応じて、ギヤは自動的にシフトダウンされ、エンジン・ブレーキがより効果的に作用します。
コーナー手前でブレーキをかけた場合は、コーナーを曲がりきってアクセルを踏むときにシフトダウンしなくてもよいように、最適のギヤが選択されます。

スポーツ・モードON

▷ 「スポーツ・モード」（51ページ）を参照してください。

スポーツ・モード・プログラムがONになっていると、ティプトロニックはスポーティなギヤ・チェンジ特性に切替わり、シフト時間を短くします。
減速時のシフトダウンは早めに開始されます。
エンジン高回転域であっても、わずかな減速に反応してシフトダウンが行われます。

発進

アクセルを緩やかに踏むと**2速**で発進します。エンジンが冷えてるときやアクセルを強く踏込むと**1速**で発進します。

ステアリング・ホイールでのギヤ・シフト

ステアリング・ホイールのロッカー・スイッチで、**“D”**（オートマチック・セレクション・モード）から**“M”**（マニュアル・モード）へ一時的に切り替えることができます。

有利点：
- カーブや市街地に入る前にシフトダウンします。
- エンジン・ブレーキにより下り坂でシフトダウンします。
- 急加速時にシフトダウンします。
- 発進時にギヤが1速に入ります。

以下の場合モードはマニュアル・セレクション・モードのままです。
- コーナリング時（横加速度）やオーバーランした場合。
- 車両が交差点などで停車した場合。

以下の場合オートマチック・セレクション・モードに戻ります。
- コーナリング時やオーバーラン時以外は、自動約8秒後。
- アクセル・ペダルを踏込んでキックダウンした場合。
- 発進後。

一時的なシフトダウン

状況：
約54km／h以上

▷ 走行中にアクセル・ペダルをすばやく踏込むと、トランスミッションは最もスポーティなシフト・プログラムに入り、即座にシフトダウンされます。このプログラムでは通常よりもシフト・ポイントが高くなります。従って、1段階または2段階分のシフトダウンが素早く行われます。

作動停止：
▷ この機能はアクセル・ペダルの踏込み率を25%以下まで戻すと作動しなくなります。

キックダウン

キックダウン機能はセレクタ・レバーが**“D”**位置にある場合、ステアリング・ホイールのロッカー・スイッチを使用して一時的に**“M”**（マニュアル・モード）にしたときも機能します。

▷ 追い越し時など最高の加速が必要な場合は、アクセル・ペダルをフルスロットルよりもさらに（キックダウンの位置まで）踏込んでください。

セレクタ・レバーの位置と車速に応じ、トランスミッションは最も適切な低いギヤにシフトダウンされます。
そのギヤでのエンジン回転数の上限に達するまで1つ上のギヤにはシフトアップされません。
キックダウン時のギヤ・チェンジに要求されるエンジン回転数は、アクセル・ペダルがスロットル・ポジションの80%に戻されるまで維持されます。

Mレンジ-マニュアル・セレクション・モード

現在のギヤは、**“D”**から**“M”**にシフトしてもそのまま維持されます。

“M”から**“D”**にシフトした場合は、現在の走行状態に最も適したシフト・プログラムになり、適切なギヤが選択されます。

マニュアル・セレクション・モード“M”ではキックダウンが機能しません。追い越しなど急加速が必要な場合は、手動で一つ低いギヤに落としてください。
アッパー・ステアリング・ホイール上側のスポークにある2個のロッカー・スイッチによって、ステアリングから手を放さずに快適な5速前進ギヤのシフト・チェンジができます。

シフトアップ

▷ ロッカー・スイッチの上側（十）を押します。

シフトダウン

▷ ロッカー・スイッチの下側（ー）を押します。

車速とエンジン回転数に関係なく、いつでも次のギヤにシフトアップ／ダウンできます。エンジン回転数に適さないシフトアップやシフトダウンはコントローラーにより制限されています。

ステアリングのロッカー・スイッチをつづけて2度すばやく操作すると、一度に2段のシフトダウンができます。

エンジン回転数がそのギヤの限界に達するとトランスミッションはトラクションを損なうことなく、自動的にシフトアップします。また、エンジンがアイドル回転数に達する直前に自動的にシフトダウンします。

上り坂ではエンジン・パワーを有効に使用できるように、また下り坂では十分エンジン・ブレーキがかかるようにシフトダウンして適切な低いギヤを使用してください。

PSM解除またはスポーツ・モードON

▷ 「PSMの解除」（53ページ）を参照してください。

▷ 「スポーツ・モード」（51ページ）を参照してください。

PSMを解除するか、スポーツ・モードを作動させると、エンジン回転数がギヤの限界に達しても自動的にシフトアップは行われません。

シフトアップ抑制の解除

アクセル・ペダルをキックダウンすることにより、1つ上のギヤにシフトアップできるようになります。たとえば、追い越し中にエンジン回転数がそのギヤの限界に達しても自動的にシフトアップが行われないときは、アクセル・ペダルをキックダウンすることによりシフトアップすることができます。

▷ アクセル・ペダルはスロットル全開位置を超えて踏み込んでください（キックダウン）。

マニュアル・モードの故障

マニュアル・モードで異常が発生した場合は、電子制御によりオートマチック・モードに切替り、セレクタ・レバーのディスプレイの**“D”**の位置が点灯します。

▷ このような不具合が発生した場合は、ポルシェ正規販売店で修理してください。ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店で実施される事を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

停止

▷ 信号待ちなどの短時間の停車時には、セレクタ・レバーはドライブの位置のままで、フット・ブレーキを踏んでください。

▷ エンジンをかけたまま長時間停車する場合は、セレクタ・レバーを**“N”**（アイドリング状態）に入れてください。

セレクタ・レバーを**“D”**に動かす場合は、必ずブレーキを踏んでください。

▷ 登り坂ではアクセル・ペダルを踏みながら停止位置を保つようなことはしないでください。フット・ブレーキを踏むか、パーキング・ブレーキを効かせてください。

▷ 車両を離れるときは、必ずパーキング・ブレーキを引き、セレクタ・レバーを**“P”**位置に入れてください。

駐車

▷ アクセルは慎重に操作してください。

▷ 特に狭い場所で駐車・移動する場合は、フット・ブレーキを使って速度を調節してください。

冬の走行

雪や凍結している滑りやすい急な坂道では、マニュアル・モードを使用してください。このモードでは、タイヤがスピンするようなギヤ・チェンジが防止できます。

けん引およびけん引による始動

▷ 「けん引およびけん引による始動」（239ページ）を参照してください。

走行制限プログラム

トランスミッションに故障が発生すると以下の症状が現れます。

— インストルメント・クラスタ内の**4速ギヤ**と、セレクタ・レバー・ポジションが交互に点滅します。

— オンボードコンピュータに“Tiptronic emergency run”（ティプトロニック緊急作動警告）が表示されます。

— トランスミッションのシフトができなくなります。

⚠ 警 告

走行制御プログラム作動時はリバース・ロック・モニタが機能しません。走行中、事故および損傷の危険性があります。

▷ セレクタ・レバーを**“R”**位置にしないでください。

トランスミッション故障時には、以下の手順に従ってください。

1. 安全な場所に車両を停止させます。
2. セレクタ・レバーを**“P”**位置に動かします。イグニッションをOFFにし、10秒間待ちます。
3. エンジンを始動します。セレクタ・レバーを**“D”**位置の2速ギヤおよび**“R”**位置にすることができるようになります。
4. 最寄りのポルシェ正規販売店にお急ぎください。
   整備についてはポルシェ正規販売店にご相談ください。ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店で実施される事をお願い致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

モビル・ルーフ

チルティング／スライディング・
ルーフ …… 150
コンバーチブル・トップ ……154
ウィンドストップ ……164
ハードトップ ……168
ルーフ・トランスポート・システム …174

チルティング／スライディング・ルーフ

⚠ 警 告

チルティング／スライディング・ルーフを操作またはワンタッチ作動で閉じるときに怪我をする恐れがあります。

▷ チルティング／スライディング・ルーフを操作するときには、同乗者が怪我をしないように十分注意してください。

▷ 車両を離れるときは、必ずイグニッション・キーを抜取ってください。お子様などがチルティング／スライディング・ルーフを操作し、手や首などを挟んで怪我をする恐れがあります。

▷ チルティング／スライディング・ルーフに挟まれそうになった場合は、直ちにスイッチから手を放し、チルティング／スライディング・ルーフ反対方向に作動させてください。

作動条件

チルティング／スライディング・ルーフは下記の条件のときに作動します。

— イグニッションがON（エンジンONまたはOFF）になっている。**または**

— 室内でドアが閉じているときまたは最初にドアを開くまでの間。

A -チルティング／スライディング・ルーフを開く

▷ チルティング／スライディング・ルーフが好みの位置になるまでロッカー・スイッチの後部**A**を押しつづけます。

ワンタッチ作動

▷ ロッカー・スイッチの後部**A**を押しすぐに放すと、チルティング／スライディング・ルーフは自動的に全開になります。途中で止めるには、ロッカー・スイッチをもう一度押します。

知識：

ワンタッチ作動によってチルティング／スライディング・ルーフを開くと、チルティング／スライディング・ルーフは風きり音が最適な位置まで開きますが、ロッカー・スイッチを再び押すと、完全に開くことができます。

B -チルティング／スライディング・ルーフを閉じる

▷ チルティング／スライディング・ルーフが好みの位置になるまでロッカー・スイッチの前部**B**を押しつづけます。

ワンタッチ作動

▷ ロッカー・スイッチの前部**B**を押してすぐに放すと、チルティング／スライディング・ルーフは自動的に全閉になります。

途中で止めるには、ロッカー・スイッチをもう一度押します。

C -チルティング／スライディング・ルーフをチルトアップする

▷ チルティング／スライディング・ルーフが好みの高さになるまでロッカー・スイッチの中央部**C**を押します。

ワンタッチ作動

▷ ロッカー・スイッチの中央部**C**を押してすぐに放すとチルティング／スライディング・ルーフは最終位置までチルトアップします。

途中で止めるには、ロッカー・スイッチをもう一度押します。

B -チルティング／スライディング・ルーフをチルトダウンする

▷ チルティング／スライディング・ルーフが好みの高さになるまでロッカー・スイッチ**B**の前部を押します。

故障時の取扱い

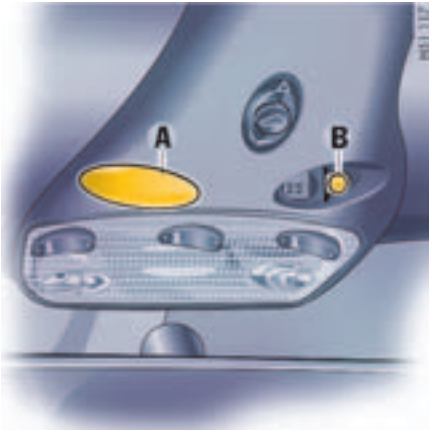
チルティング／スライディング・ルーフを手動で閉じる前に、ヒューズに異常がないか点検を行ってください。

▷ 詳しくは「電気系統」（214ページ）を参照してください。

⚠ 警 告

チルディング／スライディング・ルーフを閉じるとき指などを挟まれて怪我をする恐れがあります。

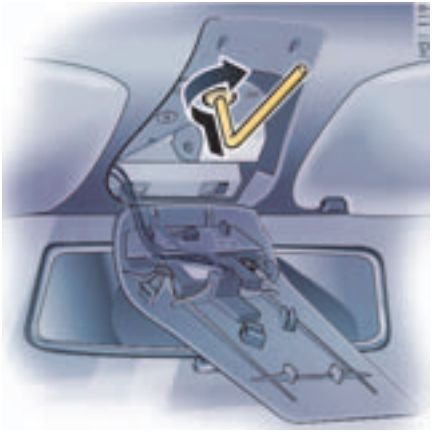
▷ 故障時は、ロッカー・スイッチでチルティング／スライディング・ルーフを操作しないでください。



チルティング／スライディング・ルーフの閉じ方

1. 爪またはドライバーを使用し、両方のカバー**A**を慎重に取外します。
   ホームリンク装着車の場合、カバーの代わりにホームリンク・ボタンを慎重に外す必要があります。
2. ネジ**B**（2本）を取外します。

3. チルティング／スライディング・ルーフ・ドライブのカバーを手前に降ろします。アレン・キー（**矢印**）をホルダから取外します。
4. アレン・キーを駆動軸に挿入します。



5. アレン・キーを駆動軸に押入れ、押したまま時計回りに回転させ、チルティング／スライディング・ルーフを閉じます。
6. アレン・キーを取外します。
   カバーを閉め、ネジを締め付けます。
7. 上記の操作中および操作後、チルティング／スライディング・ルーフは作動しなくなりますのでポルシェ正規販売店にて修理を受けてください。ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店で実施される事を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

⚠ 警 告

チルディング／スライディング・ルーフが損傷する恐れがあります。

▷ 故障時の取扱い後は、コンバーチブル・トップのロッカー・スイッチを操作しないでください。

コンバーチブル・トップ

操作の概要は運転席のサンバイザ裏面に表示してあります。

▷ 「車のお手入れ」（190ページ）を参照し、その内容を守ってください。

⚠ セーフティ・ノート

以下の場合にはコンバーチブル・トップを開閉しないでください。

▷ 気温0℃以下のとき。

▷ 車両の片側が縁石、リフト、ジャッキの上にあるとき。

▷ コンバーチブル・トップの作動する範囲に荷物などがあるとき。

▷ ロールオーバー・バーが出ているとき。

▷ エンジンを始動せずにコンバーチブル・トップの開閉を繰り返すと、バッテリが上がる恐れがあります。

▷ 走行するときは、コンバーチブル・トップは全開もしくは全閉のいずれかにしてください。

▷ コンバーチブル・トップの開閉はコンバーチブル・トップの上方に十分な空間があることを確認してから行ってください。ガレージなどでは特に注意が必要です。

▷ 湿気による汚れや傷を防ぐために、コンバーチブル・トップは、汚れを落とし、よく乾燥させてから開いてください。

▷ 出来るだけ日陰に駐車してください。長時間、日光にさらされると、コンバーチブル・トップの繊維やゴムを傷めたり、退色させたりします。

▷ 走行時にコンバーチブル・トップを操作する場合は、平坦な道路の場合に限ります。

▷ 強風の場合は、コンバーチブル・トップを作動させないでください。（風速20m/s以上）

ドア・ウィンドウ、リア・サイド・ウィンドウ

コンバーチブル・トップが開かれると、リア・サイド・ウィンドウは自動的に下がります。コンバーチブル・トップを途中で止めずに全開させた場合は、ドア・ウィンドウは自動的に全閉します。
ドア・ウィンドウを閉じると、自動的にリア・サイド・ウィンドウも閉じます。
ドア・ウィンドウを開くと、自動的にリア・サイド・ウィンドウも開きます。

コンバーチブル・トップが閉じられると、リア・サイド・ウィンドウは自動的に下がります。コンバーチブル・トップを途中で止めずに全閉させた場合は、全てのウィンドウが自動的に全閉します。
コンバーチブル・トップをリモート・コントロールを使用して閉じた場合、ウィンドウは必ずドアにあるロッカー・スイッチを使用して閉じてください。

コンバーチブル・トップの作動条件

ロッカー・スイッチで操作する前には

— イグニッションをONの位置にしてください。

（エンジンは、作動中または停止中でもかまいません。）

— エンジン・ルーム・リッドを閉じてください。

— 車速が約50km/h以上になると、コンバーチブル・トップの開作動が中断します。

リモート・コントロールで操作する前には

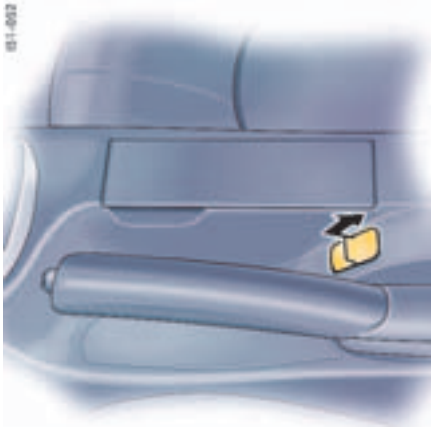
— エンジン・ルーム・リッドを閉じてください。

コンバーチブル・トップを開くには

⚠ 警 告

コンバーチブル・トップ操作時に怪我や損傷する恐れがあります。

▷ コンバーチブル・トップ操作時に手を挟みそうになるなど、危険な状況にならないように十分注意してください。



▷ コンバーチブル・トップを操作する前には、リア・シートの後部に物がないことを確認してください。

▷ 車両の見えない場所での、リモート・コントロール・キーによる操作はしないでください。

▷ 万が一、危険な状況になった場合は、ただちにスイッチもしくはリモート・コントロールの操作をやめてください。コンバーチブル・トップは作動を停止します。

▷ 「インストルメント・クラスタおよびオンボードコンピュータ上の警告」（104ページ）を参照してください。

ロッカー・スイッチによる操作

▷ コンバーチブル・トップが全開するまで、またはドア・ウィンドウがお好みの位置にくるまでスイッチを上側に引き続けます。オンボードコンピュータ上の警告が消えます。

万が一、危険な状況になった場合は、ただちにスイッチの操作をやめてください。コンバーチブル・トップは作動を停止します。

リモート・コントロールによる操作

（仕向地により装備が異なります。）

▷ ドアのロックを解除します。

コンバーチブル・トップが全開するまで、またはドア・ウィンドウがお好みの位置にくるまでリモート・コントロールのコンバーチブル・トップ操作ボタンを押し続けます。

万が一、危険な状況になった場合は、ただちにリモート・コントロールの操作をやめてください。コンバーチブル・トップは作動を停止します。

▷ 必要に応じて、再びドアを施錠してください。

▷▷▷

コンバーチブル・トップの作動条件

ロッカー・スイッチで操作する前には

— イグニッションをONの位置にしてください。

（エンジンは、作動中または停止中でもかまいません。）

— エンジン・ルーム・リッドを閉じてください。

— 車速が約50km/h以上になると、コンバーチブル・トップの開作動が中断します。

リモート・コントロールで操作する前には

— エンジン・ルーム・リッドを閉じてください。

コンバーチブル・トップを閉じるには

⚠ 警 告

コンバーチブル・トップ操作時に怪我や損傷する恐れがあります。

▷ コンバーチブル・トップ操作時に手を挟みそうになるなど、危険な状況にならないように十分に注意してください。

▷ 車両の見えない場所での、リモート・コントロール・キーによる操作はしないでください。

▷ 万が一、危険な状況になった場合は、ただちにスイッチもしくはキーの操作をやめてください。コンバーチブル・トップは作動を停止します。

▷ コンバーチブル・トップを閉じるときは、バニティ・ミラーを閉じておいてください。

▷ 「インストルメント・クラスタおよびオンボードコンピュータ上の警告」（104ページ）を参照してください。

ロッカー・スイッチによる操作

▷ コンバーチブル・トップが全閉するまで、またはドア・ウィンドウがお好みの位置にくるまでスイッチを下側に押し続けます。オンボードコンピュータ上の警告が消えます。

万が一、危険な状況になった場合は、ただちにスイッチの操作をやめてください。

コンバーチブル・トップは作動を停止します。

リモート・コントロールによる操作

（仕向地により装備が異なります。）

▷ ドアを解錠します。

コンバーチブル・トップが全閉するまで、またはドア・ウィンドウがお好みの位置にくるまでリモート・コントロールのコンバーチブル・トップ操作ボタンを押し続けます。

万が一、危険な状況になった場合は、ただちにリモート・コントロールの操作をやめてください。コンバーチブル・トップは作動を停止します。

▷▷▷

コンバーチブル・トップがフロント・ウィンドウのフレームにロックできないときには：

▷ 再びコンバーチブル・トップを開きます。エンジンを始動させ、スイッチを使ってコンバーチブル・トップを再び閉じます。このとき、（**矢印**）のようにコンバーチブル・トップのハンドル部分を持ち、フロント・ウィンドウ方向に力を添えながら閉じてください。

警告メッセージ

リア・リッド

コンバーチブル・トップ作動中にエンジン・ルーム・リッドが開いている場合、オンボードコンピュータ上に警告が表示されます。

▷ コンバーチブル・トップの操作はできません。

コンバーチブル・トップの状態

▷ 「インストルメント・クラスタおよびオンボードコンピュータ上の警告」（104ページ）を参照してください。

非常時の取扱い

▷ コンバーチブル・トップを手動で閉じる前に、次の点をもう一度確認してください。
スイッチでコンバーチブル・トップを操作するとき、イグニッションはONの位置で、エンジン・ルーム・リッドは閉じていましたか？
ヒューズに異常はありませんか？
「電気系統」（214ページ）を参照してください。

⚠ 警 告

コンバーチブル・トップの部品で手を挟むなど、怪我をする恐れがあります。

▷ 非常時の取扱いには、危険が伴いますので十分に注意してください。

▷ 非常時の取扱いは慎重に行い、スイッチ、リモート・コントロールを使用してコンバーチブル・トップを操作しないでください。

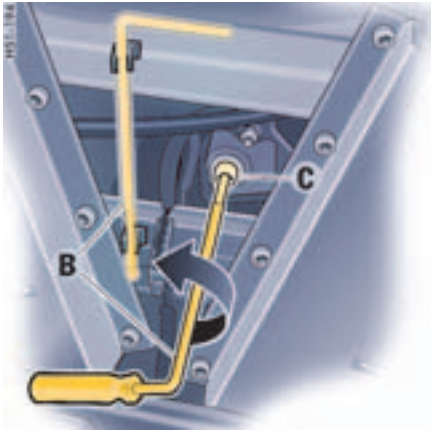
非常時の取扱いを行う前に

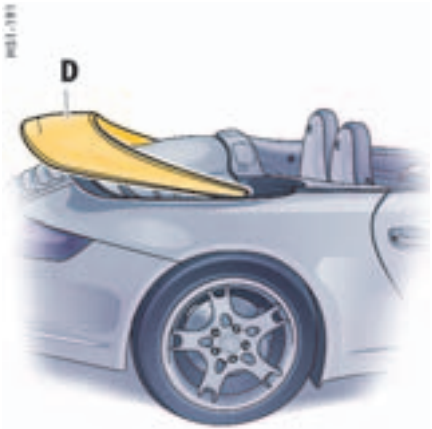
▷ コンバーチブル・トップが不意に動きださないよう、イグニッション・キーを抜取ります。

▷ 工具セットからスクリュー・ドライバーを取出します。「トランク・ルーム（911カレラ、911カレラS）」（132ページ）を参照してください。

▷ リア・シートのバックレストを前に倒します。

▷▷▷





リア・ウォール・トリムを取外すには

1. ネジAをリア・ウォール・トリムから取外します。必要に応じてスクリュー・ドライバー・インサートを引抜き、元の位置に戻します。
2. シートベルトが通っている切りかき部分を持ち、リア・ウォール・トリムを押し下げます。リア・ウォール・トリムを手前に引き、持ち上げて取外します。

コンバーチブル・トップ・コンパートメント・カバーDを開くには

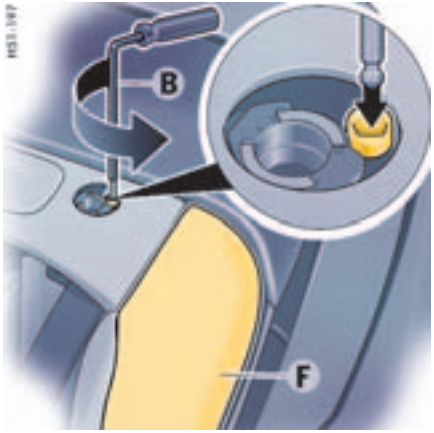
1. 赤いアレン・キー**B**をホルダーから取外します。
2. アレン・キー**B**の端にスクリュー・ドライバーのハンドルを取付けます。アレン・キーを**C**の穴に差込み、コンバーチブル・トップ・コンパートメント・カバー**D**が全開するまで反時計回り（矢印の方向）に回します。
   アレン・キーを引抜きます。

⚠ 警 告

コンバーチブル・トップを操作するとき、アレン・キーが入ったままだと、アレン・キーが一緒に回り、抜け飛んだりして怪我をする恐れがあります。

▷ コンバーチブル・トップを操作する前は、必ずアレン・キー**B**を**C**の穴から外しておいてください。

コンバーチブル・トップ・コンパートメント・カバーを開いた後は、スイッチを使用してコンバーチブル・トップを閉じてください。万一、コンバーチブル・トップが閉じないときは、引き続き非常時の取扱いを行ってください。



サイド・フラップ F を開くには

1. イグニッション・キーを取外します。
2. ドライバーを使用して、車両の後方からプラスチック・カバー **E** を取外します。
3. 左側のサイド・フラップ **F** が全開するまで、アレン・キー **B** を穴に差込み、反時計回り（**矢印の方向**）に回らなくなるまで、回します。
4. 右側のサイド・フラップも同様に開いてください。
   アレン・キー **B** を抜いてください。

⚠ 警 告

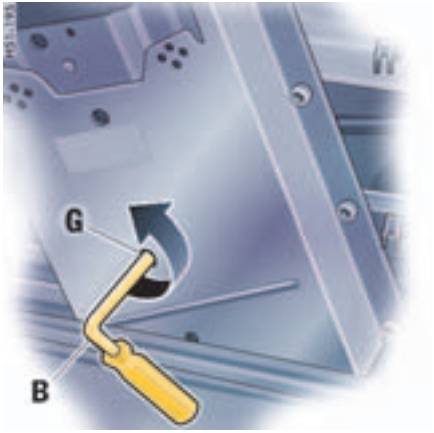
コンバーチブル・トップを操作するとき、アレン・キーが入ったままだと、アレン・キーが一緒に回り、抜け飛んだりして怪我をする恐れがあります。

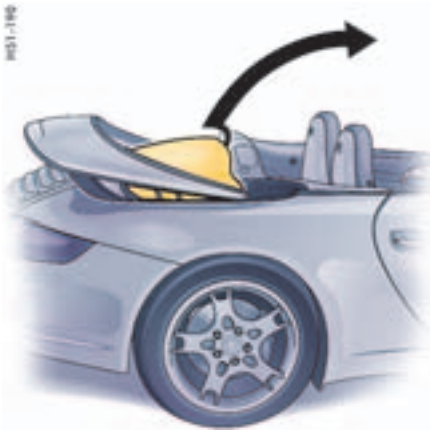
▷ コンバーチブル・トップを操作する前は、必ずアレン・キー**B**を**C**の穴から外しておいてください。

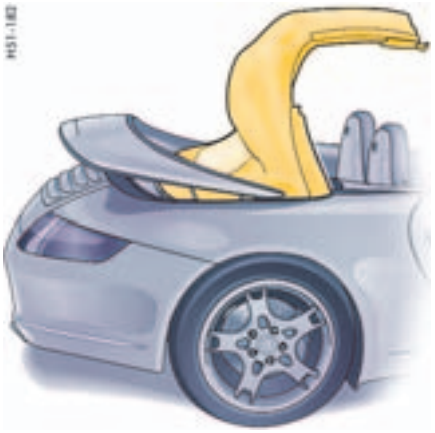
▷ サイド・フラップを開いた後は、スイッチを使用してコンバーチブル・トップを閉じてください。

コンバーチブル・トップがスイッチで閉じないときは、引き続き非常時の取扱いを行ってください。

▷▷▷

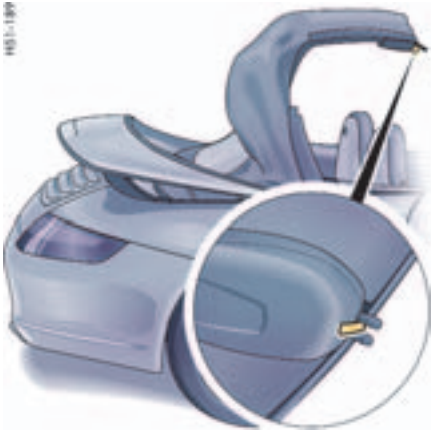




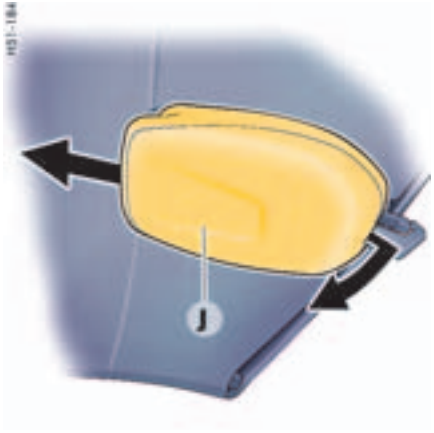


手動でコンバーチブル・トップを閉じるには

1. アレン・キー**B**を油圧バルブ**G**に差込み、反時計回りに約1回転回し、アレン・キー**B**を抜いてください。
2. フロント・シートの後ろに回り、コンバーチブル・トップの中央を持ってください。
3. コンバーチブル・トップが一番高い位置にくるまで持ち上げてください。

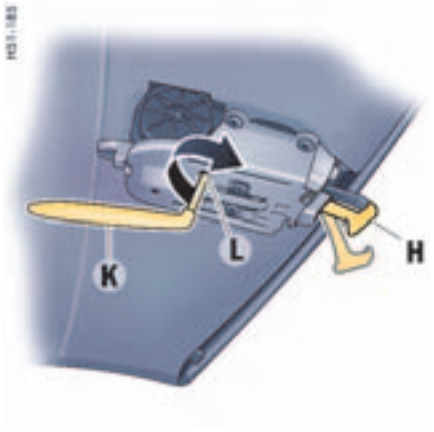


車両の右側に回り、コンバーチブル・トップ前端に付いているロッキング・フックで、コンバーチブル・トップをロックしてください。



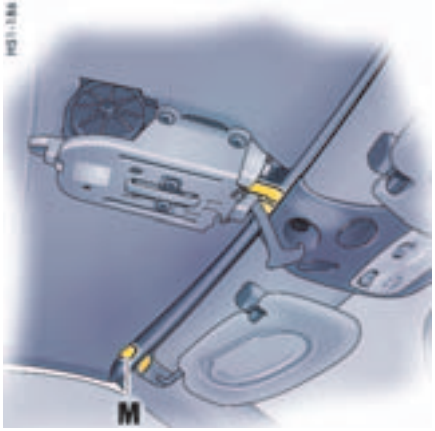
ロッキング・フックHを伸ばすには

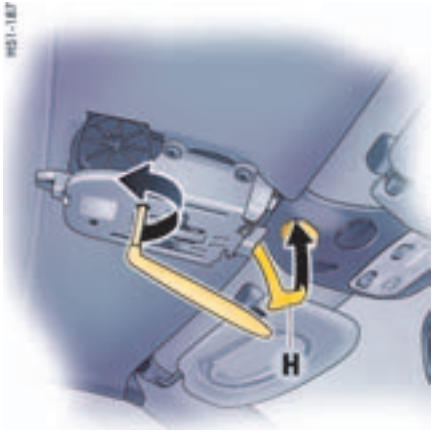
1. プラスチック・カバー**J**の前端を下に引きます。カバーの後部を慎重に押して、取外します。



2. フロント・シート間にある小物入れからアレン・キー**K**を取出します。
3. アレン・キー**K**を**L**の穴に差込み、**“open”**の矢印の方向に抵抗を感じるまで回します。
   ロッキング・フック**H**を引き伸ばします。
4. アレン・キーを抜きます。

▷▷▷





5. コンバーチブル・トップをフロント・ウィンドウのフレームまで引き寄せます。

ロッキング・フックHをフロント・ウィンドウのフレームにロックするには

▷ コンバーチブル・トップをロックするとき、ロッキング・フックがフロント・ウィンドウのフレームに確実に固定されていることを確認してください。必要に応じて、コンバーチブル・トップをフロントに引き寄せてください。

取付けタブ**M**をフロント・ウィンドウのフレームに差込んでください。

1. アレン・キーを差込み、**“close”**の矢印の方向に抵抗を感じるまで回し、コンバーチブル・トップを完全に固定します。
2. アレン・キーを抜きます。

プラスチック・カバーの取付け

▷ コンバーチブル・トップのロック機構の後部からプラスチック・カバーを被せます。

カバーをガイド**N**にはめ込み、カバーの前端を上に押して、固定します。

⚠ 警 告

思わぬ事故を起こし、怪我をする恐れがあります。

▷ プラスチック・カバーを外したまま運転をしないでください。

コンバーチブル・トップ・コンパートメント・カバーを閉じるには

⚠ 警 告

コンバーチブル・トップ・コンパートメント・カバーを閉じるとき、手などを挟まれる恐れがあります。

▷ 手は必ずコンバーチブル・トップ・コンパートメント・カバーの上において閉じてください。

1. 車両の後方で作業を行います。
2. ブレーキ・ランプの上方にあるコンバーチブル・トップ・コンパートメント・カバーを持ち、完全に閉じるまで前方に押してください。

⚠ 注 意

コンバーチブル・トップが損傷する恐れがあります。

▷ 非常時の処置を行った後は、ロッカー・スイッチ、リモート・コントロールを使用してコンバーチブル・トップを操作しないでください。

▷ ポルシェ正規販売店まで慎重に運転し、修理を受けてください。

ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店で実施される事を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

例：911カレラ、911カレラS

ウィンドストップ

ウィンドストップは、フロント・トランク・ルームのプロテクト・バッグの中に収納されています。

プロテクト・バッグは、ベルクロ・ストラップでトランク・ルームに固定されています。

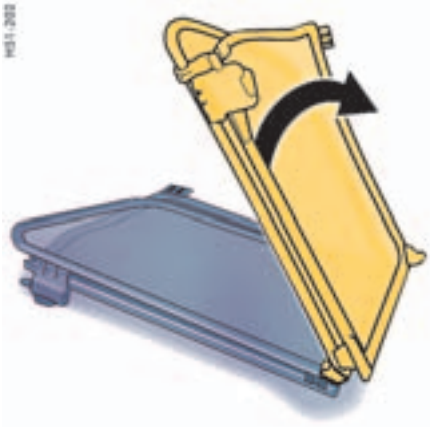
⚠ 注 意

ウィンドストップが損傷するのを防ぐために、次の事項を守ってください。

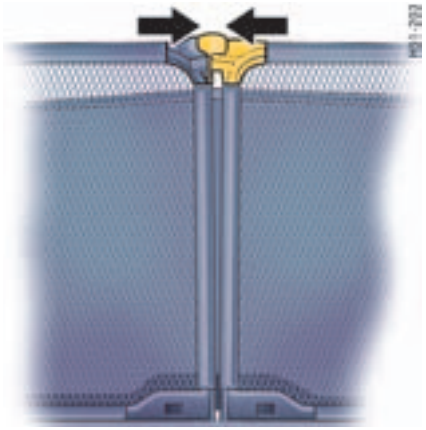
- ▷ フロント・トランク・ルーム内の荷物などが当たって、ウィンドストップが損傷しないようにしてください。
- ▷ ウィンドストップの上には物を置かないでください。
- ▷ ウィンドストップの下には尖った物を入れないでください。
- ▷ フロント・シートの調節中およびフロント・シートのバックレストを倒す際にウィンドストップを傷付けないでください。また、シートを調節するときは、シートのバックレストがウィンドストップに触れないようにしてください。
- ▷ ウィンドストップを取付けたままリア・シートのバックレストを起こさないでください。
- ▷ ハードトップを取付ける前にウィンドストップを取外してください。

ウィンドストップを取付けるには

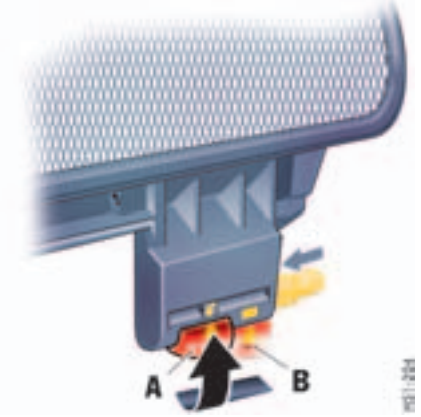
1. プロテクト・バッグのファスナーを開き、ウィンドストップをフロント・トランク・ルームから取出します。



2. リア・シート・バックレストを前側に折りたたみます。「リア・シート・バックレスト」（33ページ）を参照してください。
3. 上下のロックがかみ合うまでウィンドストップを開きます。



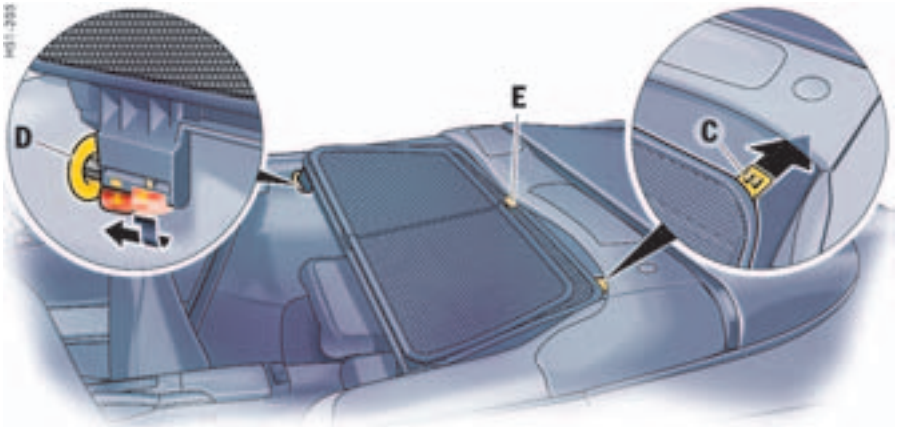
4. ウィンドストップ下側のロックが確実にロックされているか、確認してください。ロックされていないときは、左右両側のロックを同時に**矢印**の方向に押してロックしてください。



A - *ロック解除*
B - *ロック*

5. 2つの赤いロッキング・ハンドルが**A**の位置（解除位置）にあるか確認します。必要に応じてロックを解除します。赤いロッキング・ハンドルを内側に押し、**矢印**で示すように横方向へ回転させます。

▷ ▷ ▷



6. ウィンドストップの取付けタブ**C**をリア・シートのシートベルト・ガイドへ差込みます。プラスチックの留め具**E**をウィンドストップのセンターガイドにかみ合わせます。

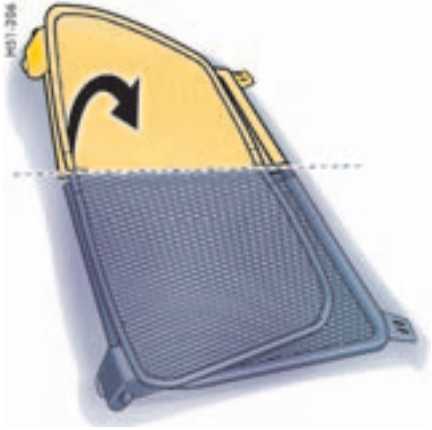
7. 赤いロッキング・ハンドルを内部に押し、下に回します。ばねの力により、ロック部分の留め具がサイド・トリム・パネルの留め穴**D**へと押込まれます。
留め具が正しく固定されているか確認してください。走行中にウィンドストップが外れる恐れがあります。

8. 必要に応じて、ウィンドストップの上側を持ち上げます。

A - *ロック解除*
B - *ロック*

ウィンドストップを取外すには

1. ウィンドストップの上側を折りたたみます。
2. 赤いロッキング・ハンドルを **A** の位置（解除位置）にします。
3. ウィンドストップをリア・シートのシートベルト・ガイドから引出します。



4. ウィンドストップの下側が外側になるようにウィンドストップを折りたたみます。
5. ウィンドストップをフロント・トランク・ルーム内のプロテクト・バッグに入れ、ファスナーを閉じます。「ウィンドストップを取付けるには」（164ページ）を参照してください。

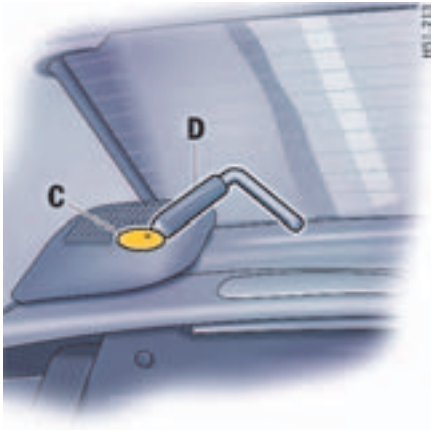
ハードトップ

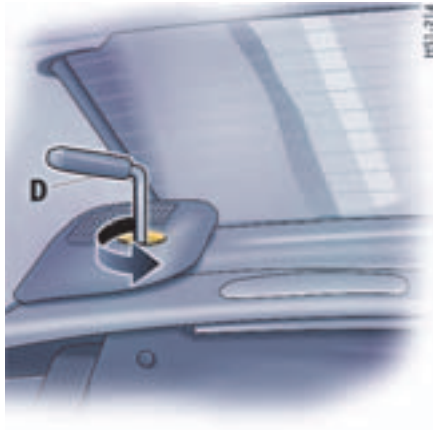
ハードトップの正しい収納場所については、ポルシェ正規販売店までお問い合わせください。

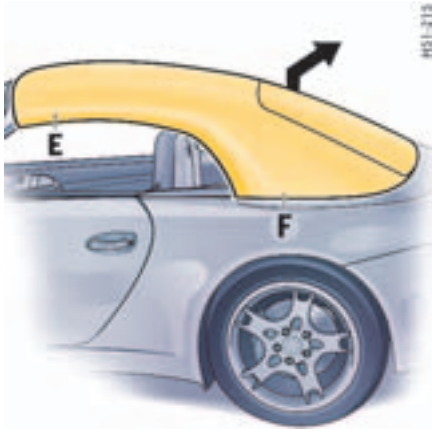
ハードトップは、必ず清潔で柔らかいものの上に置いてください。

ハードトップを取外すには

1. ドア・ウィンドウ、リア・サイド・ウィンドウを全て開きます。
2. ハードトップのフロント・ロックのプラスチック・カバーを（**矢印**）の方向に外します。
3. フロント・ロッキング・レバーにある赤いロッキング・ボタン**A**を押します。ロッキング・レバー**B**を完全に開いてください。







4. センター・コンソールの小物入れに収納されているロック解除ハンドル**D**を取出します。
5. ロック解除ハンドル**D**を使用して、ハードトップの両端にあるプラスチック・カバー**C**のマークに合わせ、プラスチック・カバー**C**を慎重に取外します。
6. ロック解除ハンドル**D**をハードトップのリア・ロックのうち、片方に差込みます。ロック解除ハンドルを約2回転だけ回してスクリューを緩め、次に手でスクリューを回して完全に緩めます（約8回転）。
7. スクリューをストッパーから引き上げて、反時計方向に2回転させます（損傷を防ぐため）。
8. 反対側のリア・ロックも同様の作業を行います。
9. 大人2人でハードトップの**E**と**F**の部分両側を持ちます。

⚠ 警 告

ハードトップの F の部分に手を挟み怪我をする恐れがあります。

▷ ハードトップを持ち上げるときは、必ず高さを均等に保ち持ち上げてください。

10. ハードトップを後方に引いた後、ロックから外れるように持ち上げます。
慎重にハードトップを持ち上げ、車両の後方へ静かに降ろします。

▷▷▷

11.両サイドのプロテクション・カバー**J**を注意しながら後方に取外します。
12.両方のプラスチック・カバー**C**をトリム・パネルに取付けます。このときカバーについているマークが後ろを向くようにしてください。
これらのカバーはハードトップにも使用します。
13.フロント・ロッキング・レバーを閉じた後、ハードトップのフロント・ロックにあるプラスチック・カバーを押し戻します。

ハードトップの装着

⚠ 注 意

ウィンドストップとハードトップを損傷する恐れがあります。

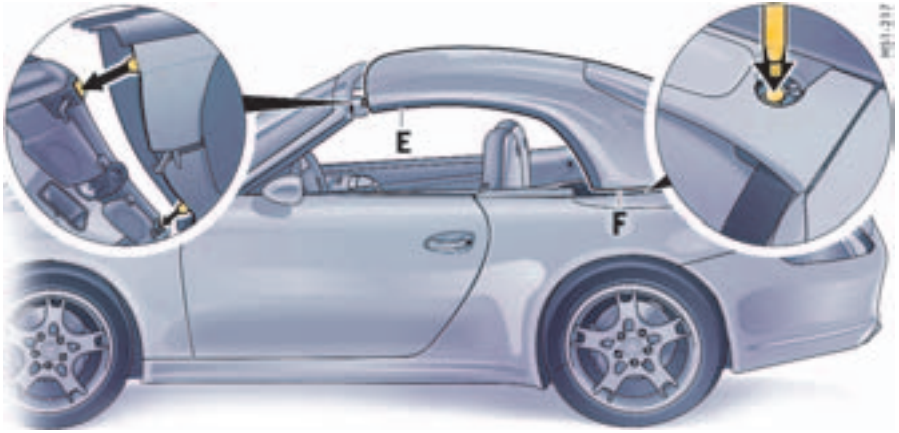
▷ ハードトップを装着する前に必ずウィンドストップを取外してください。
「ウィンドストップを取付けるには」（164ページ）を参照してください。

1. ドア・ウィンドウ、リア・サイド・ウィンドウを全て開きます。
2. センター・コンソールの小物入れからロック解除ハンドル**D**を取出します。ロック解除ハンドルを使用して両サイドのプラスチック・カバー**C**のマークに合わせプラスチック・カバーを慎重に取外します。
3. 両サイドのプロテクション・カバー**J**を後方からトリムパネルに注意して取付けます。

4. フロント・ハードトップ・ロックからプラスチック・カバーを取外します。

5. フロント・ロッキング・レバーの赤いボタンを押し、ロッキング・レバーを完全に開きます。

▷ ▷ ▷

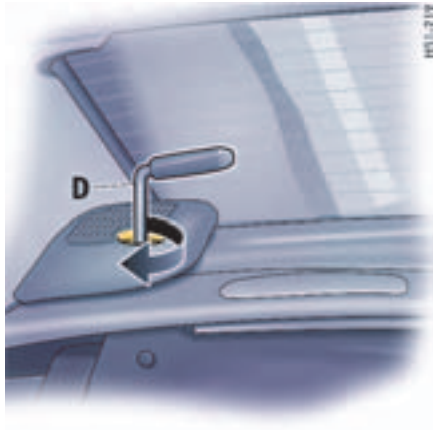


6. ハードトップのリア・ロックのスクリューが緩んでいるか確認してください。（時計回りに 2 回）
7. 大人 2 人で、ハードトップの **E** と **F** の部分両側を持ちます。
8. 慎重にハードトップを持ち上げ、車両の後方からのせます。
9. フロント・ウィンドウのフレーム・ガイドにハードトップをしっかりとはめ込みます。ハードトップをリア・ロックに注意しながらはめ込みます。

⚠ 注 意

ハードトップ装着時に、誤ってコンバーチブル・トップを操作するとハードトップとコンバーチブル・トップを損傷する恐れがあります。

▷ フロント・ロッキング・レバー **G** をしっかりとロックすることによりコンバーチブル・トップの誤操作を防ぐことができます。



10. フロント・ロッキング・レバー**G**を後方に向けます。フック**H**を**矢印**のように、フロント・ウィンドウのフレームに固定させます。ハードトップが正しく固定されると、赤いロッキング・ボタン上の白いラインマーク**J**が確認できます。
11. フロント・ハードトップ・ロックにプラスチック・カバーを取付けます。
12. スクリューを手で締め込みます。次にロック解除ハンドル**D**でスクリューを完全に締め付けます。締付けトルクは**46Nm**です。
13. 反対側のハードトップのリア・ロックも同様の作業を行い、ロックします。
14. ハードトップのリア・ロックのトリム・パネル両端にプラスチック・カバー**C**を取付けます。このとき、2つのカバーについているマークがお互い向合うように取付けてください。
15. フロント・シート間の小物入れにロック解除ハンドルをしまいます。

ルーフ・トランスポート・システム (クーペのみ)

▷ ルーフ・トランスポート・システムの取付け説明書を参照してください。

▷ ポルシェ・テクイップメント製品またはポルシェ社でテストおよび承認されたルーフ・トランスポート・システムのみ装着することができます。

一般に市販されているルーフ・トランスポート・システムは装着できません。

ポルシェ・ルーフ・トランスポート・システムは、様々なスポーツ用品やホビー用品を積載できます。
ルーフ・トランスポート・システムの詳細は、ポルシェ正規販売店にお問い合わせください。

⚠ セーフティ・ノート

▷ 自動洗車機を使用するときは、ルーフ・トランスポート・システムを完全に車から取外してください。車両が損傷する恐れがあります。

▷ ルーフへの積載荷重は75kg迄で、最大総重量と軸重量の限度を超えないようにしてください。「車両重量ークーペ」（251、252ページ）を参照してください。

▷ 車幅より大きな荷物を積まないようにしてください。また、荷物はできるだけ重い物を下にして高さが均一になるように積んでください。

▷ ルーフ・トランスポート・システムに積んだ荷物は、ロープまたはワイヤーで固定してください（ゴム製のひもは使用しないでください）。

▷ 走行前と、長距離を走行中は定期的に、ルーフ・トランスポート・システムと荷物の固定状態を点検してください。必要に応じて固定し直したり、固定用品を追加してください。

ルーフ・トランスポート・システムに荷物を積載して走行する場合の最高速度は、積載物の性質、大きさ、重量にもよります。

▷ 車速が140km/hを超えないようにしてください。

▷ ルーフ・トランスポート・システムに何も積んでいないときは、車速が180km/hを超えないように走行してください。

最大速度については走行中の道路の最大制限速度を遵守してください。

重心が高くなり、空気抵抗も大きくなるので、走行、ブレーキ、ステアリング操作の状態が普段と違ってきます。このことを考慮して安全運転を心がけてください。
燃費を高め、騒音を減らすために、使用していないルーフ・トランスポート・システムは車から取外すようにしてください。

車のお手入れ

メインテナンス上の諸注意 …… 176
クーラント・レベル …… 177
エンジン・オイル …… 178
エンジン・オイル・レベル …… 179
ブレーキ液レベル …… 180
エミッション・コントロール・
システム …… 182
燃料 …… 183
予備燃料タンク …… 184
ウォッシャ液 …… 185
パワー・ステアリング …… 186
エア・クリーナ …… 187
室内防塵用フィルタ …… 187
ワイパー・ブレード …… 188
車のお手入れ …… 190

メインテナンス上の諸注意

ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店で実施される事を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

お客様ご自身でメインテナンスされる場合につきましても、細心の注意を払っていただくようお願い致します。このような注意を払ってはじめて信頼できる走行が保証できます。

不適切な整備を行いますと、保証期間中でも保証が適用されないことがあります。

パワー・テスト

シャシ・ダイナモ・メータによるパワー・テストはポルシェ社では承認されていません。

⚠ 警 告

メインテナンス作業は危険を伴いますので十分に注意してください。致命的な事故、怪我および火災になる恐れがあります。

- ▷ バッテリや燃料系統の近くでは、喫煙したり火気を近付けたりしないでください。
- ▷ 整備は、屋外か、室内でも換気のよい状況で行ってください。
- ▷ 加熱しているエンジン部品の近くで作業をする場合は、火傷の危険性がありますので十分注意してください。
- ▷ エンジン・ルーム内の部品の整備をする前にエンジンを停止し、十分冷やしてください。
- ▷ エンジンをかけたまま作業しなければならない場合は、必ずパーキング・ブレーキをかけ、シフト・レバーをニュートラルまたは**“P”**の位置にします。
- ▷ 手、指、衣服の一部（ネクタイ、袖など）や装飾品、長い髪などがファン、ドライブ・ベルト、その他の可動部に絡まることのないように、特に注意してください。
- ▷ エンジン・ルーム・ブロワはエンジン・ルーム・リッドに取付けられています。エンジン・ルーム・ブロワは、エンジンが停止していても、約30分間はクーラントの温度に応じて作動し続けたり、作動し始めたりすることがあります。
  エンジン・ルーム付近で作業をする場合は、エンジンおよびイグニッションをOFFにし、十分注意して作業をしてください。
- ▷ ラジエータおよびラジエータ・ファンは車両の前側にあります。
  ラジエータ・ファンはイグニッションがONのときは、作動していたり、不意に作動することがあります。
  ラジエータ・ファン付近で作業をする場合は、エンジンおよびイグニッションをOFFにして怪我をする危険性がありますので十分注意して作業をしてください。
- ▷ イグニッションがONのときは、点火装置に接続されている全てのケーブルとリード線に高電圧がかかっていますので、特に注意が必要になります。
- ▷ もし、車の下に入って作業する場合は、必ず強固なリフトで車体を持ち上げてください。ジャッキを使用することは危険ですのでおやめください。
- ▷ エンジン・オイル、ブレーキ液またはクーラントなどの液体は健康を害するので、取扱いの際は次のことに注意してください。
  これらの液体はお子様の手の届かない所で保管してください。
  廃棄する場合は、法規に従ってください。

クーラント・レベル

▷「メインテナンス上の諸注意」（176ページ）を参照してください。

クーリング・システムは工場でロング・ライフ・クーラントが充填されています。このクーラントは年間を通じた腐食防止と、−35℃までの凍結防止の働きをします。

▷ ポルシェ社指定の不凍液のみを使用してください。

クーラント・レベルの点検

注入口の付いたリザーバ・タンクがエンジン・ルーム左側にあります。

▷ リザーバ・タンクの透明な部分から定期的にクーラント・レベルを点検してください。

エンジンが冷えていて、車が水平な場所にあるとき、クーラント・レベルが**“MIN”**と**“MAX”**マークの間に保つようにしてください。

クーラントの補充

⚠ 注 意

熱くなったクーラントで火傷をする恐れがあります。

▷ エンジンが熱いときにリザーバ・タンクの蓋を開かないでください。

1. エンジンを停止し、冷えるのを待ちます。「クーリング・システム」（74ページ）を参照してください。
2. リザーバ・タンクの蓋を布で覆って、慎重に開き圧力を逃してください。その後、蓋を完全に取外します。
3. 同量の不凍液と水を混ぜ合わせ、それを**“MAX”**マークを超えないように注入します。

クーラント内の不凍液の割合

50%（−35℃までの凍結防止）

60%（−50℃までの凍結防止）

4. 蓋をしっかりと締め付けます。

緊急時に水だけを補充した場合は、ポルシェ正規販売店でクーラントの割合を修正してください。

クーラントの減り方が著しい場合は、クーリング・システムに漏れが発生しています。このような場合は、直ちにポルシェ正規販売店で修理してください。

▷ ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店で実施される事を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

ラジエータ・ファン

ラジエータとラジエータ・ファンは車両の前側にあります。

⚠ 注 意

車両の前側にあるラジエータ・ファンは、エンジンが作動していると作動していたり不意に作動することがあります。

▷ ラジエータ・ファン付近で作業をする場合は、必ずエンジンおよびイグニッションをOFFにしてください。

エンジン・オイル

ポルシェ車のエンジンはオイル添加剤を必要としません。

▷ エンジン・オイルはポルシェ社によってテストされ、認可されたもののみを使用してください。ポルシェ正規販売店に、お車のエンジンに適合するエンジン・オイルをお尋ねください。

エンジンに適合するエンジン・オイルであれば、互いに混ぜることができますが、銘柄によって組成が異なりますので、オイル交換の前後で注ぎ足す必要の生じた場合は、できるだけ同じオイルを使用してください。

定期的なオイル交換はメンテナンスの一部です。

▷ ほこりの多い場所を走行する場合は、頻繁にエンジン・オイルを交換してください。

エンジン・オイル・グレード

エンジン・オイルは潤滑油としてだけでなく、エンジン内部をきれいに保ち、燃焼によってエンジン内部に侵入するすすを中和し、腐食からエンジンを保護するという役目も果たしています。これらの機能を果たすために、専用に開発された添加剤が加えられています。

鉱物油は原油から直接つくられたものですが、これらのオイルをさらに精製（水素化分解オイル）、または様々な化学的工程をへて、完全に転化（合成オイル）することができます。これらのオイルは鉱物油に比べて、より効果的です。

ポルシェ社によって認可された合成エンジン・オイルのみを使用してください。

オール・シーズン・ライト・ランニング・エンジン・オイル

オール・シーズン・オイルは、低温度でも粘度が低く、温度安定性が非常に高い上に、その組成により高温度で蒸発しにくい特性があります。適切な温度範囲を考慮すれば、高性能要件に適合するオイルとしてオール・シーズン・オイルを使用することができます。

これらのオイルは、低温度でも粘度が低いため、良好なライト・ランニング特性を持っており、オール・シーズン・ライト・ランニング・オイルとも呼ばれます。

ポルシェ社によって認可された省燃費エンジン・オイルのみを使用してください。

粘度

粘度（流動特性）は、SAE級によって表示されます。

低温粘度は、0Wや5Wのように数字と“W”（winterの“W”）とで表されます。5Wのオイルは、0Wのオイルに比べ粘度が高くなります。

その後に続く40や50のような数字は、高温粘度を表し、40のオイルの方が50のオイルに比べ粘度が低くなります。

マルチ・グレード・オイルは、2種類の粘度を持っています。例えば、SAE 0W-40、5W-40あるいは5W-50のようなオイルがあります。

例：

0W-40および5W-40のオイルは、高温度での粘度は同じですが、低温度では5Wのオイルの方が粘度が高くなります。5W-40および5W-50のオイルは、低温度での粘度は同じですが、高温度ではクラス40のオイルの方が粘度が低くなります。

冬季および夏季

−25℃以上：

SAE 0W-40、5W-40、5W-50のポルシェ社認可オイル

−25℃以下：

SAE 0W-40のポルシェ社認可オイル

ポルシェ社によって認可されたオイル

ポルシェ社認可オイル・リストに記載されているオイルは、ポルシェ正規販売店におたずねください。

エンジン・オイル・レベル

▷ オイル・レベルは燃料給油時に、オンボード・コンピュータで点検してください。

「オンボード・コンピュータ（BC）」（80ページ）を参照してください。

オンボード・コンピュータのセグメント表示の“MAX”と“MIN”間のオイル量は約1.2リットルです。
1個のセグメントは約0.4リットルに相当します。

エンジン・オイルの補充

⚠ 警 告

エンジン・ルーム内の部品で火傷をする恐れがあります。

エンジン・ルーム・ブロワはエンジンが停止していても、作動し始めることがあります。

▷ エンジン・ルームでの作業は、十分注意してください。
「メンテナンス上の諸注意」（176ページ）を参照してください。

▷ エンジン・オイルは必ずエンジンを停止してから補充してください。

1. オンボード・コンピュータにエンジン・オイルの補充量が表示されます。
2. オイル・フィラー・チューブを引き上げて、ホルダから出します。
3. オイル・フィラー・キャップを取外します。
4. 一度に最大0.5リットルずつ補充します。
5. オンボード・コンピュータのオイル・レベルを再度確認します。
6. 必要に応じて、エンジン・オイルを追加します。
   “MAX”マークまでの必要量を超えてエンジン・オイルを補充しないでください。
7. オイル・フィラー・キャップを慎重に閉めます。
8. オイル・フィラー・チューブをホルダに押し付け、カチッと音がするまでは め込みます。

ブレーキ液レベル

▷ 「メインテナンス上の諸注意」（176ページ）を参照してください。

▷ ポルシェ純正ブレーキ液またはポルシェ社の要求する性能、品質基準を満たしたブレーキ液を使用してください。

⚠ 警 告

ブレーキ液は有毒で、塗装や他の表面を傷付けます。

▷ ブレーキ液は、お子様の手の届かない場所に保管してください。

▷ ブレーキ液を補充するときは、トランク・ルーム内を汚さないように注意してください。

例：911カレラ、911カレラS

ブレーキ液レベルの点検

油圧ブレーキ操作システム用のフルード・リザーバ・タンクは、フロント・トランクの中にあります。

1. カバー・フラップ**A**を開いて、取外します。
2. 透明なリザーバ・タンク内のブレーキ液の液面をウィンドウ**B**から定期的に点検してください。
   液面は“MAX”と“MIN”の間にくるようにしてください。

走行中に、ブレーキ・パッドの摩耗により液面が若干低下することがありますが、これは正常な状態です。
液面の低下が著しい場合や“MIN”マークより下がった場合は、ブレーキ・システムに漏れが発生しています。

▷ その場合は、直ちにポルシェ正規販売店でブレーキ系統の点検を受けてください。ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店で実施される事を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

ブレーキ液の交換

ブレーキ液は吸湿性があります。水分を含むと、沸点が下がり、操作状況によってはブレーキの性能に影響します。

整備手帳に指示された期間に従って、交換してください。

警告灯および警告メッセージ

— ブレーキ液が許容範囲以下に減った場合は、インストルメント・クラスタの警告灯が点灯し、オンボード・コンピュータに警告メッセージが表示されます。

— ブレーキ回路が不具合を起こした場合、ブレーキ・ペダルの踏みしろが大きくなり、インストルメント・パネルの警告灯が点灯し、オンボード・コンピュータに警告メッセージが表示されます。

走行中に警告灯が点滅した場合

▷ それ以上の走行を避け、安全な場所に停車してください。

▷ 最寄りのポルシェ正規販売店で修理してください。ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店で実施される事を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

エミッション・コントロール・システム

O2センサ、エレクトロニック・コントロール・ユニットに加えて、三元触媒コンバータにより、エミッション・コントロール・システムの効果が大幅に向上しています。

エミッション・コントロール・システムの効率を維持するために、定期的に点検整備を受けてください。

無鉛ガソリン以外の燃料を使用しないでください。使用すると、触媒コンバータとO2センサが破損して、補修できない場合があります。

燃料タンク・ベンチレーション・システムは、燃料蒸発ガスがタンクから外気に漏れるのを防ぎます。

運転上のアドバイス

空燃比制御システムに故障が発生すると、エンジンがオーバーヒートしたり、触媒コンバータが損傷してしまうため必ず下記の注意をお守りください。

⚠ 警 告

エミッション・コントロール・システムを損傷する恐れがあります。

- ▷ エンジンが始動しない場合は、スターター・モーターを繰り返し作動させたり、長時間作動させないでください。
- ▷ 走行中にミスファイヤーが発生したとき（エンジンの回転が荒くなったり、出力低下、エミッション・コントロール・システム警告灯の点灯で判断できます）は、直ちに最寄りのポルシェ正規販売店で修理をしてください。

  ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店で実施される事を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。
- ▷ 燃料残量警告灯が点灯したら、高速でコーナーを走行しないでください。
- ▷ 燃料タンクが完全に空になるまで走行しないでください。
- ▷ けん引または押しがけスタートはエンジンが冷えている場合のみ行ってください。

  ティプトロニック車は、けん引または押しがけスタートができません。

高温の排気系に接触して発火する恐れがあります。

- ▷ エキゾースト・マニホールド、エキゾースト・パイプ、触媒コンバータ、ヒートシールドやその周囲に、アンダーコーティングしたり防錆剤を塗布しないでください。エンジンが作動すると、保護剤が過熱、発火することがあります。
- ▷ 乾燥した草や落葉などの引火性の高い物がある場所には、駐車したりエンジンを始動させないでください。

燃料

⚠ 警 告

燃料は可燃性が高く、有害な物質なので十分注意してください。

▷ 燃料系統の近くでは、喫煙したり火気を近付けたりしないでください。

▷ 皮膚や衣類が接触しないよう十分注意してください。

▷ 燃料の蒸気ガスを吸い込まないようにしてください。

▷「エミッション・コントロール・システム」（182ページ）を参照してください。

▷「燃料計」（76ページ）を参照してください。

無鉛ガソリン以外の燃料を使用しないでください。使用すると、触媒コンバータとO2センサが破損して、補修できない場合があります。

エンジンは**無鉛プレミアム・ガソリンで、オクタン価が98RON/88MON以上**のものを使用した場合に、最高の性能と燃費を達成するように設計されています。

オクタン価が95RON/85MON以下の無鉛プレミアム・ガソリンを使用した場合は、エンジンのノック制御システムが自動的にイグニッション・タイミングを調整します。

カバーの開き方

燃料給油口は右フロント・フェンダ部のカバー内にあります。

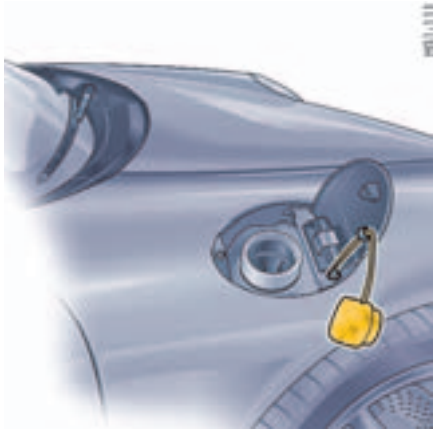
▷ 車のロックを解除して、カバーの前部分（**矢印**）を押してください。

カバーは他のロックと同じように、セントラル・ロッキングによってロックされます。

自動ロック解除システムが故障した場合は、

▷ 助手席側ドアを開きます。

▷ 右側ドア開口部にあるリング（**矢印**）を引いてください。



燃料の給油

タンク容量:

911カレラ、911カレラS：約64リットル
911カレラ4、911カレラ4S（左ハンドル車）：約67リットル
911カレラ4、911カレラ4S（右ハンドル車）：約66リットル

1. エンジンを停止し、キーをイグニッションから抜取ります。
2. 燃料給油キャップを取外し、燃料給油フラップ裏側にかけます。
   タンク・キャップを開けたときにシューという音が聞こえますが、これは正常な状態であり、タンク・システムの故障を示すものではありません。
3. ノズルは確実にフィラーの奥まで差込み、注入時はノズルを下に向けて給油してください。
4. フューエル・ホース・ノズルを正しく使用した場合、ノズルからの燃料の注入が停止したら、タンクは「満タン」です。これ以上注入すると、燃料が熱で膨張したときにあふれます。
5. ガソリン注入後は、タンク・キャップを確実に合わせ、しっかりと取付けられるまで回します。

タンク・キャップを紛失した場合は、必ず純正部品と交換してください。

知識：

エンジン・オイル量は給油時に自動で計測されます。

▷ 「オイル・レベルの表示および測定」（100ページ）を参照してください。

予備燃料タンク

⚠ 危 険

予備燃料タンクの損傷や燃料漏れによる火災や爆発の恐れがあります。また有毒ガスが健康に害を与えます。

▷ 予備燃料タンクを車両に積み込んだまま、長距離走行を行わないでください。
やむをえず予備燃料タンクを積み込んだ場合は、タンクが動かないように安全な場所にしっかり固定してください。

▷ 各法規制に従ってください。

ウォッシャ液

ウォッシャ液タンクは、フロント・トランク・ルーム内の左後方にあり、青色のネジ式キャップが付いています。

容量：

- ヘッドランプ・クリーニング・システムなし：約2.5リットル
- ヘッドランプ・クリーニング・システム付き：約6リットル

ウォッシャ液の補充

一般的に、水だけではウィンドウやヘッドランプがきれいになりません。季節に応じて凍結防止剤入りの冬用クリーナや、適切な夏用クリーナを適量添加してください。混合の割合は溶剤に付属の取扱説明書に従ってください。

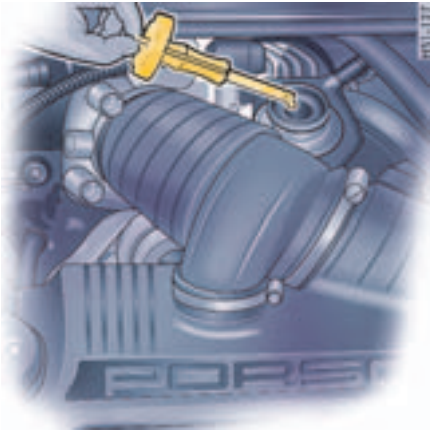
▷ ポルシェ社が認可したウォッシャ液を使用してください。

1. 洗浄剤の容器に記載されている情報に注意してください。
2. ウォッシャ液タンクのキャップを取外します。(矢印)
3. ウォッシャ液を補充し、確実にキャップを閉めます。

警告メッセージ

ウォッシャ液の残りが約0.5リットルになるとオンボードコンピュータに警告メッセージが表示されます。

▷ ウォッシャ液を補充してください。



パワー・ステアリング

⚠ 警 告

エンジンがかかっていない（けん引など）場合や、油圧操舵機構に異常がある場合は、操舵力はアシストされません。この場合、ステアリング操作に強い力が必要となり、思わぬ事故を起こす恐れがあります。

▷ けん引するときは、十分注意してください。

▷ 直ちに最寄りのポルシェ正規販売店で修理してください。

ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店で実施される事を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

知識：

ステアリングを一杯に切ったときに聞こえるノイズは、設計上の特性であり、ステアリング・システムの故障を示すものではありません。

オイルの点検

▷ 「メインテナンス上の諸注意」（176ページ）を参照してください。

ポルシェ社純正またはポルシェ社の要求する性能、品質基準を満たしたパワー・ステアリング・オイルのみを使用してください。

点検はエンジンを停止して**冷間時**（約20℃）に行ってください。

1. エンジン・フードを開きます。
2. リザーバ・キャップを取外します。
3. オイル・レベル・ゲージのオイルを拭取ります。キャップを取付け、もう一度取外します。オイル・レベルは“Cold”マークより下のシェードのかかった部分にあることを確認してください。

   必要に応じてオイルを補充してください。
4. リザーバ・キャップを注意して閉じます。

▷ オイルの減り方が著しい場合は、システム内に漏れが発生しています。

この場合は直ちにポルシェ正規販売店で修理してください。ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店で実施される事を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

エア・クリーナ

▷「メインテナンス上の諸注意」（176ページ）を参照してください。

定期的なフィルタ・エレメンタ交換はメンテナンスの一部です。

▷ ほこりの多い場所では、より頻繁に点検し、必要に応じて交換してください。

室内防塵用フィルタ

室内防塵用フィルタを通って室内に入ってくる空気は、ほこりや花粉などが取除かれます。

▷ 外気が排気ガスによって汚染されている場合は、内気循環に切替えてください。

フィルタが汚れていると、空気の清浄効果が下がります。

▷ フィルタの交換は、最寄りのポルシェ正規販売店にお申し付けください。

ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店で実施される事を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

定期的なフィルタ交換はメンテナンスの一部です。

ワイパー・ブレード

▷ ワイパーの性能が低下したときは、適切な時期にワイパー・ブレードを交換してください。

▷ 「車のお手入れ」（190ページ）を参照してください。

⚠ 注 意

ワイパー・アームが突然倒れてフロント・ウィンドウが損傷しないように注意してください。

▷ ワイパー・ブレードを交換するときは、ワイパー・アームをしっかり持ってください。

ワイパー・ブレードが凍結した場合、損傷する恐れがあります。

▷ 凍結部を取除いてください。

知識：

ワイパー・ブレードの擦れやきしみの原因には以下が考えられます。

– 自動洗車機を使用した場合、フロントガラスに洗剤やワックスなどの残留物が付着する場合があります。このような残留物は、特殊なリムーバを使用しなければ落とすことができません。

  詳しい情報は担当のポルシェ正規販売店にお問い合わせください。

– ワイパー・ブレードが損傷する恐れがあります。

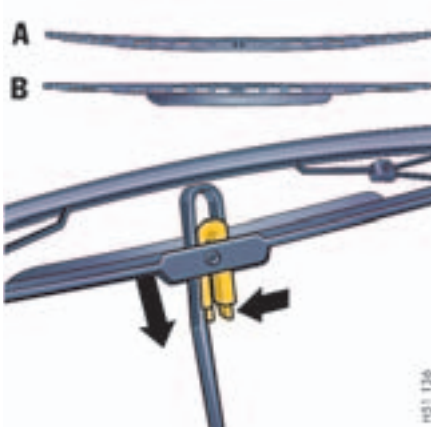
▷ できるだけ早急に損傷したワイパー・ブレードを交換してください。

ワイパー・ブレードの交換

⚠ 注 意

誤った方法でワイパー・ブレードを交換すると、走行中に外れ、損傷の原因となる恐れがあります。

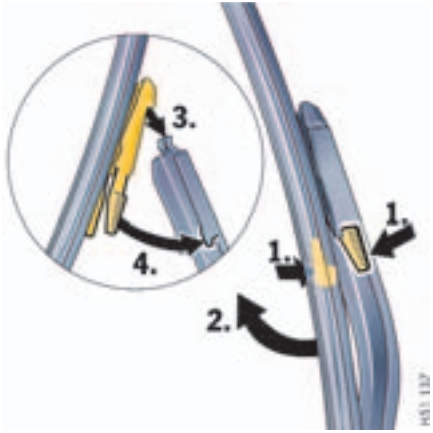
▷ ワイパー・ブレード交換後には、ワイパー・アームが確実に固定されているか確認してください。



A - *助手席側（カーブあり）*
B - *運転席側（スポイラ付）*

1. パーキング・ブレーキをかけます。
2. ワイパーを停止し（**0**位置）、イグニッション・キーを抜きます。
3. ワイパー・アームをフロント・ウィンドウから起こします。
4. ワイパー・ブレードのプラスチック・スプリング（**右側矢印**）を押します。ワイパー・ブレードを引出し、ワイパー・アームから取外します。

5. 新品のワイパー・ブレードをはめ込み、確実に固定します。
   新品のワイパー・ブレードをワイパー・アームの同じ位置にはめ込みます。
   — 運転席側（スポイラ付）
   — 助手席側（カーブあり）
6. ワイパー・アームを注意して元の位置に倒します。



リア・ワイパー・ブレードの交換

⚠ 注 意

誤った方法でワイパー・ブレードを交換すると、走行中に外れ、損傷の原因となる恐れがあります。

▷ ワイパー・ブレード交換後には、ワイパー・アームが確実に固定されているか確認してください。

▷ パーキング・ブレーキをかけます。

▷ リア・ワイパーを停止し（**0**位置）、イグニッション・キーを抜きます。

▷ フロント・ワイパー・アームをウィンドウから離します。

1. ワイパー・ブレードのプラスチック・スプリングを押します。
2. ワイパー・ブレードを上に引出して、ワイパー・アームから取外します。
3. 上から新品のワイパー・ブレードをワイパー・アームにはめ込みます。
4. ワイパー・ブレードのプラスチック・スプリングを押して、ワイパー・アームに確実にはめ込んでください。
5. ワイパー・アームを注意して元の位置に倒します。

車のお手入れ

定期的に正しく車のお手入れを行うことは、お車の価値を長持ちさせるだけでなく、車両の保証と長期保証の適応を受ける際の有利な条件となります。
ポルシェ正規販売店には、お車にふさわしいカー・ケア製品が揃っており、単品でもセットでも販売しております。

▷ 使用に当たっては、必ずパッケージ等に印刷された注意事項を守ってください。

▷ 製品はお子様の手の届かない安全な場所に保管してください。

▷ 処分の必要がある場合は、必ず適切な場所で行ってください。

お車の状態がポルシェ正規販売店で点検されているか、そして10年間の長期保証が有効であるかを確かめるために、ポルシェ正規販売店では、お手入れの状態や整備状況を点検させていただき、「整備手帳」にその結果を記載します。

高圧洗車装置

⚠ 警 告

高圧洗車装置を使用すると、以下のコンポーネントを傷付けることがあります。

— コンバーチブル・トップ
— タイヤ
— ロゴ、エンブレム
— 塗装面
— ジェネレータ
— パーキング・アシスタント・センサー

▷ 使用するときは、メーカーから提供された取扱説明書を遵守してください。

▷ 平形ジェット・ノズルなどで洗浄する場合は、最低50cm距離を置いてください。

▷ 丸型ジェット・ノズルを使用しないでください。
高圧洗浄機と丸型ジェット・ノズルを組合せて使用すると、お車を損傷する恐れがあります。特にタイヤの損傷に注意してください。

▷ エンジン・ルームを洗浄する場合は、ジェット・ノズルを直接ジェネレータに向けないでください。

洗車

車を美しく保つには、日頃のお手入れが大切です。こまめに洗車とワックスがけを行ってください。道路に凍結防止剤がまかれる冬季が終わったら、車両の下まわりをていねいに洗ってください。

塩、砂じん、ばい煙、昆虫の死がい、鳥のふん、樹木から出る樹液や花粉は、車体に付着している時間が長くなればなるほど、塗装の傷みがひどくなります。

車の手洗いは洗車機を使用するよりも環境を汚染する場合があります。

▷ グリース、オイル、ごみ等が適切に処理できる場所で、洗車・清掃を行ってください。

濃い色の塗装は、明るい色の塗装に比べて非常に小さな傷（引っかき傷）でも目立ちます。

濃い色の塗装は、顔料の組成のために傷が付きやすいので、特にこまめな手入れと注意が必要です。

▷ 日差しの強いところや、車体がまだ熱い間は洗車しないでください。

▷ 手で洗う場合、水を十分に使用し、柔らかいスポンジか洗車用ブラシ、ポルシェ・カー・シャンプーを使用してください。
ポルシェ・カー・シャンプーを推奨致します。

▷ 車体によく水をかけ、主な汚れを洗い流します。

▷ 洗剤を使った後は車を水で十分にすすぎ、革拭きします。

ウィンドウには、ボディを洗ったときと同じ革を使用しないでください。

ブレーキが濡れていると、効きが悪くなったり片効きになったりします。

▷ ブレーキ・ディスクを乾かした後、ペダルを何度か踏んで制動能力を必ず確かめてください。

緊急時に正常な制動が行えない場合があります。

自動洗車機

自動洗車機を使用すると、取付けているオプション部品が飛び出している場合は傷を付ける恐れがあります。

以下のパーツは特に破損の恐れがあります。

— コンバーチブル・トップ（コンバーチブル・トップの素材を傷めるので、ホット・ワックス処理をしないでください。）

— ルーフ・アンテナ（取外してください）

— ワイパー（間欠作動やセンサによる不意な誤作動を防止するため、常にスイッチをOFFにしてください。）

— ルーフ・トランスポート・システム（全て取り外してください。）

— リア・スポイラ

— ホイール（リムが広がり、タイヤ高が低くなるにつれ、より破損が生じやすくなります。）

— メッキ・ホイール（傷が付きやすいので、ホイール洗浄用ブラシでこすらないでください。）

▷ 自動洗車機を使用する前に担当者に確認してください。

▷ ドア、トランク・リッドやエンジン・フードの継目、ドアの下枠など洗車機で洗えない箇所は手で洗い、柔らかい革（セーム革など）で拭いてください。

コンバーチブル・トップのお手入れ

コンバーチブル・トップの寿命と外観は正しいお手入れとお取扱いによって長く保つことができます。
雪や氷を縁の鋭いもので取り除かないでください。

洗浄

⚠ 注 意

高圧洗車装置または自動洗車機のホット・ワックス処理を行うと損傷する恐れがあります。

▷ コンバーチブル・トップ部は高圧洗車装置で洗浄しないでください。

▷ コンバーチブル・トップ部は自動洗車機のホット・ワックス処理をしないでください。

コンバーチブル・トップは洗車のたびに洗浄する必要はありません。
通常はきれいな水で流すだけで十分です。

▷ 毛の柔らかいブラシを使用して、繊維に沿ってブラッシングしコンバーチブル・トップのほこりを取除きます。

▷ 汚れが頑固な場合にのみ、ポルシェ・カー・シャンプー＆コンバーチブル・トップ・クリーナを使用して洗浄します。洗浄にはぬるま湯とスポンジまたは毛の柔らかいブラシを使用して、軽くこすります。その後きれいな水でポルシェ・カー・シャンプー＆コンバーチブル・トップ・クリーナを残さず洗い流します。
ポルシェ・カー・シャンプーを推奨致します。

▷ 洗浄後は、コンバーチブル・トップ専用ケア用品を使用して、年1回以上の頻度でお手入れを行ってください。コンバーチブル・トップ専用ケア用品が塗装部およびウィンドウに付着しないように注意してください。付着した場合はただちに取除いてください。

▷ コンバーチブル・トップ・カバー本体または縫い目や折り目から漏れが生じた場合、浸透剤を使用して処置することができます。

▷ 容器の指示に従ってください。
ポルシェ・コンバーチブル・トップ・ケア製品を推奨致します。

▷ 鳥の排せつ物が付着した場合には直ちに取除いてください。排せつ物に含まれる酸がコンバーチブル・トップのゴムを膨張させ、水漏れしやすくなります。

▷ コンバーチブル・トップは必ず天候がよいときにのみ開いてください。湿気によるしみや擦り傷がついて、取れなくなる恐れがあります。

▷ コンバーチブル・トップ・カバーに汚れがついた場合は、柔らかいゴム・スポンジを使用して、慎重にこすり取ってください。

ドア・ロック

▷ 冬場にドア・ロックが凍結しないように、洗車中はロック・シリンダにカバーをしてください。

▷ 万一ロックが凍結した場合は、市販の除氷剤を使用することもできますが、温めたキーを差込むのも効果的です。ただし、無理な力をかけないでください。

塗装

▷ 乾いた布で車体のほこりを払うと、ほこりの粒子で表面の塗装が削れてしまい、つやがなくなったり、傷付いたりすることがあります。

車の塗装面は外的悪条件にさらされています。強い日差し、雨、霜、雪等の気候的悪条件が主なものです。その他にも塗装面は紫外線、急速な温度変化、大気中のばい煙、化学堆積物などの影響も絶え間なく受けています。美しい塗装面を長期間保つには、定期的に細やかなお手入れを行うことが不可欠です。

▷ ウィンドウおよびコンバーチブル・トップには、シリコン光沢剤を使用しないでください。

▷ つや消し仕上げの部品にワックスや光沢剤を使用すると、つや消し効果がなくなります。

ワックス

塗装面は風化によってつやが失われていくので、頻繁にワックスがけを行ってください。

ワックスがけを行うことによって、塗装の光沢と強度を保つことができます。また、塗装面に汚れが付着したり、ばい煙が浸透することを防ぎます。

洗車とお手入れの際に必ずワックスがけを行うようにすると、新車時の光沢を長く保つことができます。

▷ 洗車の後にポルシェ社指定のワックスで磨くか、洗車の後の最後のすすぎ水にポルシェ社指定の液体ワックスを加えてください。

つやだし

通常のワックスがけでは満足なつやが出ない時に限り、ポルシェ社指定の光沢剤を使用してください。

ポルシェ・ペイント・ポリッシュを推奨致します。

汚点、染み

▷ タールの汚れ、グリース、昆虫の死がいは洗っただけでは落ちません。そしてこれらが塗装面に残ると、退色の原因になります。

▷ 処理を行った後は、直ちにその箇所を洗い流してください。

小さな塗装の傷

▷ 亀裂、引っかき傷、飛石による塗装面の小さな傷は、腐食が**始まる前に**、すみやかにポルシェ正規販売店で修理を行ってください。

ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店で実施される事をお願い致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

既に腐食が見られる場合は、まず錆を完全に取除きます。
つぎに、その箇所に防錆プライマを塗布し、上塗り塗料で仕上げます。車両のペイント・データ・プレートをみれば、ペイント・コードやカラー番号がわかります。

エンジン・ルームの清掃と維持

エンジン・ルームおよびエンジンの表面には、工場にて防錆処理が施されています。エンジン・ルーム内の清掃にグリース溶剤を使用したり、エンジンを洗浄した場合は、防錆処理の効果が薄れ腐食を早める恐れがあります。全ての表面、ボディのつなぎめ、ジョイント、エンジン・ルーム内の構成部品に耐久保護剤を塗布してください。また、防錆処理の行われたパーツを交換した場合にも耐久保護剤を塗布してください。

⚠ 注 意

ジェネレータを損傷する恐れがあります。

▷ エンジン・ルームを洗浄する場合は、ジェット・ノズルを直接ジェネレータに向けないでください。また、洗浄する場合はジェネレータにカバーをしてください。

冬など、特に気温が低い季節には、効果的な防錆対策を取ることが必要です。凍結防止の塩剤が蒔かれた路面上を頻繁に走行する場合は、エンジン・ルーム全体を完全に清掃し、塩による損傷が及ばないように完全なコーティング処理を行うようにお薦め致します。

ウィンドウ

▷ ポルシェ社のウィンドウ・クリーナは、ウィンドウの内側にも外側にも使用できます。
ポルシェ・ウィンドウ・クリーナを推奨致します。
セーム革を使用してウィンドウを清掃する場合、同じ革をボディ塗装部分と共用しないでください。ワックスや光沢剤が革に付着し、それによってウィンドウが汚れ、視界が悪くなることがあります。

▷ 昆虫の死がいは、昆虫除去剤で取除いてください。

知識：
ドア・ウィンドウには撥水性（疎水性）コーティングが施されており、ウィンドウの汚れを防止しています。
コーティングが自然摩滅してしまった場合は、新しく塗布することができます。

▷ ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店で実施される事を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

ワイパー･ブレード

視界を良好に保つには、ワイパー・ブレードが完全な状態であることが不可欠です。

▷ ワイパー･ブレードは年に1～2回（冬季の前後）、またはワイパーの性能が劣化した場合に交換してください。

▷ ワイパー・ブレードはウィンドウ・クリーナーで清掃してください。
ポルシェ・ウィンドウ・クリーナを推奨致します。
汚れがひどい場合（昆虫の死骸など）はスポンジまたは布で清掃してください。

アンダーコーティング

下まわりは化学的、機械的ダメージに対して耐えるように保護されていますが、毎日の走行でこの保護塗装も傷付きますので、ポルシェ正規販売店で定期的に点検、修理を受けてください。

⚠ 警 告

エキゾースト・システムが火災になる恐れがあります。

▷ エキゾースト・マニホールドやエキゾースト・パイプ、触媒コンバータ、ヒート・シールドやその周辺に追加のアンダーコーティング剤や防錆剤を塗らないでください。これらの箇所は運転中は高温になるので、保護剤を過熱し発火させることがあります。

必ず、下まわりやエンジンを洗浄した後、また下まわりの部品を修理した後に、適切な防錆剤を塗布してください。

軽合金製ホイール

▷ 「自動洗車機」（191ページ）を参照してください。

金属粒子（ブレーキ・ダストに含まれる真ちゅうや銅など）が軽合金に長い間付着しないように注意してください。接触性腐食を起こし、ピッチング（小さなくぼみ穴）が発生します。

▷ ホイールをスポンジかブラシで、できれば2週間毎に洗ってください。冬季に凍結防止剤が道路にまかれる地域や、大気中にばい煙の多い地域では毎週洗うようにしてください。
ポルシェ指定軽合金ホイール・クリーナー（pH値9.5）をお使いください。**洗剤のpH値が適切でないものを使用すると、ホイールの保護塗装が腐食されます**。ポルシェ純正軽合金ホイール・クリーナを推奨致します。

保護塗装の酸化皮膜を破壊するような光沢剤、研磨器具、研磨剤などは使用しないでください。

▷ 3ヶ月に1度は、洗浄後、腐食性のないグリース（ワセリン）をホイールに塗布してください。柔らかい布を使って、グリースを表面によくすりこみます。

⚠ 警 告

ブレーキ・ディスクにホイール・クリーナなどを付着したままにすると、ブレーキ・ディスクに膜ができて、ブレーキ性能を損なってしまい思わぬ事故を起こす恐れがあります。

▷ ブレーキ・ディスクにクリーナが付着していないか必ず確認してください。

▷ ブレーキ・ディスクにクリーナが付着していた場合は、高圧洗車装置を使用して完全に洗い流してください。

▷ 道路に十分に注意してからブレーキを作動させ、ブレーキ・ディスクを乾かしてください。

ドア、ルーフ、リッド、ウィンドウ・シール

▷ シールの汚れ（傷、汚れ、凍結防止の塩など）は温かい石鹸水で定期的に洗浄してください。
化学洗浄剤や溶剤は絶対に使用しないでください。

凍結の恐れのある場合は、ドアやリッドのシールを適切なケア用品で保護してください。

インナー・ドア・シール、コンバーチブル・トップ・シールおよびハードトップ・シールに塗布されている減摩コーティングは傷が付きやすいので洗浄しないでください。

ヘッドランプ、ランプ類、室内および外装のプラスチック部品

▷ ヘッドランプ、ランプ類､プラスチック部分などの表面を清掃するには、清潔な真水および少量の中性洗剤を使用してください。表面が乾いた状態で清掃しないでください。
柔らかいスポンジまたは糸くずの出ない柔らかい布を使用し、優しく、あまり圧力をかけずに表面を拭いてください。
ウィンドウ内側の清掃には、プラスチック表面用のクリーナが適しています。クリーナ容器に記載されている注意事項に従ってください。
ポルシェ純正のクリーナ類の使用を推奨致します。
清掃には化学クリーナまたは溶剤を使用しないでください。

▷ 清浄な水で表面を洗い流します。

本革のお手入れ

本革の特性

本革の表面に見られる天然のしわや傷、虫が刺したような跡、模様の違い、色合いや銀面における微妙なバリエーションが本革の天然素材としての魅力を一層引き立てます。

特に知っていただきたいのはこの本革の特徴です。革は厳選した最高級品質の本革を使用しています。染色しない部分を残して、天然の風合いを感じていただけるように仕上げました。この素材は卓越した座り心地、しなやかさ、風合いを特徴としています。

本革のお手入れおよび取扱い

▷ 白色の湿らせた柔らかい毛織物または市販のマイクロ・ファイバー布を使用して、定期的にお手入れしてください。

▷ 汚れがひどいときは、ポルシェ社指定のレザー・クリーナーを使用してください。
容器の取扱説明書をよく読んでから使用してください。
ポルシェ・レザー・クリーナを推奨致します。

刺激性の強い洗剤や、硬い清掃用品を使用しないでください。

本革製メッシュ・トリムは、裏面まで湿らせないように注意してください。

洗浄が終わったら、ポルシェ社指定のレザー・ケア剤でお手入れしてください。シートは傷みが激しいので特にお手入れをお薦め致します。
ポルシェ・レザー・ケア剤を推奨致します。

カーペットとマット

▷ 掃除機か、中程度の硬さのブラシを使用してください。

▷ 汚れやしみはポルシェ社指定のしみ抜き剤で除去します。

カーペットの汚れを防止するため、フロア・マットがポルシェ・カー・アクセサリとして販売されています。

⚠ 警 告

思わぬ事故になる恐れがあります。

▷ ペダル操作の妨げにならないようにフロア・マットは確実に固定してください。

アルカンターラ

アルカンターラ部の清掃に革用手入れ剤を使用しないでください。

日常のお手入れとしてはカバーを柔らかいブラシで拭くだけで十分です。
アルカンターラの表面を強くこすらないでください。損傷する恐れがあります。

軽度な汚れ

▷ 柔らかい布を水または中性のせっけん水で濡らして、汚れを取除きます。

頑固な汚れ

▷ 柔らかい布をぬるま湯または薄めたクリーニング用溶剤で濡らして、外側から汚れた部分を軽くたたきます。

シートベルトのお手入れ

シートベルトを洗浄する場合は、刺激性の少ない洗剤を使用してください、またベルトを乾燥させるときは、直射日光を避けてください。

▷ 適切な洗剤のみを使用してください。

▷ ベルトを染色および脱色しないでください。ベルトの布地が弱り、安全性が損なわれます。

車の保管

長期間保管をする場合は、ポルシェ正規販売店にご相談ください。スタッフが適切な腐食防止対策、お手入れ、メインテナンス、保管などのアドバイスを致します。

▷ 「バッテリ」（218ページ）を参照してください。

万一のときのために

簡単な整備作業について …… 198
タイヤとホイール …… 199
ホイール・ボルト …… 204
スペーサ …… 205
パンクしたとき …… 206
タイヤ交換 …… 209
電気系統 …… 214
バッテリ …… 218
ジャンパー・ケーブルによる始動 …… 223
バルブ・リスト …… 224
バルブの交換 …… 225
ヘッドランプ …… 226
テールランプ …… 234
ライセンス・ランプ …… 235
トランク・ルーム・ランプ／エンジン・
ルーム・ランプ／フットウェル・ランプ … 235
ドア・ガード／足元照明 …… 235
ルーム・ランプ、読書灯 …… 236
左側通行から右側通行への
変更に伴うヘッドランプの切換え …… 237
ヘッドランプ調整 …… 238
けん引およびけん引による始動 …… 239

簡単な整備作業について

ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店で実施されるよう推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

お客様ご自身でメインテナンスされる場合につきましても細心の注意を払っていただくようお願い致します。このような注意を払ってはじめて信頼できる走行が保証できます。

不適切な整備を行いますと、保証期間中でも保証が適用されないことがあります。

停止表示板、応急処置セット、工具セット

- ▷ 「トランク・ルーム（911カレラ、911カレラS）」（132ページ）を参照してください。
- ▷ 「トランク・ルーム（911カレラ4、911カレラ4S）」（133ページ）を参照してください。
  国によっては、工具セットやスペア・パーツの携帯が義務付けられている場合があります。運転前には必ず確認をしてください。

⚠ 警 告

メインテナンス作業は危険を伴いますので十分に注意してください。致命的な事故、怪我および火災になる恐れがあります。

- ▷ バッテリや燃料系統の近くでは、喫煙したり火気を近付けたりしないでください。
- ▷ 整備は、屋外か、室内でも換気のよい状況で行ってください。
- ▷ 加熱しているエンジン部品の近くで作業をする場合は、火傷の危険性がありますので十分注意してください。
- ▷ エンジン・ルーム内の部品の整備をする前にエンジンを停止し、十分冷やしてください。
- ▷ エンジンをかけたまま作業しなければならない場合は、必ずパーキング・ブレーキをかけ、シフト・レバーをニュートラルまたはセレクタ・レバーを**“P”**の位置にします。
- ▷ 手、指、衣服の一部（ネクタイ、袖など）や装飾品、長い髪などがファン、ドライブ・ベルト、その他の可動部に絡まることのないように、特に注意してください。
- ▷ エンジン・ルーム・ブロワはエンジン・ルーム・リッドに取付けられています。エンジン・ルーム・ブロワは、エンジンが停止していても、約30分間はクーラントの温度に応じて作動し続けたり、作動し始めることがあります。
  エンジン・ルーム付近で作業をする場合は、エンジンおよびイグニッションをOFFにし、十分注意して作業をしてください。
- ▷ ラジエータおよびラジエータ・ファンは車両の前側にあります。
  ラジエータ・ファンはイグニッションがONのときは、作動していたり、不意に作動することがあります。
  ラジエータ・ファン付近で作業をする場合は、エンジンおよびイグニッションをOFFにして怪我をする危険性がありますので十分注意して作業をしてください。
- ▷ イグニッションがONのときは、点火装置に接続されている全てのケーブルとリード線に高電圧がかかっていますので、特に注意が必要になります。
- ▷ もし、車の下に入って作業する場合は、必ず強固なリフトで車体を持ち上げてください。ジャッキを使用することは危険ですのでおやめください。
- ▷ エンジン・オイル、ブレーキ液またはクーラントなどの液体は健康を害するので、取扱いの際は次のことに注意してください。
  これらの液体はお子様の手の届かない所で保管してください。
  廃棄する場合は、法規に従ってください。

タイヤとホイール

タイヤの寿命は、空気圧やホイール・アラインメントの他に、走行スタイルにも関係しています。急加速、高速でのコーナー走行、ブレーキの酷使はタイヤの摩耗を早めます。また、高い外気温や悪路での走行では、トレッドの摩耗も大きくなります。エンジン同様、タイヤも正常な状態で使用されなければなりません。正しく取扱うことにより、長時間にわたり、安全なドライビングが保証されます。
安全のためにも、これから説明されるタイヤの取扱いに関する項目を守ってください。

荷重と速度

▷ 車両に規定重量を超える荷物を積まないようにしてください。

ルーフ上の荷重に注意してください。

過負荷状態に加えて

＋ タイヤ空気圧が低いとき

＋ 高速で走行したとき

＋ 気温が高いとき

（例：真夏の暑い日のドライブなど）
走行するのはきわめて危険な行為です。

タイヤの空気圧

タイヤを規定の空気圧に保ってください（規定空気圧は、この取扱説明書の249ページと運転席側ドア開口部に表示されています）。表示されている規定空気圧は、タイヤが冷えているときのものです。（20℃）

▷ 空気圧は最低でも2週間毎に点検してください。また必ずタイヤが低温状態の時に行ってください。

▷ タイヤ空気圧モニタリング・システム装着車：

「TPCタイヤ空気圧モニタリング・システム」（91ページ）を参照してください。

タイヤの温度が上昇すると、空気圧は上昇します。

▷ タイヤの温度が高い状態で空気を抜くと、温度が下がったときに空気圧が最低値以下になってしまうため注意が必要です。

バルブ・キャップはバルブからの空気漏れを防ぎ、ほこりや汚れが入るのを防ぎます。

▷ 必ずネジを完全に締めてください。

▷ 紛失したら直ちに新しいキャップを取付けてください。

空気圧が不十分だとタイヤが過熱し、見える見えないにかかわらずタイヤに損傷を与えます。この様な損傷は、空気圧を正しく調整しても直りません。

タイヤの破損

▷ 「高圧洗車装置」（190ページ）を参照してください。

⚠ 警 告

目に見えないような傷でも、高速走行時にはそれが原因でタイヤがバーストすることがあります。

▷ 定期的にタイヤ（側面も含む）を点検し、異物、欠け、きり傷、き裂、側面のふくれ等がないか調べてください。

▷ 縁石は速度を落として、なるべく直角に乗り越えてください、また急な縁石や尖った縁石を乗り越えるのはやめてください。

▷ 衝撃の強さによっては、リムも損傷することがあります。リムの特に内側が損傷している可能性がある場合には、専門家による点検を受けてください。

▷▷▷

以下の場合、安全のためにタイヤ交換をお薦め致します。

— タイヤに不具合がある場合、状況から判断してタイヤの層が損傷している可能性がある場合
— 空気圧の低下や損傷のためにタイヤが過熱したり異常な負荷がかかり過ぎた可能性がわずかでもある場合

知識：

タイヤの修理は、どのような場合でも許可されていません。タイヤ・シーラントによるタイヤの補修は緊急な場合にかぎります。近くの整備工場までは運転していくことができますが、タイヤの機密性が確保されたとしても、緊急時に短距離を走行するに留めてください。

縁石

高速で縁石を乗り越えたり、縁石の鋭角部分や尖ったもの（石など）にタイヤが当たると、その衝撃で目に見えない損傷が生じます。その時点では気付かなくても、後で損傷があらわれる場合があります。衝撃の強さによっては、リム・フランジが損傷する場合があります。

タイヤの保管

▷ タイヤは常に乾燥した場所に保管してください。ホイールに取付けていないタイヤは立たせた状態で保管してください。

▷ 燃料、オイル、グリース等に触れないようにしてください。

「タイヤは保管して古くなった方が摩耗しにくくなる」といった説がありますが、これはまったくの誤りです。時間がたつと、ゴムに伸縮性を与えるために添加されている化学薬品の効果がなくなり、ゴムがもろくなってしまうため、**製造後6年以上たったタイヤは使用しないでください**。

タイヤの製造時期は側面のDOTコードでわかります。例えば、コードの下4桁が1204となっていたら、2004年の第12週目に製造されたタイヤということになります。

トレッド（溝）

トレッドが浅くなればなるほど、ハイドロプレーニング現象の起こる危険性が高くなります。

▷ 安全のため、トレッドの溝にスリップ・サイン（深さ1.6ミリ）が**表われる前に**タイヤを交換してください。

▷ タイヤは定期的に点検してください。特に長距離走行の前後には、入念に点検をしてください。

ホイール・バランス

▷ 安全で快適なドライブを楽しんでいただくために、サマー・タイヤは春に、スノー・タイヤは冬に入る**前に**ホイール・バランスの調整を受けてください。

ウエイトは必ず認可されたものを使用してください。接着タイプのウエイトは洗浄剤により落下することがありますので、ホイールの清掃の際は注意してください。

ホイールの交換

▷ ホイールを取外すときは、回転方向と各ホイールの位置をマークしてください。

例：

FR（右前）、FL、RRおよびRL

▷ 常にマークした通りにタイヤを取付けてください。

ホイール・アライメント

トレッドの摩耗に偏りがあるのは、ホイールのアライメント不良の可能性があります。ポルシェ正規販売店にご相談ください。

▷ ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店で実施される事を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

⚠ 警 告

不具合の原因をそのままにして運転をつづけると車両をコントロールできなくなることがあり、たいへん危険です。

長距離走行時にハンドルをとられたり、振動が発生した場合は、タイヤや車両が損傷する恐れがあります。

▷ 急激なブレーキ操作を行わないように、スピードを落としてください。

▷ 停車して、タイヤを点検しても不具合箇所が判明しない場合には、慎重な運転を心掛け、最寄りのポルシェ正規販売店まで車両をお持ちください。

ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店で実施される事を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

タイヤ交換

ZR品質タイヤは240km/ h の速度に耐えられるように設計されていますが、その速度を強要する訳ではありません。法定速度を遵守して走行してください。

▷ 新しいタイヤを取り付ける前に、最新の認可事情についてポルシェ正規販売店にお尋ねください。

▷ ポルシェ車によってテスト、認証されたタイヤメーカーの製品のみをご使用ください。

基本的にタイヤの組み合わせは同じメーカーの同じ仕様番号（N0、N1など）のものに限定してください。

▷ 新しいタイヤはグリップ性能が十分ではないので、交換後100～200kmは必要以上に高速で走行しないでください。

フロントまたはリア・タイヤ**のみ**交換した場合は、前後タイヤのトレッド溝深さに差があるので、それまでの走行とはっきりした違いが感じられます。この違和感は特にリア・タイヤを交換した場合に顕著になります。走行距離が伸びるにつれて違和感はしだいに減少していきます。

▷ ハンドリングの変化に応じた運転を行ってください。

タイヤの交換はかならず整備工場などで行ってください。
不良タイヤを1個のみ交換する場合は、左右タイヤのトレッド溝深さに30%以上の差がないように注意してください。

▷ 過去の使用歴が不明な場合は、中古タイヤを使用しないでください。

バルブ

▷ プラスチック・バルブ・キャップのみを使用してください。

ラバー・バルブはタイヤ交換時にかならず交換してください。
メタル・バルブの交換は、規定の取り付けまたは交換手順に従ってください。
ポルシェ純正メタル・バルブまたはポルシェ社の要求する性能、品質規準を満たす同等部品を使用してください。

▷ バルブ・インサートの汚れを防ぐため、必ずバルブ・キャップを取り付けてください。

バルブが汚れると、タイヤ空気圧減少の原因となります。

ウィンター・タイヤ

⚠ 警 告

走行道路の遵守速度を守ってください。思わぬ事故を起こす恐れがあります。

▷ ウィンター・タイヤの最高制限速度を超えないように走行してください。

▷ 最高制限速度を表示したステッカーを運転手の目に付く位置に貼ってください。
国別の法律に従ってください。

▷ ウィンター・タイヤは降雪や凍結のシーズンが近付いたら早めに、4輪全てに装着してください。ウィンター・タイヤに関しては最寄りのポルシェ正規販売店にご相談ください。

▷ ウィンター・タイヤを装着する前に、認可されているタイヤであることを確認してください。

▷ ポルシェ社によってテスト、認可されたタイヤ・メーカーの製品のみをご使用してください。

知識：
外気温が7℃を下回る場合、ウィンター・タイヤを装着されることをお勧めします。ウィンター・タイヤはトレッドの深さが4mm以下になると機能が低下します。

ホイールの交換

▷ ホイールを取外すときは、回転方向と各ホイールの位置をマークしてください。
例：
FR（右前）、FL、RRおよびRL

▷ 常にマークした通りにタイヤを取付けてください。

その他

冬場の走行には、雪や氷を取除くためのハンドブラシとプラスチック製スクレーパー、凍結した斜面にまく乾いた砂などを携帯すると役に立ちます。

スノー・チェーン

スノー・チェーンは後輪にのみ装着可能で、「テクニカル・データ」に掲載されていないタイヤ／リムの組合わせには、使用できません。

▷ チェーンとホイール・ハウスの間に十分なクリアランスをとるため、ポルシェ社が推薦、認可したファイン・リンク・チェーンのみをご使用ください。

▷ スノー・チェーンを装着する前に、ホイール・ハウスの内側の固まった雪と氷を取除いてください。

▷ 法定速度を遵守してください。

▷ 「タイヤ、ホイール、トレッドー 911カレラ、911カレラS」(247ページ）を参照してください。

911カレラ、911カレラS

スノー・チェーンの装着

5mmスペーサを取付けた状態では、スノー・チェーンを装着しないでください。

⚠ 注 意

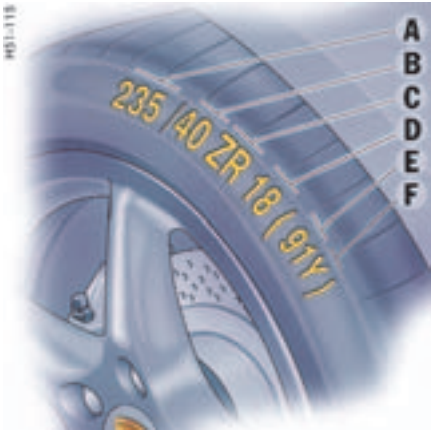
5mmスペーサを取付けたままスノー・チェーンを装着すると、ホイール・ハウジングを損傷する恐れがあります。

▷ スノー・チェーンを装着する前に、4輪すべての5mmスペーサを取外してください。

▷ スペーサの取外し／取付け：

スペーサの取外しと取付け作業はポルシェ正規販売店で行ってください。ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店での実施を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊富なスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束いたします。

▷ 「5mmスペーサ」(212ページ）を参照してください。



A - *タイヤ幅（mm）*
B - *扁平率（%）*
C - *タイヤ構造記号（ラジアル）*
D - *リム径（インチ）*
E - *ロードインデックス*
F - *速度記号*

ラジアル・タイヤの記号

速度記号

速度記号はそのタイヤの最高許容速度を示します。
この記号はタイヤのサイド・ウォールに表示されています。

H = 210km/hまで
V = 240km/hまで
W = 270km/hまで
Y = 300km/hまで

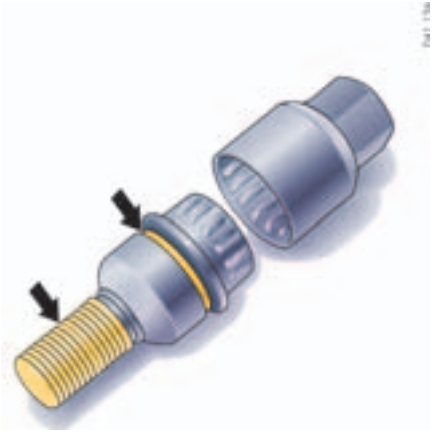
知識：

▷ 定格最高速度が車両最高速度に満たないタイヤ（ウィンター・タイヤなど）は、タイヤ・サイドウォールにM+S識別が記載されている場合に限り、取付けることができます。

軽合金ホイールの記号

リム幅（インチ）およびリム・オフセットは外側から見えます。この表示はタイヤ・バルブの側にあります。

G - *リム幅（インチ）*
H - *フランジ形状記号*
I - *ドロップ・センター・リム記号*
J - *リム径（インチ）*
K - *ダブル・ハンプ*
L - *リム・オフセット（mm）*



ホイール・ボルト

▷ タイヤ交換時などホイール・ボルトを外したときは清掃してください。

▷ ポルシェ純正グリース〔**オプティモリTA**（アルミニュウム・ペースト）〕をねじ山、ヘッド・ボルトと可動式球面キャップ・リングの間（**矢印**）に塗布してください。
球面キャップのベアリング側にはグリースを絶対に塗らないでください。

▷ ホイール・ボルトを交換する際は、必ずポルシェ純正ホイール・ボルトを使用してください。
整備についてはポルシェ正規販売店にご相談ください。トレーニングを受けたスタッフと専用の工具および部品のあるポルシェ正規販売店で整備を受けることをお薦めします。

締付けトルク

ホイール・ボルトは**130Nm**の力で締め付けてください。

盗難防止ホイール・ボルト

盗難防止ホイール・ボルトの取外しや取付けを行うには、山が特殊な形状になっているソケットをアダプタとして、ホイール・ボルトとホイール・ボルト・レンチの間に挿入してください。

▷ ソケットを挿入するときは、ホイール・ボルトの山に確実に合わせてください。このソケットは、工具セットの中に入っています。

知識：

リア・アクスルに17mmスペーサを装着している場合は、ホイールの取付けにホイール・ナットを使用しています。
ご要望に応じて、盗難防止ホイール・ナットを取付けることもできます。

ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店での実施を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊富なスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束いたします。

ポルシェの修理工場で修理するためにホイールを外す必要がある場合、車のキーと一緒に盗難防止ホイール・ボルト用のソケットも忘れずお渡しください。

スペーサ＊

▷ スペーサを取付けるときは、ポルシェ社が承認したホイールおよびホイール・ボルト、ナットを使用してください。
スペーサを取付ける前に、最新の認可ホイールを確認してください。詳しくは、正規ポルシェ販売店にご相談ください。

911カレラ4、911カレラ4S

⚠ 警 告

思わぬ事故を起こす恐れがあります。

17mmスペーサをリア・アクスルに取付けるときは、必ず11.5J×19（67mmリム・オフセット）のホイールを装着してください。

▷ 指定サイズ以外のホイールを装着するときや、コラプシブル・スペア・タイヤを使用するときは、必ず17mmスペーサを取外してください。ホイールが正しく装着できません。

911カレラ、911カレラS

コラプシブル・スペア・タイヤを使用するとき

5mmスペーサが取付けられている場合は、コラプシブル・スペア・タイヤを装着するときに、5mmスペーサを取外さないでください。

スノー・チェーンの装着

5mmスペーサを取付けた状態では、スノー・チェーンを装着しないでください。

⚠ 注 意

5mmスペーサを取付けたままスノー・チェーンを装着すると、ホイール・ハウジングを損傷する恐れがあります。

▷ スノー・チェーンを装着する前に、4輪すべての5mmスペーサを取外してください。

知識：

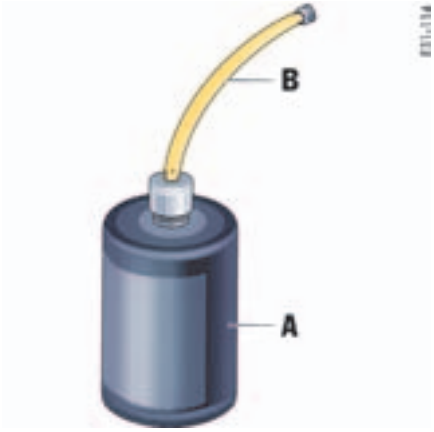
▷ スペーサの取外し／取付け：
スペーサの取外しと取付け作業はポルシェ正規販売店で行ってください。ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店での実施を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊富なスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束いたします。

▷ 「17mmスペーサ」（211ページ）を参照してください。
「5mmスペーサ」（212ページ）を参照してください。

＊日本仕様に設定はありません。

パンクしたとき

1. できるだけ道路の脇によけて停車します。
   ジャッキがセットできる固く平坦な滑りにくい場所に駐車してください。
2. ハザード・ランプを点灯させます。
3. パーキング・ブレーキをしっかりかけます。
4. ギヤを1速に入れるか、セレクタ・レバーを **“P”** にします。
5. 前輪を直進位置にします。
6. エンジンが始動しないように、イグニッション・キーを抜き、ステアリングをロックします。
7. 車両から乗員を降ろします。
8. 停止表示板を車両から適当に離して置きます。



A - *充填ボトル*
B - *充填ホース*

タイヤ・シーラント

タイヤ・シーラントはタイヤ・トレッドについた小さな切傷の補修に使用できます。

タイヤ・シーラントによるタイヤの補修は緊急な場合にかぎります。近くの整備工場までは運転していくことができますが、タイヤの気密性が確保されたとしても、緊急時に短距離を走行するに留めてください。

タイヤ・シーラントおよびプレッシャ・テスター付きコンプレッサーはトランク・ルームのツール・ボックスに保管されています。

タイヤ・シーラントの構成：

— 充填ボトル
— 充填ホース
— バルブ回し
— スペア・バルブ・インサート
— 最高制限速度を表示したステッカーを運転手の目の付く位置に貼ってください。

⚠ 警 告

思わぬ事故を起こす恐れがあります。

▷ タイヤ・シーラントは4mm以下の切傷や刺傷のみに使用してください。

▷ リムが損傷している場合は、タイヤ・シーラントを使用しないでください。

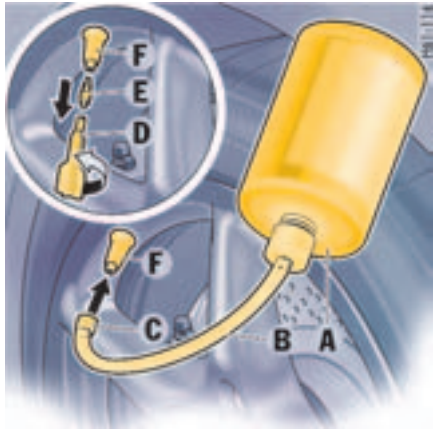
⚠ 警 告

シーラントは可燃性が高く、有害な物質なので十分注意してください。

- ▷ タイヤ・シーラントを取扱う際は、炎、裸火、喫煙は厳禁です。
- ▷ 皮膚、目、衣服に付着しないように注意してください。
- ▷ お子様の手の届かない場所に置いてください。
- ▷ 気化ガスを吸込まないでください。

シーラントが付着した場合：

- ▷ 皮膚に付着したり、目に入った場合はただちに洗い流してください。
- ▷ 付着した衣服はすぐに着替えてください。
- ▷ アレルギー反応がある場合は至急医師の診察を受けてください。
- ▷ シーラントを飲込んだ場合は、ただちに口の中を十分にゆすぎ、大量の水を飲んでください。嘔吐せずに、至急医師の診察を受けてください。



A - *充填ボトル*
B - *充填ホース*
C - *充填ホースのプラグ*
D - *バルブ回し*
E - *バルブ・インサート*
F - *タイヤ・バルブ*

シーラントの充填

1. タイヤの空気が抜けた原因となったものは、タイヤに残しておきます。
2. トランク・ルームからコンプレッサ、シーラントおよび同封のステッカーを取出します。
3. ステッカーはドライバーから見える位置に貼付けます。
4. 充填ボトル**A**を振ります。
5. 充填ホース**B**を充填ボトルにねじ込みます。これで充填ボトルが使用できます。
6. タイヤ・バルブ**F**からバルブ・キャップを外します。
7. バルブ回し**D**を使用してバルブ・インサート**E**をタイヤ・バルブから取外します。バルブ・インサートは、乾いた汚れのない場所におきます。
8. 充填ホース**B**のプラグ**C**を取外します。
9. 充填ホースをタイヤ・バルブに押し付けます。
10. 充填ボトルをタイヤ・バルブより上に持上げ、ボトルを強く押して中身を完全にタイヤに充填します。
11. 充填ホースをタイヤ・バルブから抜きます。
12. バルブ回しを使用してバルブ・インサートをタイヤ・バルブにしっかりねじ込みます。
13. 指定のタイヤ空気圧をセットし、タイヤに空気を入れます。
「冷間時のタイヤ空気圧」（249ページ）を参照してください。
14. バルブ・キャップをタイヤ・バルブにねじ込みます。
15. 約10分間走行してからタイヤ空気圧を点検してください。
タイヤ空気圧が1.5bar/22psi未満の場合は、運転を中止してください。

タイヤ空気圧が1.5bar/22psi以上の場合は、指定のタイヤ空気圧に調整してください。

16. スペア・タイヤに不具合が発生したら、ポルシェ正規販売店にて点検を受けてください。ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店での実施を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊富なスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束いたします。

お手入れ

はみ出したシーラントは乾燥すると細かく剥がれ落ちます。

⚠ 警 告

思わぬ事故を起こす恐れがあります。

- ▷ あくまでも応急的な処置なので、できるだけ早く専門整備工場でタイヤを交換してください。
- ▷ 急加速やカーブを高速で走行することは避けてください。
- ▷ 80km/hの最高速度を遵守してください。
- ▷ シーラントおよびコンプレッサーに関する安全および取扱説明書を遵守してください。

前側のジャッキ・ポイント

後側のジャッキ・ポイント

リフトまたはトロリ・ジャッキ用のジャッキ・ポイント

- ▷ 車体をリフトアップする際には、ジャッキ・ポイントで行ってください。
- ▷ 車両をリフトに移動させる際には、リフトのプラット・フォームと車体の間に十分なスペースがあることを確認してください。
- ▷ エンジン、トランスミッション、およびアクスルでのジャッキ・アップは決して行わないでください。重大な事故を起こす恐れがあります。

タイヤ交換

⚠ 警 告

ジャッキが外れて致命的な怪我をする恐れがあります。

▷ ジャッキ・アップするときは、車にだれも乗車していないことを確認してから行ってください。

▷ ジャッキは、タイヤ交換のために車体を持ち上げるためのみに使用してください。

▷ 車の下にもぐる場合は、適切な車体スタンドまたはそれに相当するもので支えてください。

知識：

タイヤ交換に必要な工具（ジャッキ、ホイール・ボルト・レンチなど）は車両に装備されておりません。ポルシェ正規販売店にご相談ください。

1. パーキング・ブレーキをしっかりかけ、ギヤを一速に入れるかセレクタ・レバーを **“P”** にします。

   イグニッション・キーを抜きます。
2. パンクしたタイヤの反対側の車輪に輪止めをするなどして、車が不意に動き出さないようにします。特に坂道などでは必ず行ってください。
3. 交換するタイヤのホイール・ボルトを少しだけ緩めます。
4. タイヤが地面から離れるまで、車両を持ち上げます。必ずジャッキ・ポイントを持ち上げてください。

▷「リフトまたはトロリ・ジャッキのジャッキ・ポイント」（208ページ）を参照してください。

5. 対角線のホイール・ボルト1本または2本を外し、工具セットの組付け補助工具を取付け、残りのホイール・ボルトを外します。（図参照）

ポルシェ・セラミック・コンポジット・ブレーキ
非装着車

⚠ 注 意

ブレーキ・ディスクを損傷する恐れがあります。

▷ タイヤを交換する場合は、必ず補助工具を挿入してください。

知識

▷ スペーサの取外し／取付け：
「17mmスペーサ」（211ページ）を参照してください。
「5mmスペーサ」（212ページ）を参照してください。

ポルシェ・セラミック・コンポジット・ブレーキ
非装着車

6. 交換するタイヤを外し、新品のタイヤを取付けます。
7. 「ホイール・ボルト」（204ページ）を参照してください。

   ホイール・ボルトを挿入し、手で仮締めします。組付け補助工具を取外し、残りのボルトを締め付けます。ホイールの中心がずれないように、対角線の順に仮締めします。接触面に汚れがないようにしてください。
8. 車両を降ろし、ジャッキを取外します。
9. 対角線の順に、ホイール・ナットを完全に締めます。

▷ **タイヤを交換したら、トルク・レンチを使ってホイール・ボルトのトルクを測ってください。締付けトルクは130Nmです。**

17mmスペーサ＊

911カレラ4、911カレラ4S

⚠ 警 告

思わぬ事故を起こす恐れがあります。

17mmスペーサをリア・アクスルに取付けるときは、必ず11.5J×19（67mmリム・オフセット）のホイールを装着してください。

▷ 指定サイズ以外のホイールを装着するときや、コラプシブル・スペア・タイヤを使用するときは、必ず17mmスペーサを取外してください。ホイールが正しく装着できません。

▷ スペーサについては：
「スペーサ」（205ページ）を参照してください。

スペーサの取外し

1. スペーサを取付けているホイール・ボルト**A**をゆるめ、取外します。
2. スペーサを取外します。
3. タイヤ組付け補助工具（1本または2本）を、外したホイール・ボルトの代わりに取付けます。
4. ホイールを取付けます。
5. 「ホイール・ボルト」（204ページ）を参照してください。
スペーサを取付けていたホイール・ボルト**A**を使用して、ホイールを固定します。
ホイール・ボルト**A**を挿入し、手で仮締めします。
タイヤ組付け補助工具を外し、代わりにホイール・ボルトを取付けます。
ホイールの中心がずれないように、対角線の順に仮締めします。
6. 車両を下ろし、ジャッキを取外します。
7. 対角線の順に、ホイール・ボルトを完全に締付けます。

タイヤを交換したら、できるだけ速やかにトルク・レンチを使用してホイール・ボルトのトルクを点検してください。締付けトルクは130Nmです。

▷ 取外したスペーサとホイール・ナットを紛失しないように収納してください。

スペーサの取付け

1. ホイールを取外します。
2. ホイールを取付けていたホイール・ボルト**A**を使用して、スペーサを取付けます。
スペーサを取付け、ホイール・ボルト**A**を対角線の順に仮締めします。
3. ホイール・ボルトを対角線の順に完全に締付けます。
締付けトルクは**130Nm**です。
4. ホイールを取付けます。
ホイール・ナットは純正品を使用してください。
締付けトルクは**130Nm**です。

▷ 「タイヤ交換」（209ページ）を参照してください。

ご要望に応じて、盗難防止ホイール・ナットを取付けることもできます。

▷ ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店での実施を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊富なスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束いたします。

＊日本仕様に設定はありません。

5mmスペーサ＊

911カレラ、911カレラS

コラプシブル・スペア・タイヤを使用するとき

5mmスペーサが取付けられている場合は、コラプシブル・スペア・タイヤを装着するときに、5mmスペーサを取外さないでください。

スノー・チェーンの装着

5mmスペーサを取付けた状態では、スノー・チェーンを装着しないでください。

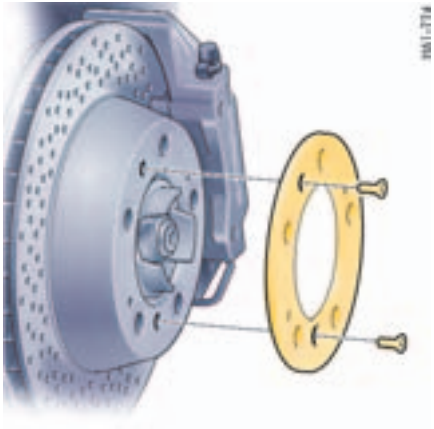
⚠ 注 意

5mmスペーサを取付けたままスノー・チェーンを装着すると、ホイール・ハウジングを損傷する恐れがあります。

▷ スノー・チェーンを装着する前に、4輪すべての5mmスペーサを取外してください。

▷ スペーサの取外し／取付け：

スペーサの取外しと取付け作業はポルシェ正規販売店で行ってください。ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店での実施を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊富なスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束いたします。



スペーサの取外し

1. 皿ネジ・タイプのスクリュ2本 (M6×16) を、ホイール・ハブから取外します。
2. スペーサを取外します。
3. ネジ部の長さが**短い**皿ネジ・タイプのスクリュ (M6×12) を使用して、ブレーキ・ディスクを固定します。
   部品番号： 900.269.047.09
   締付けトルクは**10Nm**です。
4. スペーサを取外した状態でホイールを取付けるときは、ネジ部の長さが5mm**短い**ホイール・ボルトを使用します。
   部品番号： 996.361.203.02
   締付けトルクは**130Nm**です。

▷「タイヤ交換」（209ページ）を参照してください。

スペーサを取外したときに必要な部品：

皿ネジ・タイプのスクリュ（短）(M6×12)
部品番号： 900.269.047.09

ホイール・ボルト（短）×1セット
部品番号： 996.361.203.02

盗難防止ホイール・ボルト
部品番号： 996.361.057.01

＊日本仕様に設定はありません。

ホイール・ボルト（長）
X = ボルト首下長さ約50 mm
矢印部に識別マークあり

ホイール・ボルトの識別方法

ホイール・ボルト（長）は、ボルト頭部に「GT」の印が付いているか、または赤色にマーキングされています。
もしくは、ネジ部の球面キャップ・リングが赤色にメッキされています。
このホイール・ボルト（長）は、5mm**スペーサを取付けたとき**に使用してください。

ホイール・ボルト（短）には、カラー・マーキングがありません。
このホイール・ボルト（短）は、5mm**スペーサを取外したとき**に使用してください。
どちらの場合も、ホイール・ボルトの締付けトルクは**130Nm**です。

▷ スペーサについては：
「スペーサ」（205ページ）を参照してください。

電気系統

電気・電子回路の損傷を防止するために、アクセサリの取付け作業はポルシェ正規販売店で行ってください。ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店での実施を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊富なスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束いたします。

▷ アクセサリはポルシェ社が認可した物のみをご使用ください。

⚠ 警 告

回路がショートしたり、火災になる恐れがあります。

▷ 電気系統の作業をするときは事前にバッテリ・マイナス（−）ケーブルの端子を外してください。

リレー

リレーの点検および交換は必ずポルシェ正規販売店で交換してください。

フロント・シート間の小物入れ

ソケット

アクセサリは12Vソケットに接続することができます。

▷ 最大消費電流を遵守してください。

知識：

タイヤ充填コンプレッサはシガー・ライターに接続して使用してください。

助手席足元
（カブリオレのBOSEサウンド・システム装着車のみ）

知識：

ソケットは、イグニッションをOFFにしても、イグニッション・キーを抜いても使用できます。
エンジン停止中にアクセサリを使用すると、バッテリが上がります。

バッテリあがりを防ぐために、エンジン停止状態ではアクセサリを5分以上作動させないでください。

全てのソケットを合わせた最大電力消費量が70Wを超えないようにしてください。

▷ アクセサリはメーカーの電力仕様を遵守して使用してください。

盗難防止装置、セントラル・ロッキング

セントラル・ロッキングと盗難防止装置の状態は、バッテリを取外しても変換されません。

バッテリが取外された場合は、盗難防止装置の機能は停止します。

セントラル・ロッキング・オーバーロード・プロテクション

セントラル・ロック・システムを1分間に10回以上操作した場合、30秒間作動しません。

2時間後または7日後の作動停止

車に装備されている電装品で電源が入っているものやスタンバイ・モードのもの（パワー・ウィンドウ、トランク・ルーム・ランプ、ルーム・ランプ、ラジオ）はイグニッション・キーを抜くと**約2時間後**、自動的に電源が切られます。
7日間始動しないとリモート・コントロール・スタンバイ機能はOFFになります（バッテリ放電防止のため）。

1. この場合、運転席ドアのロック解除はドア・ロックにキーを差込んで行います。

   警報システムの作動を防ぐためにドアは閉めたままにします。
2. リモート・コントロールの**ボタン1**を押してください。

リモート・コントロールは再び作動します。

ヒューズの交換

ショートや過負荷によるケーブルやアクセサリの損傷を防ぐために、各々の回路がヒューズで保護されています。
ヒューズ・ボックスは運転席の足元の左下にあります。

A - *プラスチック・グリップ*
B - *スペア・ヒューズ*

1. 交換するヒューズと関係のあるシステムをOFFにしてください。
2. ヒューズ・ボックスは、プラスチック製のカバーで保護されています。カバーは手で引張って開きます（**矢印**）。

   ヒューズ一覧表と**フロント・トランク・リッドの非常時のロック解除**はヒューズ・ボックス・カバーの内側に記載されています。
3. ヒューズの点検や交換の際は、プラスチック・グリップ**A**を使用して、止め具から外してください。切れたヒューズは、金属線が溶けているのでわかります。
4. 必ず同じ容量のヒューズと交換してください。

知識：

▷ ヒューズが何度も切れる場合は、原因を確かめるため直ちにポルシェ正規販売店にご相談ください。ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店で実施される事を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

フロント・トランク・リッドの非常時ロック解除

バッテリ上がりの場合、リッドを開くには別の外部バッテリを使用する必要があります。

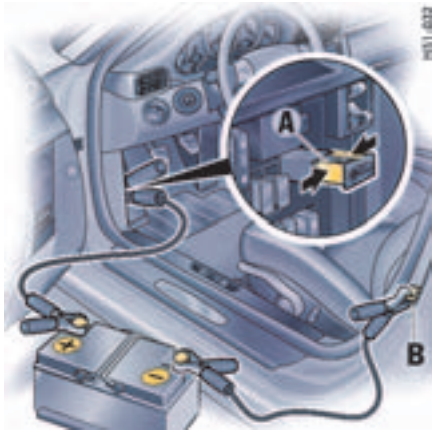
リッドのロック解除

1. キーでドア・ロックを解除します。キーはドア・ロックに付けたままにします。
2. ヒューズ・ボックスのプラスチック・カバーを取外します。
3. ヒューズ・ボックスの端子**A**（＋）を引出します。
4. ジャンパー・ケーブルを使用して、外部バッテリのプラス端子とヒューズ・ボックスの端子**A**（＋）を接続します（プラス・ケーブル）。

知識：

車両がロックされていた場合、マイナス・ケーブルを接続するとアラーム・ホーンが鳴ります。

5. ジャンパー・ケーブルをもう1本使用して、外部バッテリのマイナス端子とラッチ・ストライカ**B**を接続します（マイナス・ケーブル）。
6. リモート・コントロールを使用して、フロント・トランク・リッドのロックを解除します。警報システムはOFFになります。



7. まずマイナス・ケーブルを外し、続いてプラス・ケーブルを外します。
8. 端子**A**（＋）をヒューズ・ボックスに押込み、プラスチック・カバーを取付けます。

知識：

この手順ではエンジンの始動は**できません**。

▷ 「ジャンパー・ケーブルによる始動」（223ページ）を参照してください。

バッテリ

▷ 「緊急操作ーイグニッション・キーの抜取り」(65ページ) を参照してください。

⚠ 警 告

回路がショートしたり、火災になる恐れがあります。

▷ 電気系統の作業をするときには、ショートの危険を避けるためにバッテリ・マイナス（ー）ケーブルの端子を外してバッテリの接続を切ってください。

▷ ショートする危険があるので、工具、指輪、ブレスレット、時計バンドなど電気を通す装飾品が車両の電気部品と接触しないように注意してください。

爆発する恐れがあります。

▷ 乾いた布でバッテリを拭かないでください。

▷ バッテリを取扱う前に、車体などに触れて静電気を逃がしてください。

バッテリ取扱い上の注意

作業の前に取扱説明書をお読みください。

安全眼鏡を必ず着用してください。

子供を絶対に近付けないでください。

爆発の危険あり

バッテリ充電中に爆発性の高い電解質のガスが発生します。

火気厳禁、禁煙

電気配線や電気装置を扱っているときは、回路のショートや火花を発生させないでください。
ガス抜きホースが付いたバッテリではホース出口から高濃度の電解質ガスが放出されるためホースによじれや詰まりがないようにしてください。

酸による火傷の危険あり

バッテリ液には極めて強い腐食性があります。
常に安全手袋と安全眼鏡を必ず着用してください。
ガス抜き穴からバッテリ液が漏れる恐れがあるので、バッテリを傾けないでください。

応急処置

バッテリ液が目にかかった場合、直ちに水で数分間洗い流し医者の診察を受けてください。
皮膚、衣服にかかった場合、直ちに石けん水で中和し、大量の水で洗い流してください。
万一バッテリ液を飲み込んでしまった場合は、直ちに医者の診察を受けてください。

廃棄

古いバッテリは、適切な廃棄場にて廃棄してください。

古いバッテリを家庭ごみと一緒に廃棄しないでください。

充電状態

バッテリを十分に充電することにより、始動時のトラブルがなくなり、バッテリの寿命も延びます。交通渋滞、制限速度、および騒音、排ガス、燃費に関する要求により、エンジン回転数、つまりオルタネータ出力は抑えられます。しかし、電気装備類が驚異的に増え、必要な電力は増加しています。

不慮のバッテリ上がりを防ぐため、下記に留意してください。

▷ 市街地／短距離の運転時、および渋滞時には、不要な電気装備類をOFFにしてください。

▷ 車両を離れるときには、かならずイグニッション・キーを抜いてください。

▷ エンジン停止時には、コンバーチブル・トップの操作およびポルシェ・コミュニティ・マネジメント・システムを頻繁に使用しないでください。

バッテリのお手入れ

▷ バッテリ表面と端子は清潔で乾いた状態に保ってください。

▷ バッテリ・ポストと端子クリップは、必ず確実にセットしてください。

バッテリ液の量の点検

夏期や暖かい気候のところでは、頻繁に点検する必要があります。点検については、ポルシェ正規販売店で実施してください。

バッテリの充電

ポルシェ正規販売店でスタッフにご相談の上、お車に合ったバッテリ充電器をお求めください。

1. メーカーの取扱説明書に従って、作業を行ってください。
   充電器の種類によってはバッテリを切離す必要があります。重要：この場合、マイナス・ケーブルを先に切離してから、次にプラス・ケーブルを切離してください。ショートする危険があります。接続は逆の順序で行ってください。
2. バッテリが低温の場合は、充電前に屋内で暖めてください。
3. バッテリが凍結している場合は、充電を行ってはいけません。新品のバッテリと交換してください。
4. 充電時は十分に換気を行ってください。
5. バッテリに充電器を接続します。
   必ず主電源に接続し、正しく接続されているか確認してからスイッチを入れます。

冬季時バッテリの取扱い

気温が低くなるとバッテリの容量が低下する上にリア・ウィンドウ・ヒータ、ランプ類、ヒータ、フロント・ワイパなどの使用頻度が増えるので、より大きなバッテリ電力が必要となります。

▷ 冬になる前に、ポルシェ正規販売店でバッテリの点検を受けてください。

また、バッテリが凍結しないように、常に完全な充電状態にしてください。バッテリが充電不足だと−5℃程度の低温でも凍結することがあります。完全に充電されている場合は−40℃まで凍結しません。

車を保管するとき

車を使用せず、車庫や修理工場に長期間保管する場合は、ドアやエンジン・フード、トランク・リッドを確実に閉じてください。

▷ 「フロント・トランク・リッドの非常時ロック解除」(217ページ) を参照してください。

▷ イグニッション・キーは抜き、必要によってはバッテリの端子を外してください。**バッテリが切放してあると警報装置は作動しません**。

車を車庫に保管している間も、バッテリは放電しています。

▷ 正常に使用可能な状態を保つには、約6週間毎の充電が必要です。
充電器の使用はメーカーの取扱説明書に従ってください。

▷ 取外したバッテリは、湿気がなく風通しのいい冷暗所に保管してください。

バッテリ交換

バッテリの寿命は通常の消耗状態に左右され、特に、お手入れ、気候、走行条件（距離、積載物）によって違ってきます。交換には部品番号をよく確認して、ポルシェ純正バッテリのみをご使用ください。

▷ バッテリを交換するときは、お車に合った性能のバッテリのみを使用してください。
ポルシェ純正バッテリを使用することをお薦めします。

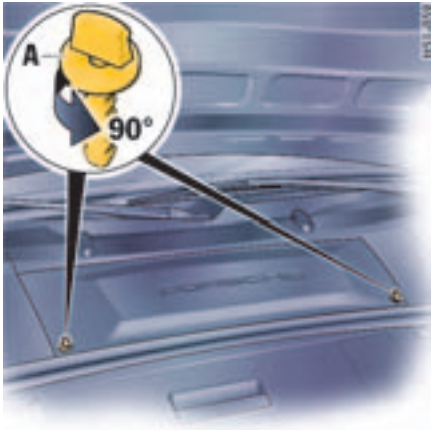
▷ 使用済みバッテリの廃棄処分は、法規に従ってください。

車両の作動復帰

バッテリを接続した後、または**完全に上がってしまった**バッテリを充電した場合は、インストルメント・クラスタのPSM警告灯が点灯し、オンボードコンピュータに警告メッセージが表示されます。

この場合は以下の手順により対処することができます。

1. エンジンを始動します。
2. 車両停止状態で、ステアリングを左右に少しずつ回し、PSM警告灯が消灯し、オンボードコンピュータのメモリから警告メッセージが消去されるまで短距離を直線走行させます。
3. 警告灯および警告メッセージが**消えない**場合は、最寄りのポルシェ正規販売店まで慎重に運転し、故障を修理してください。
4. 警告灯および警告メッセージが消えた場合は、安全な場所に停車します。
5. パワー・ウィンドウの適応を確認してください。
「ドア・ウィンドウ停止位置の記憶」(23ページ) を参照してください。



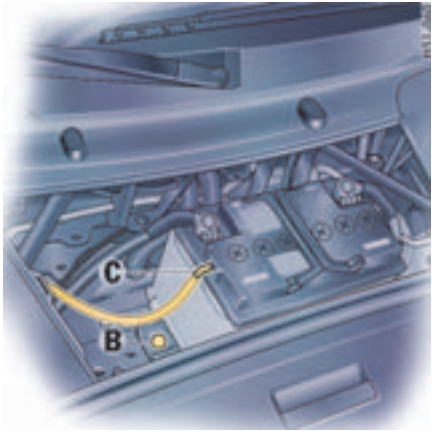
⚠ 警 告

ジェネレータおよび電気系統を損傷する恐れがあります。

▷ エンジンをかけたままバッテリの接続を切放さないでください。

こぼれたバッテリ液で腐食する恐れがあります。

▷ バッテリ液がこぼれるので、バッテリを傾けないでください。



バッテリの取外し

バッテリはフロント・トランク・ルーム下の黒いカバーの中にあります。

1. 全てのアクセサリをOFFにしてください。
2. プラスチック製の黒いカバーを取外す前に、ターン・ロック**A**を解除してください。
3. ガス抜きホース**C**を引抜いてください。
4. マイナス・ケーブルを先に切離し、次にプラス・ケーブルを切離します。ショートする危険があります。
5. ナット**B**を緩めます。
6. バッテリを取外します。

バッテリの取付け

1. バッテリを取付けます。
2. ナット**B**を取付け、締付けます。
3. プラス・ケーブルを先に接続し、次にマイナス・ケーブルを接続します。ショートする危険があります。
4. ガス抜きホース**C**を押込みます。
5. プラスチック製の黒いカバーを取付け、ターン・ロック**A**をロックします。

リモート・コントロール用バッテリの交換

電池の残りが少なくなってくると、リモート・コントロールの作動する距離が短くなったり、リモート・コントロールを操作しても発光ダイオードが点滅しなくなります。

1. 小さなドライバーなどを使って、キー・グリップのカバーを注意して持ち上げます。(**矢印**)
2. 電池を交換します（電極の向きに注意してください)。
   電池（Lithium CR 2032、3V）は最寄りのポルシェ正規販売店でお求めいただけます。
3. カバーを元通りにして、しっかりとはめ合わせます。

   古い電池を捨てる場合は、環境保護の基準に従ってください。

ジャンパー・ケーブルによる始動

▷ 「フロント・トラック・リッドの非常時ロック解除」(217ページ) を参照してください。

▷ 「バッテリ」(218ページ) を参照してください。

冬季にバッテリ容量が不足したり、長い間車を運転せずに放置していたためにエンジンが始動しない場合は、他の車のバッテリを補助として使用することができます。この場合にはジャンパー・ケーブルが必要となります。以下の注意を守ってください。
同一電圧 (12V) のバッテリを使用してください。供給側のバッテリの容量 (Ah) が、バッテリが上がった車のバッテリの容量に較べ低すぎないでください。
ジャンパー・ケーブルは確実に接続してください。

⚠ 警 告

ショートして怪我および損傷をする危険があります。

▷ 使用するジャンパー・ケーブルは十分な断面積を持ち、絶縁端子クリップで接続してあるものに限ります。必ずメーカーの取扱書を読んでください。

▷ エンジン内の作動部に絡まないようにジャンパー・ケーブルを通してください。車両同士を接触させないでください。プラス端子が接続されて電流が流れ、ショートする危険性があります。

▷ 指輪、ネックレス、時計バンドなど、電気を通す装飾品が通電部に触れないように注意してください。

漏れたバッテリ液に触れる危険があります。

▷ バッテリを傾けないようにしてください。

爆発の危険があります。

▷ タバコの火、電気配線や溶接による火花等をバッテリに近付けないでください。

▷ ジャンパー・ケーブルを接続する前に、凍結したバッテリーは解凍してください。

ジャンパ・ワイヤーの接続

下記の手順に従ってください。

1. **プラス側のケーブル (赤)** をまずジャンプ・スタートするバッテリのプラス端子に接続し、次に支援車のバッテリのプラス端子 (十) に接続します。
2. **マイナス側のケーブル (黒)** をまず支援車のバッテリのマイナス端子に接続し、次にジャンプ・スタートする車両の適切なアース箇所 (一) に接続します。
   アース箇所はできるだけバッテリから離れた位置に確保してください。
   例えば、車体金属部やエンジン・ブロックなどが適切なアース箇所です。
   どちらの車両にも適切なアース箇所が見つからない場合は、マイナス側のケーブルを直接バッテリのマイナス端子に慎重に接続してください。
   支援車のみ適切なアース箇所が見つかった場合は、マイナス側のケーブルをまずジャンプ・スタートするバッテリの端子に接続し、次に支援車のアース箇所に接続します。
3. 支援車のエンジンを始動し、高回転にします。
4. エンジンを始動します。ジャンパ・ワイヤー使用による始動時は、スタータを15秒以上作動させないでください。始動に失敗したときは、1分以上待ってから再試行してください。
5. **知識：**
   ジャンパ・ワイヤーを取外す前に、リア・ウィンドウ・ヒータやヒータのブロワ・ファンなどの電気系統のスイッチを入れてください。(ただし、ライト類は**作動させないでください**。) これにより、ジャンパ・ワイヤーを外すときの電圧ピークが低減されます。
   エンジンを作動させたまま、接続時とは逆の順序で両方のジャンパ・ワイヤーを取外します。

バルブ・リスト

	型, 容量
ロービーム（ハロゲン・ヘッドランプ）	H7, 55W
ロービーム（バイ・キセノン・ヘッドランプ）	フィリップス, D2S 35W
ハイビーム（ハロゲン・ヘッドランプ）	H9, 65W
サブ・ハイビーム（バイ・キセノン・ヘッドランプ）	H11, 55W
フォグランプ	H8, 35W
テールランプ、リア・フォグランプ	P21W/4W
ブレーキ／テールランプ	P21/4W
テールランプ、リフレクタ	P21/5W
後退灯	P21
方向指示灯（フロント／リア）	PY21W
方向指示灯（サイド）	WY5W
ドア・ガード／足元照明灯	W5W
車幅灯（フロント）	W5W BV
ライセンス・ランプ	C5W
トランク・ルーム・ランプ／エンジン・ルーム・ランプ／室内灯	K10W
読書灯	6Wキセノン

バルブの交換

⚠ 警 告

回路がショートする恐れがあります。

▷ バルブを交換するときは、必ず電装関係のスイッチをOFFにしてください。

感電して致命的な怪我をする恐れがあります。

▷ バイ・キセノン・ヘッドランプは高電圧を発生させるため、周辺で作業するときは十分注意してください。

容量の大きいバルブを使用するとランプ・ハウジングが損傷します。

▷ リストに示したバルブのみを使用してください。

▷ 新しいバルブに汚れやグリースが付かないように、きれいな布かやわらかい紙で包んで持ち、手が触れないようにしてください。手で触れると油などがバルブに付着しバルブの寿命が短くなります。

▷ 安全のため必ず車内にいくつか予備用バルブを用意し、どのバルブが切れても直ちに新しいものと取替えられるようにしてください。

ヘッドランプ

⚠ 注 意

高温になって損傷することがあります。

▷ ヘッドランプにカバー（フィルム、ストーン・ガードなど）をしないでください。

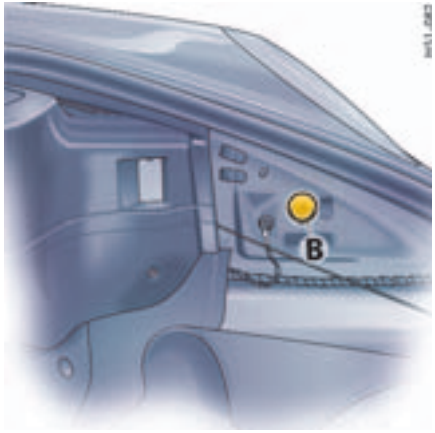
知識：

高温になって損傷することがあります。ヘッドランプが曇るのを防止するため、ヘッドランプとボディ間の隙間を覆わないでください。

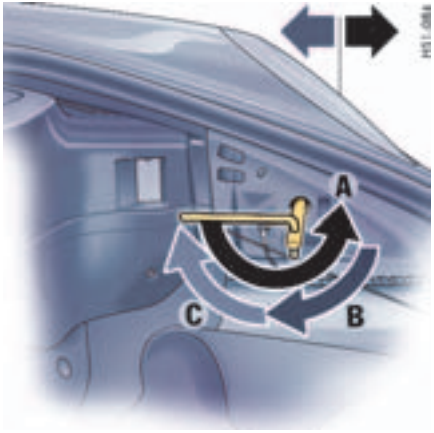
▷ ヘッドランプにカバー（フィルム、ストーン・ガードなど）をしないでください。

取外し

1. プラスチック製ナット**A**を取外します。サイド・クロスを取外します。



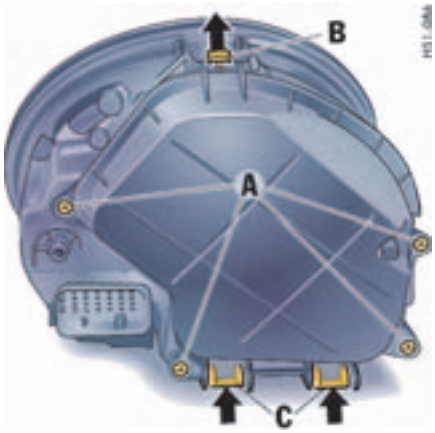
2. ロック解除用の穴のラバー・プラグ **B** を取外します。



3. 工具セットのレンチをスピンドルにあてます。
   レンチの先が後方へ水平になるようにします。
4. レンチを約180°**A**回転させ、そのままの位置に保ちます。ヘッドランプのロックが解除され、わずかに押し出されます。
5. レンチを約90°**B**方向に下げます。
6. この状態でヘッドランプのロックは解除されているので、前方へ引いてフェンダから取外すことができます。

取付け

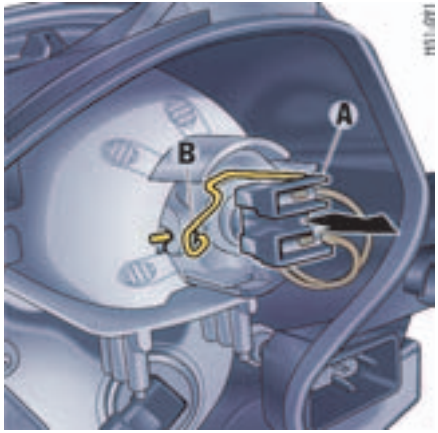
1. ヘッドランプ・ハウジングをガイド・レールに挿入し、フェンダに一杯まで押込みます。
2. ヘッドランプを後方へ押すと同時にレンチを後方へ水平になるまで**C**の位置まで回します。ヘッドランプのロックがはまったときは、感覚と音で分ります。
3. ロック解除用のすき間にラバー・プラグを取付け、サイド・クロスを固定します。
   全てのランプの機能を点検します。



ロービーム、ハイビーム、パッシング

ヘッドランプ・ハウジングのカバーの開き方

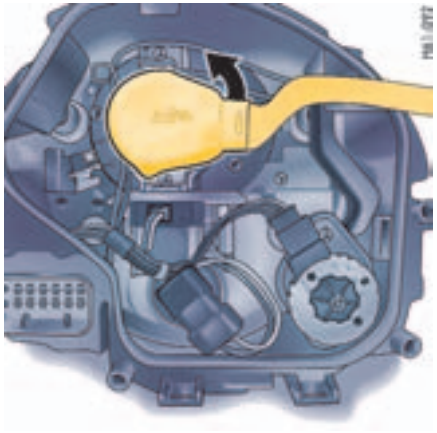
1. ボルト**A**（4本）を取外します。
2. リリース・タブ**B**を押し上げ、次にリリース・タブ**C**を両方とも押し上げて、カバーを取外します。



ハロゲン・ヘッドランプ

ロービーム

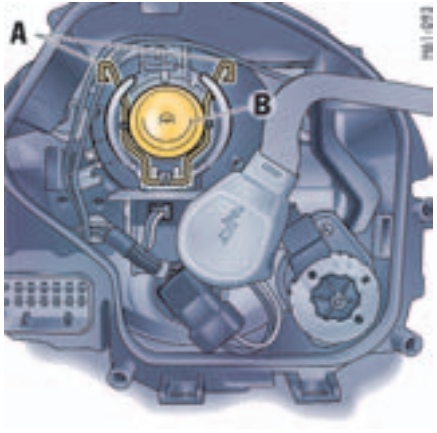
1. プラグ**A**を引き抜きます。
2. クランプ・リング**B**を外します。
3. 切れたバルブを取出し交換します。
   交換したバルブが正しく取付けられていることを確認してください。
4. 逆の手順で元通りにします。



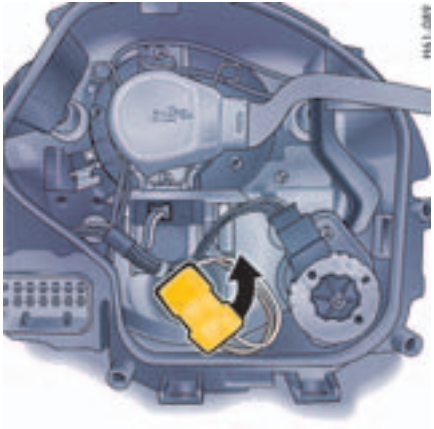
バイ・キセノン・ヘッドランプ

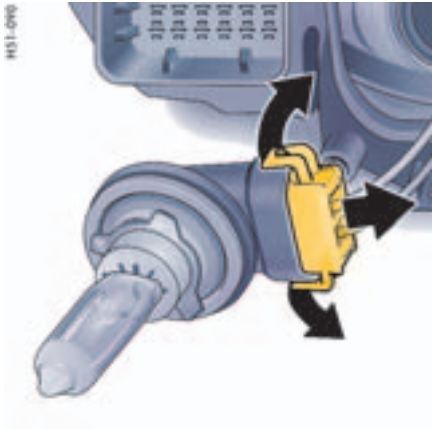
ロービーム、ハイビーム

1. プラグを反時計回りに回転させ、引き抜きます。



2. クランプ・リング**A**を両方とも外します。
3. 切れたバルブ**B**を取出し交換します。
   交換したバルブが正しく取付けられていることを確認してください。
4. クランプ・リング**A**を両方ともはめ込み、プラグを押込みながら止まるまで回します。





サブ・ハイビーム
(バイ・キセノン・ヘッドランプ)

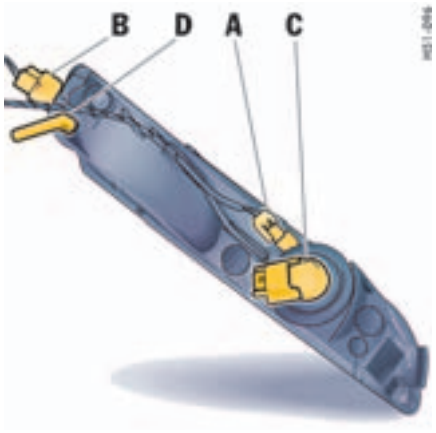
1. 左側ヘッドランプのバルブ・ホルダは反時計回りに回転させ、右側ヘッドランプのバルブ・ホルダは時計回りに回転させます。

   バルブ・ホルダをヘッドランプ・ハウジングから取外します。

2. 双方のプラグ・リリース・タブを引き、プラグをバルブ・ホルダより引抜きます。
3. 切れたバルブをバルブ・ホルダごと交換します。
4. 逆の手順で元通りにします。

カバーの閉じ方

1. カチッと音がするまでカバーを閉めます。
2. 4本のネジを止めます。

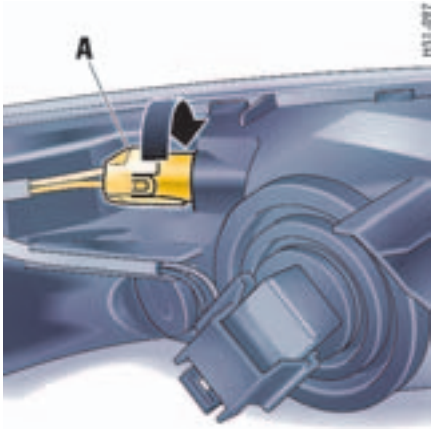


A - *車幅灯*
B - *方向指示灯*
C - *フォグランプ*
D - *ベント・ホース*

車幅灯、方向指示灯、フォグランプ

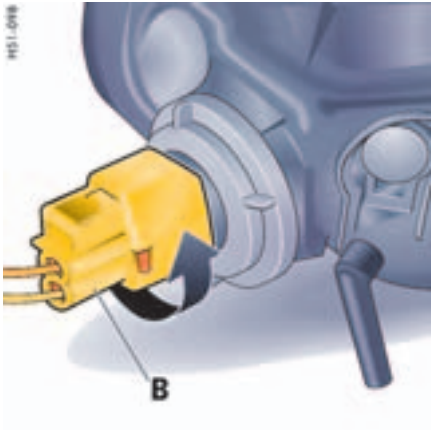
補助ヘッドランプのリリース・カードは車載マニュアルのフォルダ内にあります。

1. 補助ヘッドランプの隙間にリリース・カードを差込みます。
   カードを押し込むと、補助ヘッドランプが外れます。
   もう一度カードを押し込んで、2番目の接続部を外してください。
2. 補助ヘッドランプを取外します。
   補助ヘッドランプを引出す際に、ベント・ホース**D**がなくならないよう注意してください。



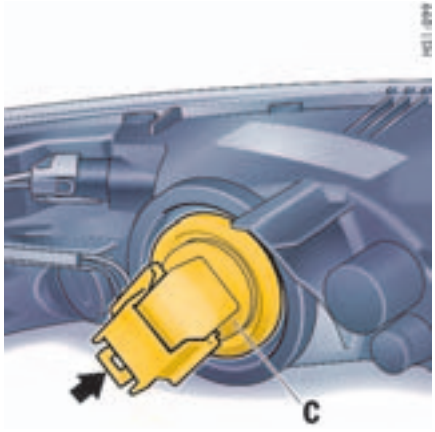
車幅灯A

1. ホルダを左に回し後方に引出します。
2. 切れたバルブを引き出して交換します。
3. ホルダを元の位置に戻して、右に回します。



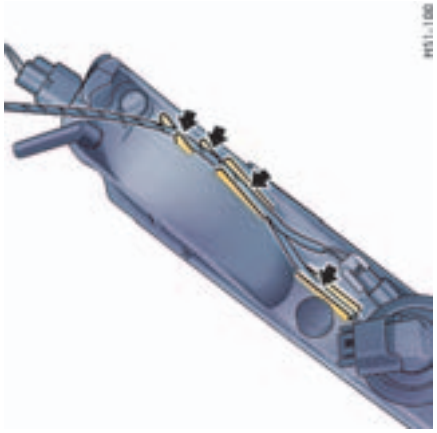
方向指示灯B

1. ホルダを左に回し（差込み式ロック）、取外します。
2. 切れたバルブを左に回し（差込み式ロック）、交換します。
3. ホルダを元の位置に戻して、右に回します。



フォグランプC

1. プラグのリリース・タブを押して、プラグを取外します。
2. 左側フォグランプのバルブは左に回し、右側フォグランプのバルブは右に回して（差込み式ロック）、交換します。
3. プラグをはめ込みます。



補助ヘッドランプの取付け

▷ ケーブルがガイド（**矢印**）内に正しく収まっているか確認してください。

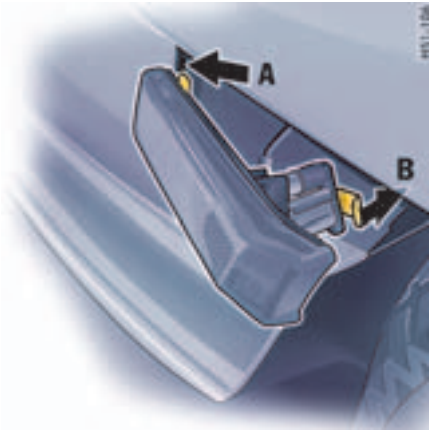
⚠ 注 意

補助ヘッドランプを傾けた状態でフロント・フェンダに挿入すると、塗装面を損傷する恐れがあります。

▷ 補助ヘッドランプをフロント・フェンダのガイドに挿入する際は、十分注意してください。

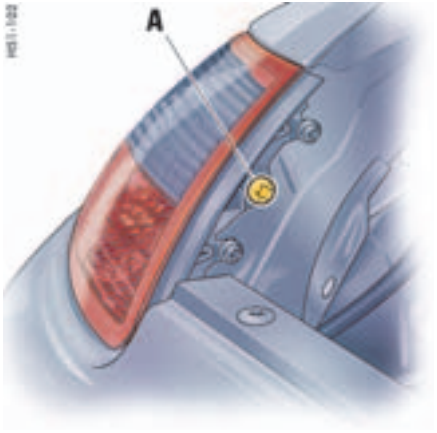
▷ 補助ヘッドランプ・ハウジングのガイドがフロント・フェンダのガイド**A**に差込まれていることを確認してください。

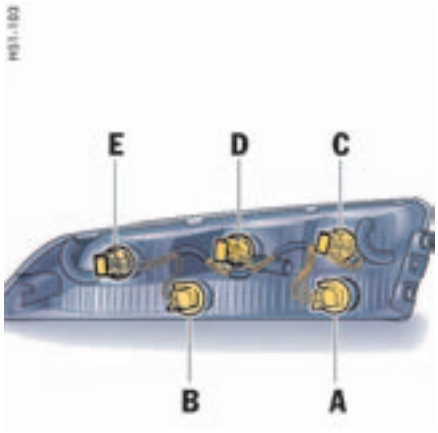
▷ 補助ヘッドランプがフロント・フェンダにしっかりはまるまで押込んでください。



方向指示灯（サイド）

1. ドライバーを使用して、ホイール・ハウス・ライナーからキャップを取外します。
2. ドライバーをホイール・ハウス・ライナーから直角に方向指示灯のハウジングに挿入します。
   ドライバーで押して、方向指示灯ハウジングの固定スプリングを外します。
3. 方向指示灯を取外し、バルブ・ホルダを外します。（差込みロック式）
4. 切れたバルブをホルダから取外し、新しいバルブと交換します。ホルダを挿入します。
   ランプの作動を点検します。
5. 方向指示灯のリテーニング・ラグ（**矢印A**）をフェンダの前から挿入します。固定スプリング（**矢印B**）をはめます。
6. ホイール・ハウス・ライナーにキャップを取付けます。





A - *後退灯*
B - *方向指示灯*
C - *テールランプ／ブレーキ・ランプ*
D - *テールランプ／リフレクタ*
E - *リア・フォグランプ／テールランプ*

テールランプ

1. エンジン・ルームのリッドを開きます。
2. ボルト**A**を外します。
3. テールランプ・アッセンブリを引き外します。
4. バルブ・ホルダを反時計回りに回転させ、テールランプから取外します。
5. 切れたバルブ（差込みロック式）を交換します。
6. バルブ・ホルダを挿入し、時計回りに回転させます。
7. テールランプをウィング内に挿入します。
   ロック用のリテーニング・ラグを正しい位置に入れます。
8. テールランプのボルト**A**をゆっくり締付けてください。
9. ランプの作動点検を行います。

例：トランク・ルーム・ランプ

ライセンス・ランプ

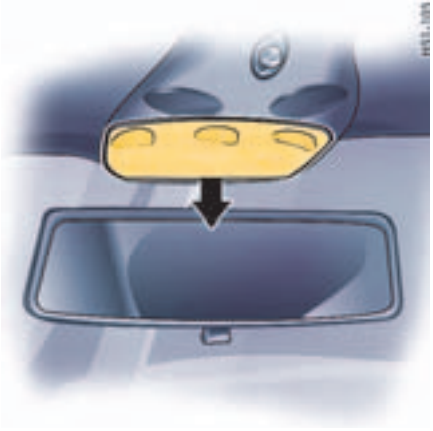
1. 両方のスクリュー**A**をゆるめ、ランプを取外します。
2. ゴム製のカバーを後ろへ押し、切れたバルブをスプリング接点から取外し、交換します。
3. 逆の手順でランプを元通りにします。ランプの作動を点検します。

トランク・ルーム・ランプ／エンジン・ルーム・ランプ／フットウェル・ランプ

1. ドライバーを慎重にあてて（**矢印**）、ランプを内張りから押出します。
2. 切れたバルブをスプリング接点から外し、新しいバルブを取付けます。
3. まず片側をランプ用の穴にいれ、次にもう一方を入れて押込みます。点灯するか確認してください。

ドア・ガード／足元照明

1. ドライバーを使用して、慎重にランプ（**矢印**）を押し、取外します。
2. バルブ・ホルダをランプ・ハウジングから引外します。切れたバルブを取出し、交換します。
3. バルブ・ホルダを取付け、ランプを挿入します。



ハイマウント・ブレーキ・ランプ

ハイマウント・ブレーキ・ランプの発光ダイオードはお客様が交換することができません。
ブレーキ・ランプが切れた場合は、ポルシェ正規販売店で交換してください。
この作業はポルシェ正規販売店で実施される事を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

ルーム・ランプ、読書灯

1. 慎重にランプ・ハウジングをライニングから引き出します。(**矢印**)
2. **読書灯**

   切れたバルブのホルダ**A**を反時計回りに回転させ、取外します。
   バルブを取外し、交換します。

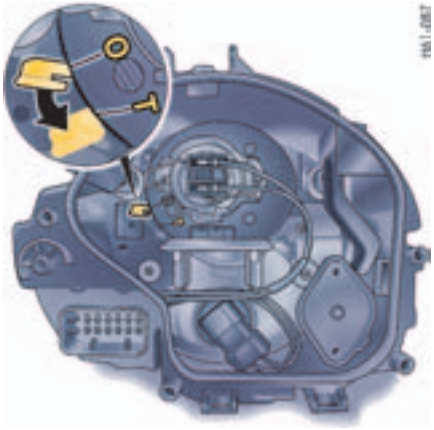
   ルーム・ランプ

   スイッチ側（**矢印**）から慎重に固定部を外し、ランプ・レンズを取外します。
   切れたバルブをコンタクト・スプリング間から取外し、交換します。
   ランプ・レンズを元通りに取付けます。
3. 最初にランプ・ハウジングをライニングの後端部に挿入し、ハウジングの前部を押上げ、所定の位置にはめます。
   ランプの作動点検を行います。

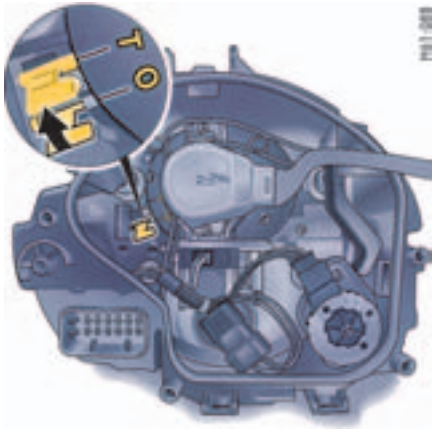
左側通行から右側通行への変更に伴うヘッドランプの切換え

車両通行帯の異なる国で走行する場合は、ヘッドランプの位置の調節をしてください。
ロービームを左右対称にして、対向車のドライバーの視界を妨げないようにしてください。

車両通行帯の異なる国から帰ってきたとき、ヘッドランプを“0”位置に戻すのを忘れないでください。



ハロゲン・ヘッドランプ



バイキセノン・ヘッドランプ

ヘッドランプの再調節

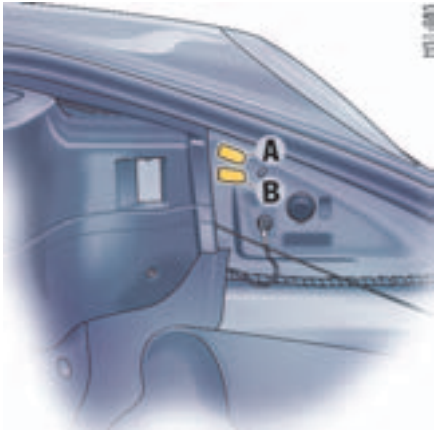
1. ヘッドランプを取外し、ヘッドランプのハウジング・リッドを開けます。「ヘッドランプ」（226ページ）を参照してください。
2. レバーを“T”位置にセットします。
3. ヘッドランプのハウジング・リッドを閉じて、ヘッドランプを調整します。
4. もう一方のヘッドランプも調節をします。

ヘッドランプ調整

ヘッドランプの調整は、専用の調整装置のある専門の修理工場で行わなければなりません。調整は車両を走行中と同じ状態にして、燃料タンクを満タンにして行います。

▷ タイヤは規定の空気圧に調整します。「テクニカル・データ」(244ページ) を参照してください。

▷ 運転席には人が乗るか、75kgのおもりを載せます。この状態で車両を2、3m動かし、サスペンションのバネを安定させてください。



A+B - *ヘッドランプの横方向の調整*
B - *ヘッドランプの高さ調整*

調整ネジ

1. フロント・トランク・ルーム内のサイド・クロスを外します。ドライバーでプラスチック製ナット**A**を取外します。
2. 調整ネジのカバーを開きます。
3. 六角ソケット・スクリューを左右に回して調整します。

けん引およびけん引による始動

⚠ 警 告

エンジンがかかっていないとサーボが働かず、ブレーキやステアリングが大変重くなるため事故を起こす恐れがあります。

また、ABSやPSMも作動しません。

▷ 必ずけん引に関する法律を守ってください。

▷ けん引される車はイグニッション・スイッチをONにして、ブレーキ・ランプや方向指示灯が機能し、ステアリング・ロックが解除されるようにしてください。

▷ けん引中は常にけん引ロープをたるませないようにし、ロープに急激な衝撃などがかからないようにしてください。

▷ お車より車両重量の大きい車はけん引しないでください。

⚠ 注 意

一般の乗用車に比べて地上高が低くなっていますので、車体下部を損傷する恐れがあります。

▷ 地上高が低くなっていますので、けん引時または他の車にけん引されているときは、十分に注意してください。

けん引による始動

バッテリに不具合があるとき、あるいはバッテリが完全に上がってしまった場合には、バッテリを交換するかジャンパー・ケーブルを使ってエンジンを始動させてください。それ以外の方法では始動できません。

▷ 「ジャンパー・ケーブルによる始動」（223ページ）を参照してください。

触媒コンバータ装備車は、エンジンが冷えている場合に限りけん引始動できます。エンジンが熱いと、燃焼していないガソリンによって触媒コンバータが損傷します。

ティプトロニック車

「ティプトロニック」車はけん引始動をする事ができません。

けん引始動を試みると、トランスミッションが損傷する恐れがあります。

けん引

ティプトロニック車のけん引

ティプトロニック車をけん引する場合は、トランスミッションの損傷を避けるため、以下のことを守ってください。

▷ セレクタ・レバー・ポジションは“N”レンジにしてください。

▷ けん引されるときの速度は50km/h以下にしてください。けん引距離は50km以内にしてください。50kmを超える場合は、リア・アクスルを上げてけん引するか、車両輸送専用車を使用してください。

2輪駆動車およびPSM装着車のけん引

フロント・アクスルを持上げ、イグニッション・スイッチをOFFにしてけん引してください。

4輪駆動車のけん引

4輪すべてを持上げてけん引してください。フロントまたはリア・アクスルだけを持上げてけん引しないでください。4輪すべてを持上げてけん引することができない場合は、ドライブ・シャフト（カルダン・シャフト）を取外してください。また、けん引するときはイグニッション・スイッチをOFFにしてください。

けん引フックの取付け

けん引フック**A**はトランク・ルーム内の工具セットの中にあります。

1. プラスチック・カバーの下端をバンパー内に押込んでカバーを外します。
2. カバーをバンパーから引出し、カバーに付いているひもで吊下げられた状態にします。
3. けん引フックを奥までねじ込みます。

けん引フックの取外し

1. けん引フック**A**を外します。
2. 開口部の下端にプラスチック・カバーを差込みます。
3. カバーをかぶせ、上端を押してバンパーにはめ込みます。

テクニカル・データ

車両の識別 …… 242
テクニカル・データ …… 244
ダイアグラム …… 259

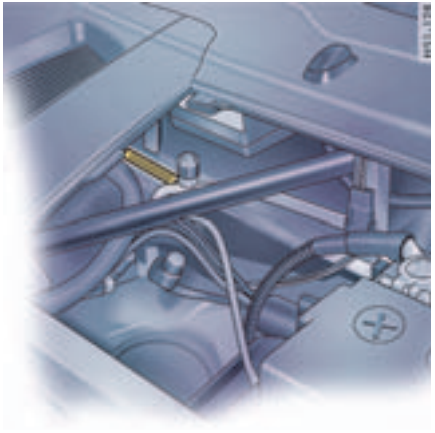
車両の識別

▷ スペア・パーツの注文や問い合わせをする場合は、必ず車体番号を明示してください。

データ・バンク・プレート

お車の大切な情報が記載されているデータ・バンク・プレートが、整備手帳の中に添付されています。

知識：
データ・バンク・プレートは紛失したり、破損しても再注文することは出来ません。



車体番号

車体番号は、フロント・トランク・ルーム内のバッテリ・カバーの下と、フロント・ウィンドウ枠の左下に刻印されています。

バッテリ・カバーの取外し

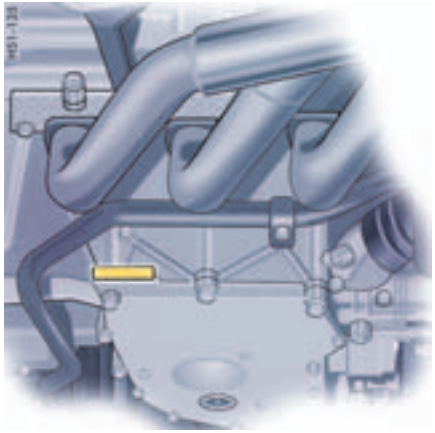
▷ 「バッテリ」（218ページ）を参照してください。

ビークル・プレート＊

お車を識別するビークル・プレートが、右側ドアのピラーに取付けられています。

タイヤ空気圧プレート

タイヤ空気圧プレートは運転席ドア開口部に貼られています。



エンジン番号

エンジン番号はクランクケースの下側に刻印されています。

＊日本仕様に設定はありません。

テクニカル・データ

エンジン・データ

	911カレラ、911カレラ4	911カレラS、911カレラ4S	911カレラS、911カレラ4S （ハイ・パフォーマンス・キット装着車）
エンジン型式	**M96/05**	**M97/01**	**M97/01S**
エンジン・タイプ	水平対向、水冷式	水平対向、水冷式	水平対向、水冷式
シリンダ数	6	6	6
ボア	96mm	99mm	99mm
ストローク	82.8mm	82.8mm	82.8mm
総排気量	3596cm^3	3824cm^3	3824cm^3
最高エンジン出力/エンジン回転数	239kW（325HP）/6800rpm	261kW（355HP）/6600rpm	280kW（381HP）/7200rpm
最大エンジン・トルク/エンジン回転数	370Nm/4250rpm	400Nm/4600rpm	415Nm/5500rpm
エンジン・オイル消費量	最大1.5ℓ/1000km	最大1.5ℓ/1000km	最大1.5ℓ/1000km
最高回転数	7300rpm	7300rpm	7300rpm
エンジン・コントロール	ダイレクト・イグニッション、シーケンシャル・インジェクション、シリンダー・セレクティブ・ノック・コントロール、O2センサ、診断システム、4オーバーヘッド・カムシャフト、ポルシェ・バリオカム・プラス、油圧バルブ・クリアランス・コントロール		

燃費

最新の80／1268／EECの基準に従って測定されており、全てのボディ・タイプに適応します。

	エンジン型式	市街地走行	ハイウェイ走行	平均	CO^2目標数値
クーペ		（ℓ/100km）	（ℓ/100km）	（ℓ/100km）	（g/km）
911カレラ－マニュアル・トランスミッション	M 96/05	16.1	8.1	11.0	266
911カレラ－ティプトロニックS	M 96/05	16.5	8.1	11.2	270
911カレラS－マニュアル・トランスミッション	M 97/01	17.1	8.4	11.5	277
911カレラS－ティプトロニックS	M 97/01	17.9	8.4	11.7	283
911カレラ4 － マニュアル・トランスミッション	M 96/05	16.6	8.4	11.3	272
911カレラ4 － ティプトロニックS	M 96/05	17.4	8.6	11.6	280
911カレラ4S － マニュアル・トランスミッション	M 97/01	17.5	8.5	11.8	285
911カレラ4S － ティプトロニックS	M 97/01	18.0	8.6	11.9	286
カブリオレ					
911カレラ－マニュアル・トランスミッション	M 96/05	16.4	8.1	11.2	270
911カレラ－ティプトロニックS	M 96/05	17.0	8.1	11.4	275
911カレラS－マニュアル・トランスミッション	M 97/01	17.3	8.4	11.6	280
911カレラS－ティプトロニックS	M 97/01	17.9	8.4	11.7	283
911カレラ4 － マニュアル・トランスミッション	M 96/05	16.6	8.4	11.3	272
911カレラ4 － ティプトロニックS	M 96/05	17.4	8.6	11.6	280
911カレラ4S － マニュアル・トランスミッション	M 97/01	17.5	8.5	11.8	285
911カレラ4S － ティプトロニックS	M 97/01	18.0	8.6	11.9	286

燃費（ハイ・パフォーマンス・キット装着車）

最新の80／1268／EECの基準に従って測定されており、全てのボディ・タイプに適応します。

	エンジン型式	市街地走行（ℓ/100km）	ハイウェイ走行（ℓ/100km）	平均（ℓ/100km）	CO^2目標数値（g/km）
クーペ					
911カレラS ― マニュアル・トランスミッション	M 97/01S	18.1	8.6	12.0	288
911カレラS ― ティプトロニックS	M 97/01S	18.8	8.8	12.3	296
911カレラ4S ― マニュアル・トランスミッション	M 97/01S	18.4	8.9	12.4	299
911カレラ4S ― ティプトロニックS	M 97/01S	18.9	9.0	12.5	300
カブリオレ					
911カレラS ― マニュアル・トランスミッション	M 97/01S	18.3	8.7	12.2	293
911カレラS ― ティプトロニックS	M 97/01S	18.8	8.8	12.3	296
911カレラ4S ― マニュアル・トランスミッション	M 97/01S	18.4	8.9	12.4	299
911カレラ4S ― ティプトロニックS	M 97/01S	18.9	9.0	12.5	300

トランスミッション

ギア比	**マニュアル・トランスミッション**	**ティプトロニックS**
1stギア	3.91：1	3.60：1
2ndギア	2.32：1	2.19：1
3rdギア	1.61：1	1.41：1
4thギア	1.28：1	1.00：1
5thギア	1.08：1	0.83：1
6thギア	0.88：1	―
リバース　1stギア	3.59：1	3.17：1
2ndギア	―	1.93：1
最終減速比	3.44：1	3.56：1

タイヤ、ホイール、トレッド ー 911カレラ、911カレラS

		タイヤ	ホイール	リム・オフセット	トレッド
サマー・タイヤ*	前輪	235/40 ZR 18 (91Y)	8 J x 18 H2	57 mm	1486 mm
	後輪	265/40 ZR 18 (101Y) XL	10 J x 18 H2	58 mm	1534 mm
	前輪	235/35 ZR 19 (87Y)	8 J x 19 H2	57 mm	1486 mm
	後輪	295/30 ZR 19 (100Y) XL	11 J x 19 H2	67 mm	1516 mm
ウィンター・タイヤ	前輪	235/40 R 18 91V M+S	8 J x 18 H2	57 mm	1486 mm
	後輪	265/40 R 18 97V M+S [1)]	10 J x 18 H2	58 mm	1534 mm
	前輪	235/35 R 19 87V M+S	8 J x 19 H2	57 mm	1486 mm
	後輪	295/30 R 19 100V XL M+S	11 J x 19 H2	67 mm	1516 mm

タイヤには積載容量係数（91）と最大速度記号文字（Y）以上の性能のものを使用してください。
新しいタイヤを装着するときおよびタイヤを交換する場合は、「タイヤとホイール」（199ページ）の諸注意をお読みください。

タイヤ／ホイール

指定のタイヤとホイールのサイズは広範囲のテストを元に認可されているものです。サイズの指定タイヤ、ホイールについてはお気軽に最寄りの正規ポルシェ販売店までお問い合わせください。
認可されていないタイヤ／ホイールを使用されますと、走行に危険性が生じ事故を起こす恐れがあるため十分注意してください。

スノー・チェーン

スノー・チェーンのクリアランスは、[1)] のタイヤとリムの組合わせの場合のみ保証されます。チェーンは後輪にのみ装着できます。チェーン装着時は50 km/h以下で走行してください。ポルシェ社の認可したファイリング・クロスタイプ・スノー・チェーンのみをご使用ください。

* 911カレラS：19インチ　サマー・タイヤのみ

タイヤ、ホイール、トレッド ― 911カレラ4、911カレラ4S

		タイヤ	ホイール	リム・オフセット	トレッド
サマー・タイヤ*	前輪	235/40 ZR 18 (91Y)	8 J x 18 H2	57 mm	1488 mm
	後輪	295/35 ZR 18 (99Y)	11 J x 18 H2	51 mm	1548 mm
	前輪	235/35 ZR 19 (87Y)	8 J x 19 H2	57 mm	1488 mm
	後輪	305/30 ZR 19 (102Y) XL	11 J x 19 H2	51 mm	1548 mm
ウィンター・タイヤ	前輪	235/40 R 18 91V M+S	8 J x 18 H2	57 mm	1488 mm
	後輪	295/35 R 18 99V M+S [1)]	11 J x 18 H2	51 mm	1548 mm
	前輪	235/35 R 19 87V M+S	8 J x 19 H2	57 mm	1488 mm
	後輪	295/30 R 19 100V XL M+S [1)]	11 J x 19 H2	51 mm	1548 mm

タイヤには積載容量係数（91）と最大速度記号文字（Y）以上の性能のものを使用してください。
新しいタイヤを装着するときおよびタイヤを交換する場合は、「タイヤとホイール」（199ページ）の諸注意をお読みください。

タイヤ／ホイール

指定のタイヤとホイールのサイズは広範囲のテストを元に認可されているものです。サイズの指定タイヤ、ホイールについてはお気軽に最寄りの正規ポルシェ販売店までお問い合わせください。
認可されていないタイヤ／ホイールを使用されますと、走行に危険性が生じ事故を起こす恐れがあるため十分注意してください。

スノー・チェーン

スノー・チェーンのクリアランスは、[1)] のタイヤとリムの組合わせの場合のみ保証されます。チェーンは後輪にのみ装着できます。チェーン装着時は50 km/h以下で走行してください。ポルシェ社の認可したファイリング・クロスタイプ・スノー・チェーンのみをご使用ください。

* 911カレラ4S：19インチ　サマー・タイヤのみ

冷間時のタイヤ空気圧

サマーおよびウィンター・タイヤ（911カレラ、911カレラS）

18インチ・タイヤ	前輪	2.5 bar
	後輪	3.0 bar
19インチ・タイヤ、部分荷重 （乗員2名以下、積荷なし）	前輪	2.3 bar
	後輪	2.7 bar
19インチ・タイヤ、全荷重 （乗員2名以上、積荷状態）	前輪	2.5 bar
	後輪	3.0 bar

サマーおよびウィンター・タイヤ（911カレラ4、911カレラ4S）

18インチ、19インチ・タイヤ、部分荷重 （乗員2名以下、積荷なし）	前輪	2.3 bar
	後輪	2.7 bar
18インチ、19インチ・タイヤ、全荷重 （乗員2名以上、積荷状態）	前輪	2.5 bar
	後輪	3.0 bar

これらのタイヤ空気圧はポルシェ社が認可したタイヤのみに適用します。

▷ 「タイヤとホイール」（199ページ）を参照してください。
▷ 「TPC タイヤ空気圧モニタリング・システム」（91ページ）を参照してください。

容量

ポルシェ社指定のオイルのみを使用してください。
正規ポルシェ販売店でお尋ねください。オイルと燃料への添加剤は不要です。

エンジン	911カレラ、911カレラ4　ーオイル交換（フィルタなし）：約8.0リットル 911カレラ、911カレラ4　ーオイル交換（フィルタあり）：約8.25リットル 911カレラS、911カレラ4S ーオイル交換（フィルタなし）：約8.25リットル 911カレラS、911カレラ4S ーオイル交換（フィルタあり）：約8.5リットル 「エンジン・オイル」（178ページ）も参照してください。
クーラント	約32リットル
マニュアル・トランスミッションとディファレンシャル	約2.9リットル
ティプトロニックS	約9リットル、ATF
ティプトロニックS付きディファレンシャル	約1.2リットル
燃料タンク	911カレラ、911カレラS　：約64リットル 911カレラ4、911カレラ4S（左ハンドル車）：約67リットル 911カレラ4、911カレラ4S（右ハンドル車）：約66リットル （予備用約10リットルも含む）
燃料オクタン価	エンジンは**無鉛プレミアム・ガソリン（98RON／88MON以上）**使用の場合に、最適性能と燃費を達成するように設計されています。 **95RON／85MON以下**のオクタン価の無鉛プレミアム・ガソリンが使用された場合には、エンジンのノック・コントロール・システムが自動的に点火時期を調節します。
パワー・ステアリング	約1.27リットル、ハイドロリック・フルード・ペントシンCHF11Sまたはペントシン CHF202
ブレーキ液タンク	約0.45リットル、ポルシェ社指定のブレーキ液をご使用ください。
ウォッシャ液タンク	約2.5リットル（ヘッドランプ・ウォッシャ無） 約6リットル（ヘッドランプ・ウォッシャ付）

車両重量ークーペ（メーカー発表値）

911カレラ	**マニュアル・トランスミッション**	**ティプトロニックS**
DIN規格空車重量（DIN70020）	1395～1495 kg	1435～1535 kg
70／156／EEC*空車重量	1470～1570 kg	1510～1610 kg
最大総重量	1810 kg	1855 kg
軸荷重、フロント**	775 kg	775 kg
軸荷重、リア**	1180 kg	1180 kg
最大ルーフ積載荷重***	75 kg	75 kg

911カレラS	**マニュアル・トランスミッション**	**ティプトロニックS**
DIN規格空車重量（DIN70020）	1420～1510 kg	1460～1550 kg
70／156／EEC*空車重量	1495～1585 kg	1535～1625 kg
最大総重量	1820 kg	1865 kg
軸荷重、フロント**	775 kg	775 kg
軸荷重、リア**	1180 kg	1180 kg
最大ルーフ積載荷重***	75 kg	75 kg

* 空車重量には運転者1名分（75 kg）の重量が含まれています。
** 最大総重量を超えないようにしてください。
参考：追加アクセサリなどが装備されている場合は、それに応じて積載重量が減少します。
*** 純正ポルシェ・トランスポート・システム使用の場合に限ります。

車両重量ークーペ（メーカー発表値）

911カレラ4	マニュアル・トランスミッション	ティプトロニックS
DIN規格空車重量（DIN70020）	1450～1550 kg	1490～1590 kg
70／156／EEC*空車重量	1525～1625 kg	1565～1665 kg
最大総重量	1865 kg	1910 kg
軸荷重、フロント**	825 kg	825 kg
軸荷重、リア**	1220 kg	1220 kg
最大ルーフ積載荷重***	75 kg	75 kg

911カレラ4S	マニュアル・トランスミッション	ティプトロニックS
DIN規格空車重量（DIN70020）	1475～1565 kg	1515～1605 kg
70／156／EEC*空車重量	1550～1640 kg	1590～1680 kg
最大総重量	1875 kg	1920 kg
軸荷重、フロント**	825 kg	825 kg
軸荷重、リア**	1220 kg	1220 kg
最大ルーフ積載荷重***	75 kg	75 kg

* 空車重量には運転者1名分（75 kg）の重量が含まれています。
** 最大総重量を超えないようにしてください。
参考：追加アクセサリなどが装備されている場合は、それに応じて積載重量が減少します。
*** 純正ポルシェ・トランスポート・システム使用の場合に限ります。

車両重量ーカブリオレ（メーカー発表値）

911カレラ	マニュアル・トランスミッション	ティプトロニックS
DIN規格空車重量（DIN70020）	1480〜1560 kg	1520〜1600 kg
70／156／EEC*空車重量	1555〜1635 kg	1595〜1675 kg
最大総重量	1875 kg	1920 kg
軸荷重、フロント**	775 kg	775 kg
軸荷重、リア**	1220 kg	1220 kg

911カレラS	マニュアル・トランスミッション	ティプトロニックS
DIN規格空車重量（DIN70020）	1505〜1575 kg	1545〜1615 kg
70／156／EEC*空車重量	1580〜1650 kg	1620〜1690 kg
最大総重量	1885 kg	1930 kg
軸荷重、フロント**	775 kg	775 kg
軸荷重、リア**	1220 kg	1220 kg

* 空車重量には運転者1名分（75 kg）の重量が含まれています。
** 最大総重量を超えないようにしてください。
参考：追加アクセサリなどが装備されている場合は、それに応じて積載重量が減少します。

車両重量ーカブリオレ（メーカー発表値）

911カレラ4	**マニュアル・トランスミッション**	**ティプトロニックS**
DIN規格空車重量（DIN70020）	1535～1610 kg	1575～1650 kg
70／156／EEC*空車重量	1610～1685 kg	1650～1725 kg
最大総重量	1920 kg	1965 kg
軸荷重、フロント**	825 kg	825 kg
軸荷重、リア**	1220 kg	1220 kg

911カレラ4S	**マニュアル・トランスミッション**	**ティプトロニックS**
DIN規格空車重量（DIN70020）	1560～1620 kg	1600～1660 kg
70／156／EEC*空車重量	1635～1695 kg	1675～1735 kg
最大総重量	1930 kg	1975 kg
軸荷重、フロント**	825 kg	825 kg
軸荷重、リア**	1220 kg	1220 kg

* 空車重量には運転者1名分（75 kg）の重量が含まれています。
** 最大総重量を超えないようにしてください。
参考：追加アクセサリなどが装備されている場合は、それに応じて積載重量が減少します。

動力性能ークーペ

911カレラ	マニュアル・トランスミッション	ティプトロニックS
最高速度	285 km/h	280 km/h
0〜100km/h発進加速	5.0秒	5.5秒

			ハイ・パフォーマンス・キット装着車	
911カレラS	マニュアル・トランスミッション	ティプトロニックS	マニュアル・トランスミッション	ティプトロニックS
最高速度	293 km/h	285 km/h	300 km/h	294 km/h
0〜100km/h発進加速	4.8秒	5.3秒	4.6秒	5.1秒

911カレラ4	マニュアル・トランスミッション	ティプトロニックS
最高速度	280 km/h	275 km/h
0〜100 km/h発進加速	5.1秒	5.6秒

			ハイ・パフォーマンス・キット装着車	
911カレラ4S	マニュアル・トランスミッション	ティプトロニックS	マニュアル・トランスミッション	ティプトロニックS
最高速度	288 km/h	280 km/h	296 km/h	290 km/h
0〜100 km/h発進加速	4.8秒	5.3秒	4.6秒	5.1秒

DIN規定による空車重量、および積載条件による。動力性能を損なう付加装置は使用せず。
（例：特殊タイヤ）

動力性能ーカブリオレ

911カレラ	マニュアル・トランスミッション	ティプトロニックS
最高速度	285 km/h	280 km/h
0〜100km/h発進加速	5.2秒	5.7秒

			ハイ・パフォーマンス・キット装着車	
911カレラS	マニュアル・トランスミッション	ティプトロニックS	マニュアル・トランスミッション	ティプトロニックS
最高速度	293 km/h	285 km/h	300 km/h	294 km/h
0〜100km/h発進加速	4.9秒	5.4秒	4.7秒	5.2秒

911カレラ4	マニュアル・トランスミッション	ティプトロニックS
最高速度	280 km/h	275 km/h
0〜100 km/h発進加速	5.3秒	5.8秒

			ハイ・パフォーマンス・キット装着車	
911カレラ4S	マニュアル・トランスミッション	ティプトロニックS	マニュアル・トランスミッション	ティプトロニックS
最高速度	288 km/h	280 km/h	296 km/h	290 km/h
0〜100 km/h発進加速	4.9秒	5.4秒	4.7秒	5.2秒

DIN規定による空車重量、および積載条件による。動力性能を損なう付加装置は使用せず。
（例：特殊タイヤ）

車両寸法

	911カレラ、911カレラS	911カレラ4、911カレラ4S
全長	4425mm	4425mm
全幅（ドア・ミラーを含まず）	1810mm	1850mm
全高	1310mm	1310mm
ホイールベース	2350mm	2350mm
最低地上高（最大積載時）	911カレラ：104mm ＊	911カレラ4：103mm ＊
最小回転直径	10.9m ＊	10.9m ＊
PASM装着車		
全高	1300mm	1300mm
最低地上高（最大積載時）	911カレラ：99mm ＊	911カレラ4：95mm ＊
	911カレラS：103mm ＊	911カレラ4S：98mm ＊
スポーツ・タイプ・ランニング・ギヤ装着車（車高20mmダウン）		
全高	1290mm	1290mm
最低地上高（最大積載時）	911カレラ：88mm ＊	911カレラ4：85mm ＊
	911カレラS：92mm ＊	911カレラ4S：88mm ＊

＊メーカー発表値

ダイアグラム

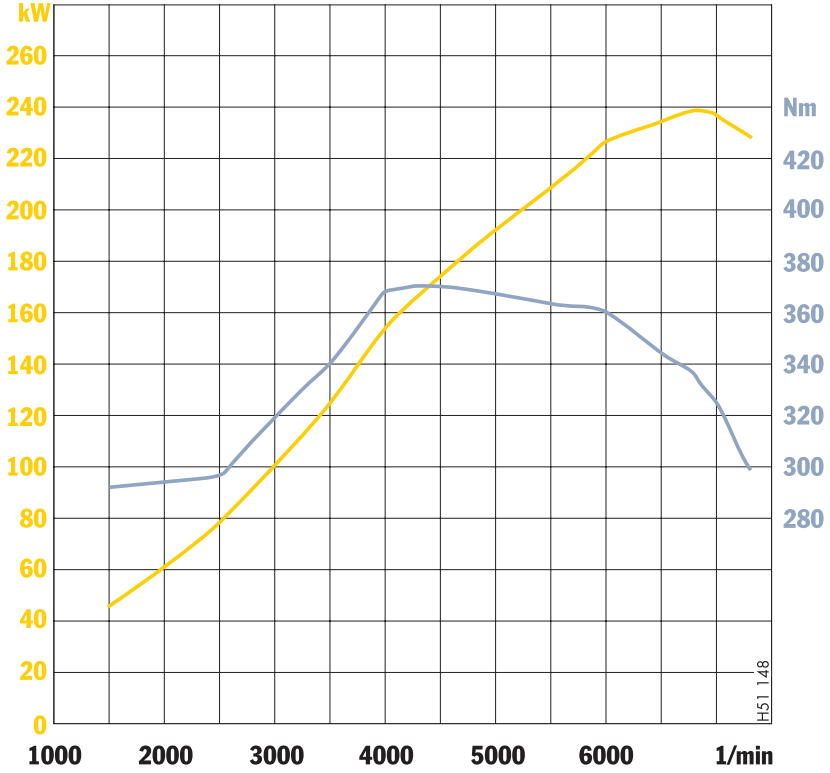
加速性能曲線

車両はDIN規格による空車重量、およびオプション装備のない50%の積載条件による

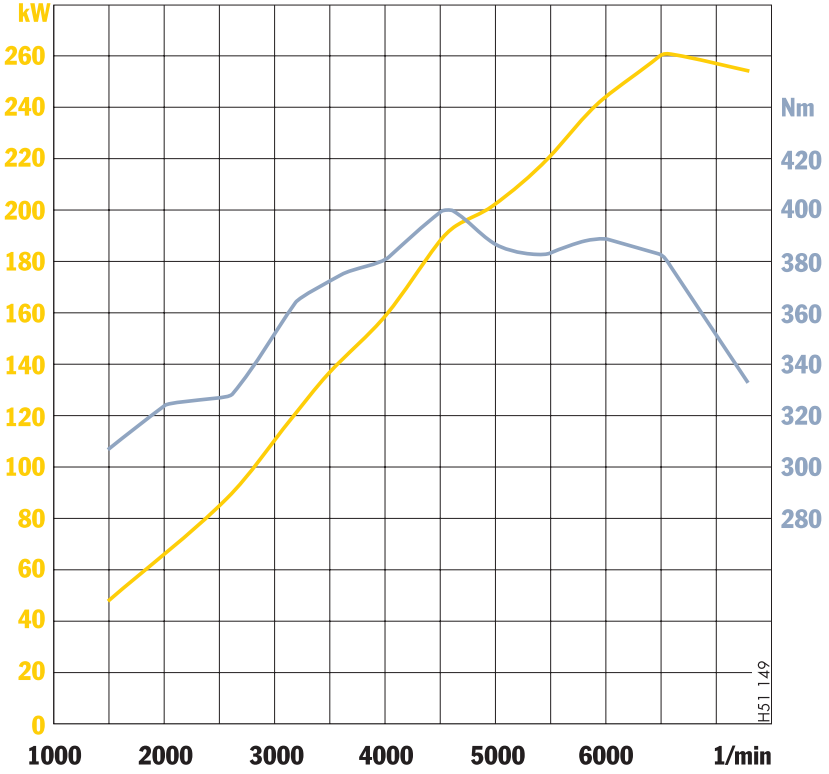
トランスミッション・ダイアグラム

トランスミッション・ダイアグラムは平均の有効スクラブ半径を標準として標準値に基づいています。
スクラブ半径、タイヤ許容値の変更、摩耗や損傷や仕向による装備品の違い、タイヤのスリップなどは考慮されていません。

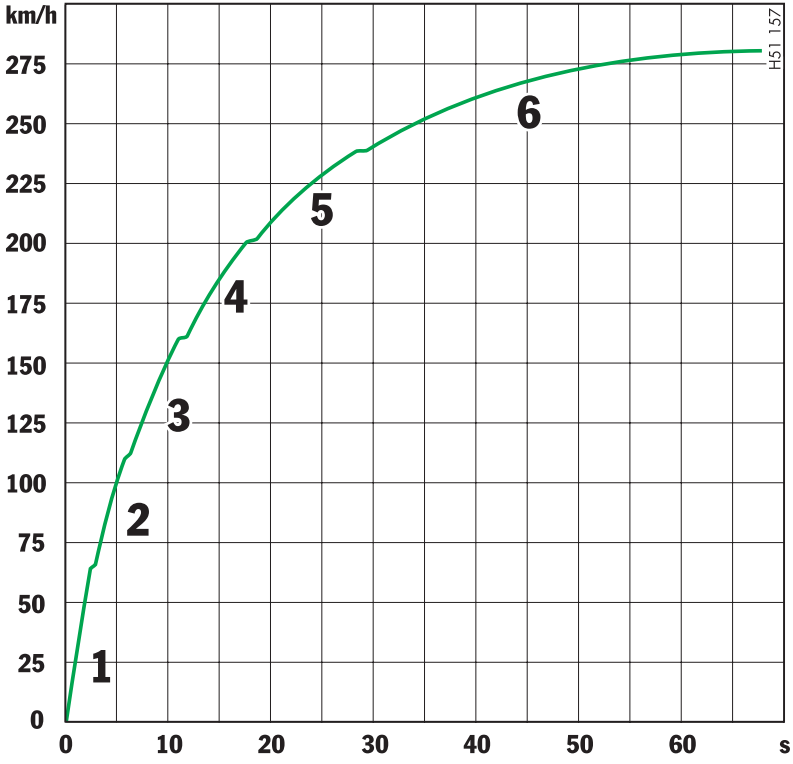
エンジン性能曲線図ー911カレラ、911カレラ4



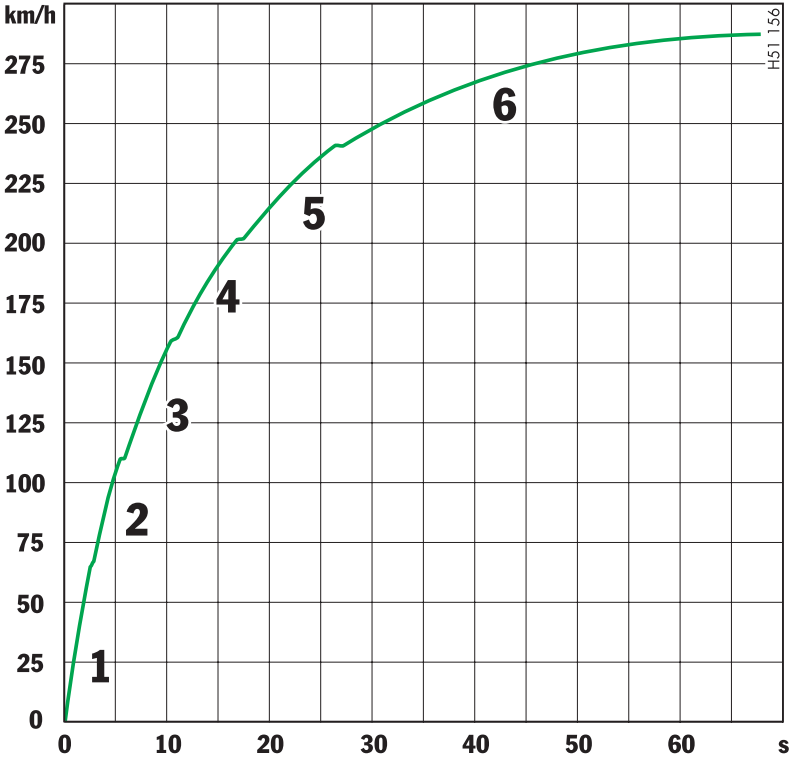
エンジン性能曲線図ー911カレラS、911カレラ4S



加速性能曲線図－911カレラ、911カレラ4
マニュアル・トランスミッション



加速性能曲線図－911カレラS、911カレラ4S
マニュアル・トランスミッション



さく引

あ

アルカンターラ …… 196
アンダーコーティング …… 194
アンチロック・ブレーキ・
システム（ABS）…… 50

い

イグニッション・ロック…… 64
　緊急操作 …… 65
ISOFIXシステム …… 43
イモビライザー…… 14
インジケータ・ランプ …… 68、104
インストルメント
　計器照明 …… 70
　ランプ・スイッチ …… 112
インストルメント・パネル ……68

う

ウィンター・タイヤ …… 202
ウィンドウ …… 22、193
　ウォッシャ・システム …… 114、185
　自動洗車機 …… 191
　スプレー・ジェット …… 114
ウィンドウ・デフロスタ …… 120、121
ウィンドウの自動開閉機能…… 23
ウィンドストップ …… 164
ウォッシャ液 …… 185、250
　警告灯 …… 185
ウォッシャ・システム
（フロント・ワイパー）…… 114
運転
　サーキット走行 …… 7
　冬の走行 …… 148

え

エアコン …… 120
エア・コンプレッサ …… 120、122
エアバッグ・システム…… 44
　警告灯 …… 45、46
　助手席側エアバッグの作動OFF…… 42
エア・フィルタ …… 187
ABS（アンチロック・ブレーキ・
システム）…… 50
　警告灯 …… 50
液体と燃料 …… 250
エンジン
　オイル …… 178、250
　オイル消費量 …… 12、244
　オイル油圧警告灯 …… 100
　オイル・レベル・インジケータ … 100
　オイル・レベル・ゲージ …… 179
　オイル・レベル点検 …… 100
　始動 …… 66
　停止 …… 66
　データ …… 244
　番号 …… 243
エンジンの始動…… 66
エンジン・ルーム
　清掃と維持 …… 193
　ブロワ …… 74
　ランプ …… 235
　リッド …… 130
エンジン・ルーム・ブロワ…… 67

お

オイル …… 78、178、250
　オイル消費 …… 12、244
　油圧警告灯 …… 106
　レベル・インジケータ …… 100
　レベル・ゲージ …… 179
　レベル点検 …… 100
オートマチック・エアコン …… 120
オートマチック・ドア・ロック・
システム …… 16、18
お手入れ …… 190
お出かけの前に…… 12
オドメータ…… 71
オリエンテーション・ランプ…… 61
温度設定 …… 120、121
オンボードコンピュータ…… 80
　基本設定 …… 102
　言語 …… 102

か

カーペット …… 196
外気温 …… 77
カップ・ホルダ …… 125
カブリオレ …… 154
ガレージ・ドア・オープナ …… 137
　信号の消去 …… 139
　信号の登録 …… 138
環境保護の手引き …… 4
間欠ワイパー調節ダイヤル …… 114

き

キー …… 14
緊急時の操作
　イグニッション・キー …… 65
　コンバーチブル・トップ …… 157
　セントラル・ロッキング・システム …… 16
　チルティング／スライディング・ルーフ …… 152

く

空気圧（タイヤ） …… 249
クーラント …… 74、177、250
　水温計、警告灯 …… 74
クーリング・システム …… 74
クラッチ …… 142
クルーズ・コントロール …… 70、117
　インジケータ・ランプ …… 70
車のお手入れ …… 190
グローブ・ボックス …… 129
クロノ・ストップウォッチ …… 86

け

軽合金製ホイール …… 194
　記号 …… 203
警告音 …… 82
警告灯 …… 68
警告メッセージ …… 104
警報システム …… 20
けん引 …… 239
けん引による始動 …… 239
けん引フック …… 240

こ

高圧洗車装置 …… 190
工具 …… 132、133
工具セット …… 132、133、198
コンバーチブル・トップ …… 154
　お手入れ …… 191
コンパクト・ディスク
　収納 …… 129
コンフォート・シート …… 28

さ

最高回転数 …… 12、142、244
最高速度 …… 12、255、256
作動停止 …… 215
サマー・タイヤ …… 247、248
サンバイザ …… 35

し

シート …… 28
　シート・ヒータ …… 32
　シート・メモリー …… 30
　調節 …… 28
シートベルト …… 36、196
　警告灯 …… 36
　高さ調整 …… 38
シーラント …… 206
シールのお手入れ …… 195
シガー・ライタ …… 127
室内防塵用フィルタ …… 187
室内モニタリング・システム …… 20
自動車電話 …… 134
自動洗車機 …… 191
始動と停止 …… 66
自動防眩ミラー …… 26
シフト・ギヤ …… 142、143
車載マニュアル …… 2
車速制御 …… 117
ジャッキ …… 132、133、208
ジャッキ・ポイント …… 208

車幅灯 …… 112
車両
お手入れ …… 190
車の保管 …… 196、220
作動復帰 …… 220
識別番号 …… 242
ジャッキ・アップ …… 208
データ …… 242
車両寸法 …… 257
ジャンパー・ケーブルによる始動 …… 223
収納場所 …… 128
重量 …… 251、252、253、254
消火器 …… 136
触媒コンバータ …… 182
助手席側エアバッグの作動OFF/ON …… 42
諸注意
緊急時のサービス …… 198
車のお手入れ …… 190
メインテナンス …… 176

す

スタビリティ・マネージメント・
システム…… 52
ステアリング
調節 …… 33
ロッカー・スイッチ …… 146
ステアリング・ホイール・
ボタン…… 34
ステアリング・ロック…… 64
ストップウォッチ…… 86
スノー・チェーン …… 202、247、248
スピードメータ…… 72
アナログ・ディスプレイ …… 72
デジタル・ディスプレイ …… 72
スペア
キー …… 14
燃料タンク …… 184
スペア・キー…… 14
スポイラ…… 56
スポーツ・クロノ・パッケージ・プラス
クロノ・ストップウォッチ …… 86
スポーツ・モード …… 51
スポーツ・シート…… 28
スポーツ・モード …… 51、55
スポーツ・ランニング・ギヤ …… 257
スライド・ルーフ …… 150

せ

セレクタ・レバーポジション・
インジケータ …… 75、144
セントラル・ロッキング・システム …… 16、215
全般的な警告灯 ……79

そ

走行可能距離 …… 81、103
走行制限プログラム（ティプトロニック）… 148
装備について …… 2
速度制限…… 82

た

ダイアグラム …… 259
タイヤ …… 7、199、247、248
記号 ……203
空気圧 …… 249
サイズ …… 247、248
シーラント……132、 133、206
パンクしたとき …… 206
タイヤ空気圧 …… 249
タイヤ空気圧プレート …… 243
タイヤ空気圧モニタリング・システム … 91
タイヤ・シーラント …… 132、133、206
タイヤとホイール …… 199
タコメータ…… 73
タンク …… 183

ち

地上高 …… 7、257
チャイルド・シート…… 39
助手席側エアバッグの作動OFF…… 42
駐車 ……148
チルティング／スライディング・
ルーフ …… 150

て

停止表示板 …… 132、133、198
ティプトロニック …… 75、143
インジケータ …… 75、144

データ・バンク …… 242
テクニカル
　改造 …… 6
　データ …… 244
電気系統 …… 214
電源ソケット …… 214
電話 …… 134

と

ドア …… 19
　ウィンドウ …… 22、154
　ドア・ガード …… 235
　ハンドル …… 19
　ロック …… 19、192
ドア・ポケット …… 19
ドア・ミラー …… 24、26、59
　自動防眩ミラー …… 26
　ヒータ …… 27、124
冬季時の運転
　ウォッシャ液 …… 185
　エンジン・オイル …… 178
　クーラント …… 177
　シール …… 195
　ジャンパー・ケーブルによる始動 …… 223
　スノー・チェーン …… 202、247、248
　タイヤ …… 202、247、248
　バッテリ …… 219
　ロック …… 192
盗難防止 …… 19
動力性能 …… 255、256
読書灯 …… 61、236
時計 …… 77、103
塗装
　お手入れ …… 192
ドライバーズ・マニュアル …… 2
トランスミッション …… 142、246
トリップ・コンピュータ …… 71
トレッド …… 247、248

な

内気循環ボタン …… 120
ナビゲーション …… 135
慣らし運転 …… 12

ね

粘度（エンジン・オイル） …… 178
燃料 …… 3、183、250
　警告灯 …… 76
　タンク …… 183
　燃費 …… 12、245

は

パーキング・アシスタント …… 58
パーキング・ブレーキ …… 47
パーキング・ランプ …… 113
排ガス
　エミッション・コントロール
　警告灯 …… 79
　排ガス制御 …… 5、79
灰皿 …… 127
ハイ・ビーム
　インジケータ・ランプ …… 73
　スイッチ …… 113
ハザード・ランプ …… 17、119
バック・ミラー …… 24
バックレスト
　解除 …… 28、29
　調整 …… 28、29
バッテリ …… 218
　警告灯 …… 78
　車両の作動復帰 …… 220
　充電状態 …… 219
　バッテリ警告灯 …… 78
　リモート・コントロール …… 222
バニティ・ミラー …… 35
バルブ
　交換 …… 225
　リスト …… 224
パワー・ウィンドウ …… 22
パワー・ステアリング …… 186、250
パワーテスト …… 176
ハンズフリー・マイクロフォン …… 134

ひ

ビークル・プレート …… 243
ヒータ …… 120
非常時のロック解除
　フィラー・フラップ …… 183
　リッド …… 217
ヒューズ …… 216

ふ

ファンクション・キー…… 34
風量調整 …… 120、121
フォグランプ …… 112
吹き出し口 …… 120、122
フットウェル・ランプ …… 235
フット・ブレーキ …… 48、50
プラスチック部品のお手入れ …… 195
ブレーキ …… 47、48、50、180
　パワー・テスト …… 49、54
　ブレーキ液 …… 180、250
　ブレーキ液量警告灯 …… 181
　ブレーキ・パッド …… 12、49
　ブレーキ・パッド磨耗警告灯 …… 49
ブレーキ・ランプ …… 234
フロア・マット …… 196
フロント・トランク・リッド …… 130
フロント・トランク・ルーム …… 130
　緊急時のロック解除 …… 217
　ランプ …… 235
フロント・トランク・ルーム／
エンジン・ルーム・リッド警告灯 …… 130
フロント・ワイパー …… 114

へ

平均車速 …… 81、103
平均燃料消費量 …… 81、103
ヘッドランプ …… 195、226
　ウォッシャ・システム … 114、185、250
　調整 …… 238
ヘッドランプ自動高さ調整 …… 113
ベルト …… 36、196
　警告灯 …… 36
　高さ調整 …… 38
　ベルト・テンショナ …… 36
ベンチレーション …… 120

ほ

ホイール
　交換 …… 204、209
　盗難防止ホイール・
　ボルト …… 14、204
　ボルト …… 204
方向指示灯 …… 73、113
　インジケータ・ランプ …… 73
　スイッチ …… 113
方向指示灯（サイド） …… 233
ホーム・モード …… 112
ホームリンク …… 137
ホーン…… 13
ポルシェ・アクティブ・サスペンション・
マネージメント（PASM） …… 55
ポルシェ・コミュニケーション・
マネージメント（PCM） …… 135
ポルシェ・スタビリティ・マネージメント
（PSM） …… 52
　インジケータ・ランプ …… 54
ポルシェ・セラミック・コンポジット・
ブレーキ（PCCB）…… 7、48
本革のお手入れ …… 195

ま

マルチ・ファンクション・ステアリング
　ファンクション・キー …… 34

み

ミラー…… 24
　自動防眩ミラー …… 26

め

メインテナンス …… 176

よ

容量、概要 …… 250

ら

ライセンス・ランプ …… 112、229
ラゲッジ・ラック …… 174、251、252
ラジエータ・ファン …… 67、177
ランプ
　スイッチ …… 112
　パッシング …… 73、113

り

リア・ウィンドウ・ヒータ …… 124
リアシート・バックレスト …… 33
リア・スポイラ …… 56
リア・リッド …… 130
リア・ワイパー …… 115
リサイクル …… 5
リッド …… 130
　緊急時のロック解除 …… 217
リム …… 194、247、248
リモート・コントロール …… 15
リレー …… 214

る

ルーフ・トランスポート・
システム …… 174、251、252
ルーム・ミラー …… 24、26
　自動防眩ミラー …… 26
ルーム・ランプ …… 61

れ

レイン・センサ …… 115

ろ

ロー・ビーム …… 112
ロールオーバー・プロテクション …… 46

わ

ワイパーの動作 …… 114
ワイパー・ブレード …… 188、194
　交換 …… 188

- 車両の仕様およびオプションの変更により、この取扱説明書の内容の一部が車両と一致しない場合があります。
- 説明図は一部日本仕様と異なる点があります。
- この取扱説明書に関してのお問い合わせは下記までお願い致します。

ポルシェ ジャパン株式会社　アフターセールス部

〒153-0064
東京都目黒区下目黒1-8-1
アルコタワー16F

車両受領証
（販売店で保管）

VIN：車両識別ナンバー

エンジンナンバー

上記車両については、取扱説明書および整備手帳に記載されている車両の取扱い、および保証内容、並びに納車点検内容の説明を受け了承の上、車両およびツールキットを完全な状態で受領しました。

販売店スタンプ

日時　　お客様の署名

ポルシェジャパン株式会社
〒153-0064　東京都目黒区下目黒1-8-1
アルコタワー16F

DM507997011200